

昭和薬科大学教育・研究年報

2023年度

昭和薬科大学

目 次

(2023年)

教育研究組織図	1
2023年度 昭和薬科大学職員名簿	2
I. 年間事業報告	
1. 薬学部 薬学科	
(1) 卒業者数	3
(2) 入学者数	3
(3) 学士入学者数	3
(4) 科目履修生数	3
(5) 研究員・研究生	3
(6) 留学生数	3
(7) 在籍学生数	4
(8) 教授会及び教授総会の日程と審議事項、その他	4
(9) 2023年度学年歴	12
(10) 卒業実習教育（総合薬学研究）論文一覧	14
(11) 第109回薬剤師国家試験合格状況	20
(12) 特別講義・その他講演	21
2. 大学院薬学研究科	
(1) 大学院教育担当	22
(2) 修了者数・入学者数	23
(3) 入学試験概要	23
(4) 留学者数	23
(5) 大学院在籍学生数	23
(6) 学位授与者数	24
(7) 大学院修士論文題目（学位規程第4条）	24
(8) 大学院博士論文題目（学位規程第5条）	24
(9) 大学院博士論文題目（学位規程第6条）	24
(10) 大学院薬学研究科委員会の日程と議題	24
(11) 主な学年歴	26
(12) 令和6年3月修了生進路別人数表（大学院）	27
(13) 令和6年3月大学院修了生進路	28
(14) 大学院FD活動	28
(15) 大学院短報	28
3. 常設委員会	
(1) 庶務委員会	29
(2) 教務委員会	31
(3) 学生支援委員会	35
(4) 入学試験委員会	131
(5) 実務実習委員会	135
(6) 公開講座委員会	145

(7) 自己点検・評価委員会	146
(8) 将来計画委員会	147
(9) 国家試験対策委員会	147
(10) 英語教育委員会	150
(11) 人文社会教育委員会	151
(12) 不正行為防止委員会	152
(13) FD委員会	154
(14) 共用試験委員会	154
(15) 利益相反委員会	158
4. 常設運営委員会	
(1) 図書館運営委員会	159
(2) 薬用植物園運営委員会	160
(3) 動物実験委員会	163
(4) 機器分析研究施設運営委員会	164
(5) 共同機器運営委員会	165
(6) 放射線安全委員会	165
(7) 生物・遺伝子資源管理委員会	166
(8) 環境保全委員会	167
(9) 情報教育運営委員会	171
(10) 学務システム運営委員会	172
5. その他の委員会	
(1) 大学紀要編集委員会	174
(2) RI 利用者委員会	174
(3) 倫理審査委員会	175
(4) 任期制評価委員会	176
(5) 入学試験管理委員会	177
(6) 就職支援委員会	178
(7) 薬学教育推進センター運営委員会	183
(8) IR 運営委員会	184
(9) 地域連携センター運営委員会	185
6. 大学院	
(1) 大学院入試管理委員会	187
(2) 大学院自己点検・評価委員会	188
(3) ハイテクリサーチセンター運営委員会	188
7. 施設	
(1) 体育施設	191
(2) RI 研究施設	191
(3) 機器分析研究施設	192
8. その他	
(1) 2023(令和5)年度外部資金取得状況	196
(2) 輸出管理委員会	196

II. 研究室年間業績と研究室活動短報

医療薬学系

医療薬学分野

- (1) 薬剤学研究室 197
- (2) 薬物動態学研究室 198

薬物治療学分野

- (3) 薬物治療学研究室 204

薬理学分野

- (4) 薬理学研究室 206

化学薬学系

有機化学分野

- (5) 薬化学研究室 208
- (6) 薬品化学研究室 210

メデイシナルケミストリー分野

- (7) 医薬分子化学研究室 212

医薬資源学分野

- (8) 生薬・天然物化学研究室 214

物理薬学系

物理化学分野

- (9) 薬品物理化学研究室 216

分析化学分野

- (10) 薬品分析化学研究室 217

生物薬学系

分子細胞生物学分野

- (11) 生化学研究室 220

感染制御学分野

- (12) 微生物学研究室 222

衛生薬学系

衛生化学分野

- (13) 衛生化学研究室 224

社会薬学系

社会薬学分野

- (14) 社会薬学研究室 227

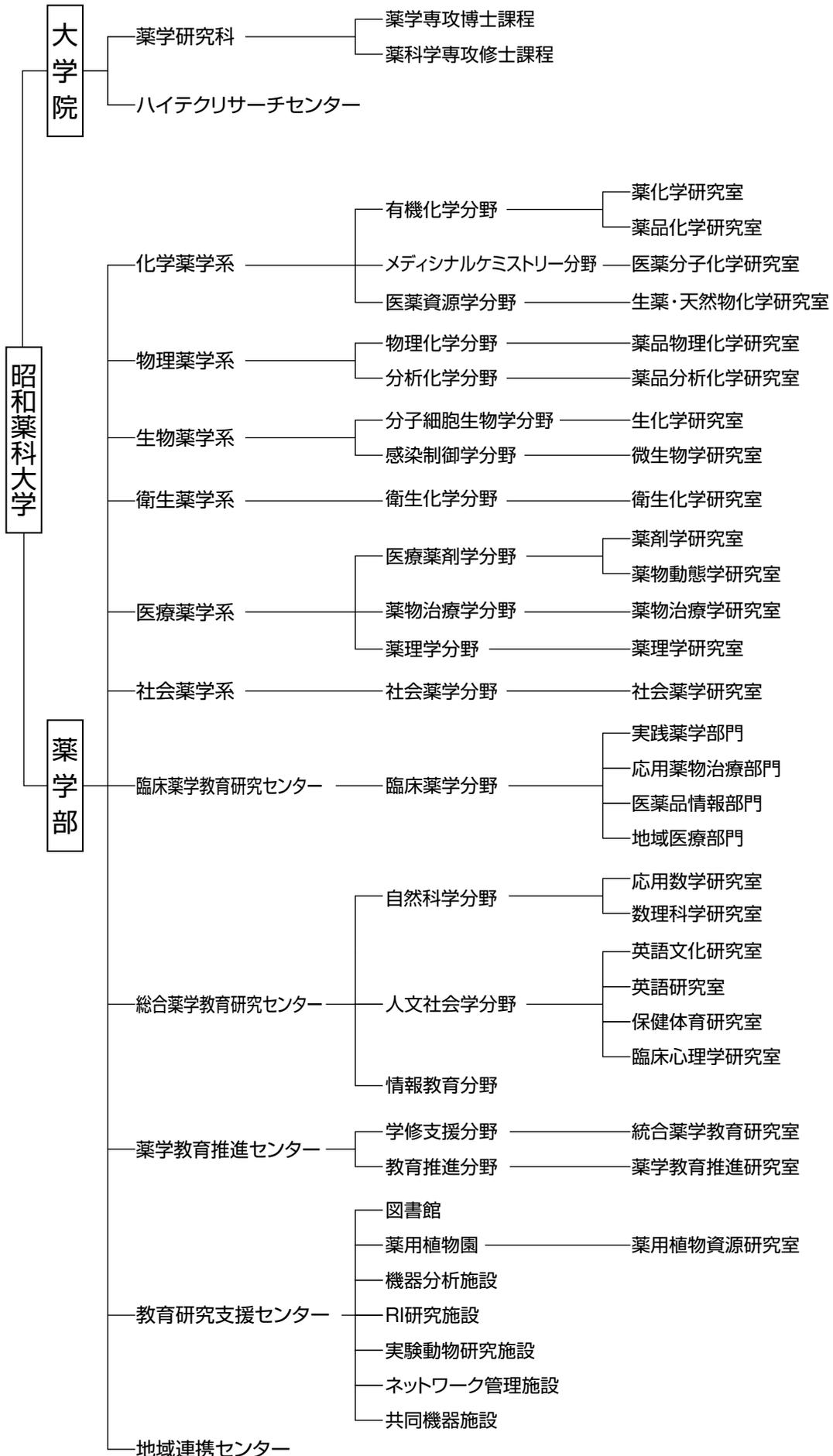
臨床薬学教育研究センター

臨床薬学分野

- (15) 実践薬学部門 230
- (16) 応用薬物治療部門 234
- (17) 医薬品情報部門 235
- (18) 地域医療部門 236

総合薬学教育研究センター	
人文社会学分野	
(19) 臨床心理学研究室	239
(20) 英語文化研究室	240
(21) 英語研究室	240
自然科学分野	
(22) 応用数学 繁田研究室	242
(23) 数理科学 瀧澤研究室	243
薬学教育推進センター	
学修支援分野	
(24) 統合薬学教育研究室	249
教育推進分野	
(25) 薬学教育推進研究室	252
教育研究支援センター	
薬用植物園	
(26) 薬用植物資源研究室	254
Ⅲ. 総括	256

教育研究組織図



2023年度 昭和薬科大学職員名簿

<p>(理事長・教授) 渡部 一宏 理事長・教授1名</p>	<p>池野 聡一 准教授 白井 一晃 准教授 川幡 正俊 准教授 小泉 直也 准教授 清水万紀子 准教授 庄野あい子 准教授 田代 悦 准教授 土屋 幸弘 准教授 土肥 弘久 准教授 森田 延喜 准教授 山崎 龍 准教授 准教授13名</p>	<p>尾江 悟 助教 鎌田祥太郎 助教 神林 弾 助教 清谷多美子 助教 柎 江里香 助教 大和 幹枝 助教 助教6名</p>	<p>和泉 龍介 係 長 酒井 理香 係 長 佐野 文昭 係 長 横田 浩一 係 長 宇野 讓 主 任 川路 康之 主 任 澁谷 智子 主 任 諏訪 貴紀 主 任 田中由紀子 主 任 谷口 泉 主 任 平田尚太郎 主 任 伏見有希子 主 任 牧野 泰靖 主 任 渡邊 臣悟 主 任</p>
<p>(学長・教授) 山本 恵子 学長・教授1名</p>	<p>秋澤 宏行 教授 石井 功 教授 伊東 進 教授 伊藤 俊将 教授 井上 能博 教授 宇都宮 郁 教授 宇都口直樹 教授 岡本 巖 教授 金本 大成 教授 唐澤 悟 教授 菊池 千草 教授 岸本 成史 教授 繁田 岳美 教授 鈴木 英明 教授 高野 昭人 教授 田村 修 教授 長南 謙一 教授 中根 孝久 教授 濱本 知之 教授 廣原 正宜 教授 増田 豊 教授 水谷 顕洋 教授 宮崎 生子 教授 山崎 浩史 教授 吉永 真理 教授 渡邊 泰男 教授 教授26名</p>	<p>安達昂一郎 特任助教 荒木 笙馬 特任助教 内田 吉美 特任助教 梅野 智大 特任助教 萩原美美子 特任助教 山田 孝博 特任助教 特任助教6名</p>	<p>池田 謙 岩澤 岳洋 浦田はるひ 尾根田朋子 鹿島 鉄平 木村 佳孝 小山万佐美 櫻井 京子 佐々木兵馬 篠崎えりか 高橋 智子 中村 海道 早川 友賀 東 正子 三ヶ田まどか 山崎 輝子</p>
	<p>石田 寛明 講師 伊藤 愛 講師 大橋 南美 講師 梶川 瑞穂 講師 神戸 敏江 講師 小池 猛 講師 宿里 充穂 講師 篠崎 淳一 講師 鈴木 憲子 講師 高木 彰紀 講師 瀧澤 誠 講師 中里 朱根 講師 中野なおこ 講師 野村 鉄也 講師 橋本 善光 講師 長谷川仁美 講師 花角 聡美 講師 濱田 浩一 講師 廣澤 伊織 講師 松田 真悟 講師 村山 典恵 講師 森元 能仁 講師 山本 健 講師 講師23名</p>	<p>中野 美央 教育技術員 教育技術員1名</p>	<p>教育職77名(理事長・学長含む)</p>
	<p>赤星 軌征 准教授 浅井 大輔 准教授</p>	<p>花野 誠一 大学事務長 西田 潤 法人事務長 馬場 洋一 法人事務次長 岩田源太郎 課 長 小林 剛史 課 長 佐々木裕之 課 長 塩田 暁弘 課 長 田崎 秀一 課 長 西田 潤 課長(兼務) 花野 誠一 課長(兼務) 馬場 洋一 課長(兼務) 中原 謙一 課長補佐 村田 純子 課長補佐</p>	<p>事務職40名(兼務3名)</p>

I. 年間事業報告

1. 薬学部 薬学科

(1) 卒業生数

令和5年9月 6名
令和6年3月 219名

(2) 入学者数（令和5年4月）

クラス A 入学者	125 名
クラス B 入学者	125 名
合 計	250 名

(3) 学士入学者数

実施せず

(4) 科目履修生数

0名

(5) 研究員・研究生

研究員数 10名
研究生数 7名

(6) 留学生数

0名

(7) 在籍学生数

2023年5月1日

学年	学科	男	女	総計
1	薬学部薬学科クラス A	43	85	128
	薬学部薬学科クラス B	45	85	130
1年次合計		88	170	258
2	薬学部薬学科クラス A	49	89	138
	薬学部薬学科クラス B	47	92	139
2年次合計		96	181	277
3	薬学部薬学科クラス A	45	98	143
	薬学部薬学科クラス B	41	97	138
3年次合計		86	195	281
4	薬学部薬学科クラス A	51	73	124
	薬学部薬学科クラス B	40	74	114
4年次合計		91	147	238
5	薬学部薬学科クラス A	29	78	107
	薬学部薬学科クラス B	33	77	110
5年次合計		62	155	217
6	薬学部薬学科クラス A	50	67	117
	薬学部薬学科クラス B	46	69	115
6年次合計		96	136	232
学部生 総計		519	984	1,503
M1	薬科学専攻修士課程	1	3	4
M2	薬科学専攻修士課程	0	0	0
修士課程合計		1	3	4
D1	薬学専攻博士課程	2	1	3
D2	薬学専攻博士課程	1	2	3
D3	薬学専攻博士課程	4	1	5
D4	薬学専攻博士課程	2	4	6
博士課程合計		9	8	17
大学院 総計		10	11	21
総計		529	995	1,524

(8) 教授会及び教授総会の日程と審議事項、その他

教授会

令和5年4月5日（水）

第1号議案 教育職員評議員候補者選挙管理委員会委員の選出に関する件

第2号議案 人事に関する件

第3号議案 指定校の新規指定及び解除に関する件

追加議案

1. 令和5年度 単位修得試験の前倒しに関する件

報告事項

1. 学長報告

2. 教務委員会報告

令和5年4月19日（水）

第1号議案 令和5年度 各種委員会委員の委嘱に関する件

第2号議案 令和5年度 非常勤講師の新規委嘱に関する件

第3号議案 学籍変更に関する件

第4号議案 令和5年度 特待生・優秀生に関する件
追加議案

1. 令和4年度 非常勤講師の新規委嘱に関する件
- 報告事項
1. 学長報告
 2. 庶務委員会報告
 3. 教務委員会報告
 4. 共同機器運営委員会報告

令和5年5月17日（水）

- 第1号議案 人事に関する件
 - 第2号議案 令和5年度 後期薬学演習試験の合格基準に関する件
 - 第3号議案 学籍変更に関する件
- 報告事項
1. 学長報告

令和5年6月21日（水）

- 第1号議案 人事に関する件
 - 第2号議案 令和5年度 非常勤講師の新規委嘱に関する件
 - 第3号議案 共同機器運営委員会予算（修繕費）の執行に関する件
 - 第4号議案 昭和薬科大学図書館利用規程の改正に関する件
 - 第5号議案 学校法人昭和薬科大学放射線障害予防規程の改正に関する件
 - 第6号議案 昭和薬科大学若手研究者助成に関する規程施行細則の改正に関する件
 - 第7号議案 令和5年度 短期国外出張に関する件
- 報告事項
1. 学長報告

令和5年7月19日（水）

- 第1号議案 人事に関する件
 - 第2号議案 学校法人昭和薬科大学放射線障害予防規程の改正に関する件（継続）
- 報告事項
1. 学長報告
 2. 庶務委員会報告

令和5年8月25日（金）

- 第1号議案 学校法人昭和薬科大学放射線障害予防規程の改正（追加）に関する件
 - 第2号議案 昭和薬科大学教育職員資格基準の改正に関する件
 - 第3号議案 昭和薬科大学化学・物理・生物・衛生・医療薬学系研究室の特任助教採用・任期に関する内規の改正に関する件
 - 第4号議案 6年次留年生の最終総合演習の単位認定に関する件
 - 第5号議案 6年次留年生の卒業判定に関する件
- 追加議案
1. 人事に関する件

令和5年9月20日（水）

- 第1号議案 昭和薬科大学教育職員資格基準の改正に関する件（継続）
 - 第2号議案 学籍変更に関する件
- 報告事項
1. 学長報告
 2. 教務委員会報告

令和5年10月18日（水）

- 第1号議案 学長候補者選考委員会委員の選任に関する件

- 第2号議案 人事に関する件（選考部会立ち上げ）
- 第3号議案 令和6年度 庶務委員会管理予算 A～E 予算に関する件
- 第4号議案 令和7年度 庶務委員会管理予算 A 予算対象設備装置の選定に関する件
- 第5号議案 庶務委員会管理予算および共同機器運営委員会管理予算の修繕費執行に関する件
- 第6号議案 学籍変更に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 庶務委員会報告

令和5年11月15日（水）

- 第1号議案 人事に関する件（選考部会報告）
- 第2号議案 令和5年度 研究室予算年度途中着任用留保分の配分に関する件
- 第3号議案 学籍変更に関する件
- 第4号議案 研究員・研究生に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 庶務委員会報告

令和5年11月24日（金）

- 第1号議案 推薦入学試験の合否判定に関する件

令和5年12月6日（水）

- 第1号議案 推薦入学試験（追試験）の合否判定に関する件

報告事項

追加報告

1. 学長報告

令和5年12月11日（月）

- 第1号議案 人事に関する件（プレゼン、模擬授業、投票）

令和5年12月12日（火）

- 第1号議案 人事に関する件（プレゼン、模擬授業、投票）

令和5年12月13日（水）

- 第1号議案 学籍変更に関する件

追加議案

1. 卒業生の子及び在学生の兄弟姉妹に係る入学金免除制度の導入に関する件
2. D方式入学試験への入学時・特待生制度の導入に関する件

報告事項

1. 学長報告

令和5年12月21日（木）

- 第1号議案 第1回・第2回演習試験の結果に関する件

報告事項

1. 学長報告

令和6年1月16日（火）

- 第1号議案 人事に関する件（プレゼン、投票）

令和6年1月17日（水）

- 第1号議案 演習試験の合否判定に関する件

報告事項

1. 学長報告

令和6年2月7日（水）

- 第1号議案 人事に関する件
 - 第2号議案 B方式入学試験の合否判定に関する件
 - 第3号議案 4年次進級判定に関する件
- 報告事項
1. 学長報告

令和6年2月9日（金）

- 第1号議案 A・C・D方式入学試験の合否判定に関する件
- 第2号議案 最終総合演習の単位認定および成績評価に関する件
- 第3号議案 卒業判定に関する件

令和6年2月21日（水）

- 第1号議案 学則の改正に関する件
 - 第2号議案 入学金減免規程の制定に関する件
 - 第3号議案 授業料の減免及び褒章規程の改正に関する件
 - 第4号議案 若手研究者研究助成に関する規程施行細則の改正に関する件
 - 第5号議案 令和6年度 非常勤講師の新規委嘱に関する件
 - 第6号議案 令和6年度 客員臨床講師の委嘱に関する件
 - 第7号議案 令和6年度 国外出張申請に関する件
 - 第8号議案 令和6年度 研究室予算配分方法に関する件
 - 第9号議案 令和5年度 優等生の選考に関する件
 - 第10号議案 令和5年度 演習試験優秀生の選考に関する件
 - 第11号議案 令和6年度 進級基準・卒業要件に関する件
- 報告事項
1. 学長報告
 2. 教務委員会報告

令和6年3月13日（水）

- 第1号議案 人事に関する件
 - 第2号議案 令和5年度 1～3年次進級判定に関する件
 - 第3号議案 令和5年度 5年次進級判定に関する件
 - 第4号議案 令和6年度 非常勤講師の新規委嘱に関する件
 - 第5号議案 令和6年度 研究員・研究生に関する件
 - 第6号議案 研究室配属コース変更に関する件
 - 第7号議案 6年次総合薬学コース2該当者に関する件
 - 第8号議案 学籍変更に関する件
 - 第9号議案 指定校の解除及び新規指定に関する件
 - 第10号議案 昭和薬科大学教員個人評価基準の運用変更に関する件
- 報告事項
1. 学長報告
 2. 教務委員会報告

教授総会

令和5年4月19日（水）

- 報告事項
1. 学長報告
 2. 教授会報告
 3. 教務委員会報告
 4. 学生支援委員会報告
 5. 入学試験委員会報告
 6. 自己点検・評価委員会報告
 7. 国家試験対策委員会報告

8. 共用試験委員会報告
9. 環境保全委員会報告
10. 毒劇物取扱責任者報告
11. 薬学教育推進センター運営委員会報告
12. 病態・薬物治療関連教科担当教員会議報告
13. 衛生委員会報告
14. 広報委員会報告

令和5年5月17日（水）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 入学試験委員会報告
6. 国家試験対策委員会報告
7. 公開講座委員会報告
8. FD 委員会報告
9. 薬用植物園運営委員会報告
10. 就職支援委員会報告
11. 地域連携センター運営委員会報告
12. 微生物学教科担当教員会議報告
13. 防火・防災管理者報告

令和5年6月21日（水）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 公開講座委員会報告
6. 自己点検・評価委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 図書館運営委員会報告
10. 薬学教育推進センター運営委員会報告
11. 薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤」部会 参加報告
12. 薬剤師国家試験問題検討委員会「病態・薬物治療」部会 参加報告

令和5年7月19日（水）

第1号議案 令和6年度 研究室配属に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 国家試験対策委員会報告
6. 就職支援委員会報告
7. 薬学教育推進センター運営委員会報告
8. 地域連携センター運営委員会報告
9. 研究倫理教育推進室報告
10. 毒劇物取扱責任者報告

令和5年8月25日（水）

第1号議案 学長予定者選挙管理委員会委員の互選に関する件
報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告（6年次留年生の卒業判定）
3. 実務実習委員会報告

令和5年9月20日（水）

第1号議案 外部機関における総合薬学教育・薬学研究に関する件
報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 入学試験委員会報告
6. 実務実習委員会報告
7. 公開講座委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 図書館運営委員会報告
10. 動物実験委員会報告
11. 情報教育運営委員会報告
12. 薬学教育推進センター運営委員会報告

令和5年10月18日（水）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 庶務委員会報告
4. 教務委員会報告
5. 学生支援委員会報告
6. 入学試験委員会報告
7. 公開講座委員会報告
8. 学務システム運営委員会報告
9. 就職支援委員会報告
10. IR 運営委員会報告
11. 地域連携センター運営委員会報告

令和5年11月15日（水）

第1号議案 令和6年度 ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー、ディプロマポリシー・
ルーブリックの見直しに関する件

第2号議案 令和6年度 カリキュラム改定に関する件（取り下げ）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 自己点検・評価委員会報告
6. 就職支援委員会報告
7. 学務システム運営委員会

追加報告事項

1. 環境保全委員会報告
2. ハラスメント防止対策委員会報告

令和5年11月24日（水）

追加議案

1. 令和6年度 カリキュラム改定に関する件
2. 令和6年度 研究室配属に関する件

報告事項

1. 教授会報告（推薦入学試験の合否判定報告）

令和5年12月13日（水）

第1号議案 令和6年度 カリキュラム改定に関する件（継続）

第2号議案 令和6年度 研究室配属に関する件（継続）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 公開講座委員会報告
6. 自己点検・評価委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 学務システム運営委員会報告
10. 薬剤学教科担当教員会議報告

令和5年12月21日（木）

第1号議案 令和6年度 カリキュラム改定に関する件（継続）

追加議案

1. 令和6年度 研究室配属に関する日程に関する件

報告事項

1. 教授会報告（第1回・第2回演習試験結果）

追加報告事項

1. 学長報告

令和6年1月17日（水）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 実務実習委員会報告
6. 共用試験委員会報告
7. 情報教育運営委員会報告
8. 就職支援委員会報告

追加報告事項

1. 大学院研究科委員会報告

令和6年2月7日（水）

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告（B方式入試判定結果、4年次進級判定結果）

令和6年2月9日（金）

報告事項

1. 教授会報告（A・C・D方式入試判定結果、最終総合演習の単位認定・卒業判定結果）

令和6年2月21日（水）

- 第1号議案 令和6年度 助教・特任助教の講義担当に関する件
第2号議案 令和6年度 後期6年次生薬学演習試験出題責任者兼最終総合演習講義調整責任者に関する件
第3号議案 令和6年度 前期6年次留年生薬学演習試験出題責任者兼最終総合演習講義調整責任者に関する件
追加議案 令和6年度 研究室配属に関する件

報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 庶務委員会報告
4. 教務委員会報告
5. 学生支援委員会報告
6. 入学試験委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 学務システム運営委員会報告
10. 地域連携センター運営委員会報告

令和6年3月13日（水）

- 第1号議案 令和6年度 クラス担任に関する件
報告事項

1. 学長報告
2. 教授会報告
3. 教務委員会報告
4. 学生支援委員会報告
5. 入学試験委員会報告
6. 自己点検・評価委員会報告
7. 国家試験対策委員会報告
8. 共用試験委員会報告
9. 学務システム運営委員会報告
10. 就職支援委員会報告
11. 地域連携センター運営委員会報告
12. 衛生薬学教科担当教員会議報告

(9) 2023 (令和5) 年度学年歴

月 日(曜)	学 部 行 事 項 目	月 日(曜)	学 部 行 事 項 目
4月 1日(土)	5年次 第1期実務実習中間報告会	20日(火)	1～4年次 前期定期試験
1日(土)	6年次アドバンスト実務実習中間報告会	20日(木)	基礎薬学総合演習試験
3日(月)	新入生ガイダンス	21日(水)	1～4年次 前期定期試験
3日(月)	6年次・6年次留年生 第1回国試確認試験	22日(土)	1～4年次 前期定期試験
4日(火)	新入生歓迎会	24日(月)	1～4年次 前期定期試験
5日(水)	入学式	25日(火)	1～4年次 前期定期試験
6日(木)	前期授業開始	26日(水)	1～4年次 前期定期試験
10日(月)	1年次 プレイスメントテスト (物理・化学・生物)	27日(木)	1～4年次 前期定期試験
11日(火)	1年次 プレイスメントテスト (物理・化学・生物)	28日(金)	1～4年次 前期定期試験
15日(土)	みなし水曜日	28日(金)	3年次 研究室配属説明会 (オンデマンド)
15日(土)	4年次 CBT 確認試験	29日(土)	1～4年次 前期定期試験
15日(土)	ミニオープンキャンパス	29日(土)	ミニオープンキャンパス
19日(水)	基礎薬学総合演習試験	31日(月)	6年次 前期追再試験
20日(木)	6年次・6年次留年生 第1回国試模擬試験	31日(月)	5年次 第Ⅲ期薬局実習生直前教育、WEBシステム説明会
22日(土)	6年次 多職種連携教育	31日(月)	5年次 実務実習直前練習会
26日(金)	1年次早期体験学習概要説明会	8月 1日(火)	4年次 CBT 模擬試験 I
27日(木)	6年次留年生 第1回1次演習試験	1日(火)	6年次 前期追再試験
27日(木)	基礎薬学総合演習試験 追再試	1日(火)	ミニオープンキャンパス
5月 2日(火)	6年次留年生 第1回2次演習試験	1日(火)	基礎薬学総合演習試験 追再試
6日(金)	6年次 多職種連携教育	2日(水)	6年次 第2回国試模擬試験
7日(日)	5年次 第Ⅰ期病院・薬局実務実習終了	2日(水)	1～4年次 前期定期試験成績発表
8日(月)	5年次 第Ⅱ期薬局実習生直前教育、WEBシステム説明会	3日(木)	6年次 第2回国試模擬試験
13日(土)	4年次 CBT 確認試験	6日(日)	5年次 第Ⅱ期病院・薬局実務実習終了
17日(水)	5年次 第Ⅱ期実務実習直前教育 (薬局・病院)	18日(金)	5年次 第Ⅲ期実務実習直前教育 (薬局・病院)
20日(土)	ミニオープンキャンパス	21日(月)	6年次留年生 演習試験追再試験
22日(月)	5年次 第Ⅱ期病院薬局実務実習 (8月6日まで)	21日(月)	5年次 第Ⅲ期病院薬局実務実習 (11月5日まで)
26日(金)	6年次・6年次留年生 第2回国試確認試験	23日(水)	1～4年次 前期追再試験
27日(土)	1・2・3年次科目 中間試験	24日(木)	1～4年次 前期追再試験
6月 3日(土)	1・2・3年次科目 中間試験	25日(金)	6年次留年生 卒業判定
3日(土)	6年次 アドバンスト実務実習成果報告会	25日(金)	1～4年次 前期追再試験
4日(日)	第1回公開教育講座	26日(土)	1～4年次 前期追再試験
5日(月)	6年次留年生 第2回1次演習試験	28日(月)	1～4年次 前期追再試験
7日(水)	4年次 実習先指定ワクチン説明会	29日(火)	1～4年次 前期追再試験
8日(木)	6年次留年生 第2回2次演習試験	30日(水)	1～4年次 前期追再試験
10日(土)	4年次 CBT 確認試験	31日(木)	1～4年次 前期追再試験
10日(土)	1・2・3年次科目 中間試験	9月 1日(金)	1～4年次 前期追再試験
17日(土)	ミニオープンキャンパス	2日(土)	1～4年次 前期追再試験
23日(金)	6年次・6年次留年生 第3回国試確認試験	5日(火)	4年次 CBT 体験受験
24日(土)	5年次 第Ⅱ期実務実習中間報告会	6日(水)	4年次 CBT 体験受験
30日(金)	6年次 前期授業終了	7日(木)	1～4年次 前期追再試験成績発表
7月 1日(土)	4年次 多職種連携教育	9日(土)	4年次 多職種連携教育
3日(月)	6年次留年生 第3回1次演習試験	11日(月)	後期授業開始
4日(火)	6年次 前期定期試験	12日(水)	4年次 実務実習書類説明会
5日(水)	6年次 前期定期試験	14日(木)	6年次 第1回演習試験
6日(木)	6年次 前期定期試験	16日(土)	4年次 総合確認試験
7日(金)	6年次留年生 第3回2次演習試験	17日(日)	オープンキャンパス
8日(土)	4年次 CBT 確認試験	18日(月)	オープンキャンパス
12日(水)	1年次 病院見学事前ガイダンス	30日(土)	5年次 第Ⅲ期実務実習中間報告会
13日(木)	6年次 前期定期試験成績発表	30日(土)	6年次留年生 卒業式
14日(金)	4年次 共用試験・CBT 体験受験説明会	10月 1日(日)	第2回公開教育講座
14日(金)	1～4年次 前期授業終了	3日(火)	6年次 第3回国試模擬試験
15日(土)	6年次 卒業論文発表会	4日(水)	6年次 第3回国試模擬試験
18日(火)	6年次 卒業論文発表会	15日(日)	創立記念日
19日(水)	1～4年次 前期定期試験	21日(土)	4年次 総合確認試験

月 日(曜)	学 部 行 事 項 目	月 日(曜)	学 部 行 事 項 目
24日(火)	6年次 第4回模擬試験	20日(土)	6年次 集中補講
25日(水)	6年次 第4回模擬試験	20日(土)	1～3年次 後期定期試験
26日(木)	体育祭・昭薬祭準備	21日(日)	6年次 集中補講
27日(金)	体育祭	22日(月)	6年次 集中補講
28日(土)	昭薬祭	22日(月)	1～3年次 後期定期試験
28日(土)	ミニオープンキャンパス	23日(火)	基礎薬学総合演習試験(第1部)
29日(日)	昭薬祭	23日(火)	1～3年次 後期定期試験
30日(月)	昭薬祭学生代休	24日(水)	1～3年次 後期定期試験
31日(土)	みなし月曜日	25日(木)	6年次 第6回模擬試験
11月 1日(水)	1年次 企業・公的機関見学実習	25日(木)	1～3年次 後期定期試験
4日(土)	1・2・3年次科目 中間試験	26日(金)	6年次 第6回模擬試験
5日(日)	5年次 第Ⅲ期病院・薬局実務実習終了	26日(金)	1～3年次 後期定期試験
6日(月)	2年次TOEFL ITPテスト	26日(金)	3年次 令和6年度 実務実習エントリー説明会
7日(火)	1AB 解剖見学説明会	27日(土)	令和6年度5年次 第Ⅰ期～Ⅳ期実務実習連絡会
8日(水)	1年次 企業・公的機関見学実習	27日(土)	4年次 Webシステム説明会(富士フィルム)
9日(木)	4年次 後期定期試験	27日(土)	1～3年次 後期定期試験
10日(金)	4年次 後期定期試験	29日(月)	4年次 科目最終試験
11日(土)	1・2・3年次科目 中間試験	30日(火)	4年次 科目最終試験
13日(月)	4年次 実務実習概要説明会(総合実習Yクラス対象)	31日(水)	4年次 科目最終試験
14日(火)	4年次 実務実習概要説明会(総合実習Sクラス対象)	2月 1日(木)	4年次 科目最終試験成績発表
15日(水)	5年次 第Ⅳ期実務実習直前教育	1日(木)	6年次 第4回演習試験
17日(金)	4年次 後期定期試験成績発表	1日(木)	1～3年次 後期定期試験成績発表
18日(土)	解剖見学実習	2日(金)	6年次 第4回演習試験
18日(土)	推薦入試	3日(土)	C方式入学試験
19日(日)	推薦入試	4日(日)	B・D方式入学試験
20日(月)	5年次 第Ⅳ期病院薬局実務実習(2月11日まで)	6日(火)	6年次 国家試験ガイダンス(激励会)
21日(火)	6年次 第5回模擬試験	8日(木)	4年次 進級成績発表
22日(水)	1年次 企業・公的機関見学実習	9日(金)	卒業判定結果発表
22日(水)	6年次 第5回模擬試験	9日(金)	令和6年度5年次履修ガイダンス
24日(金)	4年次 多職種連携教育	9日(金)	令和6年度5年次 第Ⅰ期実務実習直前教育
25日(土)	4年次 総合確認試験	13日(火)	1～3年次 後期追再試験
25日(土)	解剖見学実習	14日(水)	1～3年次 後期追再試験
27日(月)	4年次 後期追再試験	14日(水)	令和6年度5年次 白衣授与式
28日(火)	4年次 後期追再試験	14日(水)	令和6年度5年次 第Ⅰ期実務実習直前教育、WEBシステム説明会
29日(水)	1年次 早期体験学習ワークショップ	15日(木)	1～3年次 後期追再試験
29日(水)	4年次 OSCE説明会	16日(金)	1～3年次 後期追再試験
12月 4日(月)	6年次 第2回第一次演習試験	16日(金)	4年次 OSCE追再試験
9日(土)	4年次OSCE本試験	17日(土)	1～3年次 後期追再試験
14日(木)	4年次 実務実習ガイダンス	17日(土)	薬剤師国家試験実地日
15日(金)	6年次 第2回第二次演習試験	18日(日)	薬剤師国家試験実地日
19日(火)	1年次TOEFL ITPテスト	19日(月)	1～3年次 後期追再試験
20日(水)	4年次 CBT 模擬試験Ⅱ・CBT ガイダンス	19日(月)	令和6年度5年次 第Ⅰ期実務実習(5月5日まで)
22日(金)	年内授業終了	20日(火)	1～3年次 後期追再試験
23日(土)	5年次 第Ⅳ期実務実習中間報告会	21日(水)	1～3年次 後期追再試験
1月 9日(火)	年明け授業開始	22日(木)	1～3年次 後期追再試験
9日(火)	みなし月曜日	24日(土)	1～3年次 後期追再試験
9日(金)	1～3年次 後期定期試験	24日(土)	5年次 実務実習成果報告会
10日(水)	6年次 第3回演習試験	25日(日)	3年次 TOEIC 公開テスト
10日(水)	4年次 CBT 本試験	3月 1日(金)	5年次 国試模擬試験
11日(木)	6年次 第3回演習試験	4日(月)	5年次 実務実習 成果報告会(追試)
11日(木)	4年次 CBT 本試験	5日(火)	4年次 CBT 追再試験
12日(金)	後期授業終了	7日(木)	卒業式
13日(土)	大学入学共通テスト	15日(金)	1～3年次 進級成績発表
14日(日)	大学入学共通テスト	19日(火)	国家試験合格発表日
17日(水)	1～3年次 後期定期試験	23日(土)	令和6年度5年次 第Ⅰ期実務実習中間報告会
18日(木)	1～3年次 後期定期試験	23日(土)	令和6年度6年次 アドバンスト実務実習中間報告会

(10) 卒業実習教育（総合薬学研究）論文一覧

【医薬品情報部門】

「臨床薬学コース」

青柳 藍	ヒト由来ドパミンD2受容体と悪心・嘔吐誘発医薬品との結合状態解析
飯島 志織	服薬支援機器「服薬BOX」を使用した服薬状況調査 -薬学生版-
石井陽花莉	薬学分野の自己調整学習に関する研究の方向性の検討：国内外の研究動向比較
叶 裕健	HPVワクチン接種後の体調変化に関する調査 -26自治体のデータから-
木村 梨乃	薬剤師の服薬支援に関する研究動向と今後の研究の方向性の検討
松尾のぞみ	服薬支援機器「服薬時計 [®] 」を使用した服薬状況調査 -薬学生版-
松田 一将	HPVワクチン「積極的な接種勧奨を差し控える」に関しての市民への情報提供状況-全国市町村のホームページ調査-
岩城 美桜	5-HT3受容体とセトロン系制吐剤との結合状態解析
田中 丹梨	5-HT3受容体に対する悪心・嘔吐誘発医薬品および制吐薬との結合状態の検証

【医薬分子化学研究室】

「総合薬学コース」

鈴木 睦生	コアクチベーターペプチドの細胞内導入及び核内輸送に関する研究
五十嵐良樹	分子内塩基アシスト型共有結合モチーフの開発
込山 千夏	凍結乾燥による結晶化用タンパク質の保存方法の検討
常田 祥悟	ヘテロ小員環を有する共有結合型ビタミンDリガンドの創製
林 裕也	Pralidoxime 誘導体の合成と生物活性評価に関する研究
山本 寛太	22位にアルデヒド基を持つビタミンD誘導体の修飾法の検討に関する研究

「臨床薬学コース」

河野 光	Sigma-1受容体の賦活化：新しいうつ病治療薬としての可能性
芝田 光平	経皮吸収率の高いNSAIDs貼付剤の開発
中山ゆきの	低分子の構造解析に利用可能なRamRについて
山野 孝浩	新型コロナウイルスに対するビタミンDの効果に関する調査研究
吉崎菜々美	機能性食品添加物による難水溶性医薬品の溶解性・吸収性改善に関する調査研究
林 恵智	週1回投与DPP-4阻害薬 オマリグリプチン錠に関する調査研究
伊藤 将寛	PCNA発現細胞を標的とした新規TCC型分子標的薬の設計に関する研究
石田 航	かゆみ治療の治療標的となりうるTRPチャネル阻害剤についての調査研究
江角 佳南	機械学習を用いた化合物スクリーニングソフトの開発に関する調査研究
亀岡 理子	生殖補助医療の発展によるこれからの課題
鈴木 佑奈	認知症患者の多剤併用による有害事象リスク

【英語文化研究室】

「臨床薬学コース」

高橋 慶将	プロテインとサプリメントの筋肥大率に関する比較研究
行平 玲菜	ディズニープリンセス映画にみるフェミニズム
貴島 和志	新型コロナ感染症を経て、日本と米国の比較から考える薬学生と薬剤師の在り方

【衛生化学研究室】

「総合薬学コース」

金子 知央	Dual FRET法を用いた核内受容体PPARとCoregulatorペプチド2種の結合同時測定
渡瀬健太郎	超硫黄分子によるPPAR受容体の活性調節
藤田 絢音	短期発症NASHモデルマウスの作成
宮脇瑳恵佳	短期発症NASHモデルマウス肝臓の組織学的解析
丹野英里菜	硫黄転移酵素欠損マウスの定常時及びNaCN投与時の生化学的解析
神保 亮太	硫黄転移酵素欠損マウスにおけるNaCN及びアミグダリン経口投与による急性毒性
渋谷 海	硫黄転移酵素欠損マウスにおける経口投与とアミグダリンによる慢性毒性と耐性
矢継 優希	NaCN投与硫黄転移酵素欠損マウスに対する各種解毒薬の効果
村田 優太	マウス体温調節における硫黄代謝関連酵素の役割

- 石黒 一樹 硫黄転移酵素欠損マウスにおけるチオ硫酸ナトリウム発毛促進効果の検討
 「臨床薬学コース」
 大原 汐織 デュジェンヌ型筋ジストロフィーに対する新規治療薬に関する考察
 正本真紀子 アルツハイマー病新規治療薬アデカヌマブ及びレカネマブに関する考察

【応用数学 繁田研究室】

「臨床薬学コース」

- 東 理桜 ランダムウォークにおける逆正弦法則と数値シミュレーション
 太田 浩暉 離散フーリエ変換と高速フーリエ変換の計算量の比較
 黒川 桃伽 ベンフォードの法則に基づくデータの信頼性の識別

【応用薬物治療部門】

「総合薬学コース」

- 中川 歩美 甲状腺乳頭がん細胞を用いたがん細胞増殖に関わるメトホルミン結合タンパク質の探索
 「臨床薬学コース」
 原 奈津子 肺がん、多発性骨髄腫、アミロイドーシスに対するがん化学療法開始前におけるポリファーマシーと主な薬物相互作用の現状調査
 長谷川 脩 プロトンポンプ阻害薬 (PPI) の腎臓に対する副作用に関する調査研究
 阿部奈々子 片頭痛とはどういう病気なのか～治療の最前線～
 本間 美羽 炎症性腸疾患における治療の現状と展望
 吉田 大哉 SGLT2に次ぐ新たな心不全治療薬
 阿部 奏 自由診療における薬剤師介入の必要性に関する一考察
 天海 仁翔 米国型の薬剤給付管理による日本の医療費合理化の一考察
 磯部 友希 ANCA 関連血管炎治療薬の比較と問題点解決に向けた提案

【実践薬学部門】

「臨床薬学コース」

- 篠澤 宏介 G-CSF 誘発性骨痛に対する最適な治療薬の調査 - 実習での症例を通して -
 藤井 風水 がん化学療法における脱毛の予防や重症度の軽減と薬剤師の役割 - 文献レビューによる考察 -
 浅倉 玲太 模擬電子カルテシステムを活用した薬学教育に関する予備的調査
 栗田口遥花 保健体育科用教科書の記載内容から抽出した日本の医薬品教育における問題点
 安藤 優太 心原性脳塞栓症予防に対する抗凝固薬の適正使用
 金田 紗祐 がん患者の呼吸困難に関する薬剤師としてのケア - 文献レビューによる考察 -
 小竹 彩水 HER2陽性乳癌に対するペルツズマブを加えた術前化学療法とKi67の関連 - 3症例の集積報告 -
 田村 静夏 膵臓がんに対する標準的治療薬と治験薬の開発状況に関する調査研究
 長 美希 The Patient Education Materials Assessment Toolを用いたドーピング教材の評価
 津久井彩華 在宅医療における注射薬供給体制の現状と課題 ～川崎市の【薬菌】届出調査から～
 中野 亜美 膵臓がんに対する経口ATR阻害剤CeralasertibとS-1の併用効果に関する研究
 樋口 凌汰 COVID-19感染回避リスクを考慮した薬局環境に関わる検討
 古川 瑞帆 乳児における保湿ケアと食物アレルギー発症に関わる文献的考察
 鈴木絵里加 日本・米国における分散型臨床試験に関するガイダンスの比較研究
 武内万里奈 ホスネツピタント (アロカリス[®]) の費用対効果解析
 田村 美月 COVID-19がもたらしたコロナフレイルの現状と課題
 山賀 将伍 アルツハイマー病の新規抗体医薬品のレカネマブに関する研究

【社会薬学研究室】

「総合薬学コース」

- 平澤 孔生 新規抗うつ薬における潜在的な横紋筋融解症リスク検討
 宇野菜々恵 抗悪性腫瘍薬による薬剤性白質脳症のリスク検討
 長谷川英里 JADERとFAERSを用いた抗悪性腫瘍薬による小児の薬剤性白質脳症のリスク検討

「臨床薬学コース」

- 小林 優希 抗悪性腫瘍薬・免疫調節剤における安全性検討事項と添付文書の記載内容に関する検討
浪岡 貴宏 多剤併用を考慮した骨粗鬆症治療薬の潜在的な転倒リスクの検討：JADERを用いた解析
藤沢 知聡 地域の薬剤師による乳がん検診プログラムの住民への情報提供の検討

【生薬・天然物化学研究室】

「総合薬学コース」

- 福澤 実奈 カキ葉のトリテルペノイド (1)
新城 満帆 カキ葉のトリテルペノイド (2)
緑川 理月 日本産「防己」の品質評価に関する研究 (2)
丸山 悠 日本産「釣藤鈎」の品質評価に関する研究 (2)
佐多 美月 *Adiantum microphyllum* のトリテルペノイド
小倉 隆平 *Aleuritopteris bicolor* 由来スクアレン環化酵素の機能解析
松澤みのり リュウキュウマメヅタ由来スクアレン環化酵素の機能解析

「臨床薬学コース」

- 吉本 陸 糖尿病に効果が期待できる機能性食品に関する研究-ギムネマについて-
川淵 鮎海 糖尿病に効果が期待できる機能性食品に関する研究-アロエについて-

【数理科学 瀧澤研究室】

「臨床薬学コース」

- 森 侑希 Pythonを用いた統計解析シミュレーション
清水 惣絢 クラウドシステムを用いた健康管理アプリケーションの開発

【生化学研究室】

「総合薬学コース」

- 立川 梨佳 Smad2/3 欠損マウスにおける Wnt シグナル非依存性・浸潤性腺がん発症機序の解明
富山 晶子 BMP/Smad シグナルによる腸管上皮組織恒常性維持機構の解明
峰川 雄佑 TMEMPAIによる Wnt/ β -カテニンシグナル制御機構の解明

「総合薬学コース2」

- 佐藤 大雅 TMEMPAIファミリー遺伝子欠損マウスにおける消化管腺腫形成抑制機構の解明
前田 悠翔 シスプラチンによる TGF- β 分泌促進メカニズムの解析

「臨床薬学コース」

- 尾上 民 消化器がんに対する新規分子標的医薬品開発を目指した TMEMPAI 結合化合物の探索
松尾 一樹 TMEMPAIファミリー遺伝子欠損マウスを用いた免疫学的解析
吉見 茉樹 消化器がんに対する新規分子標的医薬品開発を目指した Tetrandrine 類縁体の TMEMPAI への結合活性評価

「情報薬学コース」

- 添田 航平 YAPを標的とした分子標的治療薬の開発に関する最新知見

【統合薬学教育研究室】

「臨床薬学コース」

- 井澤 大和 自然[温泉]療法:硫酸塩泉の化学成分と無機医薬品[JP:Potassium Sulfate],及び循環器疾患:心不全
加治佐 凜 自然[芳香]療法:精油医薬品[EP:Cinnamon Leaf Oil;Ceylon]とその化学成分,及び臨床研究文献の読解
勝屋 舞子 自然[芳香]療法:精油医薬品[EP:Star Anise Oil]とその化学成分,及び臨床研究文献の読解
小澤 葉純 カンナビジオール類の同形結晶構造解析
安田久奈乃 低分子有機結晶 cocrystal の単結晶 X線構造解析結果の検証
長濱 桜希 低分子有機結晶 pyrazole 誘導体の単結晶 X線構造解析結果の検証
小田切真由 川崎病疾病予防について
勝木 陽香 チョコレート摂取が血糖値に与える効果
近藤 夏希 低酸素誘導因子プロリン水酸化酵素 (HIF-PH) 阻害薬の心保護作用に関する調査研究
長谷川あや 日本麴を使って作られた食品と摂ることによる健康への影響

藤木 彩乃	ハチミツの血糖値改善作用について
村田 穂香	脳波測定とSTAI結果に基づいた医療現場での活用を目指した音楽の効果
棚橋奈津希	SGLT2阻害薬の心臓に対する直接作用に関する調査研究
桐山 広大	心不全治療薬ベルイシグアトに関する調査研究
津藤 夏希	イトラコナゾールの抗腫瘍効果に関する調査研究
長沼 賢	認知症に対する ω 3系脂肪酸の効果

【微生物学研究室】

「総合薬学コース」

山本なつき	制御遺伝子SrrAをノックアウトした黄色ブドウ球菌
内田みひろ	黄色ブドウ球菌SsaAノックアウト株の作製
今関 慶経	黄色ブドウ球菌のゲノム編集効率を向上させる試み
河村 橘花	クオラムセンシング能を喪失した黄色ブドウ球菌の抗菌薬感受性評価
高橋 英莉	ブドウ球菌属菌特異的な抗菌効果を発揮する γ -アルキルラクトンの発見
千阪 太聖	DDSを指向したハイブリット化ペプチドの設計と抗緑膿菌活性の解析
荒木 夏実	発現クローニング法によるウイルス免疫制御分子K1の新規リガンド同定
合田 咲子	カボジ肉腫関連ヘルペスウイルス免疫制御分子K1の新規宿主リガンド探索

「臨床薬学コース」

黒沼 望	腸内細菌叢の異常と潰瘍性大腸炎
飯田 侑花	HIV感染症の現状と治療薬に関する研究
手塚 智実	世界における狂犬病の現状と対策
春木 健吾	COVID-19経口治療薬の現状と今後の課題
山口侑里子	MRSAによる感染性心内膜炎の治療に関する研究

【薬学教育推進研究室】

「臨床薬学コース」

高梨 光希	肝細胞がんに対する分子標的治療薬について
林 流花	アルツハイマー型認知症の原因と治療の展望
向後 恵理	シェーグレン症候群の病態と合併症

【薬品分析化学研究室】

「総合薬学コース」

秋月 唯花	五員環NOラジカルの自己集合化挙動と水プロトン緩和時間変化
澤田 雅斗	月布モンモリロナイトのセシウムイオン交換反応における層間水の役割
守谷 礼司	三川モンモリロナイトのセシウムイオン交換反応における層間水の役割
江藤 亮介	ピリリウム環を組み込んだ発光性らせん分子の自己集合性評価
加山 悠斗	キノリン骨格を有するオルガネラ染色試薬の開発
石井 一步	ジヒドロアザ[5]ヘリセン類の合成と光学特性
粕谷 宗平	ベンゾイミダゾール誘導体の合成と抗菌剤を目指した研究
馬場果奈恵	強発光性ヘキサアザペンタセン誘導体の合成と環境応答的発光挙動に関する研究
藤原 萌圭	ペプチド固相合成のための塩酸塩型アミン検出試薬の開発
室井 梨沙	水環境下で強く発光するハロゲン化ナフチリジンの開発

「臨床薬学コース」

鎌田 久海	SARS-CoV-2抗原検査キットの精度と使用者の考え方についての意識調査研究
木下 穂香	新型コロナウイルスワクチンの成分に関する調査研究
濱野さはら	ゲルの調査研究と蛍光性ゲルの開発
板東 真彩	肥満とやせが認知機能に及ぼす影響
霜山 尊人	ナノマテリアルを用いた新しい治療法の開発状況
森田 瑞姫	禁煙指導の現状と課題から考える患者と薬剤師のつながり

【薬化学研究室】

「総合薬学コース」

胡内 達也	三成分連結型付加環化反応を用いる多様性を志向したコア化合物の合成
-------	----------------------------------

- 本田 侑基 α, β -不飽和オキシムに対する求電子ラジカル付加反応
- 前田 裕輝 α, β -不飽和ヒドラゾンとクマリン酸誘導体との逆電子要請型 Diels-Alder 反応
- 佐々木茜梨 金触媒を利用したベンゾジフラン類の合成
- 千秋 妃美 水溶性金触媒を利用した環境調和型 2,3-ジヒドロベンゾフラン類・インダン類の合成
- 〔総合薬学コース 2〕
- 大矢 泰輝 金触媒を用いるテトラヒドロキノリン類の合成
- 池田 怜奈 コバレントドラッグの反応機構に関する調査と考察
- 〔臨床薬学コース〕
- 尾本 舞 金触媒存在下 3-トリメチルシリルプロパルギルアルコールとメシチレンの反応
- 伊藤 慧祐 ビアリアル型光学活性スルホキシド配位子の合成と反応への展開
- 〔情報薬学コース〕
- 長瀬 蒼生 3-メトキシベンザインと 3-カルボニルフラン誘導体との [4+2] 付加環化反応に関する研究

【薬剤学研究室】

〔総合薬学コース〕

- 藤田 朱里 5型アデノウイルス再感染における血液凝固第 X 因子の影響
- 宮内 佑奈 アデノウイルス knob タンパク質の細胞膜分布に関与する因子の解明
- 今井 那穂 ウイルスタンパク質を用いた高分子物質の細胞内導入に関する検討
- 金 領 細胞膜分画を用いたアデノウイルス knob タンパク質の機能評価
- 多門 大輔 CD46 を標的とした上皮細胞層透過キャリアの開発
- 青山 夏美 35型アデノウイルス knob タンパク質のがん遺伝子治療用薬物キャリアとしての可能性
- 岸本ひかり EphA2 シグナルに着目したがん擬似血管形成メカニズムの解明
- 小西あかり がん擬似血管を標的とした DC ワクチンによる抗原特異的免疫誘導能の解析
- 落合 胡桃 がん血管 ワクチンの投与が免疫抑制機構に及ぼす影響の評価
- 土屋ももえ Fc フラグメント融合型抗腫瘍血管特異一本鎖抗体の結合特性評価

〔臨床薬学コース〕

- 野口 響己 がん擬似血管の抑制からみた EphA2 シグナルの関与と標的の可能性
- 村嶋佳央理 腫瘍血管を標的としたがん免疫療法による免疫誘導能の解析

【薬品化学研究室】

〔総合薬学コース〕

- 漆山総一郎 N-アルケニルアセトアニリドの α 位へのフェニル基導入の効果
- 小林 隼介 N,N-ジフェニル型芳香族アミドの結晶構造と立体挙動
- 酒井 溪介 環状フェニロゴアスアミドの SNAr 反応による窒素修飾と構造に関する研究
- 永井 愛実 ペンタフルオロフェニルの電子求引性を利用した N-CH₂F 化ベンズアニリドの合成と構造
- 伯野 翠 3,4-置換チオフェンによって構築される直鎖状 N-メチルアミドの合成と立体特性
- 渡邊あかり らせん型構造を有する N,N'-ジメチルピリジン-2,6-ジカルボン酸アミド類の立体構造と結晶外形

〔臨床薬学コース〕

- 平松 莉緒 第3世代チエノピリジン系抗血小板薬 プラスグレルの薬効に関する調査研究
- 村上 卓也 糖尿病治療薬である イメグリミンの膵 β 細胞に及ぼす影響についての調査研究
- 遠藤 麗 キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬 バロキサビル マルボキシルの創薬に関する調査研究
- 長野 彩美 MAO-B 阻害剤 サフィナミドの創製に関する調査研究
- 藤 優希菜 非定型抗精神病薬 ブレクスピプラゾールの創製に関する調査研究

【薬品物理化学研究室】

〔総合薬学コース〕

- 軽部 翼 ブラジキニン B1 受容体標的 ¹¹¹In 標識ペプチドによるがんイメージングに関する検討
- 杉田 茉央 放射性標識ソマトスタチンアナログへのアスパラギン酸 / フェニルアラニン残基の導入ががん細胞への集積性と体内挙動に与える影響
- 伊藤由美佳 Fatty acid binding protein 4 標的イメージングプローブの開発研究: クロロフルオロフェノール結合 Triazolopyrimidine 誘導体の合成と結合親和性評価

大庭 葉 Glyoxalase Iを標的としたイメージングプローブの開発研究: 放射性ヨウ素標識グルタチオン類似体のシクロペンチルエステルの細胞内挙動に関する検討

「臨床薬学コース」

佐藤 玲央 腫瘍集積・滞留性を示すシアニン色素とアルブミンとの結合に関する調査研究

三上 尚人 低分子化合物を母体とする前立腺癌治療用放射性医薬品に対するアルブミン・バインダーの有用性に関する調査研究

南 颯斗 ホウ素中性子捕捉療法のためのかご状ホウ素化合物に対する治療成績向上の取り組みに関する調査研究

温井 優香 非侵襲的ROSイメージング法のためのPETプローブ開発状況に関する調査研究

「情報薬学コース」

及川 一樹 ルテチウムオキソドトロチド (177Lu) の特徴に関する調査研究 ~類似体との比較を中心に~

小林 朝子 精神疾患における炎症の関与に関する調査研究

【薬物治療学研究室】

「総合薬学コース」

高橋 里帆 海馬内CCL5-CCR5活性に基づく恐怖消去の性差

葛西 令 脳深部多領域解析可能な新規神経活動計測法の開発

菅井 健太 IRBITとMucolipin 1との相互作用について

大矢 翔太 IRBITファミリーとその標的分子の脈絡叢上皮細胞における機能に関する研究

高村 浩美 IRBITによる脂肪細胞分化制御機構の解析

小野 竜誠 培養細胞・脂肪組織における脂肪滴の3D解析による数量化方法確立

新井 悠矢 SYNCRIP KOマウスにおける心臓発達異常について

米田 竜 SYNCRIPの細胞増殖における機能について

「臨床薬学コース」

栗原 知美 糖尿病に対するFlash Glucose Monitoringの有用性と低血糖症について

小早川裕大 アルツハイマー病治療薬の最前線

近藤 悠 慢性腎臓病の早期発見と新しい治療パラダイム

福田 隼人 糖尿病治療の最前線: チルゼパチドを中心に

【薬物動態学研究室】

「総合薬学コース」

森國 紗帆 イヌ肝チトクロム P450 2C分子種の酸化酵素活性および個体差に関する研究

内海 正義 化学物質のインシリコ肝臓-血液分配係数が規定する生理学的薬物動態モデル出力値に関する研究

巻口 美晶 家族解析により複合変異の組み合わせが確定した疾患起因フラビン含有モノオキシゲナーゼ3ハプロタイプに関する研究

「臨床薬学コース」

野田優太郎 イヌ肝チトクロム P450 3A分子種の酸化酵素活性、臓器差および個体差に関する研究

佐藤 翼 簡易生理学的薬物動態モデルによるチトクロム P450 3A4/5 遺伝子多型患者でのアトルバスタチン体内動態予測に関する研究

【薬用植物資源研究室】

「総合薬学コース」

竹中 蒼乃 Ephedra equisetinaの栽培法の検討

「臨床薬学コース」

大木 美奈 栽培年数の経過に伴うEphedra equisetinaの成分含量変化の特性把握に関する研究

福田 博子 鉢栽培のEphedra equisetinaに対する栽培環境の影響

【薬理学研究室】

「総合薬学コース」

木村 昂聖 新規シスタチオニン γ -リアーゼ阻害薬の細胞活性評価

秋山 真穂 シスタチオニン γ -リアーゼの新規基質としてのS-ニトロソL-システイン

岡野 樹生 S/Nハイブリッド分子種によるシスタチオニン γ -リアーゼ活性制御
 春藤 琴美 細胞内におけるS-ニトロソL-システインによるシスタチオニン γ -リアーゼ阻害の可逆性について
 坂本 零士 細胞内におけるシスタチオニン γ -リアーゼの136,171番目システイン残基に関する研究
 槇田 育也 親電子性ビオチン標識試薬を用いたシスタチオニン γ -リアーゼのポリスルフィド化の検出
 三井 千雪 シスタチオニン γ -リアーゼ発現による細胞機能解析
 河本 希歩 筋芽細胞分化におけるカルモデュリンキナーゼキナーゼの役割の解明
 【臨床薬学コース】
 市川 友滉 グルタミン酸受容体機能調節における新規パーキンソン病治療戦略
 高田 智之 睡眠相後退症候群におけるアリピプラゾールの新規作用点の検討とラメルテオンとの二剤併用療法
 山本 瑠奈 リファンピシンのアルツハイマー型認知症予防薬としての可能性
 大澤 実奈 γ -セクレターゼ制御によるアルツハイマー治療の可能性
 大橋英美子 δ オピオイド受容体をターゲットとした抗うつ薬創製の可能性
 小山 理樹 アストロサイトを標的としたアルツハイマー型認知症治療薬
 増測 貴吉 ケタミン構造異性体の機能に着目したうつ病治療薬の展望
 和田 夏凜 扁桃体機能とパニック障害

【臨床心理学研究室】

【臨床薬学コース】
 大野 恋 薬物乱用防止教育プログラムの効果検証：授業形態別・学校種別比較を通して
 佐伯 朋香 コロナ渦における医療専門職のストレスとその乗り越え方に関する研究(その2)：テキスト分析による質的研究
 【情報薬学コース】
 尾崎 暁久 コロナ渦における医療専門職のストレスとその乗り越え方に関する研究(その1)：関連要因の検討

(11) 第109回薬剤師国家試験合格状況

	総 数			6年制(現役生)			6年制(既卒生)			その他		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
全 国	13,585	9,296	68.43%	8,416	7,100	84.36%	4,957	2,103	42.42%	212	93	43.87%
私立計	12,558	8,428	67.11%	7,587	6,351	83.71%	4,861	2,055	42.28%	110	22	20.00%
本 学	293	227	77.47%	219	182	83.11%	73	45	61.64%	1	0	0.00%

(12) 特別講義・その他講演

特別講義

講演題目 イメージングメタボロミクスによる
がん代謝システム制御の解明と医学への応用

講演者 慶應義塾大学 医学部
名誉教授 末松 誠

招聘者 衛生化学研究室 石井 功 教授

講演日 令和5年5月10日(金)

講演題目 エピジェネティクスを標的とする創薬化学研究

講演者 大阪大学 産業科学研究所 複合分子化学研究分野
教授 鈴木 孝禎

招聘者 薬品化学研究室 岡本 巖 教授

講演日 令和5年6月2日(金)

講演題目 本質思考・本質把握力超入門

講演者 慶應義塾大学 大学院 システムデザイン・マネジメント研究科
特別招聘教授 米澤 創一

招聘者 薬剤学研究室 宇都口 直樹 教授

講演日 令和5年6月14日(水)

講演題目 がん微小環境を標的とした抗がん剤の天然物創薬

講演者 微生物化学研究所 第1生物活性研究部
部長 川田 学

招聘者 生化学研究室 伊東 進 教授

講演日 令和5年6月16日(金)

講演題目 多文化共生社会と薬学：コミュニティアプローチの視点から

講演者 上智大学 多文化共生社会研究所
特任センター長 久田 満

招聘者 臨床心理学研究室 吉永 真理 教授

講演日 令和5年6月22日(木)

講演題目 20年後の薬剤師に必要な基本的資質・能力を考える

講演者 名古屋市立大学 薬学部
教授 鈴木 匡

招聘者 地域医療部門 菊池 千草 教授

講演日 令和5年7月7日(金)

講演題目 Environmentally Responsible Organic Synthesis :
Catalysts, Solvents, Recyclability

講演者 ドルトムント工科大学
教授 Norbert Krause

招聘者 薬化学研究室 田村 修 教授

講演日 令和5年11月29日(水)

講演題目 尿酸はなぜ高濃度に維持されるか？

－ 血清尿酸値調節機構と病態・生理作用－

講演者 金沢大学 医薬保健学域 薬学類
教授 玉井 郁巳

招聘者 実践薬学部門 廣原 正宜 教授

講演日 令和5年12月20日(水)

2. 大学院薬学研究科

(1) 大学院教育担当

薬化学研究室	※学長	山本	惠子	修嘉	
	※教授	田村	延善	光久	
生薬・天然物化学研究室	※講師	森橋	孝淳	久一	
	※教授	中篠	俊寛	将明	
医薬分子化学研究室	※教授	伊石	大南	美巖	
	※教授	大岡	崎藤	龍愛	
薬品化学研究室	※教授	山崎	宏充	行穂	
	※教授	伊秋	石井	功征	
薬品物理化学研究室	※教授	秋宿	赤星	進悦	
	※教授	石宿	伊東	悦	
衛生化学研究室	※教授	赤井	田代	なおこ	
	※教授	伊東	中野	大成	
生化学研究室	※教授	伊東	金本	大輔	
	※教授	田代	浅井	穂悟	
微生物学研究室	※教授	中野	梶川	晃子	
	※教授	野中	唐澤	一憲	
薬品分析化学研究室	※教授	白井	鈴木	直樹	
	※教授	鈴木	宇都	直也	
薬剤学研究室	※教授	宇都	小泉	鉄也	
	※教授	小泉	野村	浩史	
薬物動態学研究室	※教授	山崎	清水	万紀子	
	※教授	清村	山邊	典泰	
薬理学研究室	※教授	渡土	屋幸	弘江	
	※教授	土神	戸敏	洋一	
薬物治療学研究室	※教授	水谷	田浩	真悟	
	※教授	濱田	松崎	生子	
社会薬学研究室	※教授	宮崎	野あ	い子	
	※教授	庄野	原正	一宏	
実践薬学部門	※教授	廣部	澤伊	能仁	
	※教授	渡廣	森元	知健	
応用薬物治療部門	※教授	山濱	本本	知之	
	※教授	濱増	田木	彰弘	
医薬品情報部門	※教授	高土	肥池	千草	
地域医療部門	※教授	菊			

薬学研究科長

数理科学瀧澤研究室
臨床心理学
統合薬学教育（学習支援室）

薬学教育推進
薬用植物資源

講師 瀧澤 誠
※教授 吉永 真理
※教授 井上 能博
准教授 池野 聡一
准教授 川幡 正俊
※教授 岸本 成史
※教授 高野 昭人

※は大学院薬学研究科委員会委員

(2) 修了者数・入学者数（令和5年度）

令和5年度入学者	薬科学専攻修士課程	4名
	薬学専攻博士課程（4年制）	3名
令和5年度修了者	薬科学専攻修士課程	0名
	薬学専攻博士課程（4年制）	5名

(3) 入学試験概要（令和5年度実施）

	月 日	志願者	受験者	合格者
薬学専攻博士課程（4年制）（学内推薦）	7月18日（火）	3名	3名	3名
薬学専攻博士課程（4年制）（社会人推薦1期）	7月18日（火）	0名	0名	0名
薬科学専攻修士課程（一般1期）	10月17日（火）	2名	1名	1名
薬学専攻博士課程（4年制）（一般1期）	10月17日（火）	0名	0名	0名
薬科学専攻修士課程（一般2期）	3月5日（火）	1名	1名	1名
薬科学専攻修士課程（社会人推薦）	3月5日（火）	0名	0名	0名
薬学専攻博士課程（4年制）（一般2期）	3月5日（火）	0名	0名	0名
薬学専攻博士課程（4年制）（社会人推薦2期）	3月5日（火）	1名	1名	1名

(4) 留学者数

修士課程 0名
博士課程 0名

(5) 大学院在籍学生数

令和5年5月1日

学年	学科	男	女	総計
M1	薬科学専攻修士課程	1	3	4
M2	薬科学専攻修士課程	0	0	0
修士課程合計		1	3	4
D1	薬学専攻博士課程	2	1	3
D2	薬学専攻博士課程	1	2	3
D3	薬学専攻博士課程	4	1	5
D4	薬学専攻博士課程	2	4	6
博士課程合計		9	8	17
大学院総計		10	11	21

(6) 学位授与者数（令和5年度）

薬科学専攻修士課程	修士（薬科学）		0名
薬学専攻博士課程	博士（薬学）	学位規程第5条	5名
薬学専攻	博士（薬学）	学位規程第6条	0名

(7) 大学院修士論文題目（学位規程第4条）

該当なし

(8) 大学院博士論文題目（学位規程第5条）

氏名	論文題目
田中 江子	日米欧三薬局方通則の比較調査に基づく薬局方調和促進方策の検討
八鍬 奈穂	妊娠中の医薬品の適正な使用における臨床情報の充実に向けた研究
齋藤 理枝子	薬剤師による医療現場でのリスク管理計画活用のための研究
水野 郁美	カンナビノイドシステムによる恐怖記憶調節の性差
静谷 敏幸	効能追加の促進に向けた日米欧の医薬品効能に関する研究

(9) 大学院博士論文題目（学位規程第6条）

該当なし

(10) 大学院薬学研究科委員会の日程と議題

4月14日（金）	第1号議案	令和5年度ティーチングアシスタント（TA）採用候補者に関する件
（持ち回り委員会）	第2号議案	令和5年度博士課程講義「病態解析・薬物治療学特論及び演習」に関する件
4月19日（水）	第1号議案	人事に関する件
	第2号議案	令和5年度早期修了に関する件
	第3号議案	昭和薬科大学大学院奨学金に関する件
	報告事項1	令和5年度ティーチングアシスタント（TA）採用について
	報告事項2	令和5年度前期研究入門について
	報告事項3	令和5年度大学院講義履修について
	報告事項4	ハイテクリサーチ報告会について
	報告事項6	大学院入試出題者・面接委員・採点者の依頼について
6月21日（水）	第1号議案	令和5年度大学院博士課程早期修了に伴う予備審査に関する件
	報告事項1	ハイテクリサーチセンター総合研究室－1（0105）及び総合研究室－2（0106）の有効活用に関する件
	報告事項2	研究計画書について
7月19日（水）	第1号議案	令和6年度大学院入学試験結果（学内推薦）に関する件
	第2号議案	大学院博士課程入学資格審査に関する件
	報告事項1	令和5年度後期研究入門について
	報告事項2	長井記念薬学研究奨励支援事業2024年度採用分募集について
7月29日（土）	第1号議案	本学学位規程第5条に基づく令和5年度課程博士学位申請者論文審査（早期修了）に関する件
9月20日（水）	第1号議案	本学学位規程第5条に基づく令和5年度課程博士学位申請者論文審査（早期修了）に関する件
	第2号議案	大学院博士課程修了に関する件
	第3号議案	令和5年度大学院博士課程早期修了の申請に関する件

	第4号議案	学籍異動に関する件
	報告事項1	令和5年度後期研究入門について
10月18日(水)	第1号議案	令和6年度大学院入学試験結果(一般1期)に関する件
	第2号議案	令和5年度大学院博士課程早期修了に関する件
	第3号議案	令和6年度長井記念薬学研究奨励金の申請に関する件
12月13日(水)	第1号議案	令和5年度大学院博士課程早期修了に伴う予備審査に関する件
	第2号議案	令和5年度大学院博士課程論文審査に関する件
	第3号議案	令和5年度博士論文発表会に関する件
	第4号議案	令和5年度大学院博士課程中間報告会に関する件
	第5号議案	令和6年度大学院シラバス(授業科目)に関する件【継続審議】
	第6号議案	令和6年度大学院行事日程に関する件【継続審議】
	第7号議案	令和5年度大学院FDに関する件
	報告事項1	令和6年度大学院教育担当者選任のための論文調査について
1月27日(土)	第1号議案	本学学位規程第5条に基づく令和5年度課程博士学位申請者論文審査に関する件
	第2号議案	令和6年度大学院教育担当者に関する件
	第3号議案	令和6年度非常勤講師委嘱に関する件
	報告事項1	令和5年度大学院FDについて
	報告事項2	大学院進学相談会(3-5年次生対象)について
	報告事項3	長井記念薬学研究奨励支援事業2024年度採用分選考結果について
2月17日(土)	第1号議案	本学学位規程第5条に基づく令和5年度課程博士学位申請者論文審査に関する件
	第2号議案	大学院博士課程修了に関する件
	報告事項1	令和6年度大学院入試志願状況について
3月6日(水)	第1号議案	令和6年度大学院薬学研究科入学試験に関する件
	第2号議案	令和7年度大学院入試(日程・科目)に関する件
	第3号議案	令和6年度大学院シラバス(授業科目)に関する件
	第4号議案	令和6年度学位申請スケジュールに関する件
	第5号議案	学籍異動に関する件
	第6号議案	昭和薬科大学大学院日本学生支援機構第一種学資金返還免除候補者選考小委員会委員の選考に関する件
	報告事項1	令和6年度前期研究入門について

(11) 主な学年暦

月日 (曜)	大学院行事項目
4月5日 (水)	入学式・新入生ガイダンス
7月18日 (火)	博士課程入学試験 (学内推薦)
7月21日 (金)	博士課程入学試験合格発表 (学内推薦)
7月29日 (土)	課程博士公開論文発表
9月20日 (水)	博士学位論文審査判定
9月30日 (土)	学位記授与式 (修了式)
10月17日 (火)	修士課程入学試験 (一般1期)
10月20日 (金)	修士課程入学試験合格発表 (一般1期)
1月27日 (土)	課程博士・論文博士公開論文発表
2月17日 (土)	博士学位論文審査判定
2月17日 (土)	博士課程2年次学生中間報告会
3月5日 (火)	修士課程入学試験 (一般2期)
3月5日 (火)	博士課程入学試験 (社会人推薦2期)
3月7日 (木)	学位記授与式 (修了式)
3月7日 (木)	修士課程入学試験合格発表 (一般2期)
3月7日 (木)	博士課程入学試験合格発表 (社会人推薦2期)

(12) 令和6年3月 修了生進路別人数表 (大学院)

令和6年3月 修了生進路別人数表 (大学院) (博士)

		人 数			割合 (%)
		男	女	計	
進 学	本 学	0	0	0	0.0
	他大学	0	0	0	0.0
	進 学	0	0	0	0.0
就 職	製薬企業 (MR)	0	0	0	0.0
	製薬企業 (研究)	0	0	0	0.0
	製薬企業 (開発)	0	0	0	0.0
	製薬企業 (開発以外)	0	0	0	0.0
	製薬企業	0	0	0	0.0
	企業 (CRO・SMO)	0	0	0	0.0
	企業 (食品・化粧品)	0	0	0	0.0
	企業 (卸)	0	0	0	0.0
	企業 (その他)	0	0	0	0.0
	その他企業	0	0	0	0.0
	製薬企業・その他企業	0	0	0	0.0
	病院 (国立)	0	0	0	0.0
	病院 (公立)	0	0	0	0.0
	病院 (私立)	0	0	0	0.0
	研修生	0	0	0	0.0
	病 院	0	0	0	0.0
	薬局 (調剤薬局)	0	0	0	0.0
	薬局 (調剤併設ドラッグストア)	0	0	0	0.0
	薬 局	0	0	0	0.0
	公務員	0	0	0	0.0
教育 (研究生)・その他等		0	1	1	100.0
進路決定者合計		0	1	1	100.0
就職せず (留学等)		0	0	0	0.0
活動中		0	0	0	0.0
判断保留中・国試後		0	0	0	0.0
不明・未提出		0	0	0	0.0
未決定者合計		0	0	0	0.0
総 計		0	1	1	100.0

(13) 令和6年3月大学院修了生進路

令和6年3月博士課程修了者1名の進路は、本学薬物治療学研究室教員（特任助教）であった。

※その他の博士課程修了者4名は、社会人学生のため現職継続。

(14) 大学院FD活動

大学院薬学研究科委員会主催による令和5年度昭和薬科大学大学院FDワークショップを下記のとおり開催し、今度の大学院のあり方を多くの教員で考える有用な機会とした。

日時 令和6年3月16日（土）10時～12時

場所 302教室

参加者 大学院教育担当教員48名

テーマ 1) 大学院の3つのポリシーの改訂案

2) 社会人大学院生（オンライン中心）の積極的受け入れ策の検討

(15) 大学院短報

大学院4年制博士課程は平成27年度に完成年度を迎え、令和5年度は9期生4年次4名（うち2名早期修了）、10期生3年次1名（早期修了）が課程を修了した。これまでの博士号取得者は延べ29名、修士号取得者は延べ6名となった。本年度の博士課程の他の在籍者は、3年次5名、2年次3名、1年次3名であり、そのうち社会人学生は4名であった。入学者選抜の結果、令和6年度には博士課程に4名、修士課程に2名が入学する予定である。

3. 常設委員会

(1) 庶務委員会

委員会の開催

日 時：2023年4月15日（メール委員会）

議題

1. 令和5（2023）年度 実習予算 予算外の支出見込みに関する件

日 時：2023年4月25日（メール委員会）

議題

1. 幹事選出に関する件
2. 庶務委員会における実習担当者に関する件

日 時：2023年6月3日（メール委員会）

議題

1. 短期国外出張に関する件

日 時：2023年6月30日

議題

1. 令和7（2025）年度以降庶務委員会管理予算 A 予算の申請に関する件（意見交換）
2. 令和6（2024）年度庶務委員会管理予算 A-E 予算の募集に関する件
3. その他

報告

1. 研究室予算配分学生人数の算出日に関する件

日 時：2023年7月14日

議題

1. 共同機器運営委員会管理の機器修繕に関する件

報告

1. 予算懇談会について

日 時：2023年9月28日

議題

1. 令和6（2024）年度庶務委員会管理予算 B-E 予算の申請に関する件
2. 令和6（2024）年度国外出張の募集に関する件
3. 令和5（2023）年度短期国外出張 日程・開催地の変更に関する件
4. 令和7（2025）年度以降庶務委員会管理予算 A 予算の申請に関する件
5. その他

日 時：2023年10月10日（メール委員会）

議題

1. 共同機器運営委員会管理の機器修繕に関する件

日 時：2023年11月4日（メール委員会）

議題

1. 共用実験室管理責任者に関する件
2. 令和5（2023）年度研究室予算年度途中着任用留保分の配分に関する件

報告

1. 令和5（2023）年度庶務委員会管理予算 A-E 予算 D1,D2 生物学実習予算取下げについて
2. 令和5（2023）年度 A 予算文部科学省私立学校施設整備費補助金申請 不選定について
3. 過年度 A 予算取得機器備品への A 予算ラベル貼付について

日 時：2024 年 1 月 30 日

議題

1. 令和 6（2024）年度国外出張申請に関する件
2. 令和 6（2024）年度研究室予算の配分方法に関する件
3. 共用実験室管理責任者に関する件

日 時：2024 年 3 月 26 日

1. 令和 6（2024）年度実習費の予算および管理担当者に関する件

活動概要・現状

庶務委員会管理予算 A-E 予算	A 予算は文部科学省への補助金申請に対応できるように、翌々年度の整備機種を前倒しして選定してきた。そこで令和 5（2023）年度は令和 7 年度 A 予算で整備する機器を選定した。今年度庶務委員会管理予算で整備した機器備品を別表 1 に示す。
研究室予算配分	例年通り、ポイント制によって研究室間の公平性を担保しつつ、安定的な配分を継続した。
短期国外出張補助	3 件の申請があり、選考方針に基づいた審議を行った。

自己点検・評価

上記の通り、大学全体の研究費配分を審議する委員会であり重責を担っている。審議する事案・制度については、本学の教育・研究活動が円滑に進められることを優先事項として決定することに努めた。今年度は新設した E 予算を執行した。これによって、従来予算枠では対応が難しかった共同機器の更新が可能になった。高額予算である A 予算整備機器の決定については、学内全体で合意が得られるように進めた。

今後に向けて

今後も委員会審議を着実に行って、引き続き本学での教育・研究活動を研究費配分によってサポートしていく。事案の審議や決定に際しては、限られた予算を有効かつ公平に配分できるように学内の各方面と連携を取りつつ学内全体の合意を形成できるよう丁寧に取り組む。本学の研究・教育活動をこれまで以上に推進・活性化していくには、大型機器・設備の更新や新規導入の長期計画が重要となる。庶務委員会は研究費配分を担うが、長期計画の立案に関しては、全学的な合意を形成する場を今後設定する必要があると考える。

別表 1 2023 年度購入 教育研究用機器備品

A 教育研究用設備・装置（価格 500 万円以上 設備・装置助成申請対象）

研究室	品名（規格・形式）	数量（式）
衛生化学研究室	高分解能飛行時間型質量分析装置（MALDI）	1

B 教育研究用機器（価格 50 万円以上 500 万円未満）2023-2026 の初年度

研究室	品名（規格・形式）	数量（式）
生化学研究室	化学発光・蛍光撮影装置 (iBright FL1500Imaging System)	1
薬物治療学研究室	ワイヤレスオプトジェネティクス (テレファイフォ基本セット)	1
衛生化学研究室	超純水製造装置一式 (Milli-Q EQ 7000)	1
衛生化学研究室	高速マイクロ冷却遠心機一式 (Model6200)	1
薬品化学研究室	電子天びん (MCA6.6S-2S01-M)	1

C 学生実習用機器（価格 10 万円以上 500 万円未満）

実習名	品名（規格・形式）	数量（式）
分析化学実習	pHメータ（HM-41X）	5
生物学実習 / 衛生薬学実習	ベストホビーチェア（W-150T）	140

E 共同機器

委員会名	品名（規格・形式）	数量（式）
共同機器運営委員会	クライオスタット（CM1860）	1

別表2 2023年度 短期国外出張

研究室	氏名	学会名	発表方法	演題名	目的地	学会期間
医薬分子化学	山田孝博	第22回欧州有機化学シンポジウム	ポスター	Pd触媒を用いる含窒素ヘテロ芳香族化合物のC-Hアルケニル化反応の開発（仮）	ベルギー ゲント	7/9 ～7/13
数理科学	瀧澤誠	第6回原子核物理分野日米合同物理学会	口頭発表	X(3872)のボトモニウム版の構造	アメリカ ハワイ島	11/26 ～12/1
生化学	伊東進	ウプサラでのTFGβ会議	口頭発表	Smad欠損マウスにおける腸管上皮組織異常	スウェーデン ウプサラ	8/16 ～8/18

(2) 教務委員会

委員会の開催

令和5年4月13日（木）

- (1) 非常勤講師の新規委嘱について
- (2) 非常勤講師の継続委嘱について
- (3) 令和5年度アドバイザー面談について
- (4) 令和5年度の薬学研究の評価について
- (5) 令和5年度卒業論文発表会について
- (6) 令和4年度ベストティーチャー賞について
- (7) 令和4年度 特別進級者・単位未修得者向け学習プログラムの総括について
- (8) 教育支援システム（ESS）使用説明会について
- (9) 留年生対象午後演習プログラムについて
- (10) 保護者あて成績通知について

令和5年5月1日（月）

- (1) 教務委員会幹事及び副幹事の選出について
- (2) 教務委員会委員の役割について
- (3) 定例教務委員会の開催日について
- (4) 令和5年度後期薬学演習試験の合格基準
- (5) 令和5年度試験監督必携、注意事項読み上げ原稿について
- (6) DP・CP見直しとカリキュラム改定のロードマップについて
- (7) 令和5年度に取り組むべき課題について
 - ・DP・CP見直し及びカリキュラム改定に関連する活動について
 - ・履修・試験規程の見直しについて

令和5年6月7日（水）

- (1) 令和5年度 非常勤講師の委嘱（新規）について

- (2) 令和5年度 卒業論文発表会について
- (3) 令和5年度 早期体験学習について
- (4) 中間試験欠席者について
- (5) CBT 対策演習実施方針について [薬学教育推進センター運営委員会より]
- (6) DP・CP 見直しについて (進捗報告)
- (7) 5年次科目「インターンシップ」について
- (8) 別日程の追再試験について

令和5年7月5日(水)

- (1) 試験欠席届についての確認事項について
- (2) 再試験申込手続きについて
- (3) 令和6年度 研究室配属について
- (4) カリキュラム改定作業の進捗状況について
- (5) 1年生ガイダンスについて (前期定期試験に向けて)
- (6) 令和5年度 卒業論文発表会当日について
- (7) 講義に中・長期出席できない学生について

令和5年8月24日(木)

- (1) 令和5年度6年次留年生 最終総合演習の成績基準について
- (2) 令和5年度6年次留年生 最終総合演習の単位認定について
- (3) 令和5年度6年次留年生修得単位一覧および卒業判定について
- (4) 卒業論文発表会の会場について

令和5年9月6日(水)

- (1) 外部機関における卒業実習教育卒業研究について
- (2) 令和5年度 委員会予算について
- (3) カリキュラム改訂案について
- (4) 令和5年度6年次薬学研究3およびアドバンスト薬学研究の単位認定について
- (5) 1年次早期体験学習のワークショップについて

令和5年10月4日(水)

- (1) カリキュラム改定(案)について
- (2) 6年生ガイダンス(9月)について (6年担当)
- (3) 第1回薬学演習試験について (6年担当)
- (4) 令和5年度授業日数について
- (5) 令和6年度卒業論文発表会ポスター発表の会場変更について
- (6) 学部履修及び試験規程の見直しについて
- (7) 1～4年生前期成績不振者について

令和5年10月26日(水)

- (1) 新規研究員・研究生について
- (2) DP、CP、DP ルーブリックの改定について
- (3) カリキュラム改定について
- (4) 学部履修及び試験規程の見直し・改定について
 - ・出席不正をした者に対する懲戒に関する規定の新設(学生支援委員会からの提案)
 - ・再試験回数に関する規定の見直し(継続審議)
- (5) 令和6年度シラバスと学修成果の可視化について

令和5年11月17日(水)

- (1) 令和6年度カリキュラム改定について

令和5年11月20日(月)

- (1) 令和6年度カリキュラム改定について

(2) 令和6年度 研究室配属について

令和5年11月30日(木)

- (1) 令和6年度助教の講義について
- (2) 令和6年度コース変更について
- (3) カリキュラム改定(案)について
 - ・教養系教育科目:「リベラルアーツ/教養系教育」について
 - ・外国語教育科目:自由科目「フランス語Ⅰ」、「フランス語Ⅱ」について
 - ・今後の作業について
- (4) 令和6年度 研究室配属について
- (5) 「昭和薬科大学学部履修及び試験規程」の改定について
- (6) 出席不正について
- (7) 学生便覧の校正、シラバス作成依頼などのスケジュールについて

令和5年12月15日(木)

- (1) カリキュラム改定について
- (2) 令和6年度 研究室配属について
- (3) 「実務実習に関するガイドライン」の公表について
- (4) 学生便覧の校正について

令和5年12月20日(水)

- (1) 第1・2回薬学演習試験合格について
- (2) 研究員について
- (3) 令和6年度 研究室配属の日程について
- (4) 学生便覧における新カリキュラム系別説明文記載について
- (5) 4年次生科目最終試験の日程(確定・周知状況)について

令和5年12月25日(月)

- (1) 新規研究員について(継続審議)
- (2) 令和6年度シラバス作成について
- (3) 令和5年度4年次進級判定および6年次最終総合演習単位認定・卒業判定に関する日程について
- (4) 学生便覧の校正について

令和6年1月15日(金)

- (1) 第3回薬学演習試験合格基準と補正対象問題について
- (2) 第3回薬学演習試験合格について
- (3) 集中補講について

令和6年2月5日(水)

- (1) 4年次進級判定について
- (2) 令和6年度非常勤講師の委嘱について
- (3) 助教・特任助教の講義担当について
- (4) 令和6年度時間割・実習日程表について
- (5) 令和6年度履修ガイダンス日程について
- (6) 新カリキュラムの教育課程表について
- (7) 出席不正に関する学生便覧記載案について

令和6年2月7日(水)

- (1) 最終総合演習単位認定について
- (2) 卒業判定について
- (3) 新カリキュラムの教育課程表について(継続審議)
- (4) 新5年生ガイダンス資料について
- (5) カリキュラム改定について

令和6年2月16日（金）

- (1) 令和6年度 研究室配属について
- (2) 学則改正について（教育課程表を含む）
- (3) 進級基準、卒業要件について（新・旧カリキュラム）
- (4) 非常勤講師の委嘱について（新規・継続）
- (5) カリキュラム改定について

令和6年2月29日（木）

- (1) 1～3年次進級判定について
- (2) 4年次進級判定について
- (3) 5年次進級判定について
- (4) 研究室配属コース変更について
- (5) 6年次総合薬学コース2該当者について
- (6) 令和6年度非常勤講師の委嘱について（2回目）
- (7) 令和6年度科目の読み替えについて
- (8) 令和6年度研究員・研究生について
- (9) 令和6年度履修ガイダンスについて
- (10) 令和6年度 新入生ガイダンスについて
- (11) 令和6年度「リベラルアーツ／教養系教育」及び「人と文化」の科目について
- (12) 令和6年度ベストティーチャー賞の選出方法について
- (13) 後期科目未修得者について

活動概要・現状

本年度は年度開始時から授業形式を全面対面として教務上の多くの対応を新型コロナウイルス感染症の拡大前の状態に戻した。また、本年度も委員会内に以下のワーキンググループを設置し、様々な課題について検討・対応を行なった。

<令和5年度教務委員会ワーキング・グループ（WG）>

- ・WG1 カリキュラム改定
- ・WG2 GPA 見直し
- ・WG3 単位未修得者
- ・WG4 研究室配属・薬学研究
- ・WG5 履修・試験規程見直し
- ・WG6 成績評価適正化
- ・WG7 初年次教育・早期体験学習
- ・WG8 ヒューマニズム・コミュニケーション教育
- ・WG9 統合型学習

本年度はWG1を中心に令和6年度入学生から適用する薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）（以下、R4 コアカリ）に準拠したカリキュラムの改定を行なった。4月に全教員に対してカリキュラム改定のロードマップを示した後、5月にはディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）の見直しをテーマとしたFD研修会を開催し、R4 コアカリの内容や考え方について情報提供を行った上で教員から意見を聴取し、それらを参考に本学の新しいカリキュラムの基盤となるDP、CP及びDPルーブリックの叩き台を作成した。6～8月には、R4 コアカリの大項目B～Fの領域ごとに新カリキュラムに対する意見を聴取し、9月には新カリキュラムの叩き台（教務委員会案）を作成した。その後、領域ごとの検討や教授総会における審議を経て、2月に新カリキュラムの決定に至った。WG3では、昨年度末の進級査定では前年度に設定した特別進級は行わなかったものの、単位未修得者が未修得科目について学力を向上させて単位修得に至るよう、昨年度に引き続き対策を実施した。WG4では、4～6年次生の薬学研究と卒業論文発表会の企画・準備・実施、3年次生の研究室配属に関する諸作業を行なった。WG7では早期体験学習の、WG8ではヒューマニズム・コミュニケーション教育の実施内容と全体スケジュールの見直しを行なった。

また、本年度は大学基準協会による機関別認証評価および薬学教育評価機構による分野別評価の受審年度であり、本学の教育カリキュラムおよび学修成果に関する事項について対応を行なった。

自己点検・評価

令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、授業形式や座席配置をはじめ教務に関わる多くの事項についてスムーズに感染拡大前の状況に戻すことができた。一方で、感染拡大時に培ったICTに関するノウハウのうちガイダンス等におけるサテライト教室利用など、通常時でも役に立つものについては活用している。

カリキュラム改定については、R4 コアカリの公表から1年間の猶予しかなかったものの、DP、CPの見直しから始まり、R4 コアカリに準拠した新しいカリキュラムの構築まで進められたことは評価できる。また、これに関連して、FD 研修会や意見聴取の会、各種説明会等、コアカリの改訂内容やDP、CP および新しいカリキュラムに関する情報を教職員に共有しながら進めることができた。更に、カリキュラム改定の過程で教養教育や英語教育、早期体験学習、ヒューマニズム・コミュニケーション教育、薬物治療に関する教育等について改めて検討する機会が持てたことは意義があったと言える。

第三者評価機関による認証評価では、評価の過程で本学の教育カリキュラムおよび学修成果の可視化・評価に関する課題が浮かび上がったことから、今後これらへの対応を行なっていくことが必要である。

今後に向けて

令和6年度からしばらくは令和5年度までに入学した学生を対象とした旧カリキュラムと令和6年度以降の入学生を対象とした新カリキュラムを並行して運用されるため、新設科目や単位数などに変更のある科目の準備や再履修科目への対応などを行なっていく必要があり、WG1を中心にしっかりと対応していきたい。また、教育カリキュラムや学修成果に関して自己点検・評価の過程で挙げた課題や第三者評価機関による認証評価で指摘のあった事項に対して、本委員会内でグループを組みながら対応をしていく必要がある。

(3) 学生支援委員会

委員会の開催

(1)令和5年4月13日(木)

- 議 事
1. 学籍異動に関する件
 2. 特待生・優秀生に関する件
 3. 試験実施時における諸注意の見直しに関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. その他

(2)令和5年5月10日(水)

- 議 事
1. 幹事に関する件
 2. 学籍異動に関する件
 3. 令和5年度の取り組み案に関する件
 4. 試験実施時における諸注意の見直しに関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. 令和4年度後期アンケート結果報告
 5. その他

(3)令和5年6月14日(水)

- 議 事
1. アドバイザー変更に関する件
 2. 令和5年度の取り組みに関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. その他

(4)令和5年7月12日(水)

- 議 事
1. 障害を有する学生への配慮に関する件
 2. アドバイザー追加に関する件
 3. クラス担任による SNS 発信の提案に関する件
 4. 休学時の学生納付金に関する件
 5. やむを得ないと認める欠席事由に関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. 出席確認の実施結果報告
 5. その他

(5)令和5年9月13日(水)

- 議 事
1. 学籍異動に関する件
 2. やむを得ないと認める欠席事由に関する件
 3. 出席不正時における処分の明記に関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. 新型コロナウイルス感染症感染時の出欠の取り扱い(確認)
 5. 薬物乱用防止講座の開催予定
 6. その他

(6)令和5年9月15日(金)【メール委員会】

- 議 事
1. 出席停止時の欠席の扱いに関する件

(7)令和5年10月11日(水)

- 議 事
1. 学籍異動に関する件
 2. 高等教育の修学支援新制度利用学生への指導に関する件
 3. やむを得ないと認める欠席事由に関する件
 4. 出席不正時における処分の明記に関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. 体育祭・昭葉祭開催予告
 5. 前期末アンケート集計結果
 6. その他

(8)令和5年11月8日(水)

- 議 事
1. 学籍異動に関する件
 2. やむを得ないと認める欠席事由に関する件
 3. クラス担任に関する件
 4. 不正アクセス行為の禁止に関する件
 5. 出席不正時における処分の明記に関する件
- 報告事項
1. ここほっとルーム報告
 2. なるせ寮報告
 3. ピアサポート活動報告
 4. 体育祭・昭葉祭開催報告
 5. その他

(9)令和5年12月5日(火)

- 議 事
1. 学籍異動に関する件
 2. 部活動顧問への協力依頼に関する件

3. 出席不正時における処分の明記に関する件
- 報告事項 1. ここほっとルーム報告
2. なるせ寮報告
3. ピアサポート活動報告
4. 学生への禁煙周知報告
5. その他

(10)令和6年1月11日(木)【メール委員会】

- 報告事項 1. 出席不正時における処分の学生便覧への明記に関する件

(11)令和6年2月15日(木)

- 議 事 1. 令和5年度優等生の選考に関する件
2. 令和5年度演習試験優秀生の選考に関する件
- 報告事項 1. ここほっとルーム報告
2. なるせ寮報告
3. ピアサポート活動報告
4. 新学務システム教員向け説明会実施予定報告
5. D方式特待生導入に伴う規定改正報告
6. その他

(12)令和6年3月6日(水)

- 議 事 1. 学籍異動に関する件
2. 令和6年度クラス担任に関する件
3. 令和6年度アドバイザーに関する件
- 報告事項 1. ここほっとルーム報告
2. なるせ寮報告
3. ピアサポート活動報告
4. 卒業式、入学式、新入生ガイダンス報告
5. 要配慮学生再周知
6. 新アドバイザーへの申し送り書(3年→4年)の依頼
7. その他

(13)令和6年3月12日(火)【メール委員会】

- 議 事 1. 令和6年度クラス担任案の修正に関する件

令和5年度 優等生・優秀生・特待生

優等生(6年次) 10名

優秀賞(6年次) 10名

特待生(1～5年次)

- 1年次 8名
2年次 2名
3年次 2名
4年次 2名
5年次 2名

令和5年度 保健室行事日程

3月	
29日、30日	学生定期健康診断（2年次以上） 電離放射線健康診断
4月	
10日	検尿再検査（2年次以上）
～7日	血圧再検査（学生）
12日	学生相談（校医）
19日	学生相談（校医）
19日	検尿再検査（2年次以上）
22日	有機溶剤健康診断（1回目）
5月	
13日	学生定期健康診断（新入生・5年1期実務実習生） 電離放射線健康診断 抗体検査
16日～	健康診断結果配布（2年次以上）
10日	学生相談（校医）
17日	学生相談（校医）
23日	検尿再検査（新入生）
～26日	血圧再検査（学生）
6月	
2日	検尿再検査（新入生）
3日	職員定期健康診断
14日	学生相談（校医）
21日	学生相談（校医）
16日～	学生定期健康診断（新入生・5年1期実務実習生）結果配布
7月	
12日	学生相談（校医）
19日	学生相談（校医）
9月	
13日	学生相談（校医）
20日	学生相談（校医）
10月	
11日	学生相談（校医）
14日	有機溶剤健康診断（2回目）
18日	学生相談（校医）
11月	
15日	インフルエンザワクチン接種
8日	学生相談（校医）
17日	インフルエンザワクチン接種
15日	学生相談（校医）
12月	
13日	学生相談（校医）
13日	学生相談（校医）
1月	
10日	学生相談（校医）
17日	学生相談（校医）
13日	大学入学共通テスト1日目（校医）
14日	大学入学共通テスト2日目（校医）
2月	
3日	C方式入学試験（東京都予防医学協会医師）
4日	B方式入学試験（校医）
14日	学生相談（校医）

3月

6日 学生相談（校医）

13日 学生相談（校医）

令和5年度 学生定期健康診断のまとめ

受診者数と受診率

学 年	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	計	学部のみ計
在籍者数（人）	258	277	281	238	217	232	21	1,524	1,503
受診者数（人）	250	269	273	238	215	226	20	1,491	1,471
未受診者数（人）	8	8	8	0	2	6	1	33	32
受診率（%）	96.9	97.1	97.2	100.0	99.1	97.4	95.2	97.6	97.9

※未受診者数には休学者含む

定期健康診断受診率の推移（過去10年）

年度 学年	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1年次	98.2	98.6	98.8	97.2	98.1	98.0	95.6	97.3	97.3	96.9
2年次	97.6	97.6	96.6	97.1	98.9	93.7	91	97.8	98	97.1
3年次	99.3	99.2	98.4	95.2	92.0	96.5	91.2	93.1	98.1	97.2
4年次	99.0	99.2	99.5	99.1	97.7	99.6	99.2	99.6	99.1	100
5年次	99.6	99.5	99.2	99.5	99.6	99.6	98.7	99.6	99.1	99.1
6年次	98.1	99.6	99.1	99.3	99.6	100	92	95.4	100	97.4
大学院	100.0	93.3	100.0	92.9	94.1	69.2	72.2	81.3	81.3	95.2
平均（%）	98.6	98.9	98.5	97.8	97.1	93.8	91.4	94.9	96.1	97.6

令和5年度 奨学金関連

日本学生支援機構奨学金（令和5年度採用者）

（単位：人）

		出願数	採用数	備 考
第一種	大学院博士課程			
	全学年	0	0	
	大学院修士課程			
	全学年	0	0	
	学 部			
	1年次	30	28	予約採用含む
	2年次以上	4	3	
	緊 急	0	0	
第二種	大学院博士課程			
	全学年	0	0	
	大学院修士課程			
	全学年	0	0	
	学 部			
	1年次	41	40	予約採用含む
	2年次以上	11	11	
	応 急	0	0	
給付奨学金		23	18	新入生17名 2年以上1名
家計急変		0	0	
計		109	100	

※「緊急」は第一種、「応急」は第二種、「家計急変」は給付型の臨時採用

日本学生支援機構 令和5年度採用者貸与月額

区 分	第一種（無利子） 単位：円	第二種（有利子）	
		基本月額	薬学系増額
学 部	自 宅	54,000 2万～5万円（1万円単位）から選択	2万～12万円（1万円単位）から選択 12万円を選択した場合2万円の増額ができる。
	自宅外	64,000	
	大学院 修士課程	50,000 または 88,000	
博士課程	80,000 または 122,000		

柴田奨学基金（令和5年度採用者）

（単位：人）		出願数	採用数	貸与月額	貸与方法
第一種	大学院博士課程	0	0	57,000円	3月・8月を除く10ヶ月分貸与する。
	大学院修士課程	0	0	57,000円	〃
	学部 1年次	0	0	35,000円	〃
	2年次以上	0	0	35,000円	〃
第二種（5年次後期以上）		0	0	年額50万円以内	授業料ほか納付金に充当
第三種（4年次以上）		2	2	年間1回の納付金以内	〃

ここほっとルーム令和5年度の活動の流れ

表1 ここほっとルーム令和5年度の活動の流れ

4月	1年生に対する心身健康調査 (UPI)
5月～7月	UPI 結果返却 UPI 面接 (優先面接対象者) ここほっと NEWS 第1号発行 「スタッフの自己紹介、カウンセリングとは」
8月	夏休み
9月～12月	UPI 面接 (後期面接対象者) 2年生フォローアップ「お元気ですかメール」 ここほっと NEWS 第2号発行「推し活、してますか？」
1月～2月	年度振り返り、及びまとめ作業
3月	学内カンファレンス

表2 各月の利用者推移 (前年度と比較)

	年間相談数		新規相談数		当年度初来相談数		継続相談数	
	R5年	R4年	R5年	R4年	R5年	R4年	R5年	R4年
4月	54	28	7	5	16	11	31	12
5月	56	33	19	10	2	5	35	18
6月	67	61	28	27	1	1	38	33
7月	48	46	8	14	5	3	35	29
8月	17	30	2	2	1	1	14	27
9月	47	22	17	2	0	2	30	18
10月	46	34	21	4	2	1	23	29
11月	51	27	17	1	0	4	34	22
12月	42	28	13	1	1	1	28	26
1月	31	25	2	0	2	2	27	23
2月	26	16	0	1	0	0	26	15
3月	17	26	0	1	1	2	16	23
合計	502	376	134	68	31	33	337	275

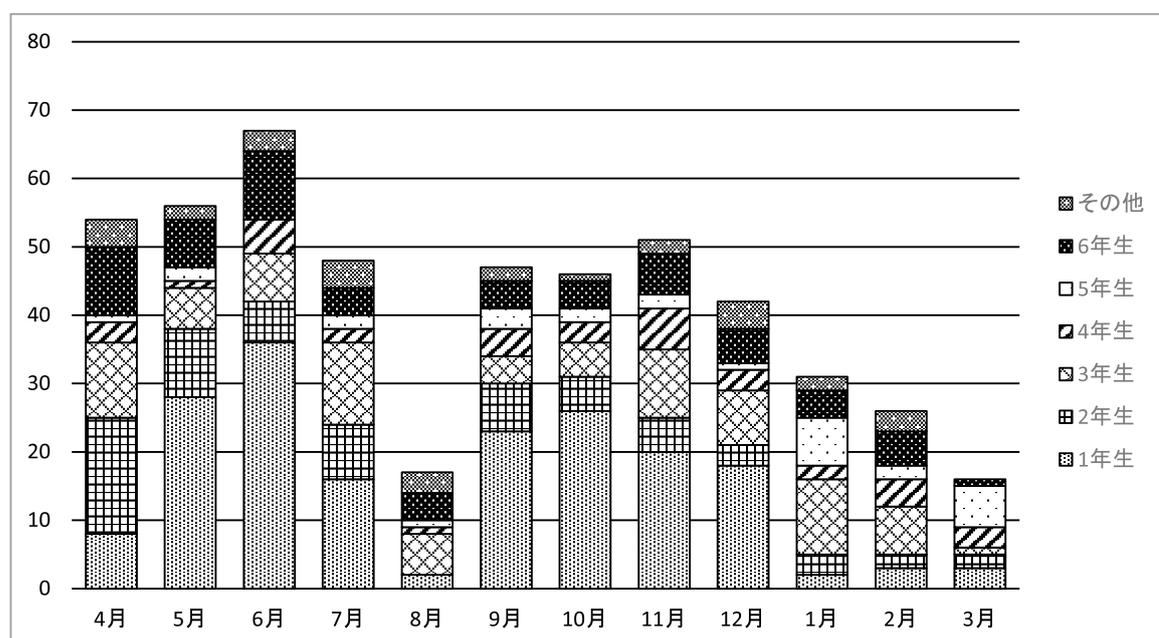


図1 月別・学年別の利用者推移

令和5年度 体育系クラブ活動 主な成績

バドミントン部	春季関東薬学連盟バドミントンリーグ 出場 秋季関東薬学連盟バドミントンリーグ 出場
バレーボール部	春季関東医歯薬男子バレーボールリーグ5部 4位 秋季関東医歯薬男子バレーボールリーグ5部 3位
バスケットボール部	東日本薬学生バスケットボール選手権春季大会 ベスト8 東日本薬学生バスケットボール選手権秋季大会 ベスト8
硬式テニス部	令和5年度東日本薬科大学硬式庭球連盟 個人 ベスト4
卓球部	東日本医歯薬卓球大会 シングルス ベスト32
空手道部	東日本薬学系大学空手道選手権大会 出場
剣道部	第63回 春季 関東医歯薬獣医科大学剣道大会 出場 第65回町田市市民体育祭剣道大会 出場 第64回 秋季 関東医歯薬獣医科大学剣道大会 出場

活動概要・現状

1. ピアサポーター支援活動

昨年度より始まったピアサポーター活動の支援を学生支援委員会で行った。ピアサポーターとして前期後期でのべ80名以上の参加者が在籍し、様々な活動を行った。以下に1年間のピアサポーター活動を報告する。

4月：入学式と新入生ガイダンスの補助業務、キックオフミーティング

4-5月：留年次支援活動

5-6月：中間試験対策、オープンキャンパス補助

7月：定期試験対策、オープンキャンパス補助

8月：追再試験対策、オープンキャンパス補助、食堂・売店との意見交換会

後期：地域連携活動支援

10月-11月：中間試験対策、オープンキャンパス補助

12月-1月：定期試験対策

2月：追再試験対策

3月：卒業記念冊子配布補助

その他、学事における支援活動も行った。

2. 薬物・スモークフリーキャンパスに向けた啓蒙活動

12月より様々な違法薬物の法改正が行われることに合わせて、啓蒙活動を行った。11月に1年次と4年次を対象とし、警視庁から違法薬物専門家を招き、薬物使用しないように講演を行っていただいた。加えて学生支援委員会から、全ての学生に対して対面で薬物・スモークフリーキャンパスに向けたガイダンスを実施した。

3. 部活動支援

新型コロナウイルスが5類になったことにあわせて、本格的な部活動が始まった。コロナ禍で失われた継続性を確保するために、部長会を複数回(3回)開催し多くの学生の意見を取り入れ、支援活動の充実化を目指した。特に、社会的なコンプライアンスにも対応できる組織として活動内容の再確認を行った。

4. 学生申し送り書

全ての学生が継続性を持って充実した学生生活を送られるように、アドバイザー(助言教員)が変更になるときに、旧アドバイザーから新アドバイザーへ向けて申し送り書の作成を行うとともに、特別な配慮を必要とする学生に対する伝達のためのスキームを構築した。

5. 不正行為に対する対応

医療人育成を目的としている本学において、ガイダンスなどを通じた啓蒙活動によって不正行為防止を呼び掛けた。

自己点検・評価

ピアサポーター活動2年目を迎え前年度よりも多くの参加者と充実した内容で、活動できた点は評価できる。特に1-6年次全ての学年でピアサポーターが所属していた初めての年であった。ピアサポーターの認知度が高まった反面、目立つ活動を敬遠する学生がいることを聞いている。SNSの活用など時代に合わせた臨機応変な取り組みにより、継続的な活動を目指していきたい。対面に加えてオンラインでの活動を支援するためのピアサポーター専用のPCを購入し、充実した活動を目指した取り組みの支援を行った。

警視庁から招いた薬物銃器対策課の警察官による違法薬物使用に関する講演会を実施できた点は評価できる。会場の都合により1年次と4年次を対象としていたが、今後さらに拡大した規模での活動が望まれる。薬物使用のないスモークフリーキャンパスを目指した取り組みについては、全ての学生に対して学生支援委員会による対面のガイダンスによる啓蒙活動が実施できた点は評価できる。

部活動支援については、高い頻度での部長会を通して活動支援のための援助金支給の仕組みを整えた点は評価できる。

今後に向けて

2024年度はピアサポーター3年目の活動となるが、今後永続的な活動のためには、活動内容の見直しやより活動内容の充実が求められる。2023年度はとても大事な1年間となると思われる。ピアサポーターが充実した活動を行えるように学生支援から手厚い支援を行っていきたい。

若い世代が違法薬物に手を染めやすい環境にいることは周知の事実である。したがって継続的な啓蒙活動が必要であり実施していきたい。2023年度は警視庁から薬物銃器対策課の警察官に講演いただき好評であり、このような外部からの講演者による啓蒙活動に加え学内の教員による活動も充実させていきたい。

多くの部活動に参加している学生が多いことは、本学学生の特徴の一つであるが、コロナ禍によって活動の縮小が余儀なくされた。よって、コロナ禍以前のような活動ができるように継続的に支援を続けていきたい。昨年度一昨年度実施した頻度の高い部長会などの対面での会合は、コミュニケーションがとれ、支援のための方策として評価できる。2024年度も同様な活動を行っていきたい。

教員の業務多忙化や学生の間隔が少ない講義の影響などによって、教員と学生とのコミュニケーションが取りづらい状況にある。多くの場合、学生が充実した学生生活を過ごすには教員とのコミュニケーションが欠かせない。学生とのコミュニケーションの重要性を丁寧に説明していきたい。



2023前期学生生活アンケート結果

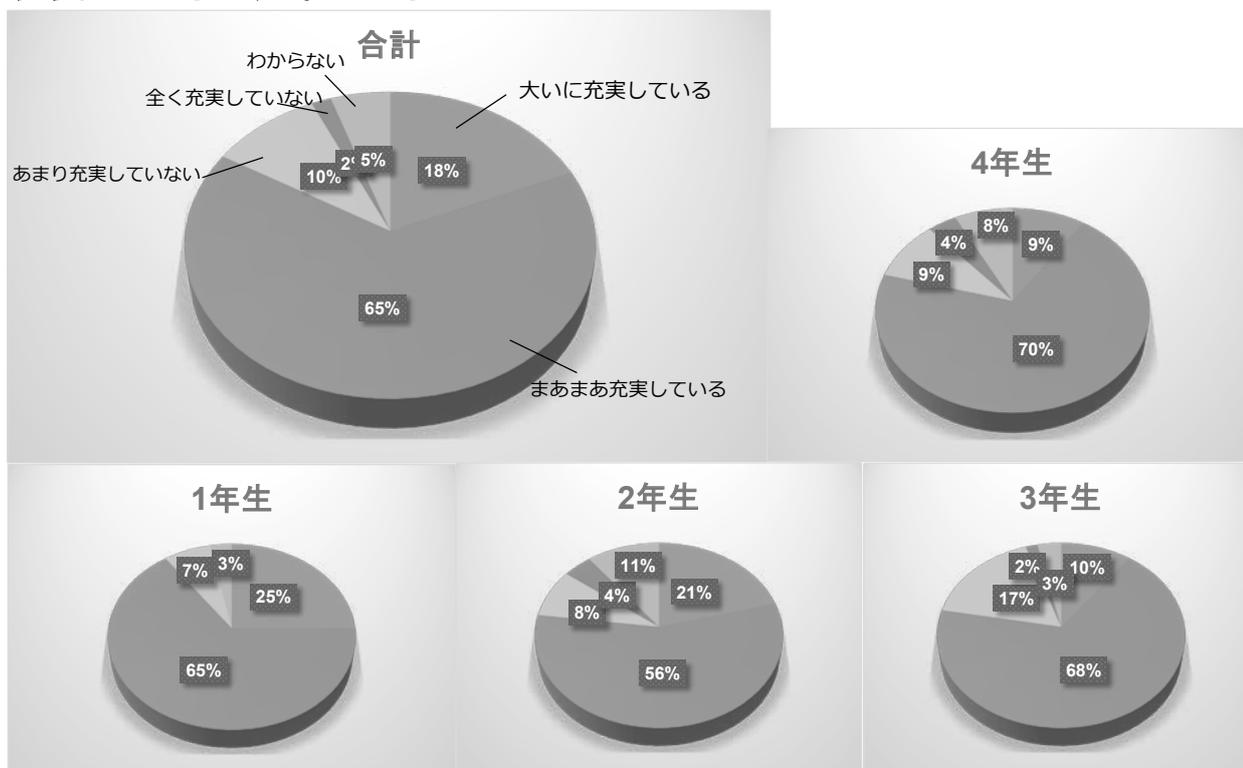


2023前期学生生活 アンケート回答者数

学年	1学年	2学年	3学年	4学年	合計
回答者数	132	49	59	53	293
学生数	258	277	281	238	1054
回答割合	51.2%	17.7%	21.0%	22.3%	27.8%

Q1 大学生生活を充実して過ごしていますか？

1大いに充実している、2まあまあ充実している、3あまり充実していない、4全く充実していない、5わからない



Q2 大学生生活で充実していると感じることを教えてください。

- 今まで関わってこなかった友達と話す機会が増えた。
- 部活動も再開でき活動的になり、友人と距離を取らなくてもお話しして良いとなって嬉しいから。
- 全講義対面となり、友人と会う機会が増えた。
- また、去年よりも制限なく昭薬祭が行えて嬉しい。
- 大学に来て勉強ができて午後は研究室で研究ができるという生活はとても充実していると感じました。
- 友達と授業の内容を教えあったり学食を食べたりすると大学生活が楽しいと感じる。

など計82件

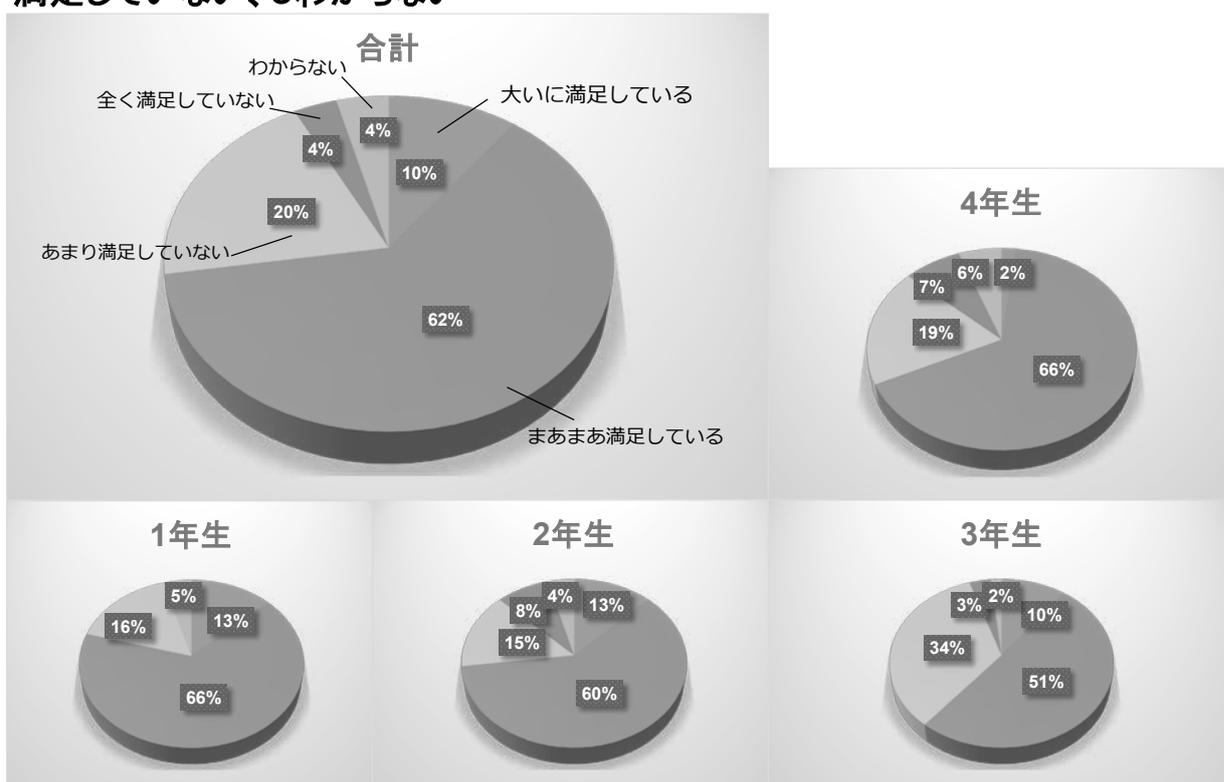
Q3 大学生活で充実していないと感じることを教えてください。

- プリントを用意するとかしないのかをマナバに書いてくださらない先生が多いこと。
- 試験の辛さが学年が上がる毎に増していて、負担が尋常じゃない。
- 他クラスや他学年との交流があまりないこと。
- 学校内でスマホが圏外になってしまうこと。
- 学校の空調管理

など計44件

Q4 修学面(自身の学びの到達度)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q5 修学面(自身の学びの到達度)について満足していると感じることを教えてください

- 授業に集中できるようになった分、試験勉強が少し楽になった。
- テストで良い点数が取るために勉強して、ある程度はその努力が報われたから。
- テストに合格するための知識は身に付いている。
- 自分の目標を少し高めに設定したが、目標を超えることができたこと。
- 高校の頃よりやる気があること。

など計55件

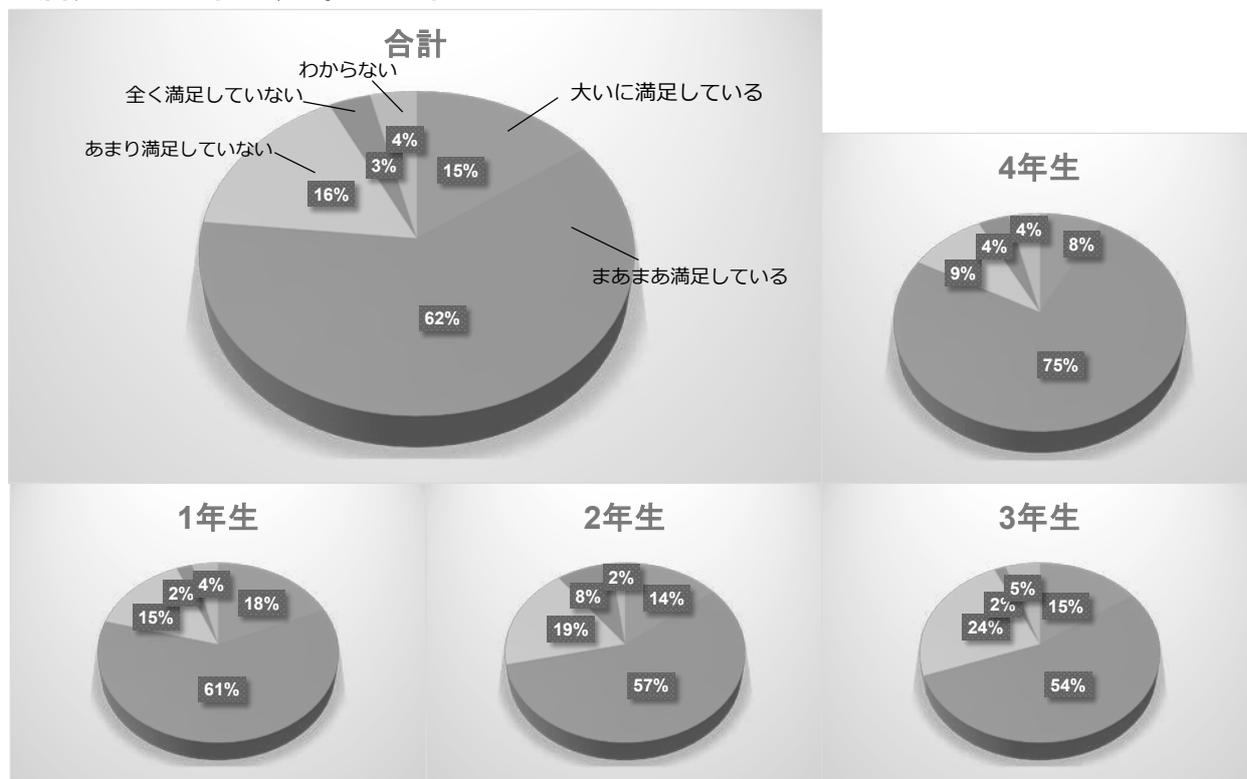
Q6 修学面(自身の学びの到達度)について満足していないと感じることを教えてください。

- 各教科によってサポートに差があるように感じた。
- 自学自習の時間がもう少し必要だったと思うこと。
- 試験範囲や過去問をアップロードするのが遅いと思います。
- 自分の苦手科目を克服しようとしたが、まだ克服できていなかったこと。
- 4年生になり、3年のときほど自分の時間が取れなくなったので勉強時間が減ってしまったこと。

など計46件

Q7 修学面(学習環境)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q8 修学面(学習環境)について満足していると感じることを教えてください。

- eラーニングがある。
- ビジュランを使って勉強する機会が今期多く、大変理解しやすかった。
- 後から講義を見直すことができ、復習の環境が良い。
- 自習できる場所がたくさんあり、集中して取り組むことができること。
- zoomより対面で先生がいた方がサボらずに集中して授業を聞くことができたこと。

など計63件

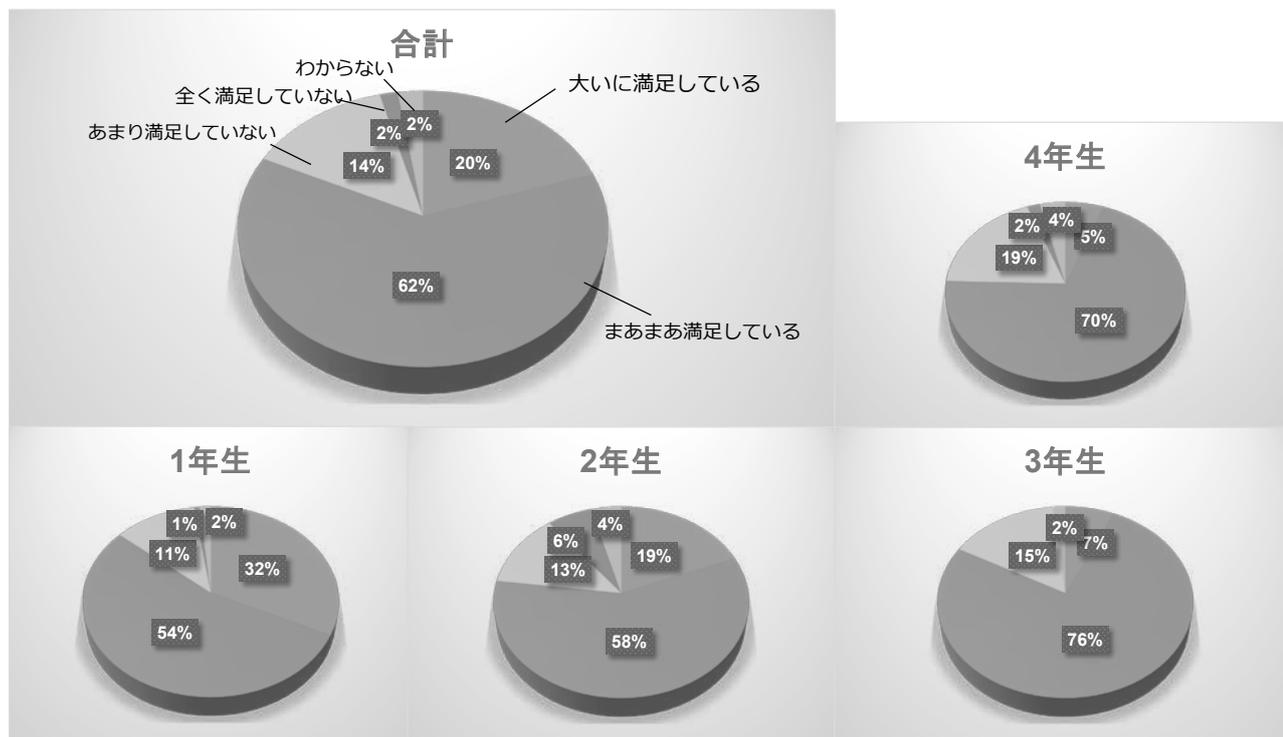
Q9 修学面(学習環境)について満足していないと感じることを教えてください。

- 冷房が効きすぎている。調整ができないのがつらい。
- 月ごとに変わるが、指定席のため、席移動が出来ない。
- デジタルで提出物を出す時に、送信しても反映されていない時がある。
- 先生が注意したのにも関わらず、喋り続ける人がいたのが気になった。
- 第一講義棟の教室の椅子が座りづらくて長時間座っていると腰やお尻が痛くなるのが身体に負担なので、改良していただけたらありがたいなと思います。

など計60件

Q10 生活面(安全安心に過ごせる環境、売店、食堂など)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q11 生活面(安全安心に過ごせる環境、売店、食堂など)について満足していると感じることを教えてください。

- 食堂のメニューがおいしいこと。
- 施設が清潔に保たれている、食堂の前半後半に利用時間を分けるシステムが良い。
- 学食のメニューがmanaba上で事前に確認することができる。
- 売店の会社が変わって品揃えが良くなったのでよかったです。
- たまにキッチンカーがくるのも楽しみがあってうれしいです。
- 必要なものは基本的には揃っていると思う。

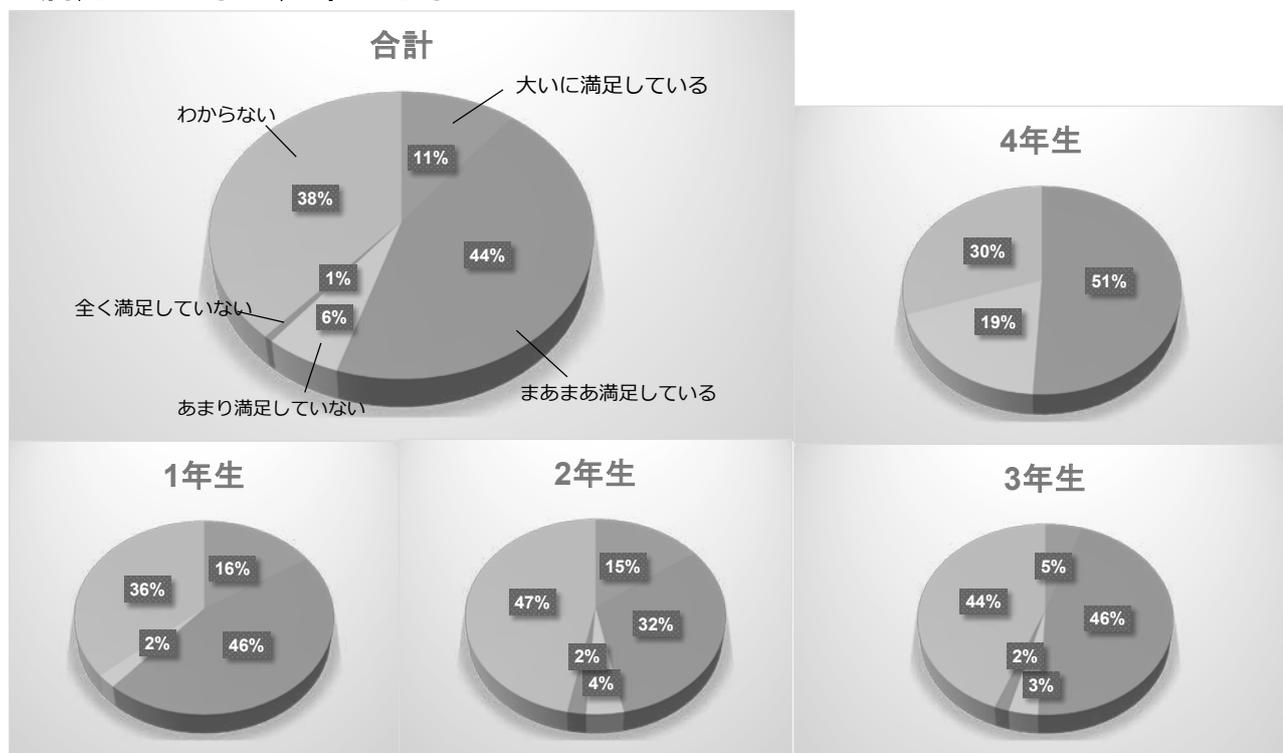
など計53件

Q12 生活面(安全安心に過ごせる環境、売店、食堂など)について満足していないと感じることを教えてください。

- 食品のラインナップが変わらない。食堂の質が下がった。
- もう少し売店の開店時間を伸ばして欲しい。
- 売店の商品の値段が学外のコンビニやスーパーよりも高い気がする。
- 空調設備がよくない(効きの調節があまりできてないように感じる)。

など計50件

Q13 進路支援(就職、進学、ガイダンス、キャリアサポートステーションなど)について満足度を教えてください。
 1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q14 進路支援(就職、進学、ガイダンス、キャリアサポートステーションなど)について満足していると感じることを教えてください。

- アドバイザーの先生は親身になって指導してくれる。
- いろいろな情報を聞く環境にある。
- 就職に関して外部の就活に詳しい企業の人を呼んだりしてお話をきかせていただけるのはありがたいなと思います。
- 進路についてのガイダンスがある。
- 薬剤師の仕事について知れること。

など計11件

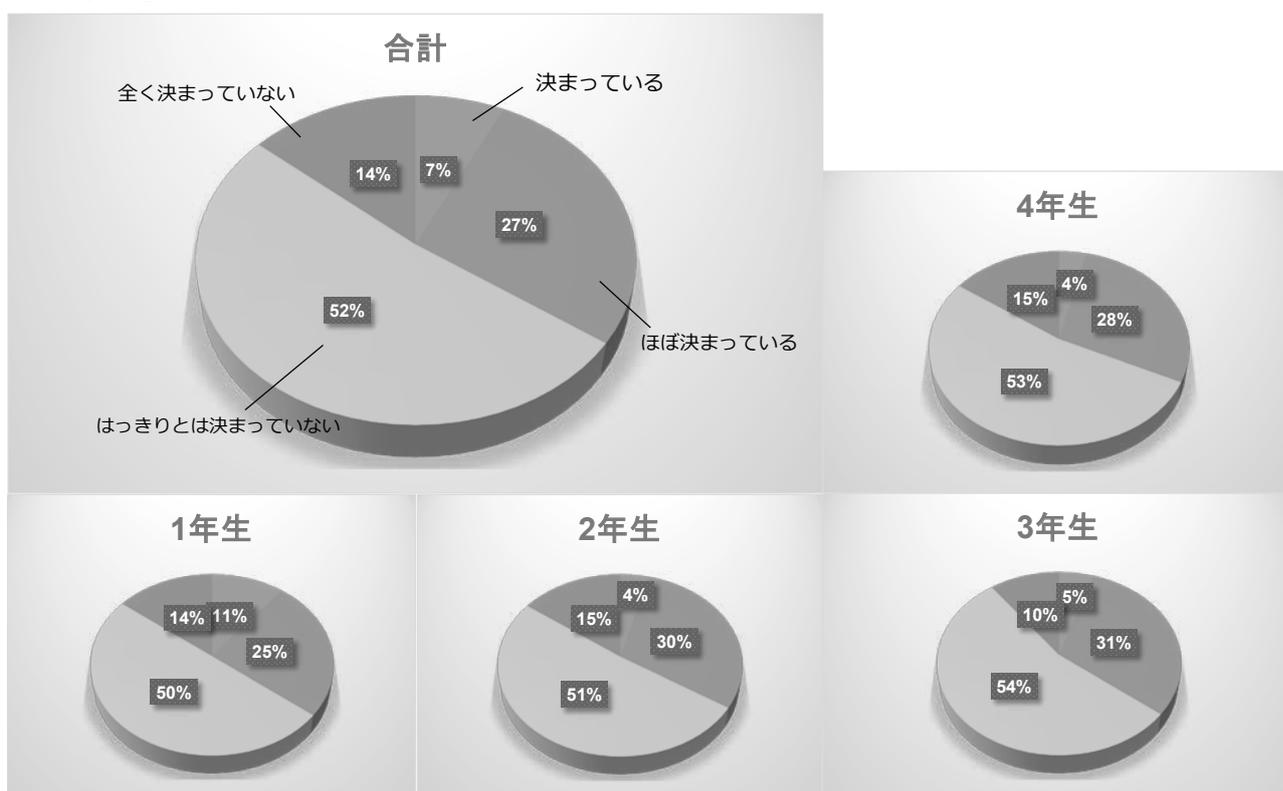
Q15 進路支援(就職、進学、ガイダンス、キャリアサポートステーションなど)について満足していないと感じることを教えてください。

- キャリアの相談をどこにしていかわからない。
- 自分の時間と合わない。
- 4年生よりもっと低学年のうちから具体的に教えていただけたらスムーズにCBT対策や就活に取り掛かれたのになと思いました。
- ガイダンスをわざわざ対面でやる理由がわからない。また、ガイダンスの開催時間の連絡が遅い。

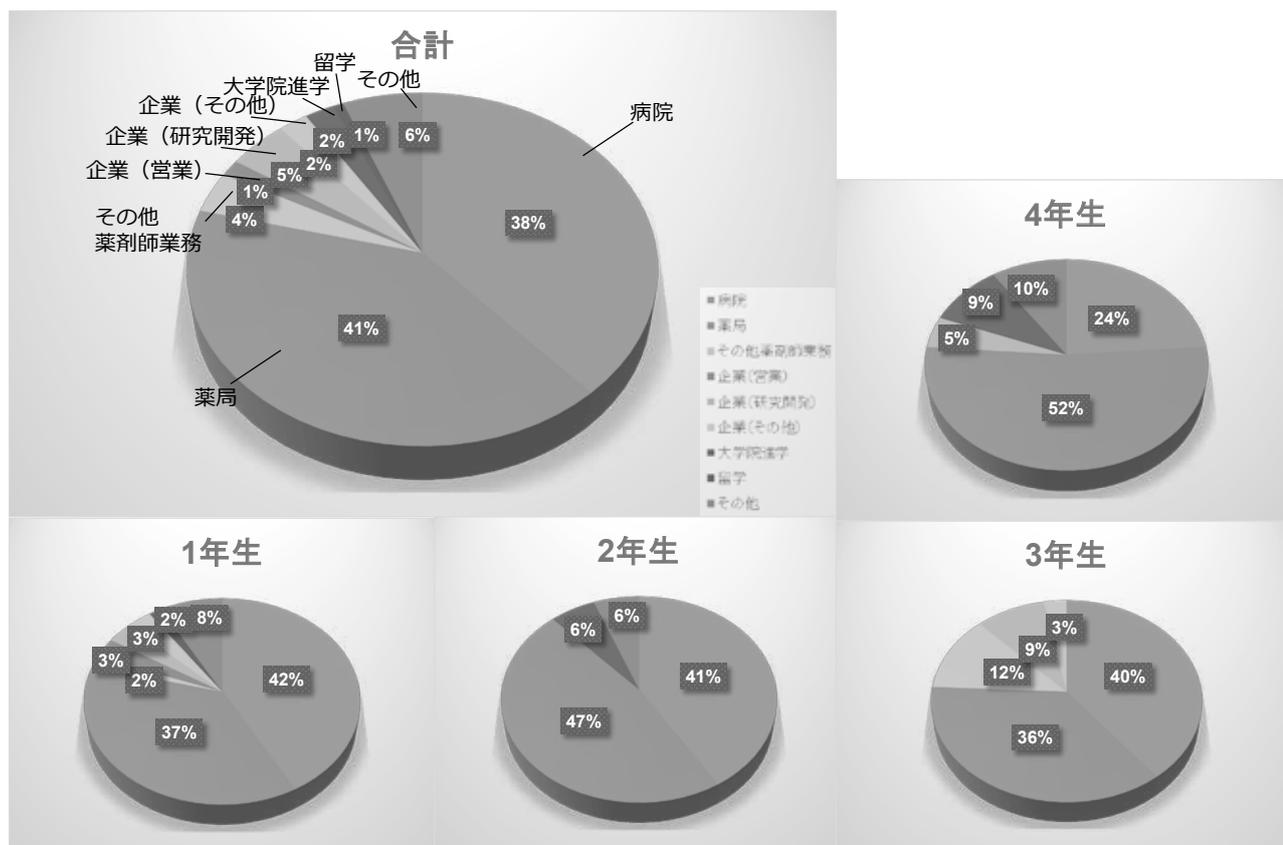
など計11件

Q16 自身の卒業後の進路について教えてください。

1 決まっている、2 ほぼ決まっている、3 はっきりとは決まっていない、4 全く決まっていない

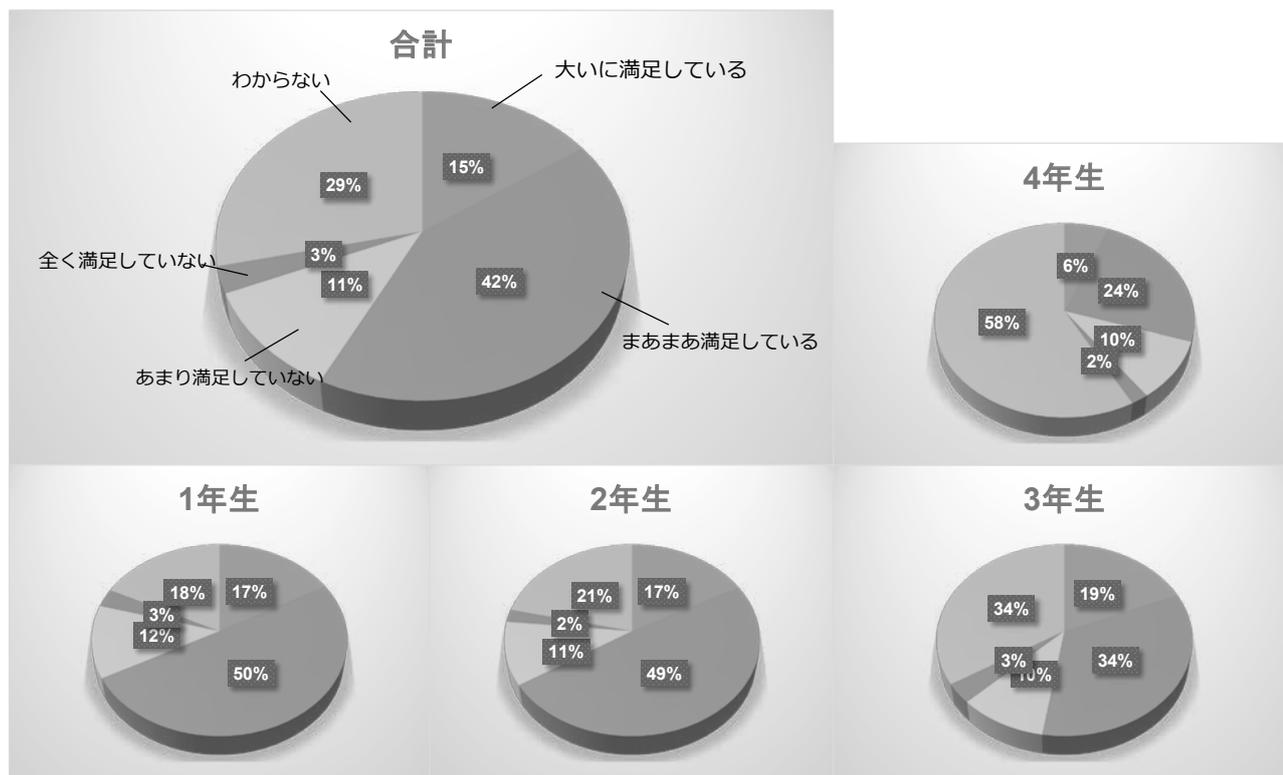


Q17 決まっている人にお聞きします。どの職種を希望していますか。



Q18 部活動などについて満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q19 部活動などについて満足していると感じることを教えてください。

- 学年を越えて仲良くできるし、合宿を行うことが出来たから。
- 実行委員会に所属しているが、本腰を入れるのはこれからなので、頑張りたい。
- 勉強やバイト等で忙しいというのをわかったうえで活動しているので、部活が負担だと思ったことがない。勉強の息抜きになる。
- 軽音部に所属しているが、先輩が新入生歓迎会をひらいてくださったり、文化祭で発表する前に初顔合わせライブを開催してくださったのでよかった。
- 昨年よりも規制が緩和されたので部活動をしやすくなったと思います。

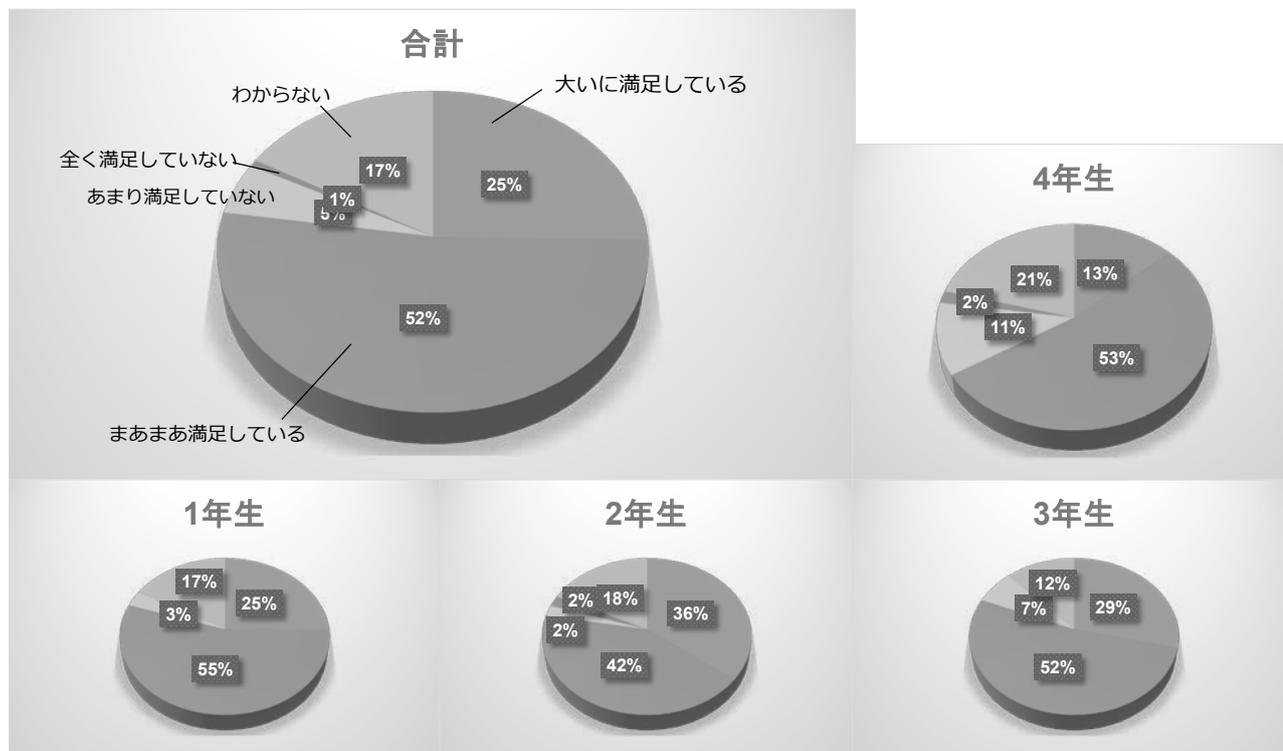
など計31件

Q20 部活動などについて満足していないと感じることを教えてください。

- 部室で過ごすときWi-Fiが繋がらない。
- 学年が違う事で時間を合わせ辛く、縦のつながりの企画をしづらい事たまにしか活動ができない。
- 昭葉祭についての連絡が毎回遅いので学生に参加させる気があるのか疑問を感じます。

など計20件

Q21 健康面のサポート(保健室、予防接種、健康診断、心身健康相談)について満足度を教えてください。
 1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q22 健康面のサポート(保健室、予防接種、健康診断、心身健康相談)について満足していると感じることを教えてください。

- 健康診断や保健室の対応が優れていること。
- 年に1回の健康診断が設けられていることで、生活習慣の見直しに繋がる。
- 定期的な健康診断やコロナのワクチン接種の機会があったのは嬉しかった。
- まだ利用したことはないが、ここほっとルームなど相談できる場があることで安心して大学生活を送ることができると思う。
- 予防接種で自分の抗体がどれくらいあって何が不足しているのかが分かったので、よかった。

など計21件

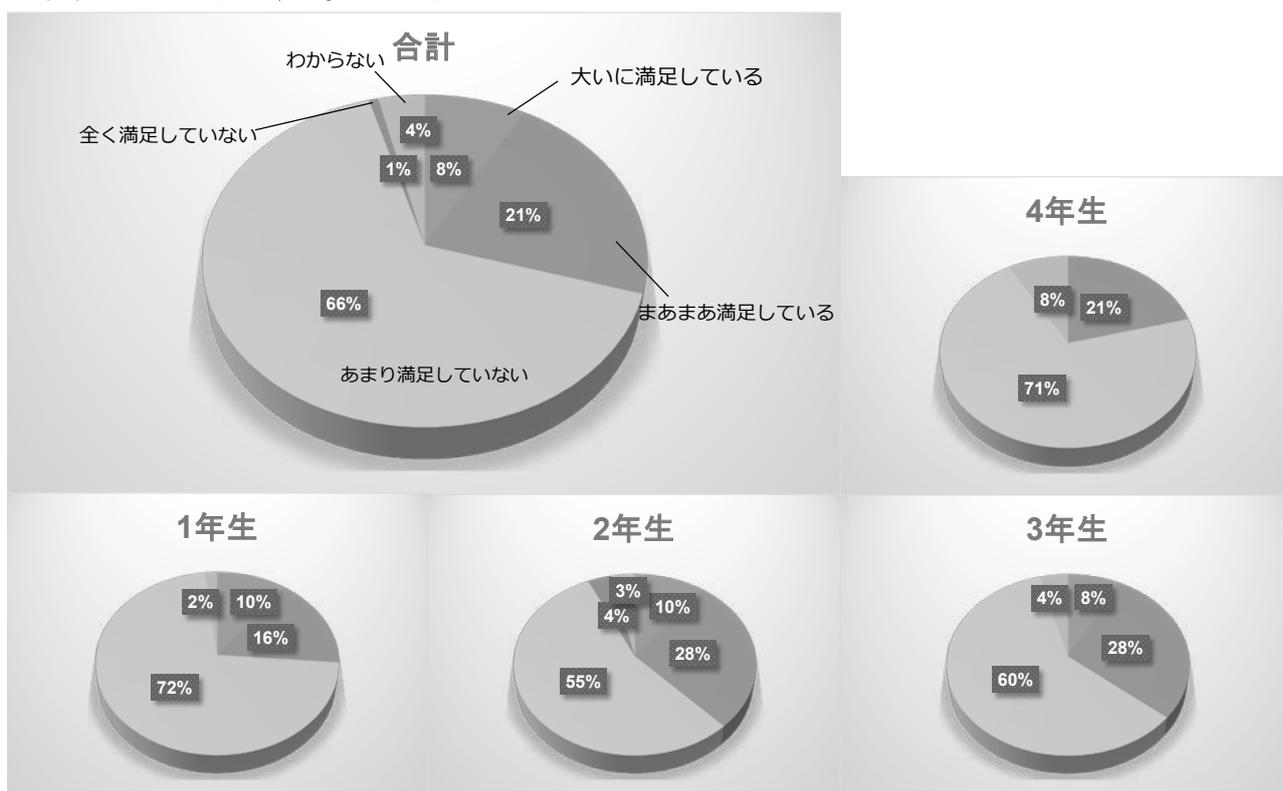
Q23 健康面のサポート(保健室、予防接種、健康診断、心身健康相談)について満足していないと感じることを教えてください。

- ・ 試験のストレスで禿げそう。
- ・ 保健室のベッドが少ない。
- ・ 健康診断の結果が返却されてから予防接種の提出期限が短いこと。
- ・ 心身健康相談に行ったが予約が埋まっていて利用できなかった。

など計14件

Q24 オフィスアワーについて満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q25 オフィスアワーについて満足していると感じることを教えてください。

- 先生がいつ在室しているか分かるため、質問しやすかった。
- 訪問しやすい。

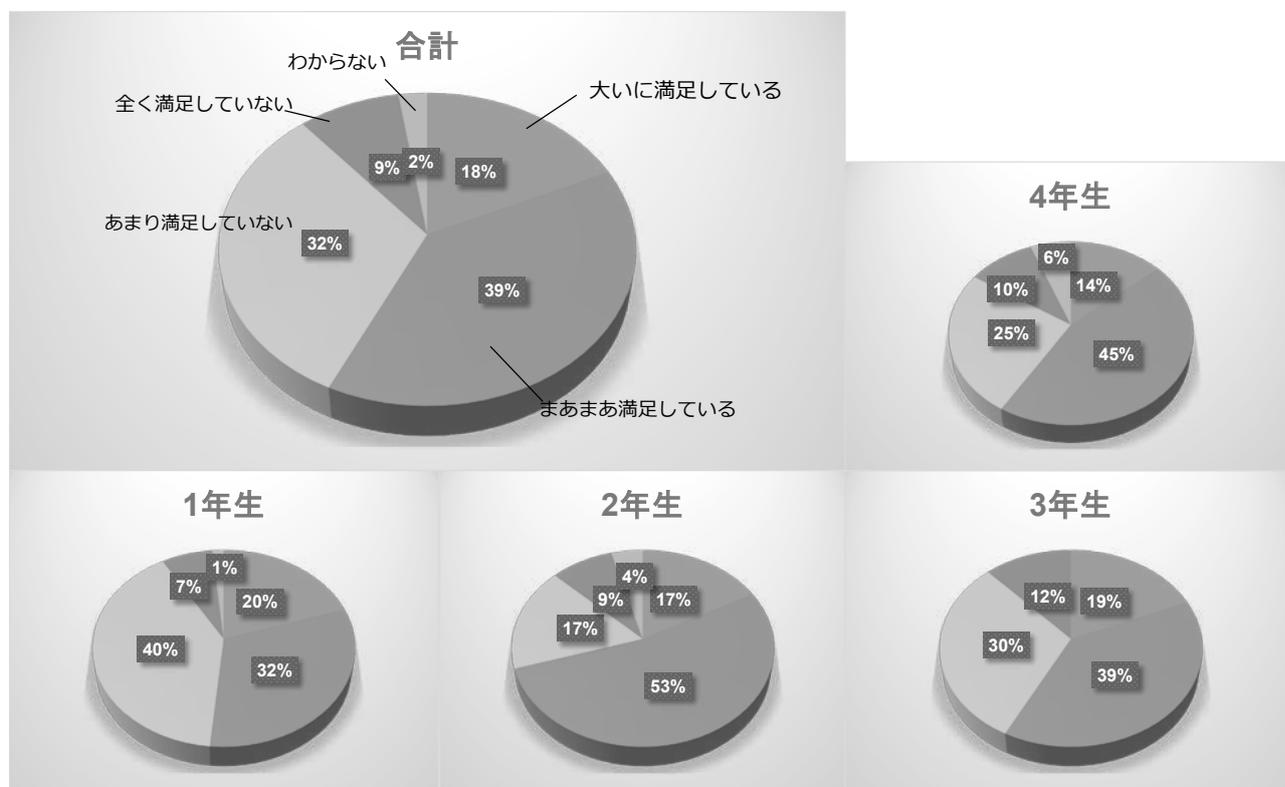
など計2件

Q26 オフィスアワーについて満足していないと感じることを教えてください。

- 意見なし
- オフィスアワーの存在を知らない。
- 使用したことがない といった内容はある

Q27 アドバイザー制度について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3あまり満足していない、4全く満足していない、5わからない



Q28 アドバイザー制度について満足していると感じることを教えてください。

- いざというときにアドバイザーの元へ行こうと思えるから。
- 勉強に関してのアドバイスをいただける。
- 研究室の事を質問できたり、アド会で今まで知らなかった人と会えたらする事。
- 知り合いが増えたところ。
- 特に研究室配属前は、大学の先生で科目ごとでなく学生ごとに面倒を見てくれる立場の人はアドバイザーの先生しかいないので、かかりつけ薬剤師みたいな感じで貴重な存在だと感じます。

など計27件

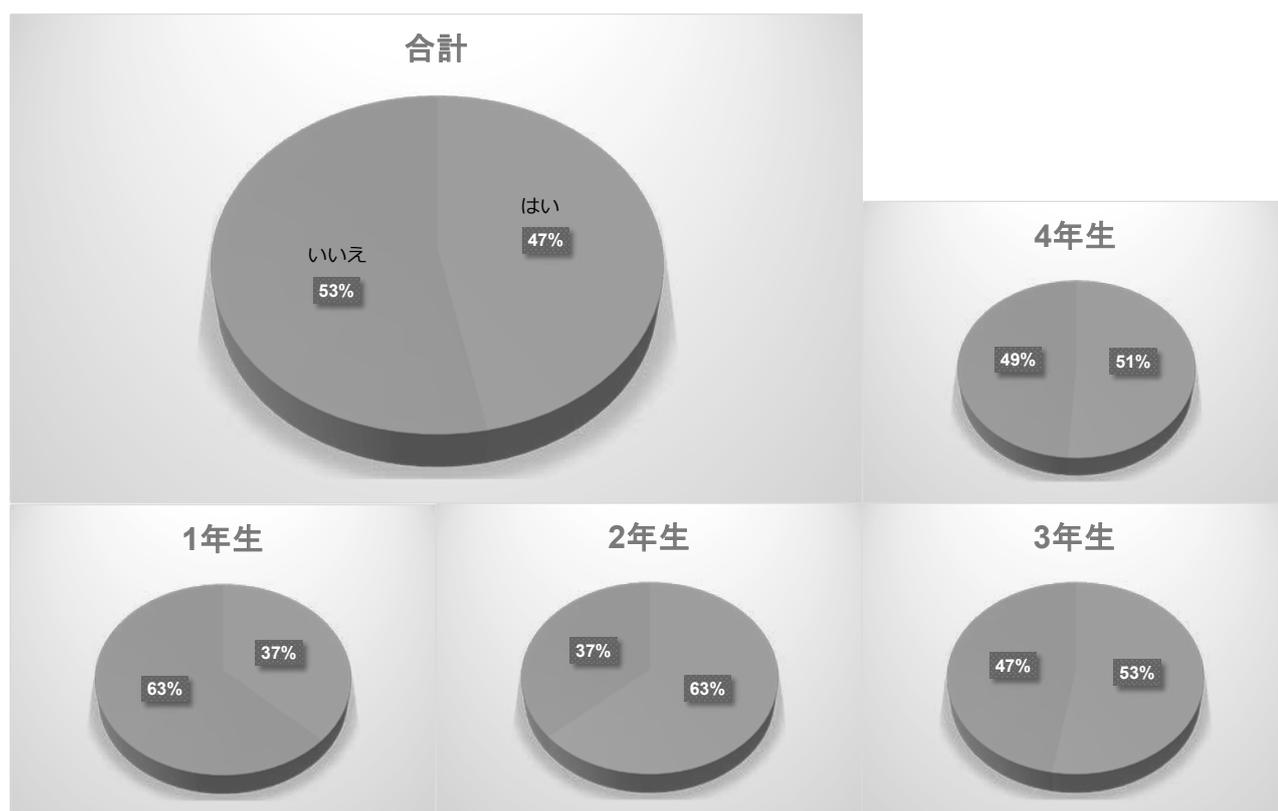
Q29 アドバイザー制度について満足していないと感じることを教えてください。

- あまり機能していません。
- アド会をもっと増やして欲しいのと、アドバイザーともっと仲良くなりたい。
- もう少しアド会の頻度を増やしてほしい。
- CBTの結果をできればわざわざ研究室に確認ではなく最初に点数だけでも個人に通知してほしい。
- 集まりも無く、面談も無いため、この制度がよく分からない。

など計24件

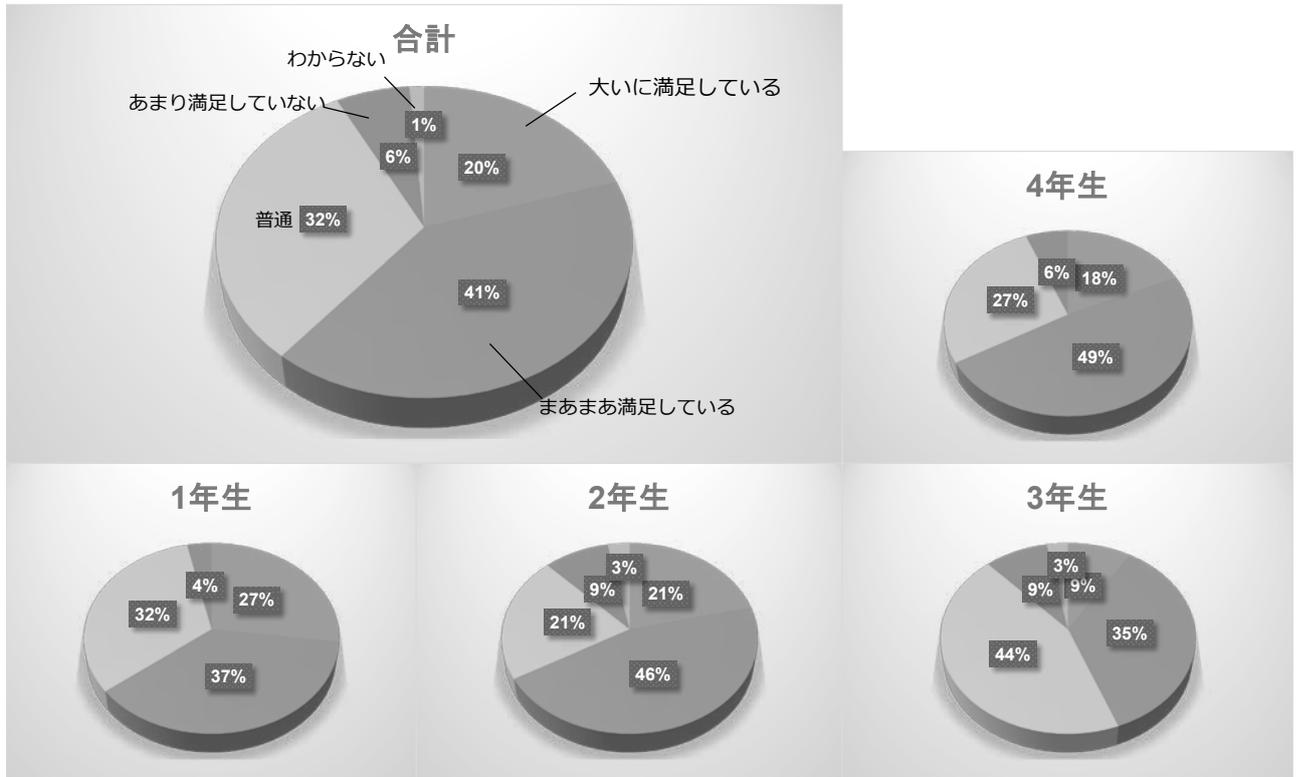
Q30 アドバイザー会を実施しましたか。

1 はい、2 いいえ



Q31 アドバイザー会への満足度を教えてください。

1. 大いに満足している、2. まあまあ満足している、3. 普通、4. あまり満足していない、5. 全く満足していない



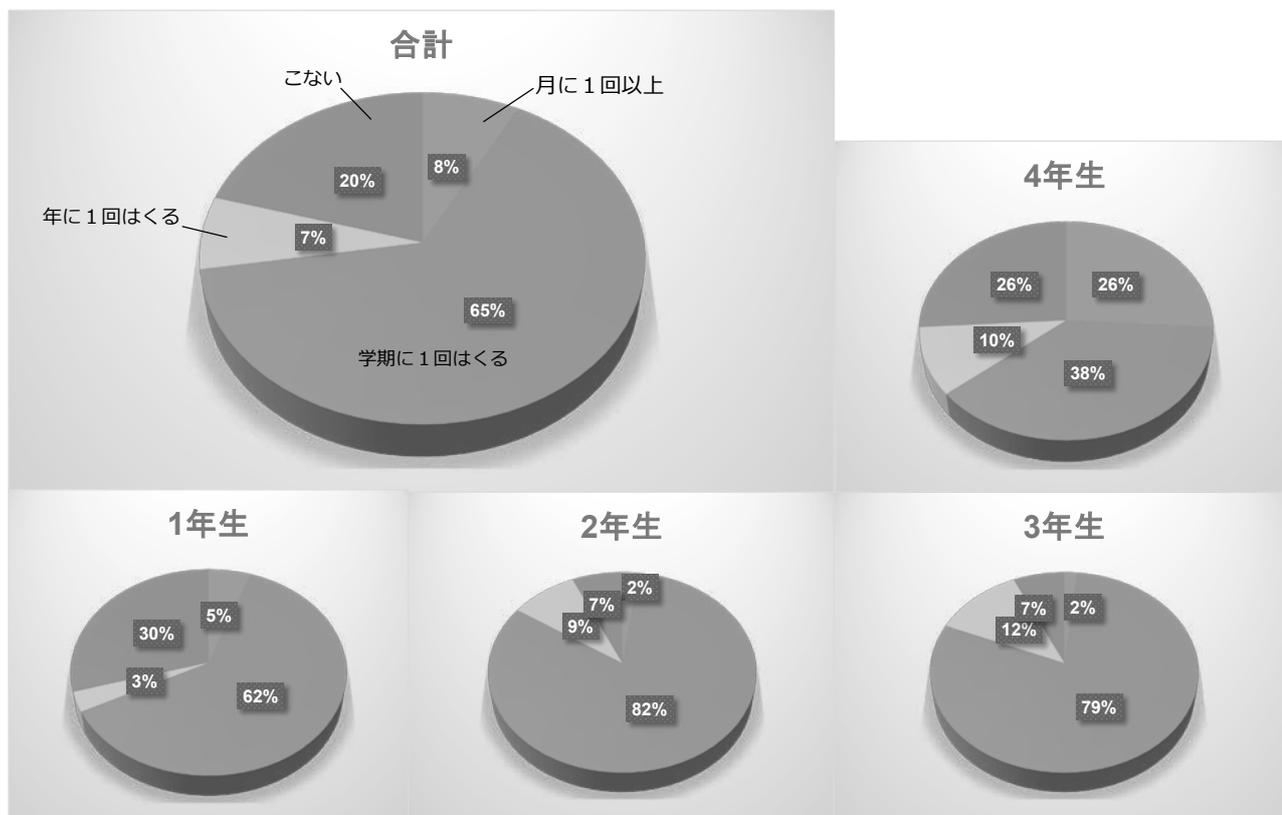
Q32 アドバイザー会について、ご意見があればお願いします。

- 20歳以上でもアド会では飲酒を伴わない会にしてほしい。
- アドバイザー会に参加出来なかった時の対応をして欲しい。
- 大学の売りにしてる割に存在が薄い。
- 下級生と合同にするのは、下級生的には良いのかもしれませんが、自分的にはあまり嬉しくなかったです。
- 美味しいものを食べながら先輩たちと交流出来て楽しかったです。

など計12件

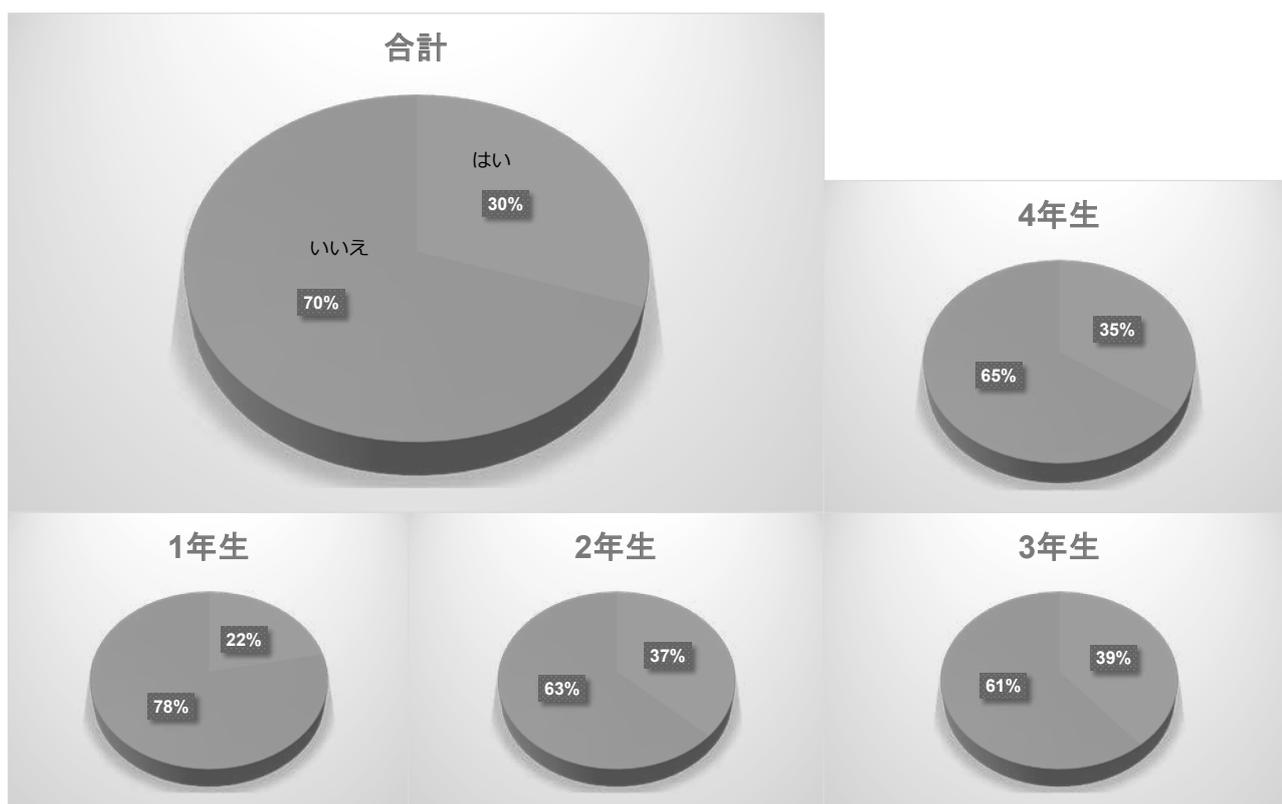
Q33 アドバイザーからは適宜連絡が来ますか。

1 月に1回以上、2 学期に1回はくる、3 年に1回はくる、4 こない

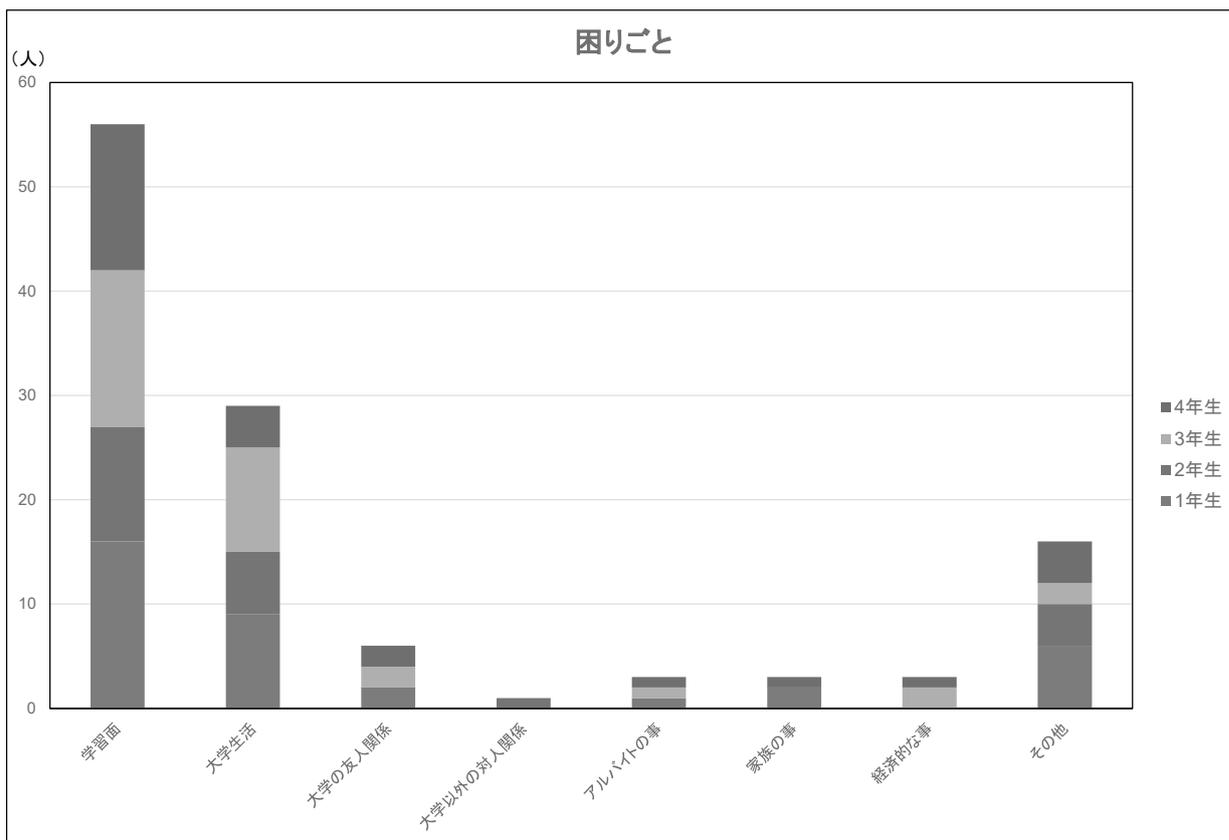


Q34 困ったことがあった時アドバイザーに相談したことがありますか。

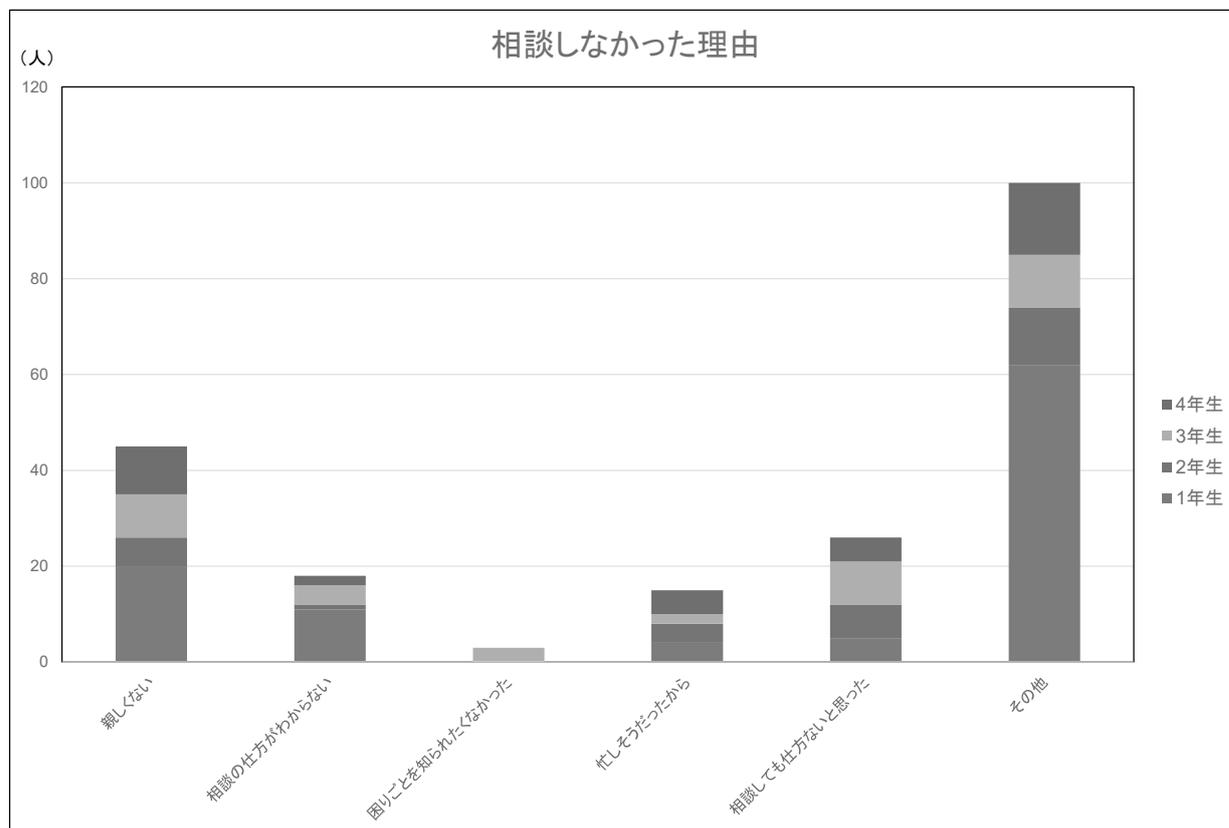
1 はい、2 いいえ



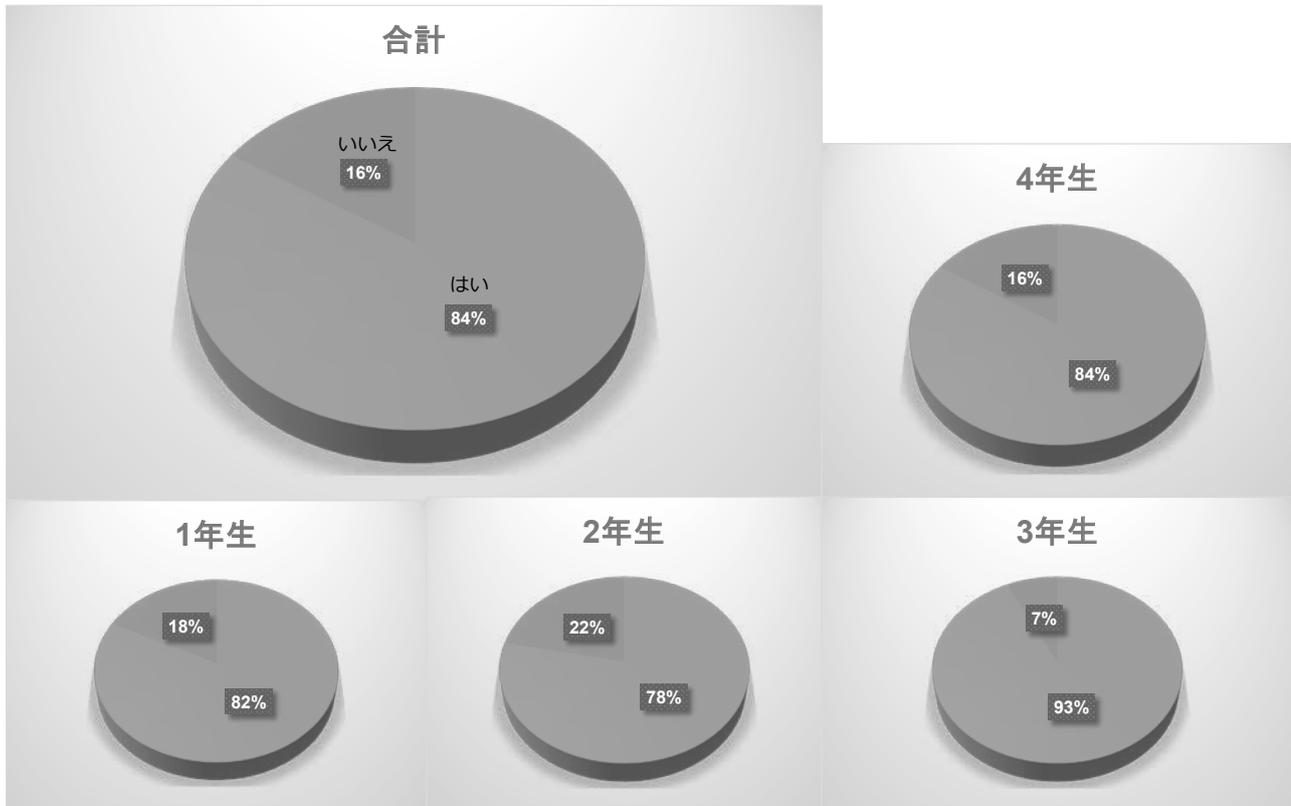
Q35 どのような困りごとでしたか？(複数回答可)。



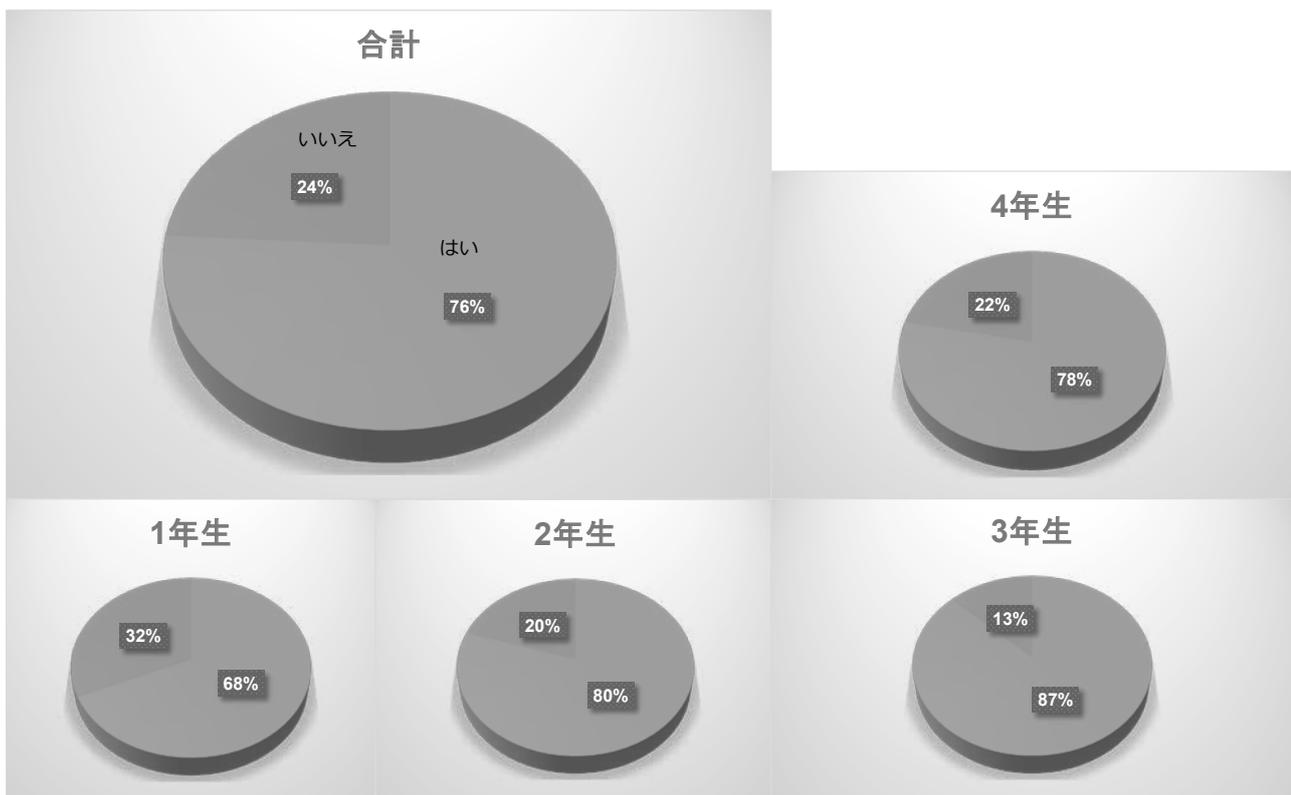
Q36 相談しなかった理由(複数回答可)



Q37 ピアサポーター制度を知っていますか。
1 はい、2 いいえ



Q38 manabaにピアサポーターのコンテンツがあることを知っていますか。
1 はい、2 いいえ



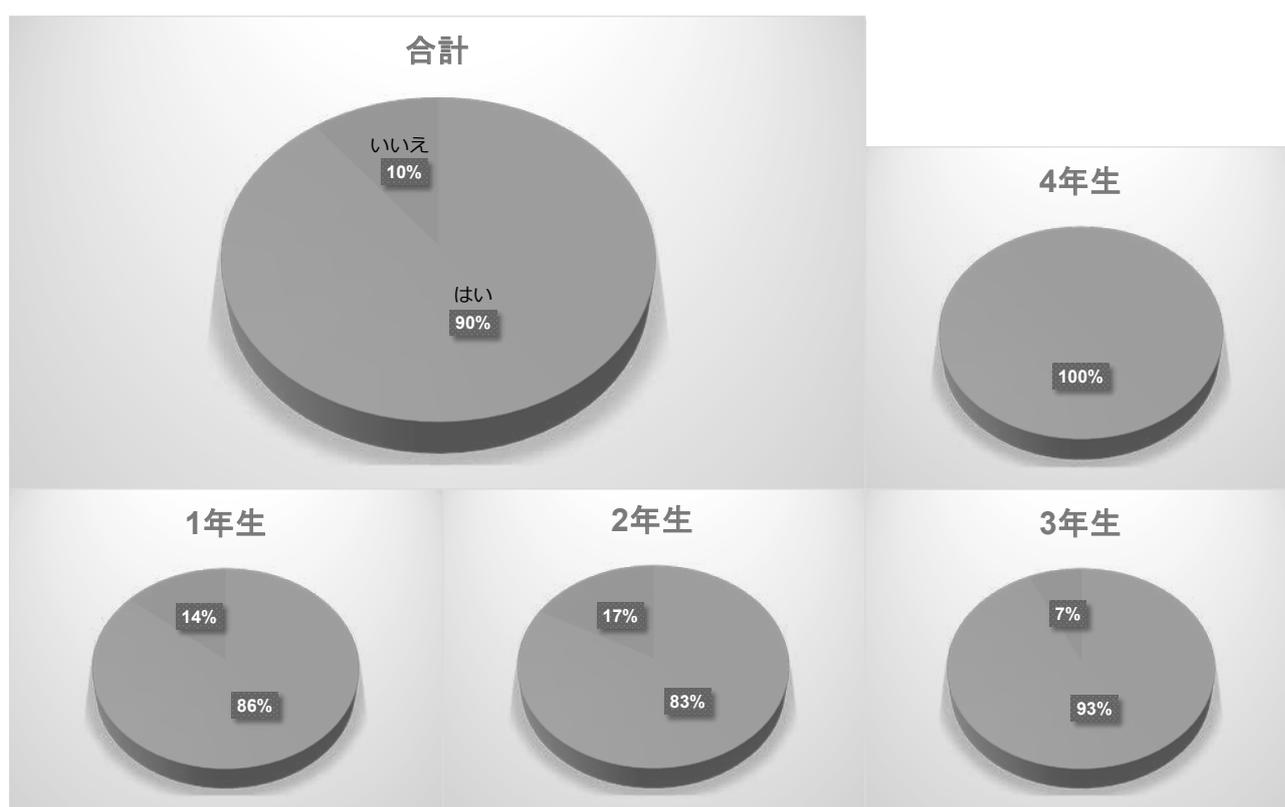
Q39 ピアサポーターについて、ご意見があればお願いします。

- 勉強を教えてくれたり、わからないことを聞きに行ったら答えてくれるので助かっています。
- Twitterの質問箱が活発で良いと思う。
- 物理的・精神的に距離が遠すぎるので利用する気が起きない。
- ピアサポーターの仕事内容は大変素晴らしいとは思いますが、やるべきことをやらずにピアサポーターばかりしている知人がいるので、それはどうなのだろうと感じています。
- ピアサポーターが実施している勉強会をもっと分かりやすく告知してほしいです。

など計8件

Q40 ロッカーについて使用していますか。

1 はい、2 いいえ



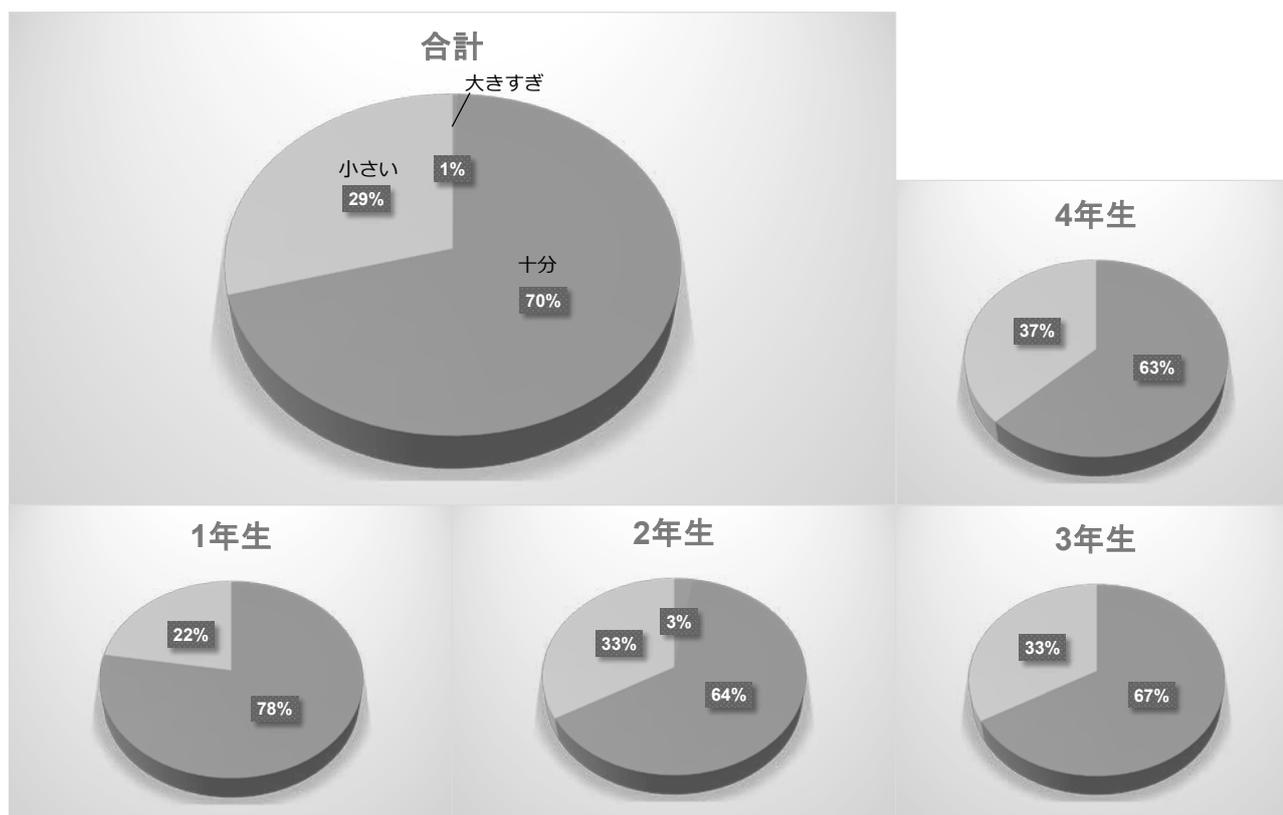
Q41 ロッカーを使用しなかった理由。

- 大学に置いておくものがなかったから。
- 特にしまうものがない。
- 特に使用しなくても自分で持ち帰って次の日の授業の教科書だけを大学に持って行ってという感じにやっていたから。
- 教材は持ち帰るから、使う必要が無い。
- 学校と自宅が遠いため、教科書などを置いておくことに抵抗があったから。

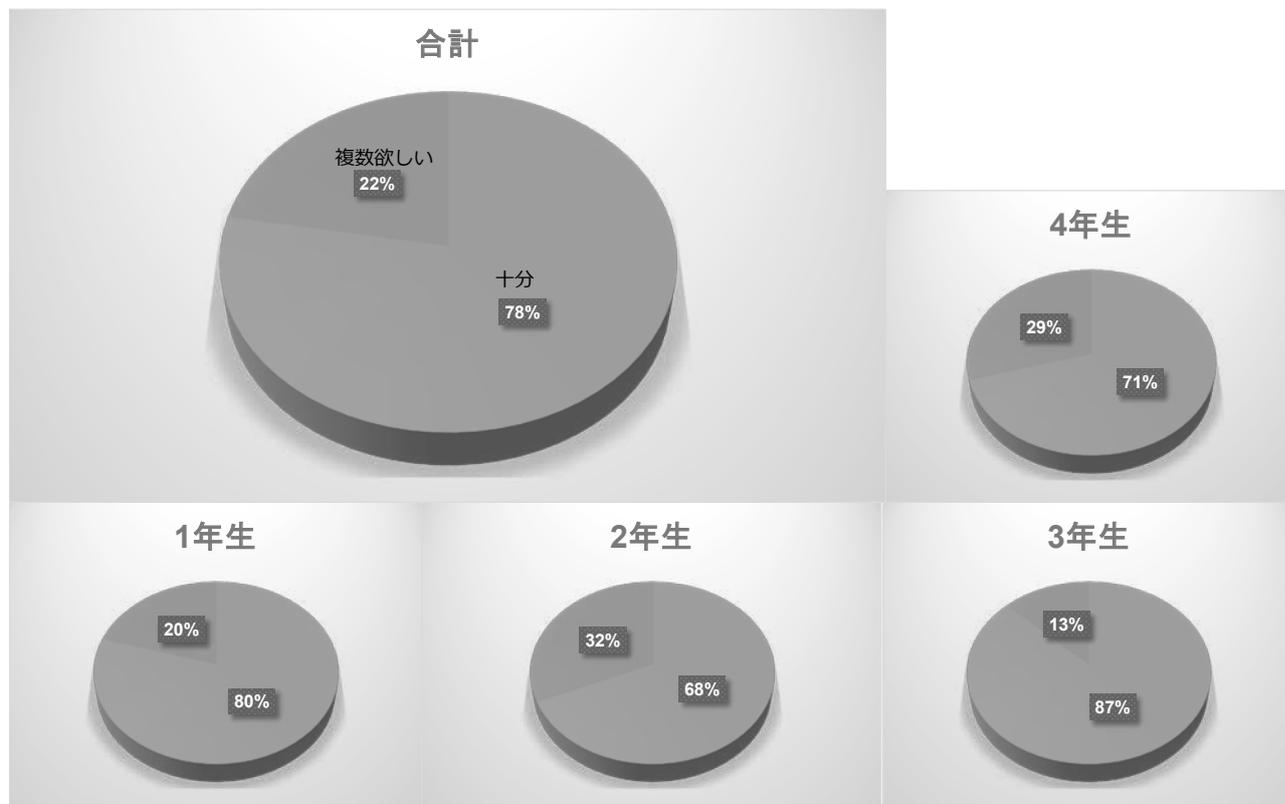
など計19件

Q42 ロッカーを使用している人に聞きます。大きさについて回答ください。

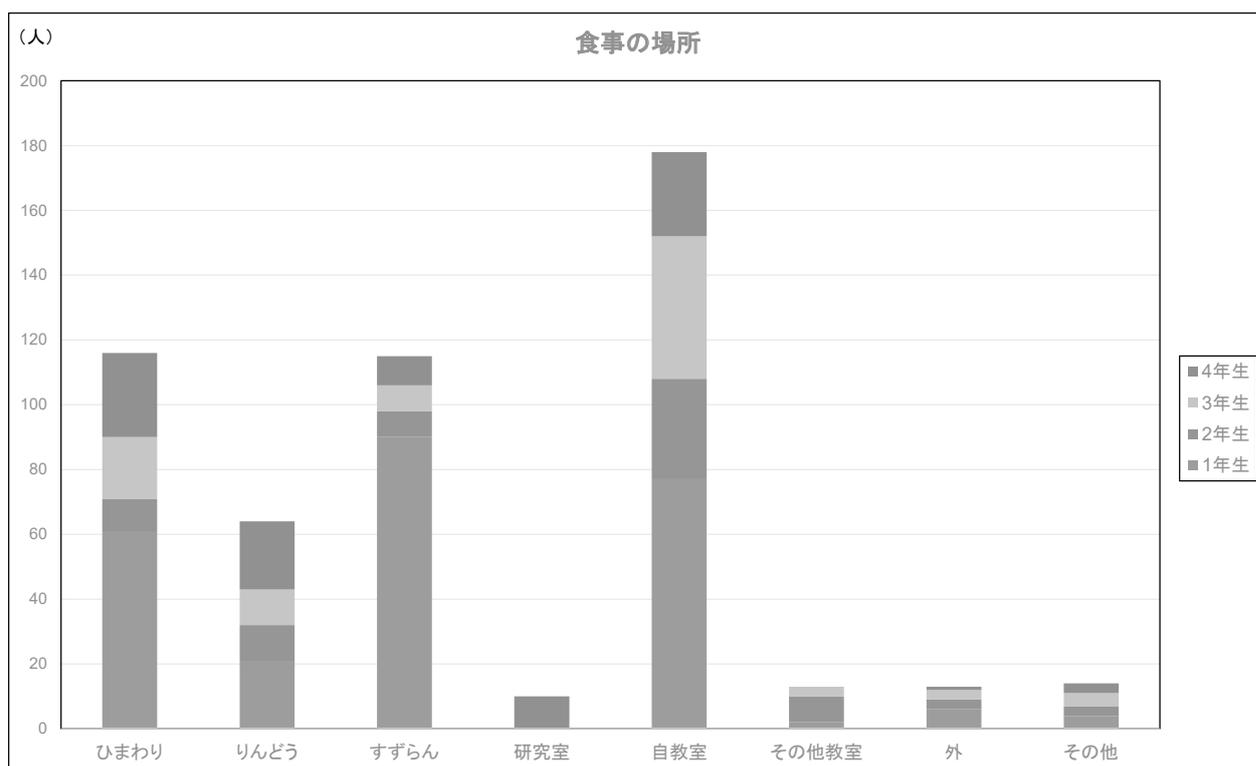
1 大きすぎ、2 十分、3 小さい



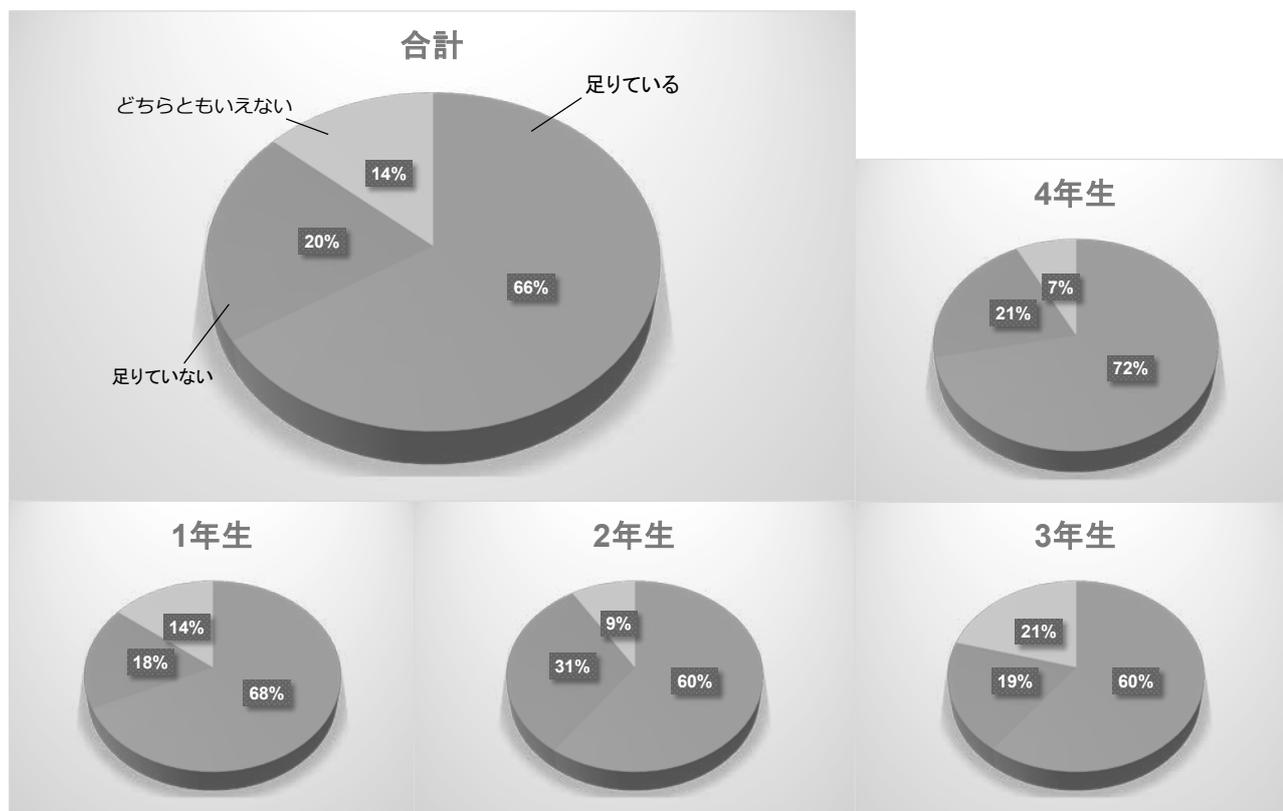
Q43 ロッカーを使用している人に聞きます。ロッカーは一つで十分ですか。
1 十分、2 複数欲しい



Q44 食事をする場所についてお聞きます。いつもどこで食事をとっていますか。
(複数回答可)



Q45 食事をとる場所は十分ですか。
 1 足りている、2 足りていない、3 どちらともいえない

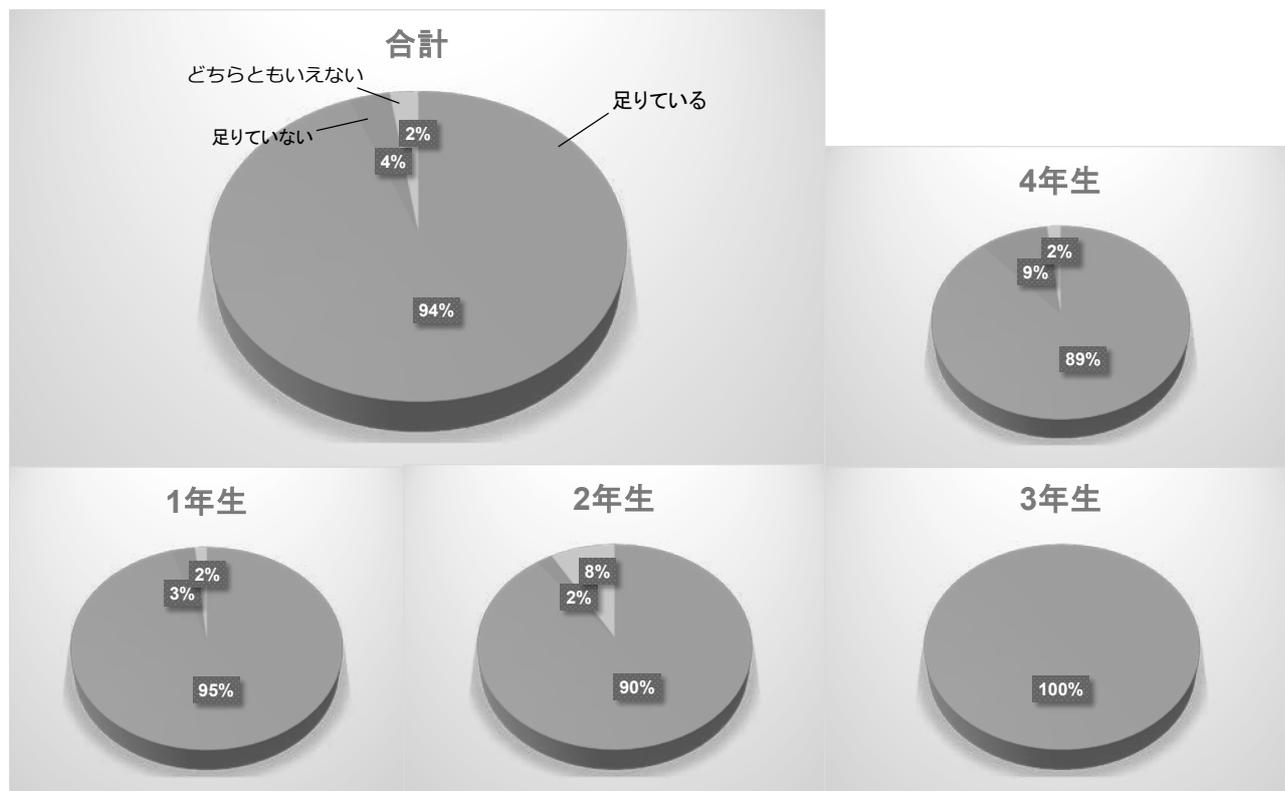


Q46 食事をとる場所は十分ですか。
 足りないと回答した人はその理由を教えてください。

- 学食が混むため、自教室で食べるしかないから。
- 昼時混んでいると席があいていないため。
- 人が多い曜日などはとくに食堂の中の席が空いていない。
- いつも人がいっぱい、食べるスペースを探さなければなりません。
- たまに授業が伸びたときは、すでに席が埋まっていることが多いから。その時は自教室に戻り食事をとるしかないため。

など計18件

Q47 食事の時間(長さ)についてお聞きします。
1 足りている、2 足りていない、3 どちらともいえない



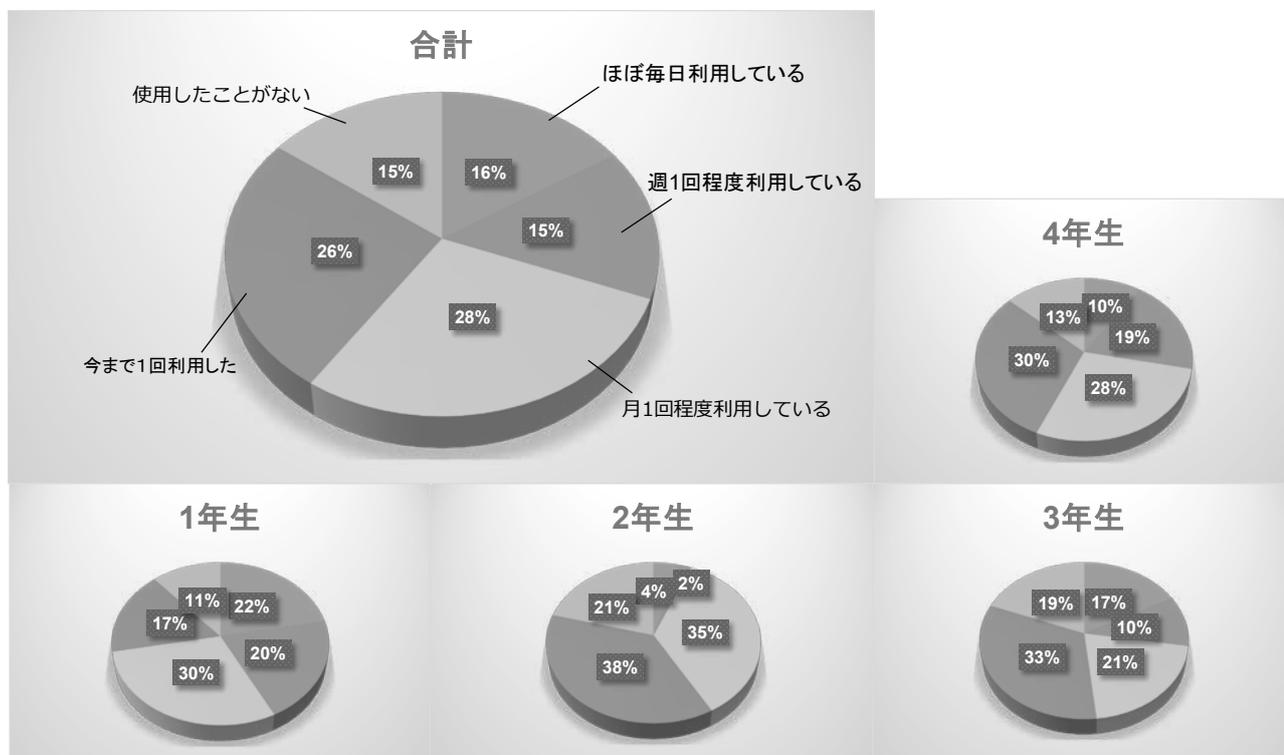
Q48 食事の時間(長さ)についてお聞きします。
足りないと回答した人はその理由を教えてください。

- 昼休みが長すぎるので、12時45分か12時50分ぐらいまでで良い。
- ひまわりで学食を注文するとき、だいぶ並ぶため食事の時間がかかり減るため。

など計4件

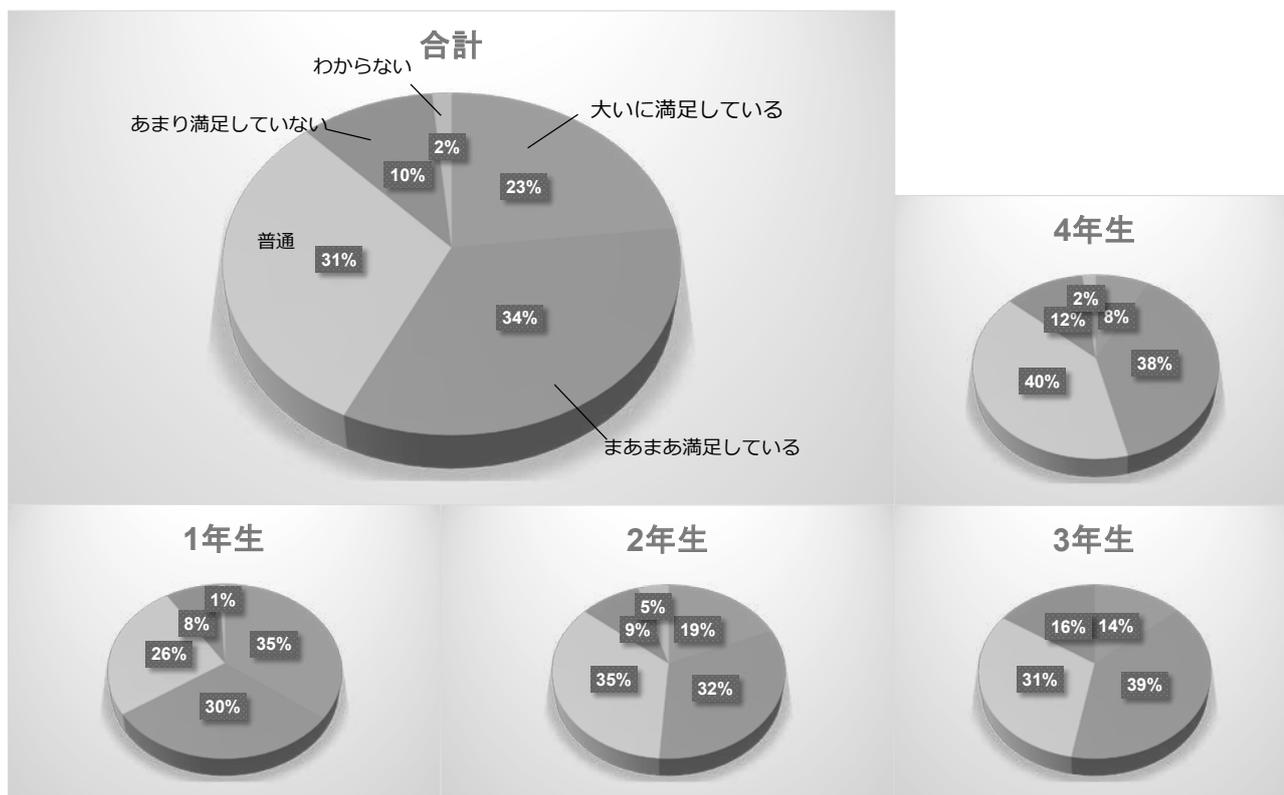
Q49 食堂を利用していますか。

1. ほぼ毎日利用している、2. 週1回程度利用している、3. 月1回程度利用している、4. 今まで1回利用した、5. 使用したことがない



Q50 食堂の満足度を教えてください。

1. 大いに満足している、2. まあまあ満足している、3. 普通、4. あまり満足していない、5. 全く満足していない



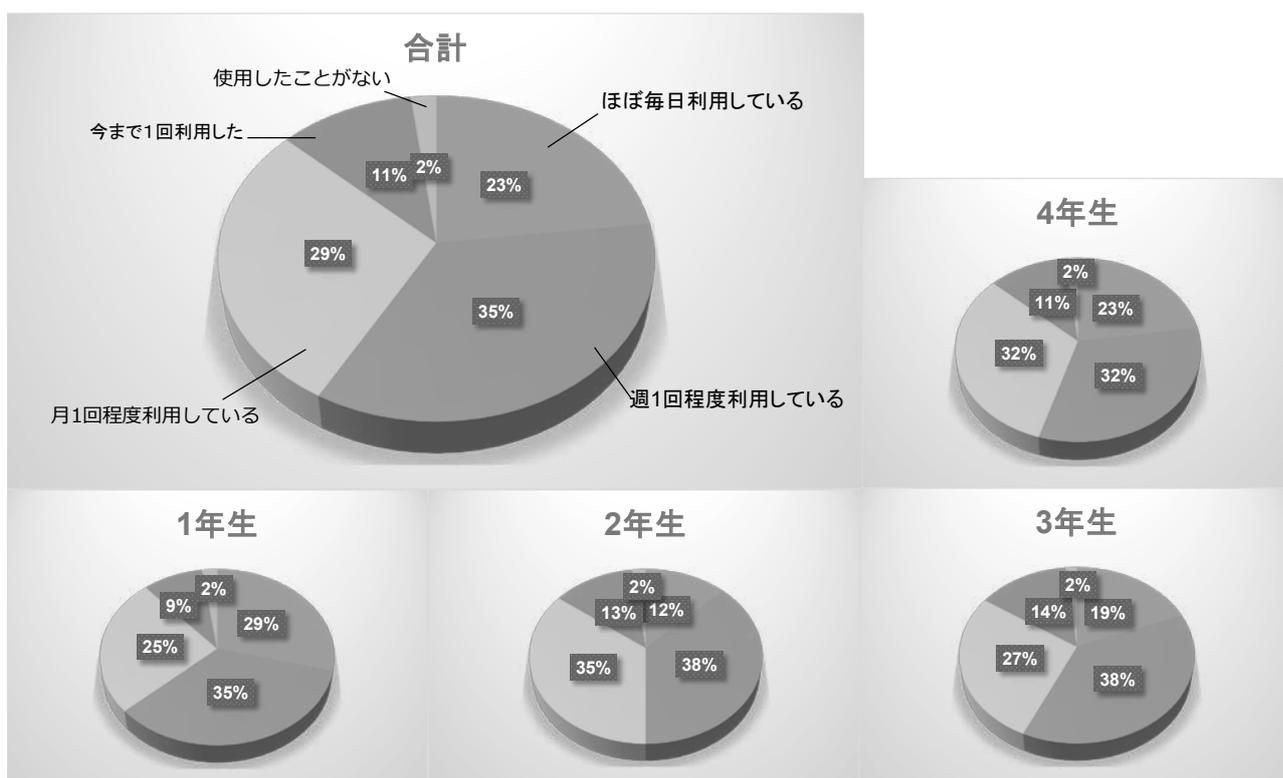
Q51 食堂について、あまり満足していない、全く満足していないと回答した人はその理由を教えてください。

- 値段の割に味のクオリティが低いと感じた。
- メニュー数が少なく感じる。また、以前より値段が上がった。
- 量が少なく、足りないことが多かったため。

など計20件

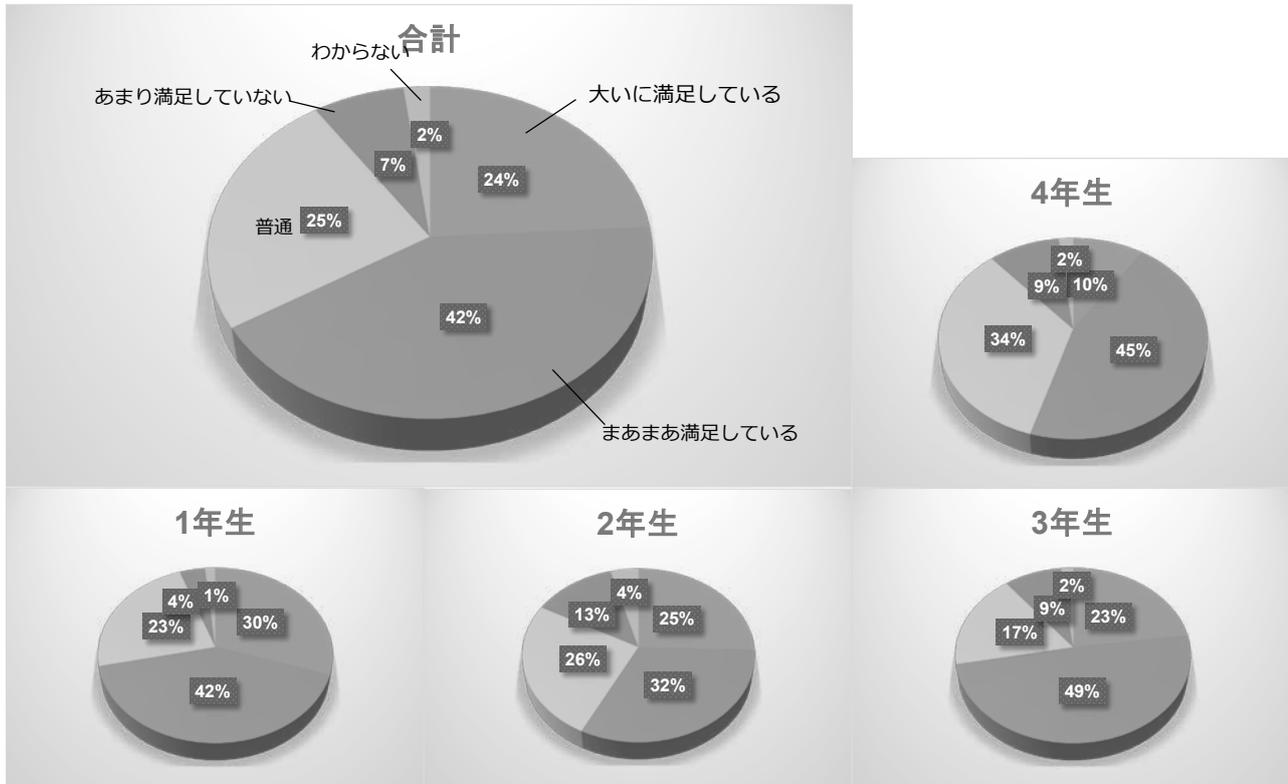
Q52 売店を利用したことがありますか。

1. ほぼ毎日利用している、2. 週1回程度利用している、3. 月1回程度利用している、4. 今まで1回利用した、5. 使用したことがない



Q53 売店の満足度を教えてください。

1. 大いに満足している、2. まあまあ満足している、3. 普通、4. あまり満足していない、5. 全く満足していない



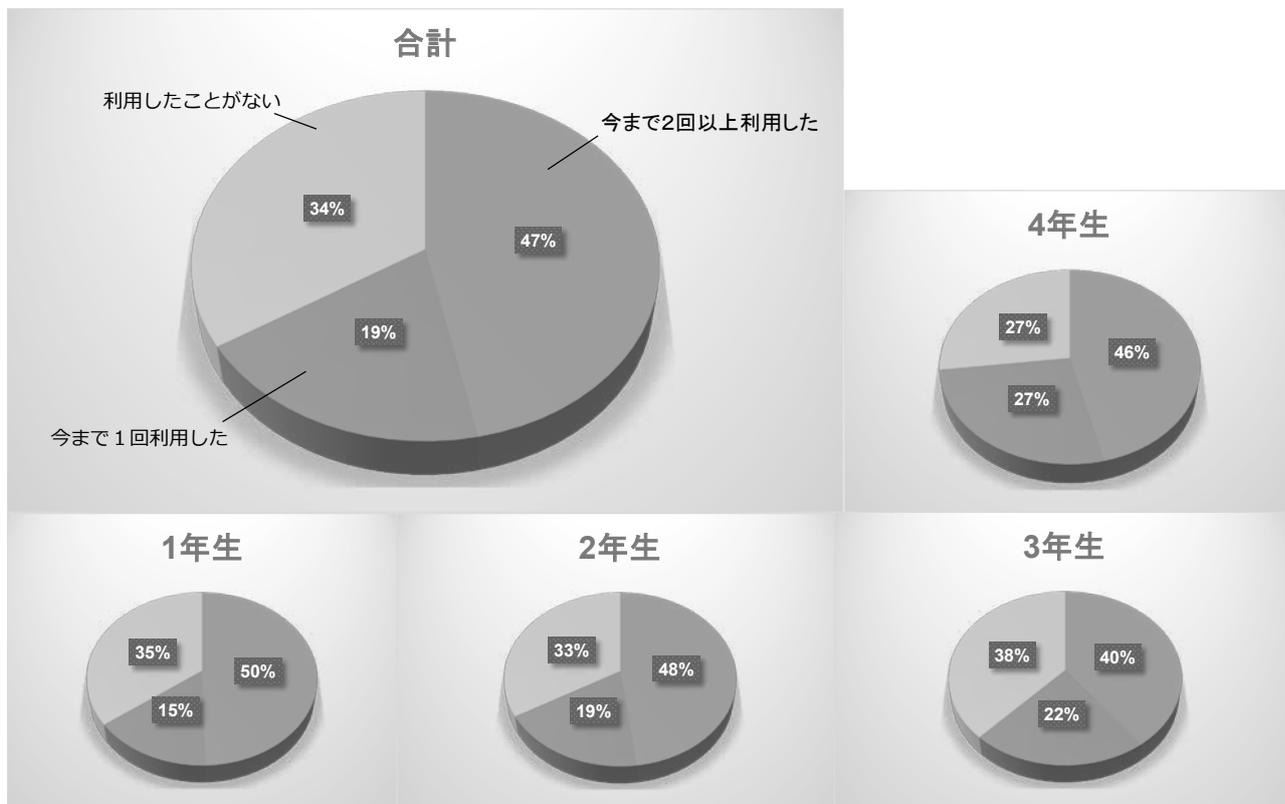
Q54 売店について、あまり満足していない、全く満足していないと回答した人はその理由を教えてください。

- 売店の品揃えが少ない。あまりおいしいと思える食べ物が充実していない。それが理由です。
- レジが少ないため、すごく並ぶのが、お昼の時間が少なくなってしまう原因。中に入るのも、レジ通すのも時間かかる。
- ホットスナックなど気軽に食べれる温かいものを置いてほしい。
- 休みにできる列が長すぎる、商品の品ぞろえが悪い。

など計23件

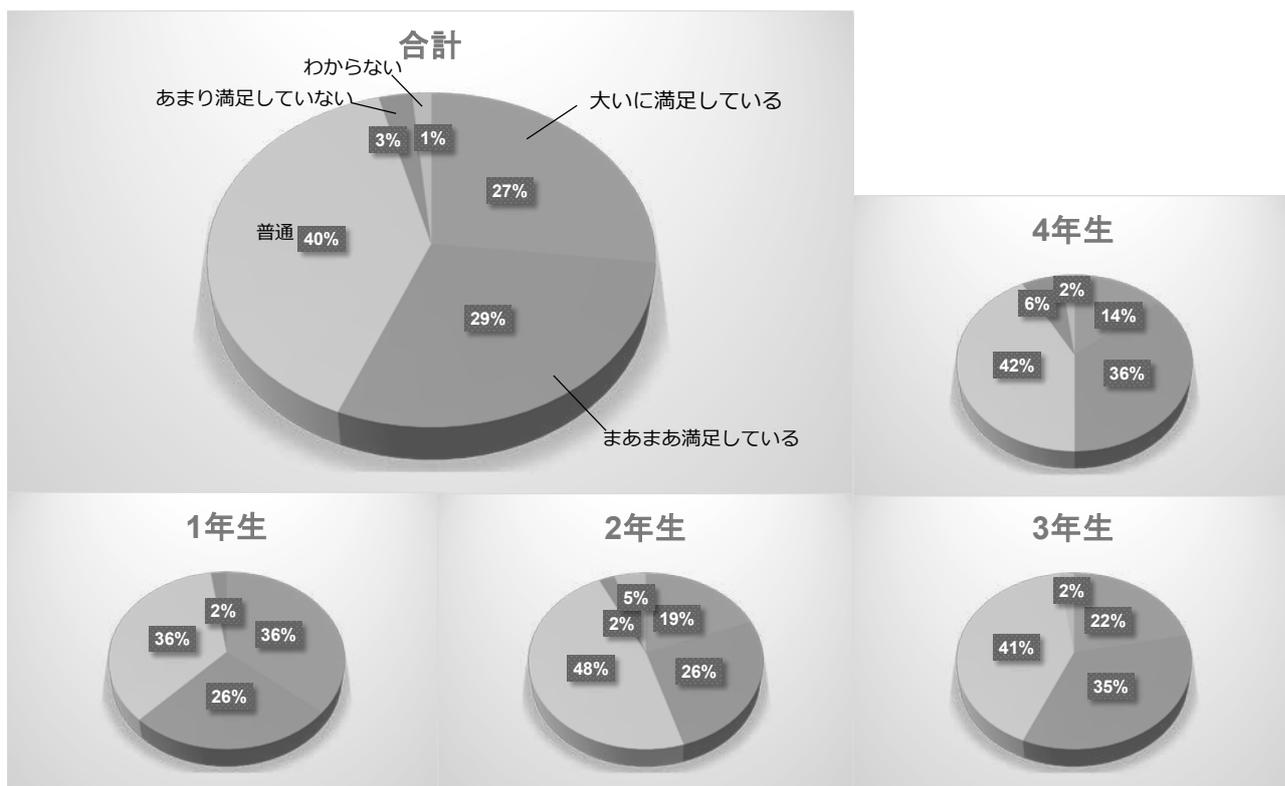
Q55 キッチンカーを利用したことがありますか。

1. 今まで2回以上利用した、2. 今まで1回利用した、3. 利用したことがない



Q56 キッチンカーの満足度を教えてください。

1. 大いに満足している、2. まあまあ満足している、3. 普通、4. あまり満足していない、5. 全く満足していない



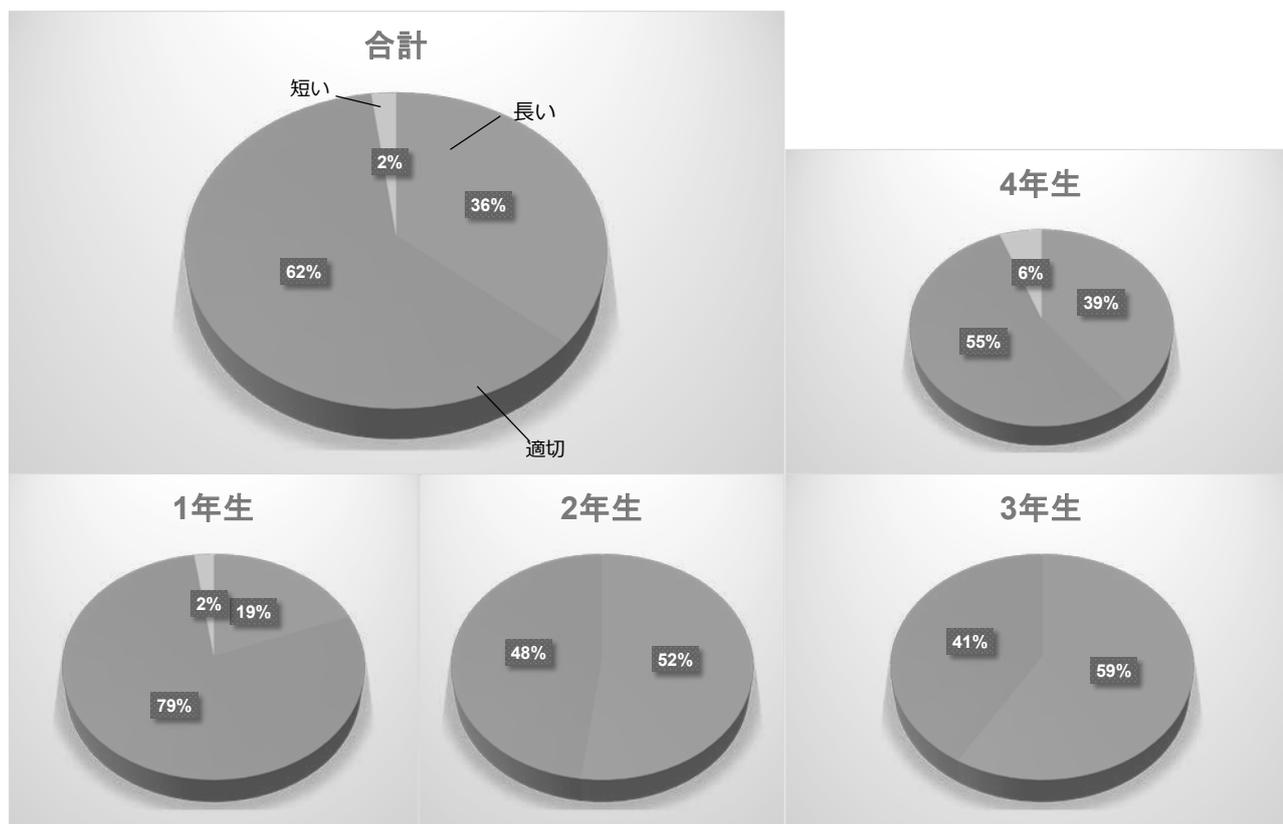
Q57 キッチンカーについて、どの食べ物がよかったですか。

- タコス
- ドーナツ
- カレーパン
- チュロス
- クレープ、たい焼き
- ステーキ丼

など計42件

Q58 お昼休みの時間(長さ)についてお聞きします。

1. 長い、2. 適切、3. 短い



Q59 長いと回答した人はその理由を教えてください。

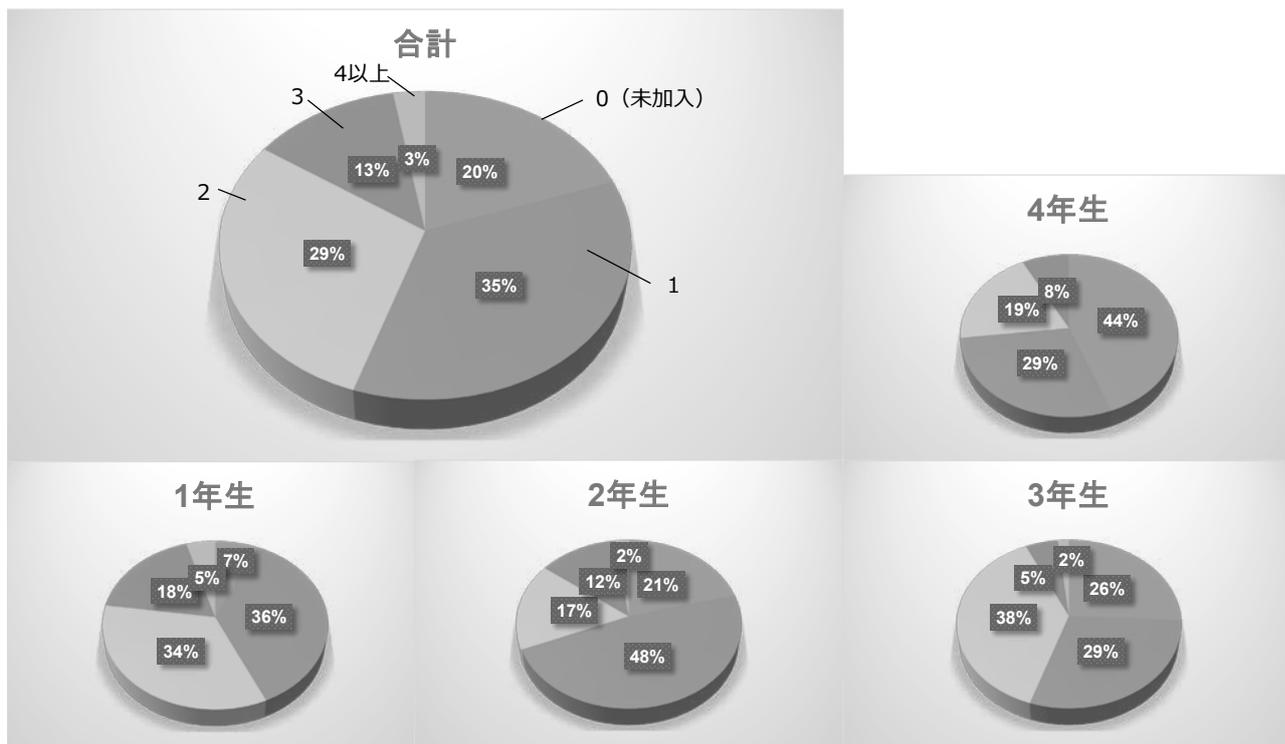
- 他大学の友人との予定が合わせられないため。食べるのが遅いから。
- 休み時間が長すぎると感じます。休み時間を短くして放課後友達と遊べる時間、授業の復習の時間を長くして欲しい
- 二限が早く終わる日があると3限が始まるまで2時間待つことがあった。時間がもったいない。早く授業を終わらせて有意義な放課後にしたい。

計3件

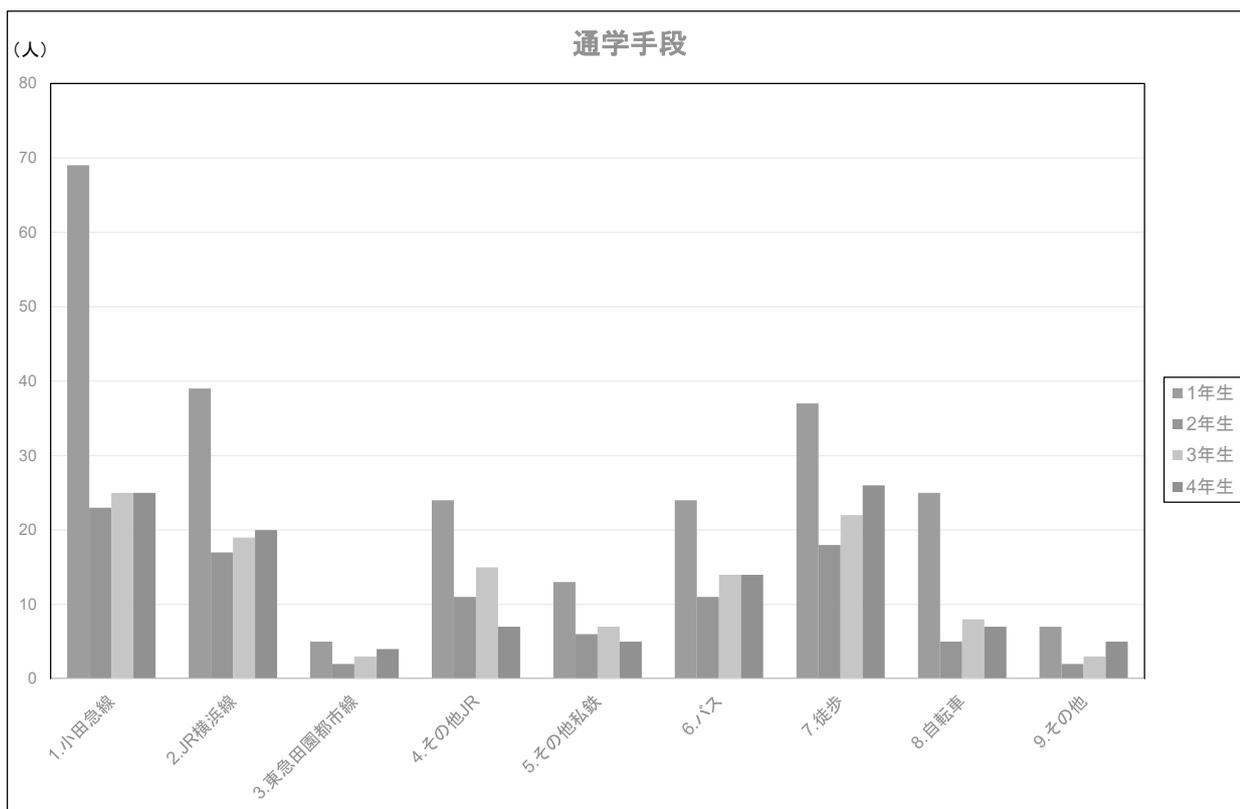
部活動について

Q60 部活動にはいくつ加入していますか。(未加入であれば0(ゼロ)を選んでください)。

1 0 2 1 3 2 4 3 5 4以上

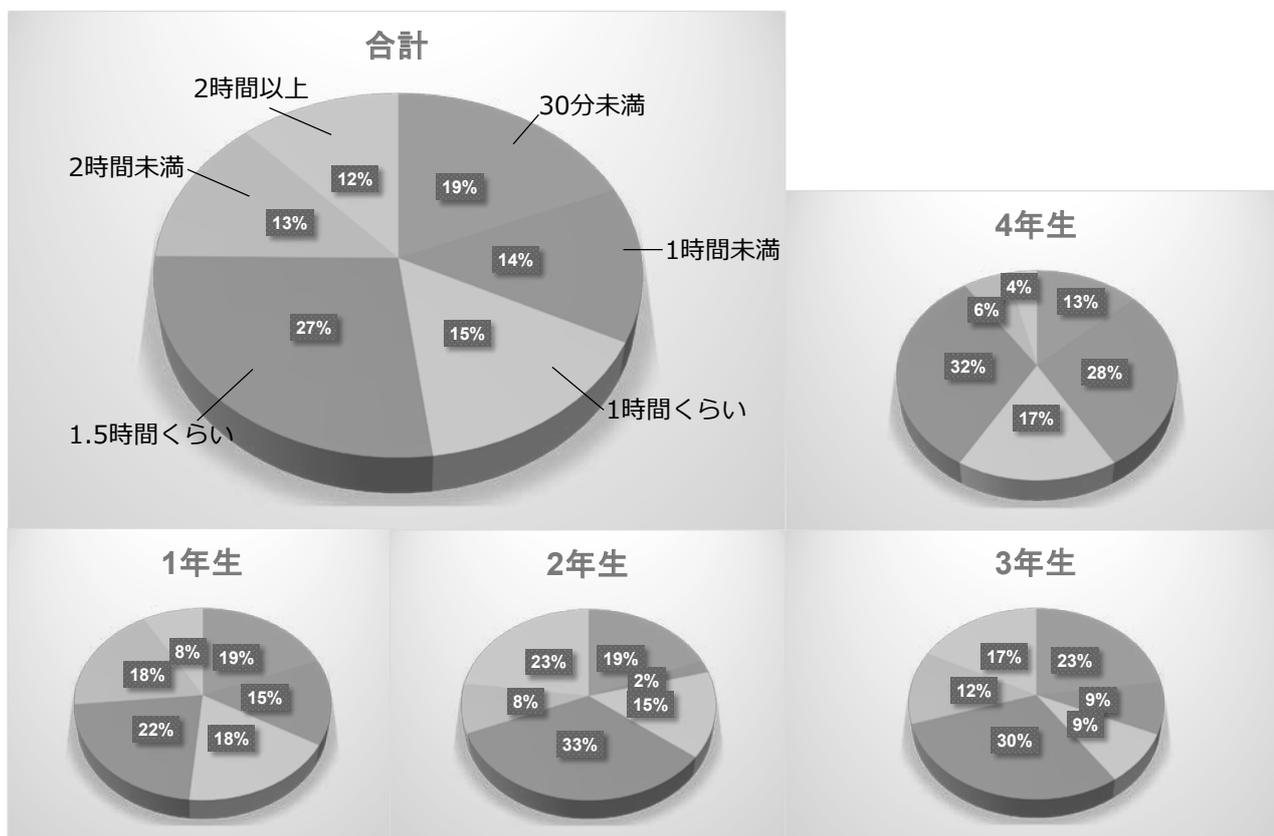


Q61 大学の最寄り駅までのどのような手段で登校していますか。(複数回答可)

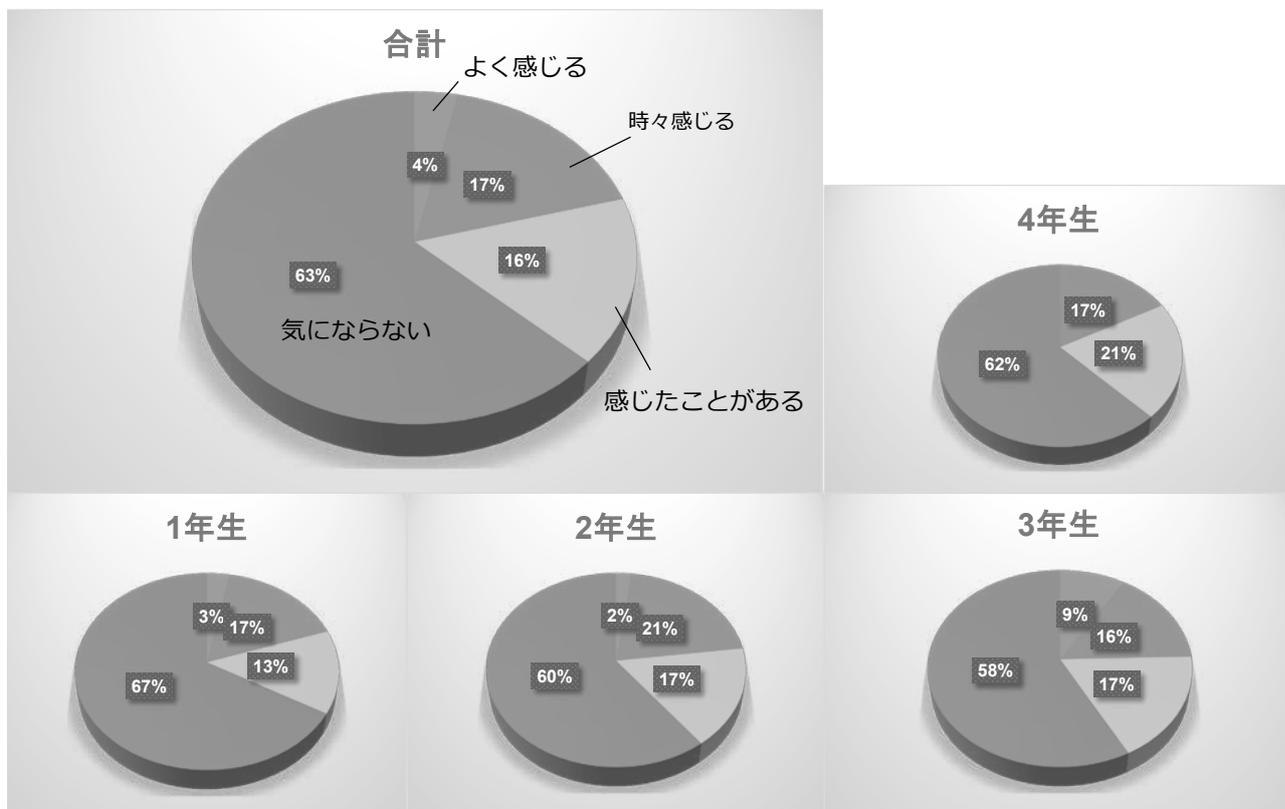


Q62 通学(自宅を出てから大学到着まで)にどのくらい時間がかかりますか。

1 30分未満 2 1時間未満 3 1時間くらい 4 1.5時間くらい 5 2時間未満 6 2時間以上



Q63 通学中に危険や不安を感じることはありますか。
 1よく感じる、2時々感じる、3感じたことがある、4気にならない

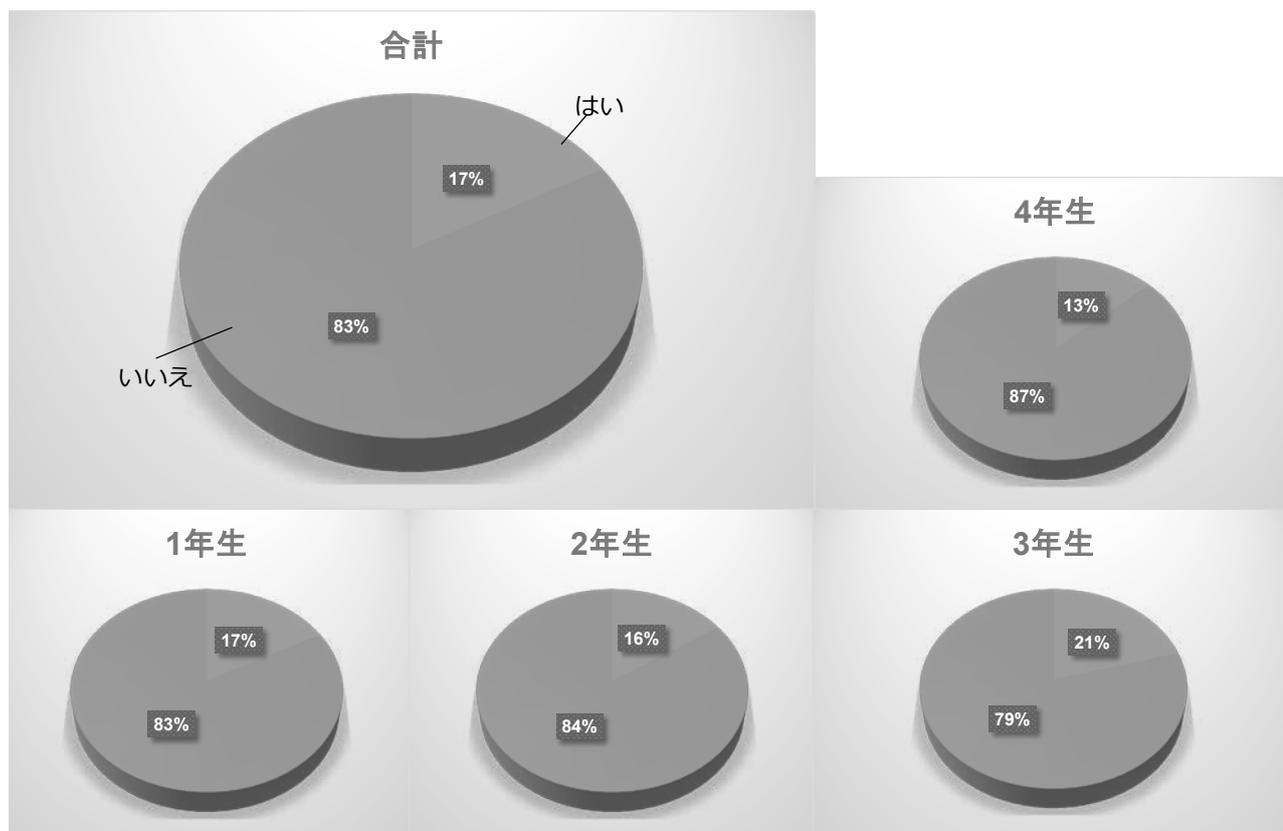


Q64 通学中に危険や不安を感じることはありますか。
 どのような時に危険や不安を感じますか。

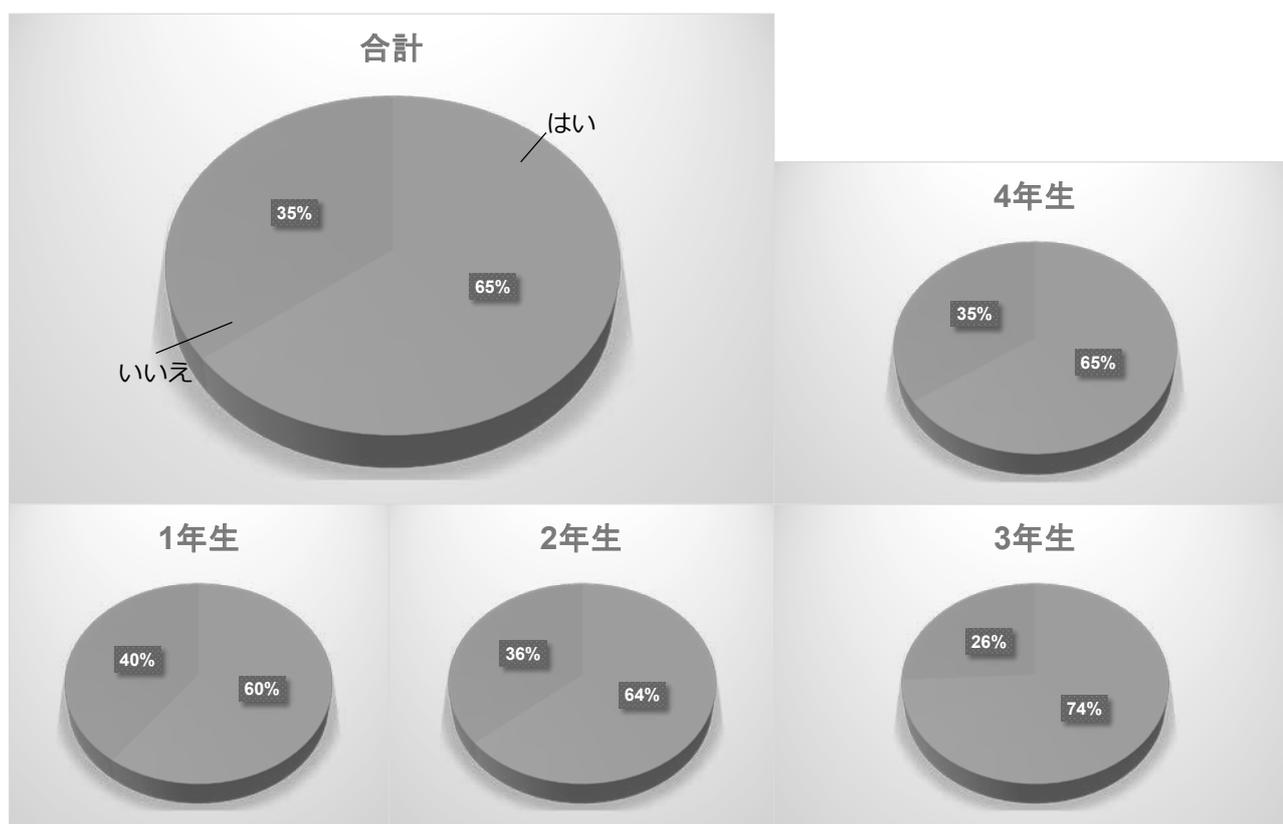
- 自分が利用する路線や駅付近での事故や不審者のニュースを見聞きしたとき。
- 玉川学園前駅からの道が暑すぎて、熱中症になりそうなこと。
- 学校で勉強するとなると家に着く時間が遅くなってしまい、終電近くになってしまう。
- 研究室や実習で帰りが遅くなった際、大学周りの道が人通りが少なく街灯も少ないため暗いと感じたとき。
- 変な人に絡まれたり、途中で体調不良にならないか心配です。

など計53件

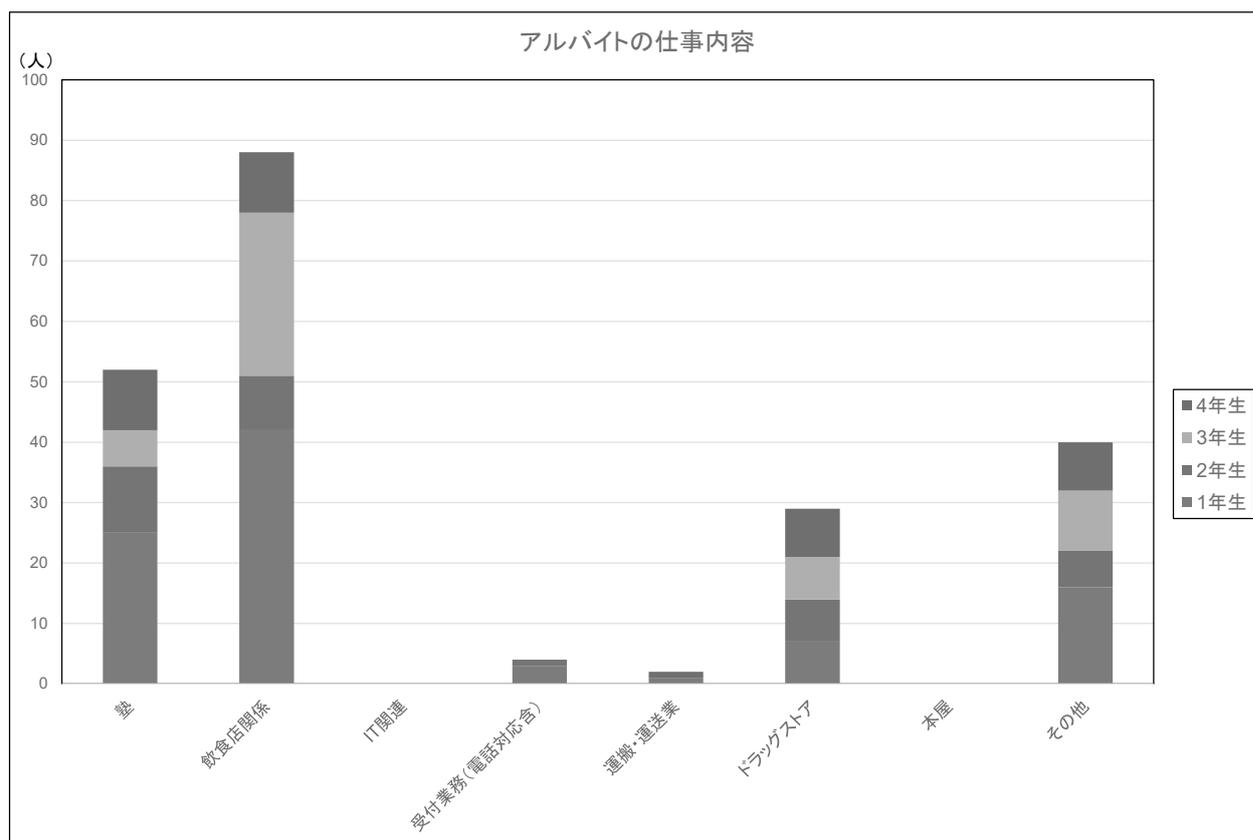
Q65 一人暮らしである。
1 はい、2 いいえ



Q66 アルバイトをしている。
1 はい、2 いいえ



Q67 アルバイトしている人はどのような仕事ですか(複数回答可)。

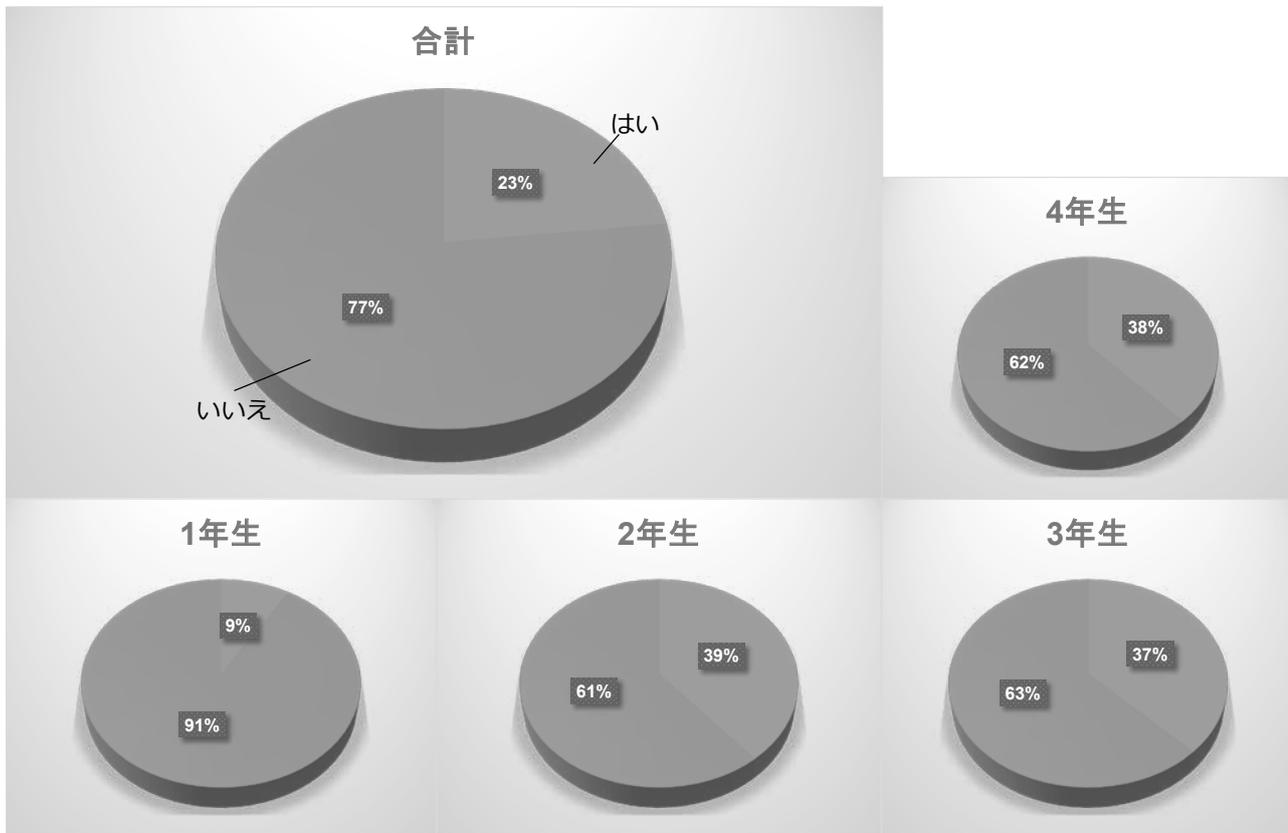


Q68 アルバイトしている人はどのような仕事ですか(複数回答可)。
 その他を選んだ人はどんなアルバイトか教えてください。

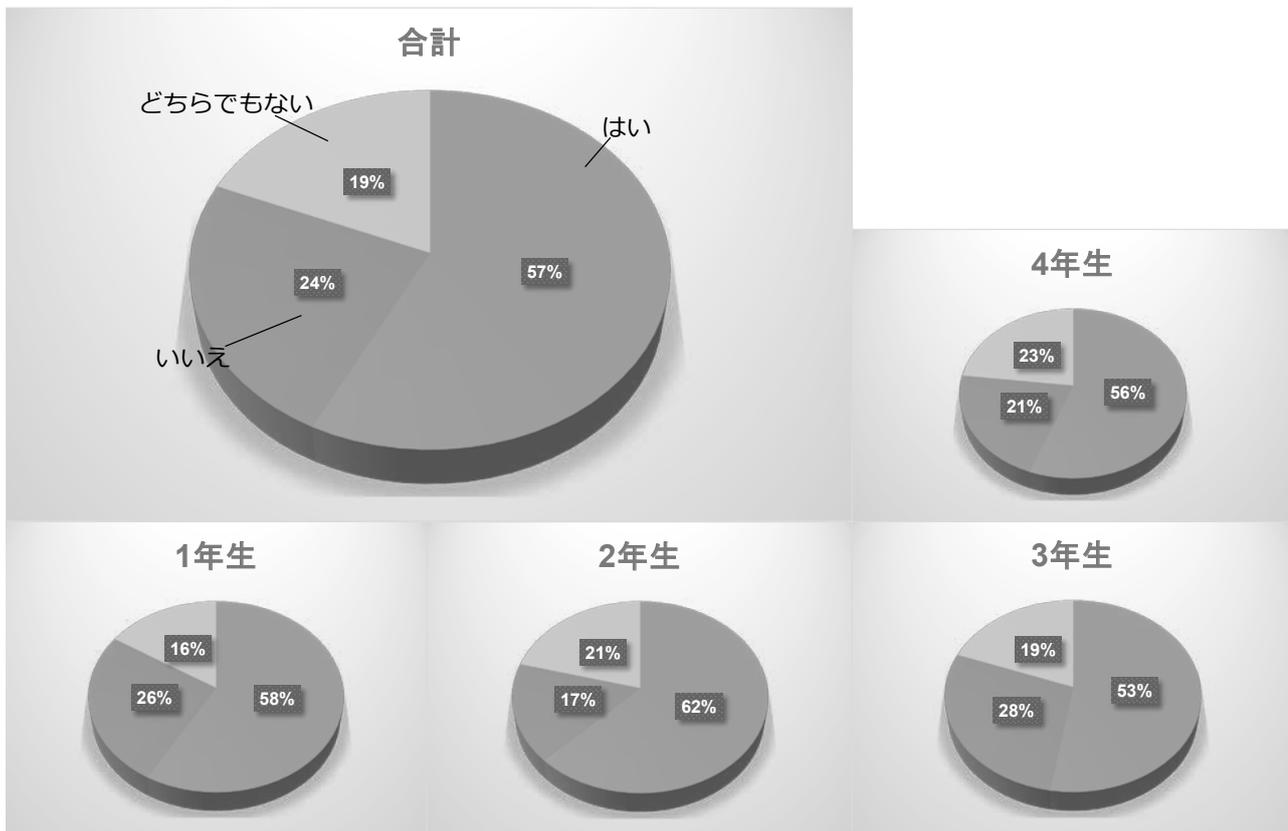
- 薬局の事務
- 単発
- アパレル販売
- ヘルパー、その他工場系の短期バイト
- スーパーのレジ

など計28件

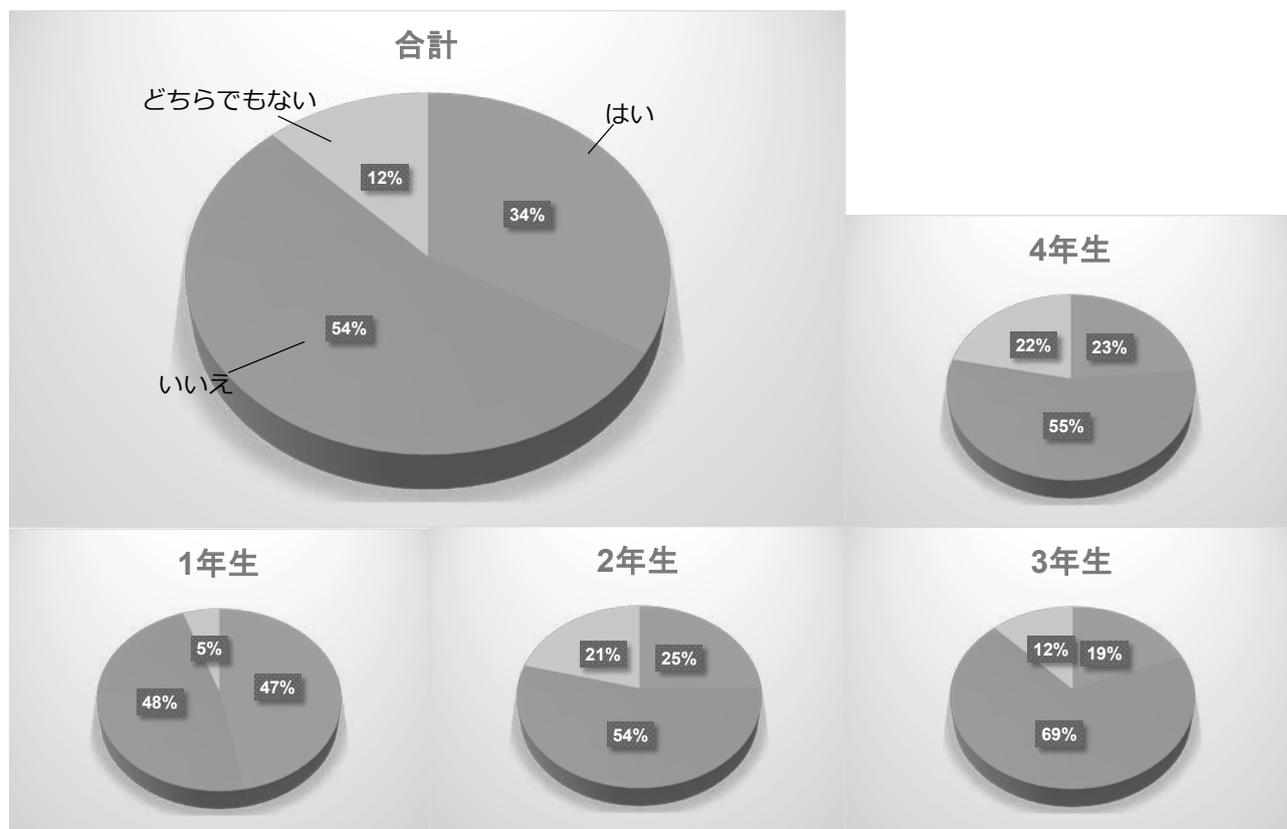
Q69 いいえの方にお伺いします。以前アルバイトをしていたが今はしていない。
1 はい、2 いいえ



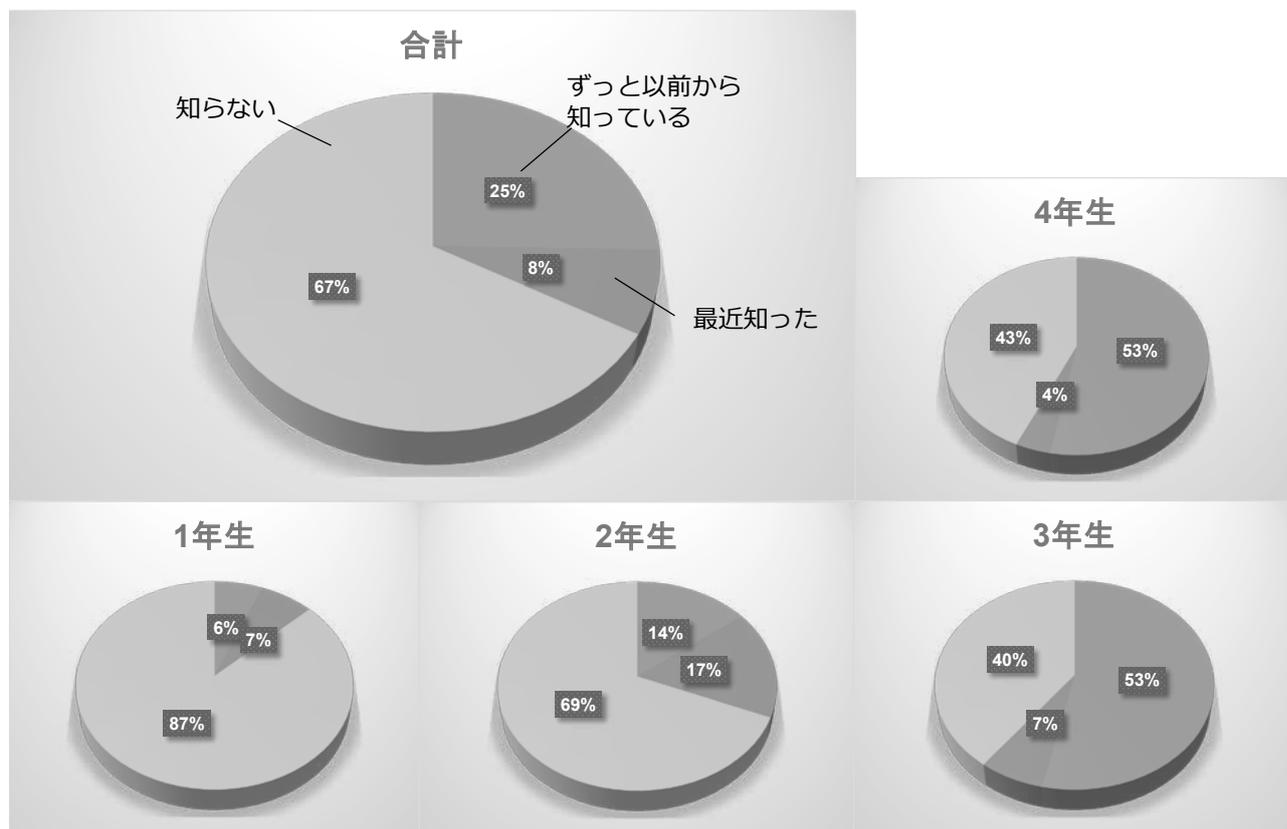
Q70 学費が心配である。
1 はい、2 いいえ、3 どちらでもない



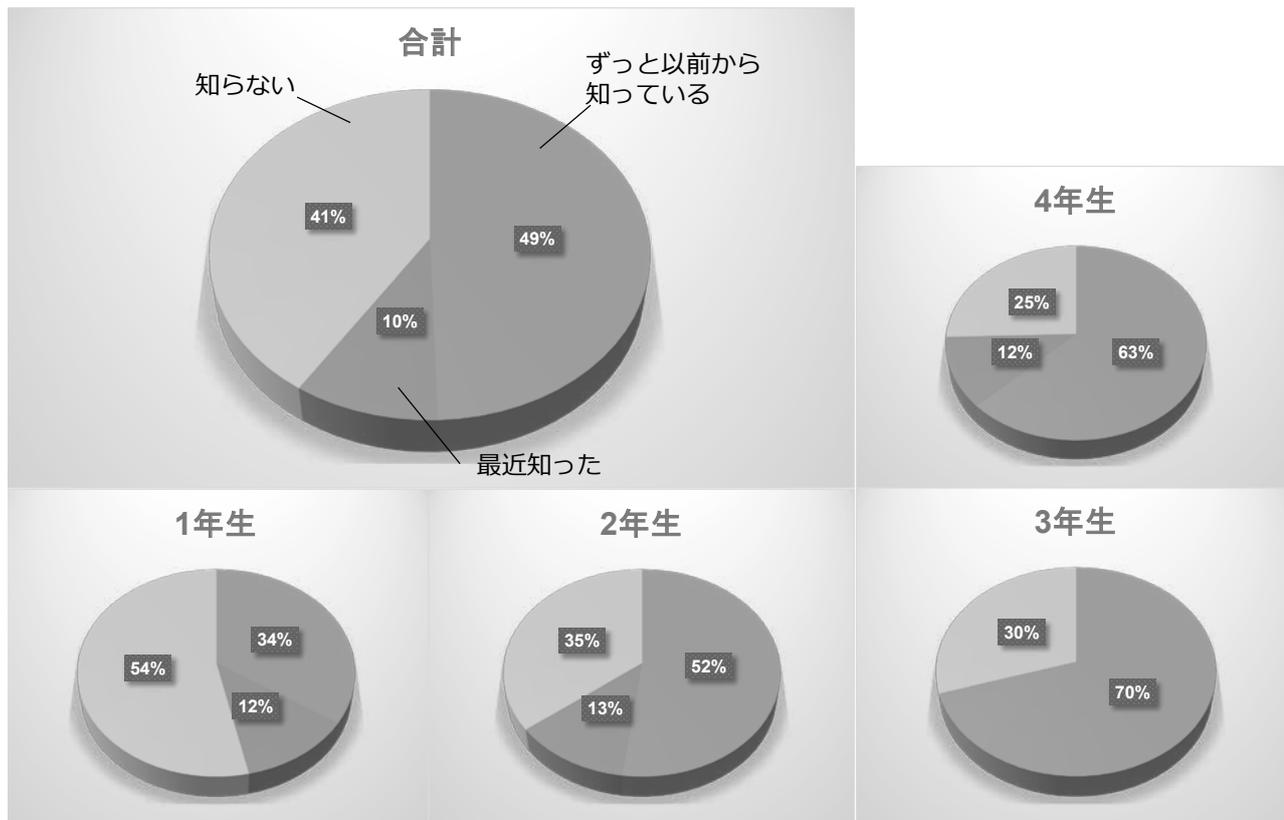
Q71 体調不良になったときどうすればいいかわからない。
1 はい、2 いいえ、3 どちらでもない



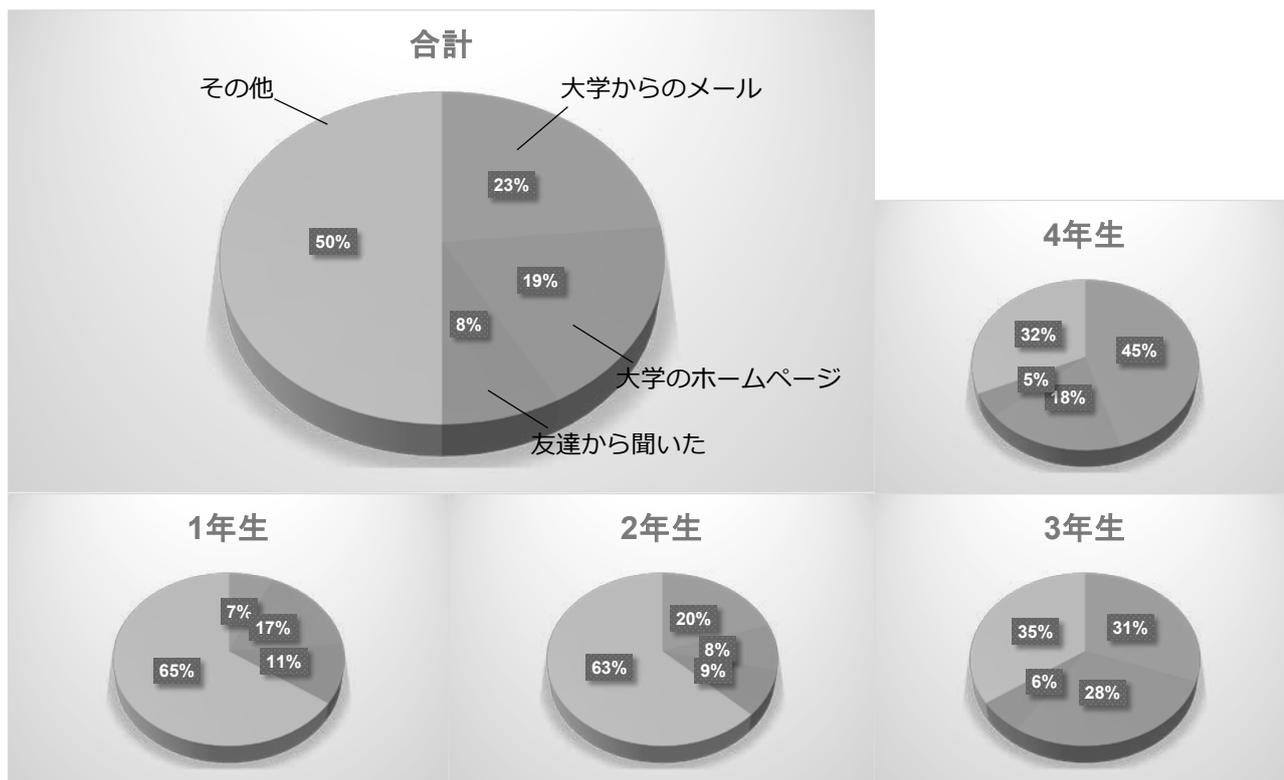
Q72 文部科学省の「学びを継続するための緊急給付金」についてご存じですか。
1 ずっと以前から知っている、2 最近知った、3 知らない



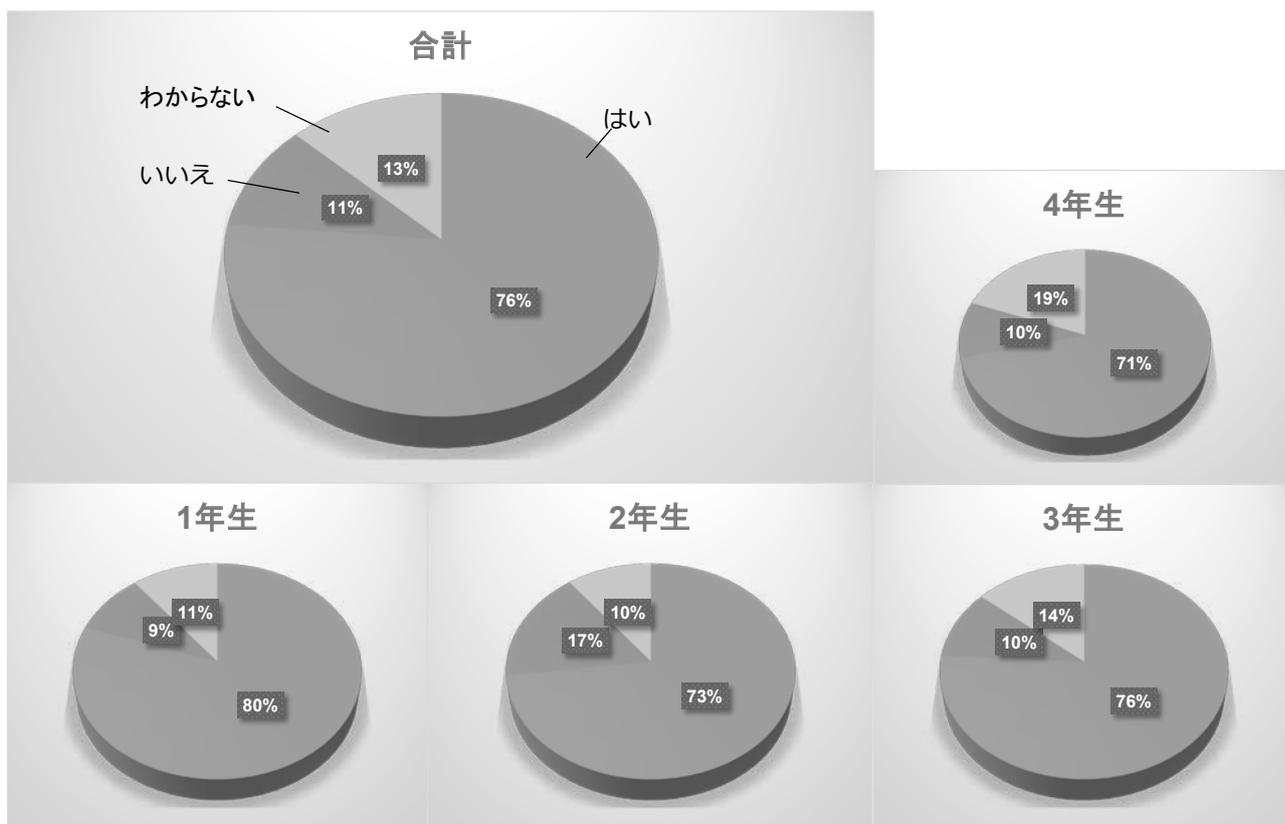
Q73 日本学生支援機構の「給付型奨学金」についてご存じですか。
 1 ずっと以前から知っている、2 最近知った、3 知らない



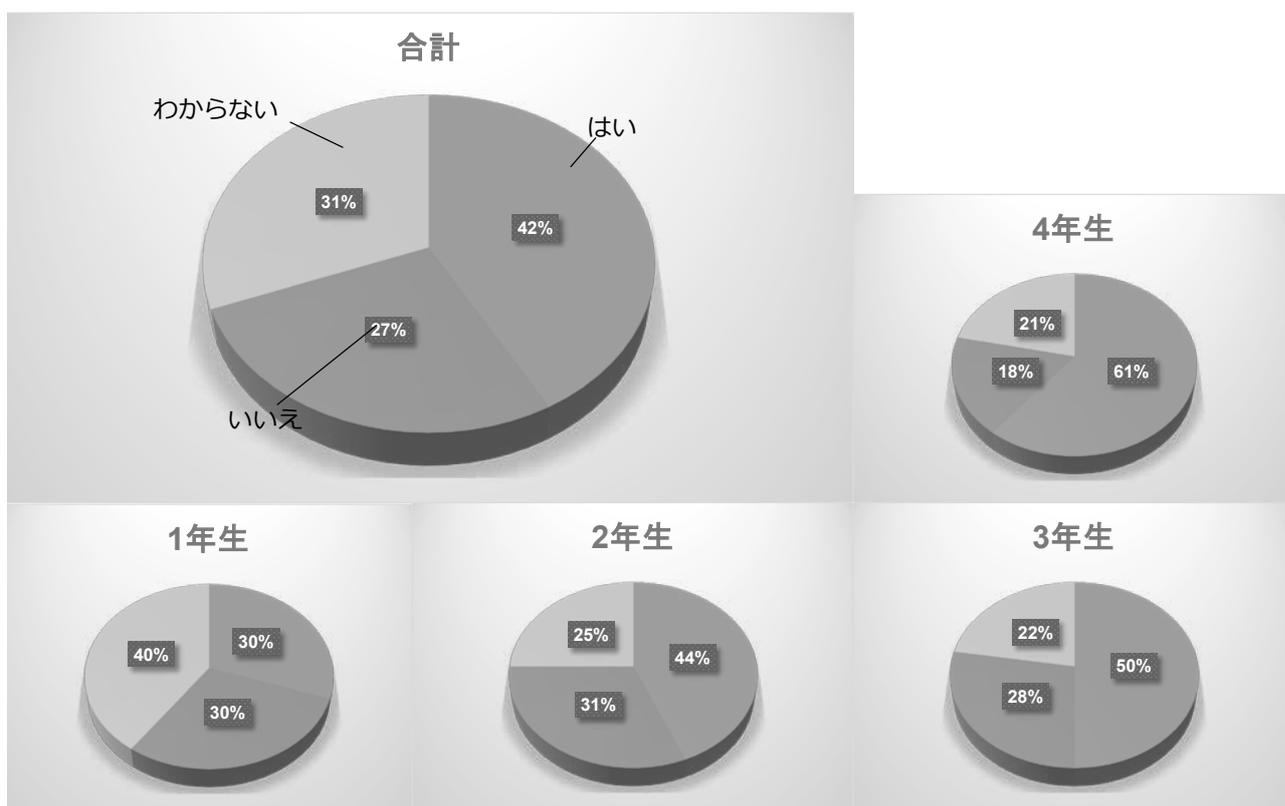
Q74 Q72, 73はどうやって知りましたか。
 1 大学からのメール、2 大学のホームページ、3 知らないアドバイザーから連絡、4 友達から聞いた、5 その他



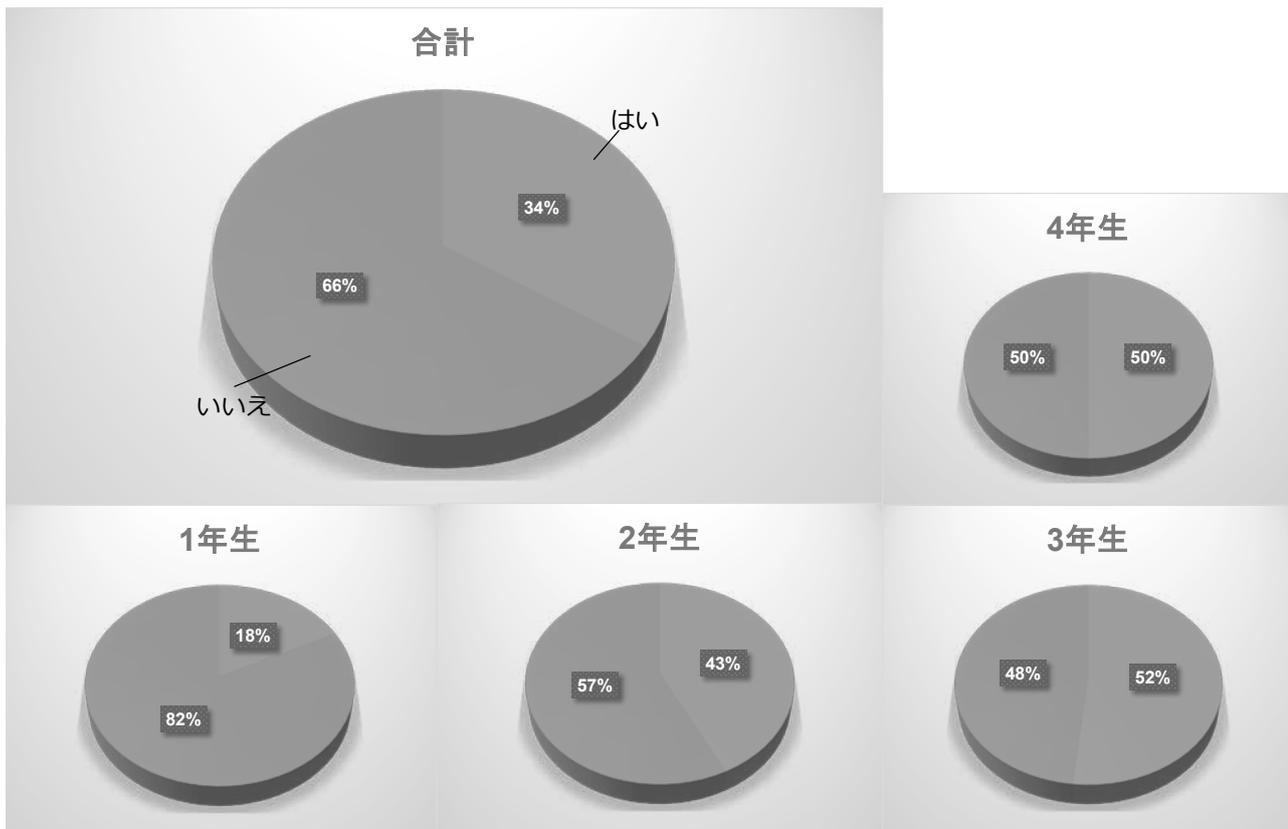
Q75 学内に信頼できる友人はいますか。
1 はい、2 いいえ、3 わからない



Q76 学内に信頼できる先生や職員はいますか。
1 はい、2 いいえ、3 わからない



Q77 ハラスメントの相談窓口があることは知っていますか？
1 はい、2 いいえ



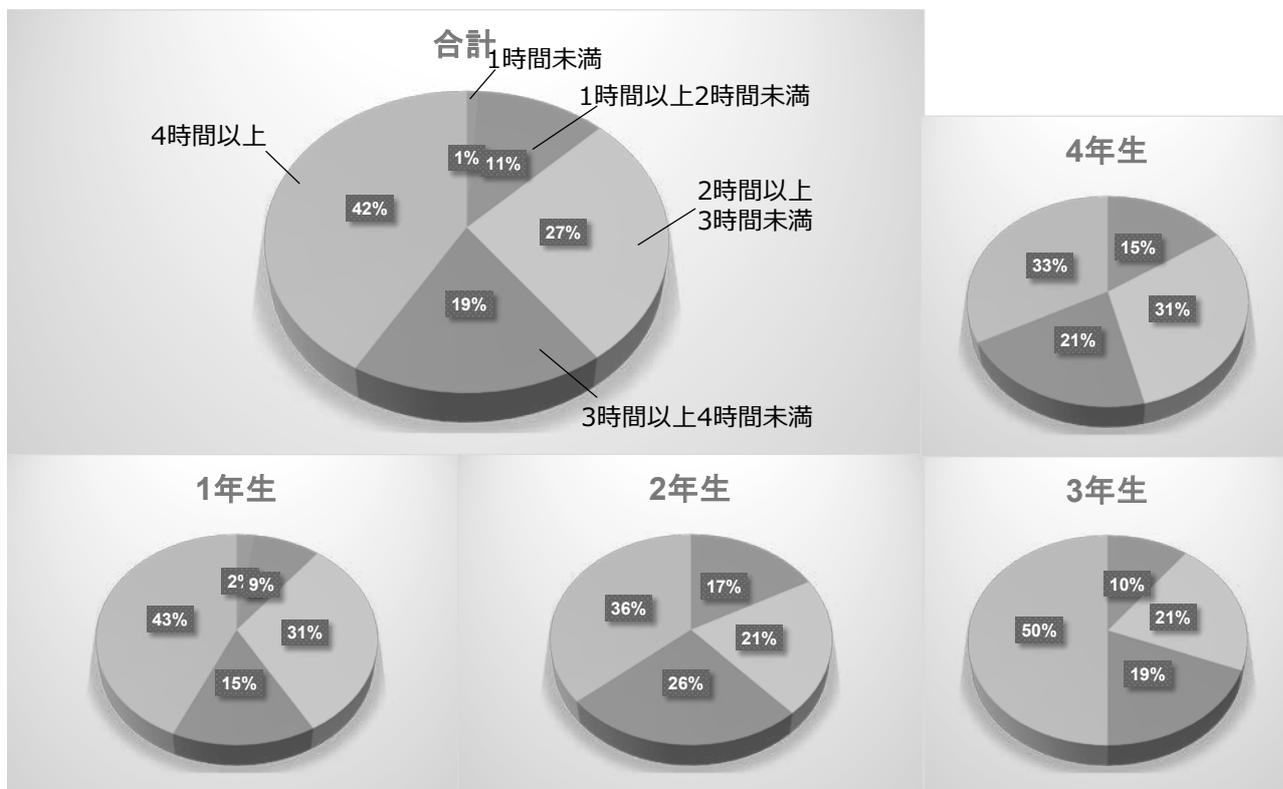
Q78 学生アンケートの項目に入れてほしいことはありますか。

- 総合的な困りごとを記入する欄
- 学生課、教務課について
- 特に難しかった科目について
- 座席指定について

計4件

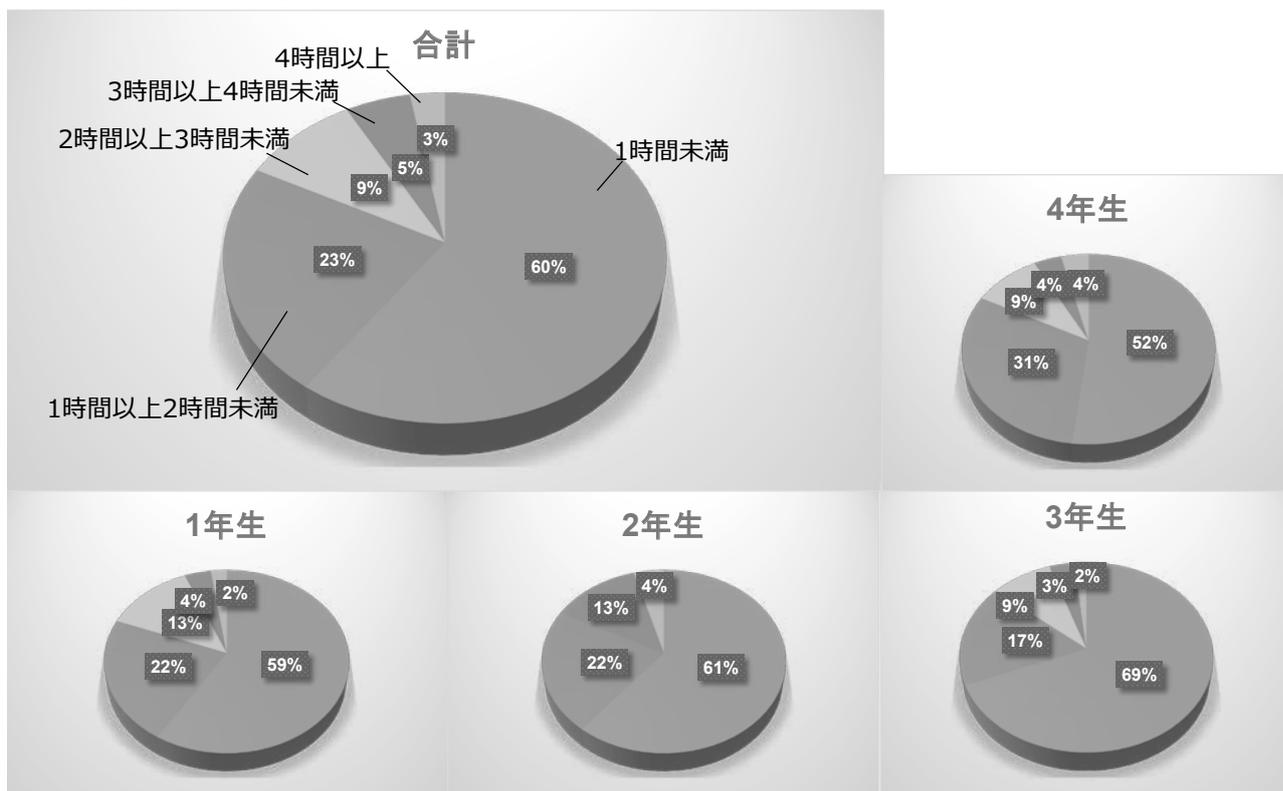
Q79 スマートフォンの1日の使用時間はどれくらいですか。

- 1 1時間未満 2 1時間以上2時間未満 3 2時間以上3時間未満
4 3時間以上4時間未満 5 4時間以上



Q80 ゲームは1日どれくらいやりますか。

- 1 1時間未満 2 1時間以上2時間未満 3 2時間以上3時間未満
4 3時間以上4時間未満 5 4時間以上





2023後期学生生活アンケート結果

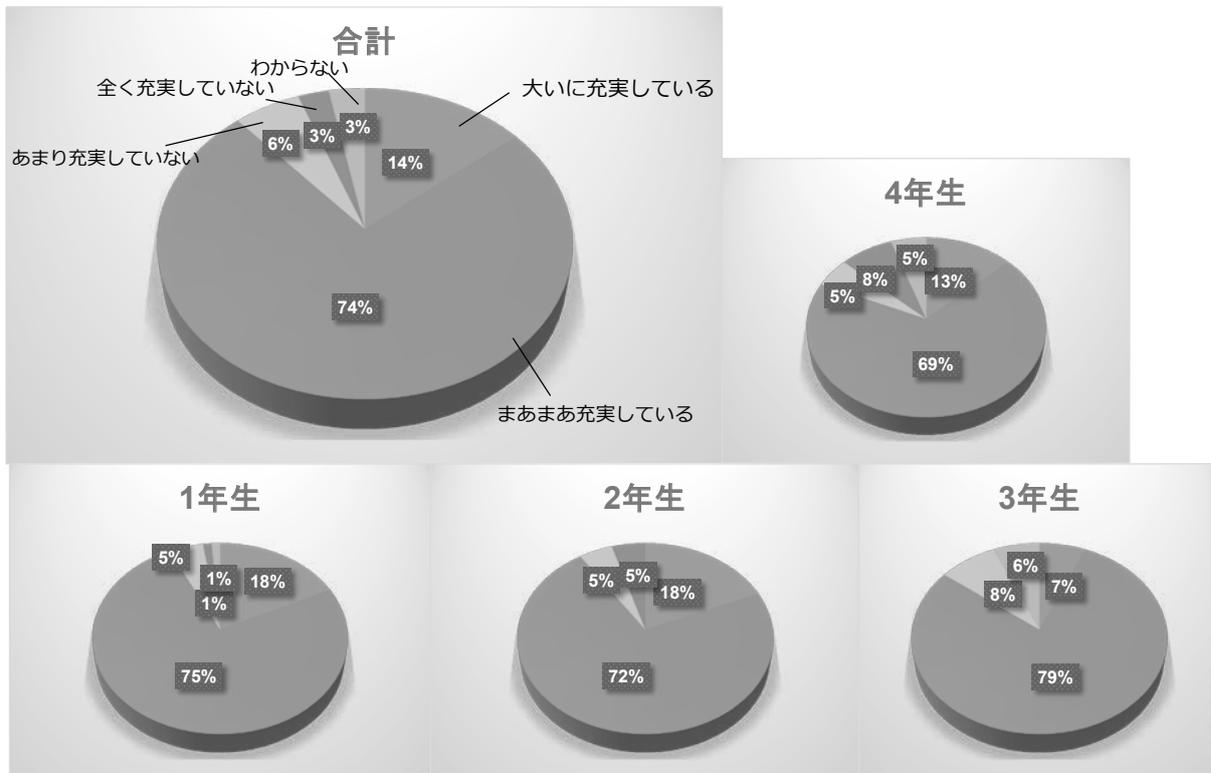


2023後期学生生活 アンケート回答者数

学年	1学年	2学年	3学年	4学年	合計
回答者数	84	44	62	38	228
学生数	252	269	279	237	1037
回答割合	33.3%	16.4%	22.2%	16.0%	22.0%

Q1 大学生生活を充実して過ごしていますか？

1大いに充実している、2まあまあ充実している、3あまり充実していない、4全く充実していない、5わからない



Q2 大学生生活で充実していると感じることを教えてください。

- 研究に関する活動が増えた、同じ研究室の人とよく話すようになった
- 自分が社会人として必要な知識の勉強も始めた
- トイレが綺麗なところ
- 部活と勉強とアルバイトの両立
- 不自由なく生活できていること
- 勉強する環境が十分に設けられているため。
- サークルや友人と一緒に過ごすことや、薬剤師としての実習を行うこと
- 友達が出来て切磋琢磨しながら勉学に励めていること

など計56件

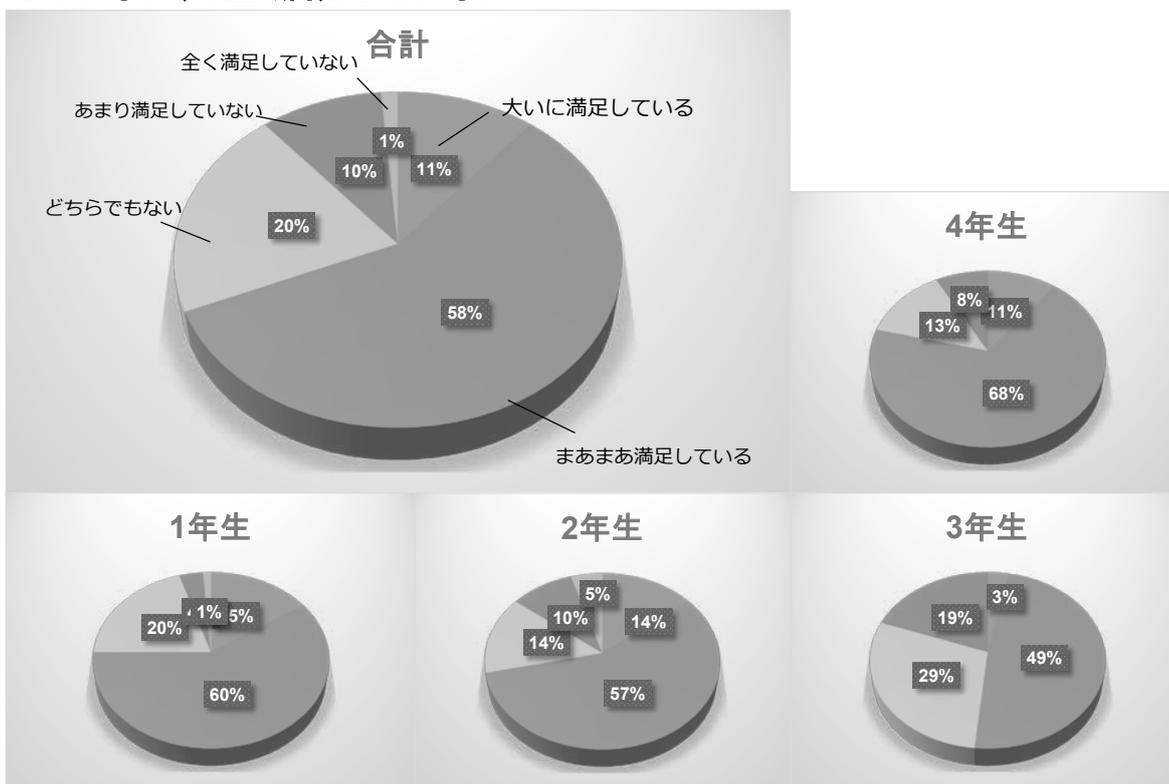
Q3 大学生活で充実していないと感じることを教えてください。

- 学園祭は活気が全然ないし、個人個人だけで楽しんでいるように見えて、全く楽しくなかった
- 学校以外でやることがあまりない
- 実習とCBT補講が重なっていた時期は自分の時間が取れず辛かった
- 駅から大学まで遠いため通学に公共バスを利用するが、毎朝学生のせいで混雑しているバスを見て市民の方々に申し訳なく思う。大学でバスを用意してくれると嬉しい
- 他大学との交流が無さすぎる
- エアコンの温度設定
- 大学にいくまでの交通の便が悪いこと
- 学食の量が少ない割に高い

など計35件

Q4 修学面(自身の学びの到達度)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q5 修学面(自身の学びの到達度)について満足していると感じることを教えてください

- 将来のために、確実に単位を修得できている
- 実験で得た知識が定着している
- しっかりと勉強するようになってきた
- 高校では学ばなかった人間の体の中のことや機能のことを知れたことです
- 1年の全ての単位をとれたこと
- 既習部分はコアカリが解けるくらいに身についた
- 入学時は底辺だったが、今は中の上ぐらいまで到達できたこと
- 授業で学んだことが日々の生活に活かすことが出来たり、新しいことを理解できるのは楽しいから
- eラーニングシステムが復習に役立っている

など計43件

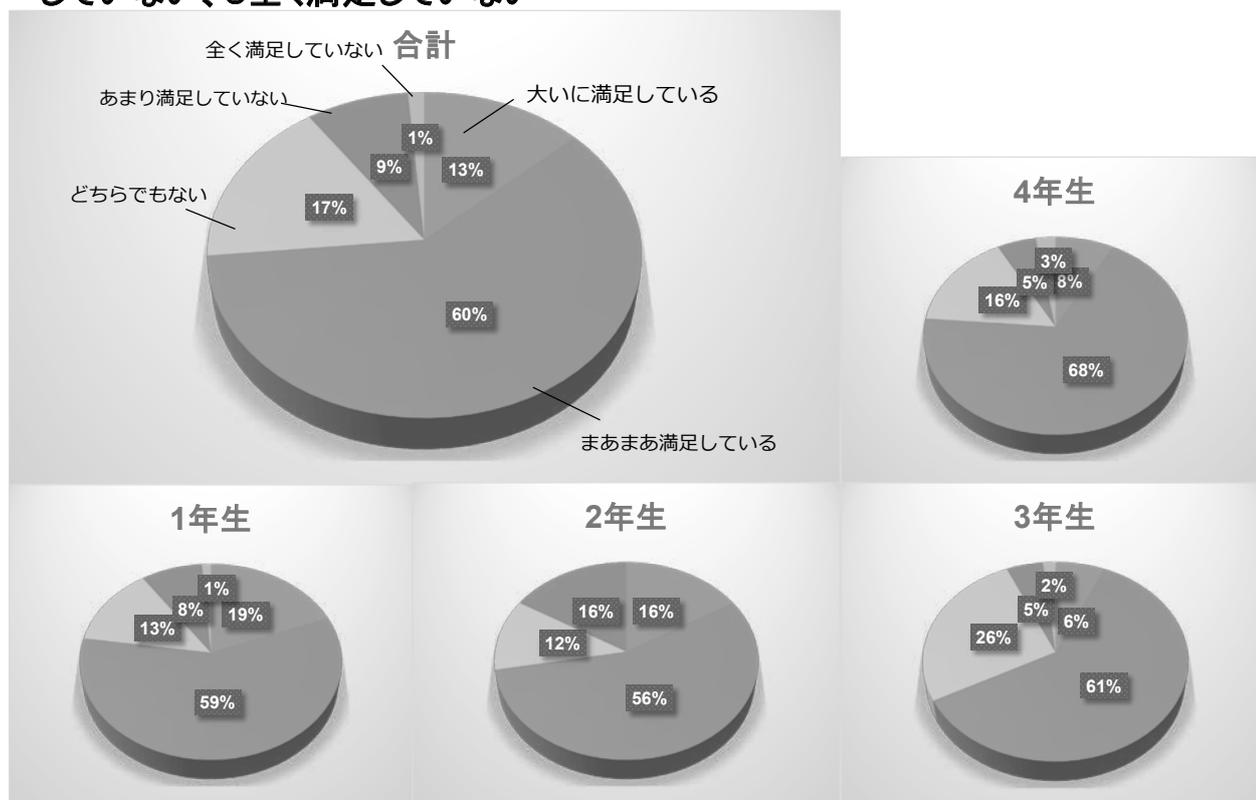
Q6 修学面(自身の学びの到達度)について満足していないと感じることを教えてください。

- 再試ゼロを目標にしているが、いつも再試が1科目あり達成できていないため
- テストが終わってから、知識が薄れていると感じる。
- バイトと勉強の両立
- もっと、他の人の考え方も知りたい
- 分からない科目をそのままにしまっているところです。授業動画も公開が終わってしまい復習ができません
- 実際の現場でどこまで活かせるのか
- 1、2年の内容がほぼ忘れているので、自分の記憶力に満足していない

など計33件

Q7 修学面(学習環境)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q8 修学面(学習環境)について満足していると感じることを教えてください。

- 自習室や図書室が自習しやすいスペースになっている
- ただ暗記するのではなく、本質の理解を意識して勉強しています。青本で国試の問題演習をしたり、分からない箇所は薬剤師である兄に質問して知識の理解を深めています
- 図書室や学習支援室、パソコン室等が好きな時に使えるのは非常にありがたい
- クラスがあってみんなに聞くことができる
- 授業動画をテスト前に見返せるのは復習になっていいと思います
- 学校内で勉強できる場所があること
- 講義を受ける上で、資料などが用意されていてとてもわかりやすい

など計42件

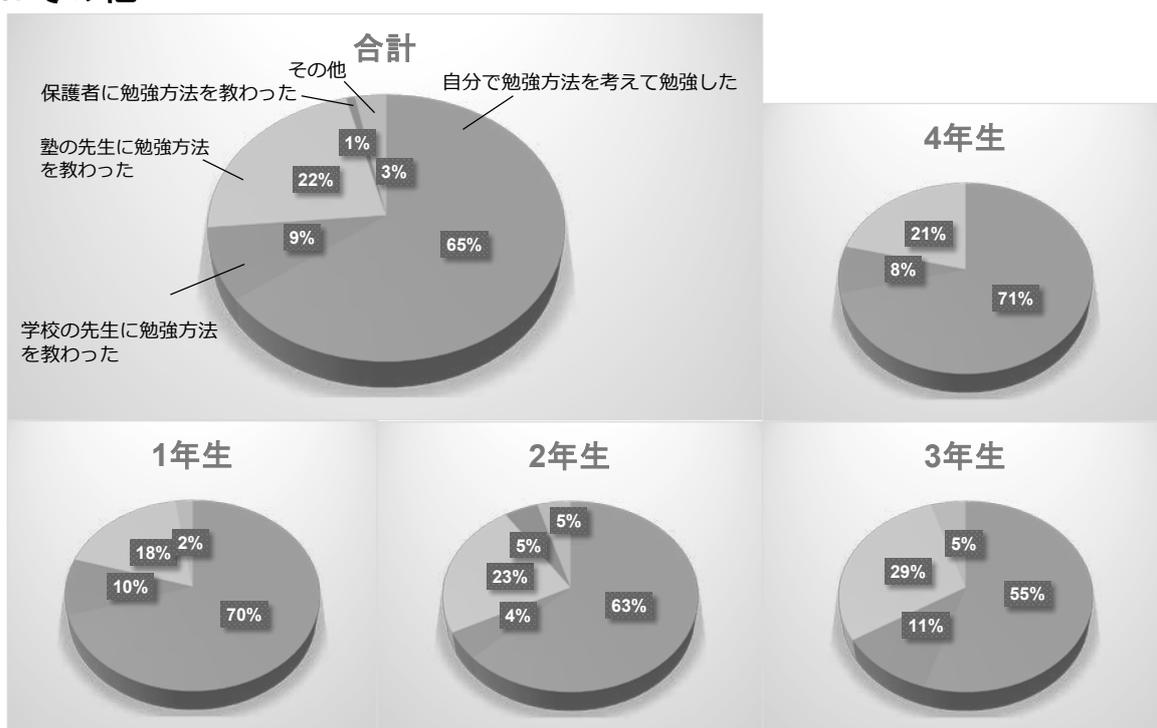
Q9 修学面(学習環境)について満足していないと感じることを教えてください。

- 飲み物や食べ物の持ち込み可の自習室があればと思う
- 勉強できるスペースを増やしてほしい
- テスト1か月前からだけでももう少し遅くまで学校を開けて、勉強させてもらえると嬉しいです
- 2階食堂上の奥側にある方の食事、自習スペースが臭い。いつ行っても臭いがこもっていることが大変不快
- 自習できる場所がもっと多いと良いと思う
- 勉強する際に正面に景色がある環境がないところ
- エアコンなどの空調がついてないことがある

など計55件

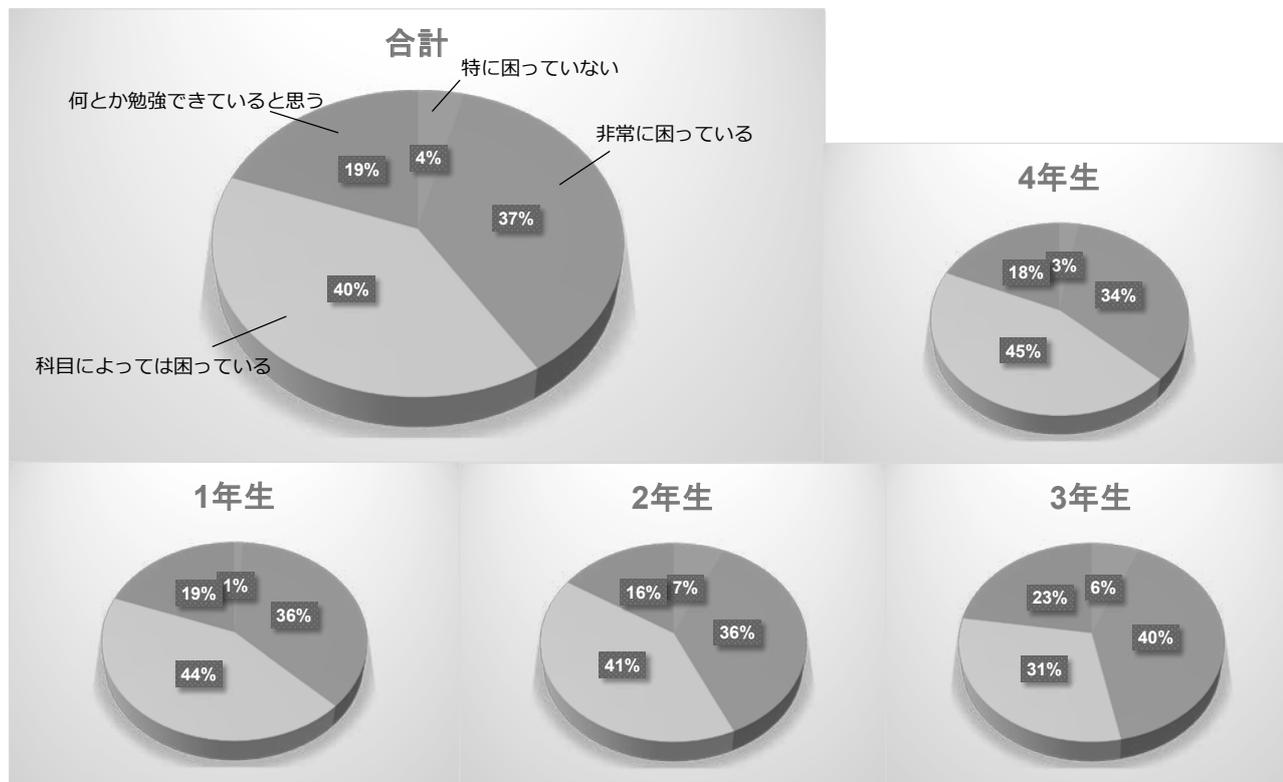
Q10 高校時代の勉強方法についてお聞きします。もっとも当てはまる勉強方法について、1つ選んでください。

1. 自分で勉強方法を考えて勉強した。
2. 学校の先生に勉強方法を教わった。
3. 塾の先生に勉強方法を教わった。
4. 保護者に勉強方法を教わった。
5. その他



Q11 勉強方法に困っていますか？

1. 非常に困っている。
2. 科目によっては困っている。
3. 何とか勉強できていると思う。
4. 特に困っていない。



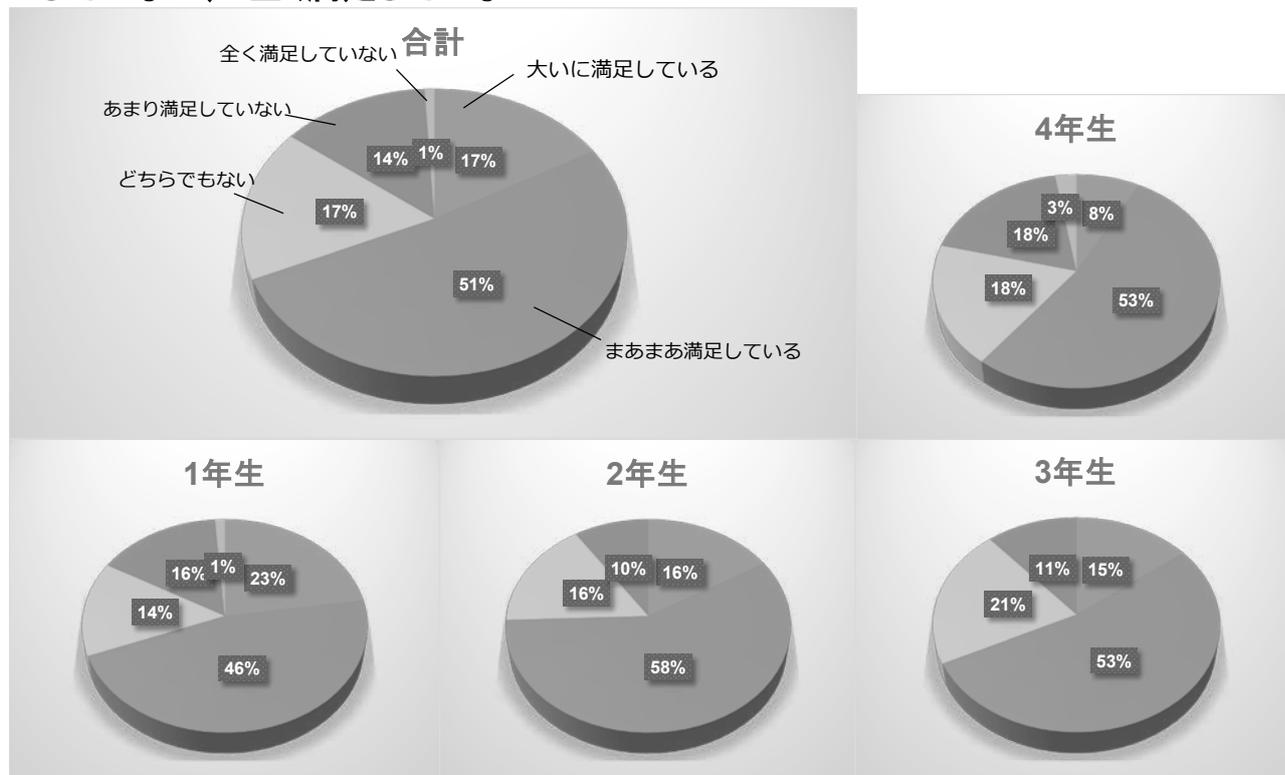
Q12 Q11で1～2を選んだ方は何をどう困っているか教えてください。

- 似たような名前があると混乱したり、レジユメでややこしい図があると覚えにくい
- どのように勉強すれば良いかあまりわからない
- 暗記科目の勉強方法が未だに分からない
- 勉強は間に合っているし、成績も悪くはないが、本当にこれがベストな勉強方法なのかは自分でもよくわかっていない。もっと効率のいいやり方がある気がする
- 教えてもらった勉強法を実践する場面を1日の中に作り出せていない
- 春休み中にノートに生物などをまとめたいと思うのですが、情報が多すぎてまとまらないことです

など計33件

Q13 生活面(安全安心に過ごせる環境、売店、食堂など)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q14 生活面(安全安心に過ごせる環境、売店、食堂など)について満足していると感じることを教えてください。

- 食堂のご飯も美味しく、売店もありがたい
- 飲み物のラインナップは良いと思う
- 清掃が複数回はあるため、衛生的に心配がないこと
- 売店や食堂、部室棟が使用できるのは良いと思う
- 勉強環境が快適であること
- 売店の商品がとても充実しているところ
- 安全安心に過ごせる環境である

など計34件

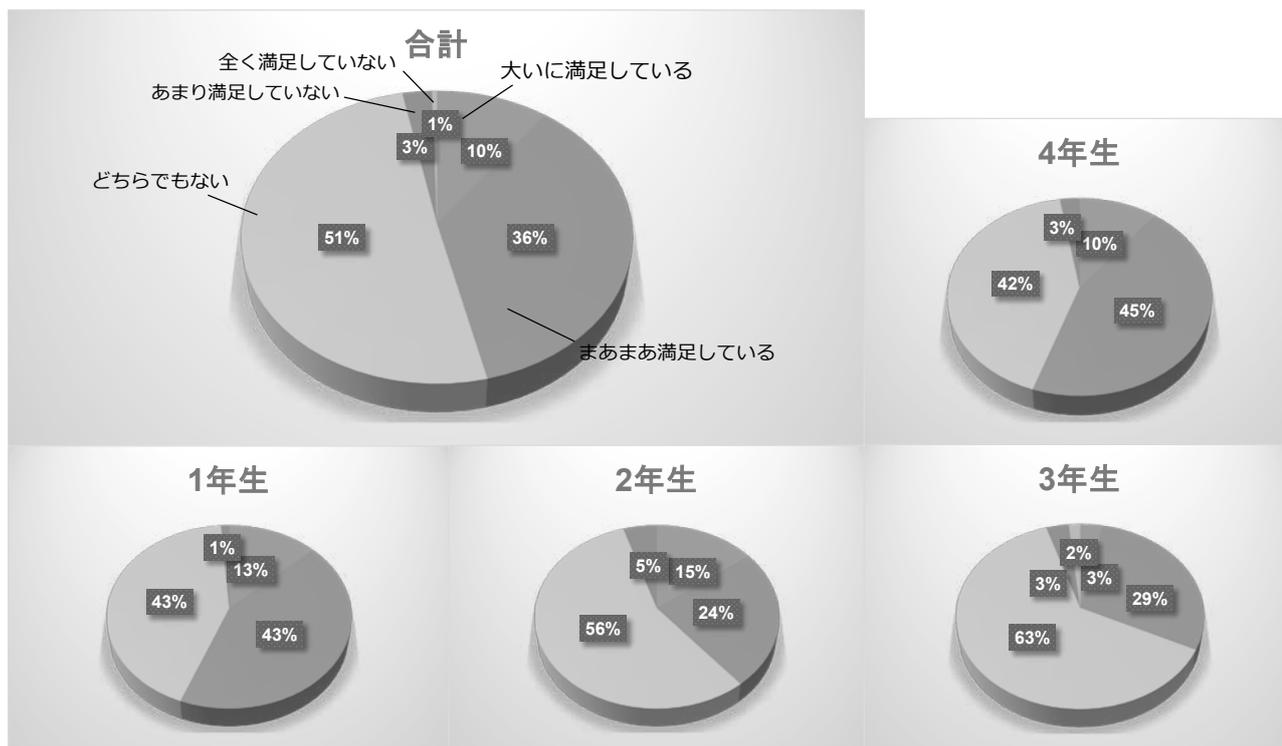
Q15 生活面(安全安心に過ごせる環境、売店、食堂など)について満足していないと感じることを教えてください。

- 1階の食堂が冬はとにかく寒い、売店がコンビニよりも高い価格設定で不便
- 売店の品数は多くない時があり、ご飯系はすぐに売れてしまう。そのため、カップラーメンを食べることも少なくない
- 駅から遠いうえに、大学のバスなどの整備がないことが不便
- 売店・食堂ともに混んでいるので、利用したいと思えない
- エアコンの温度についてですが、夏は寒すぎ、冬も寒すぎで授業に集中できません
- 食堂が人が多すぎて座れないこと、値段が高い
- キッチンカーの頻度を増やしてほしい

など計49件

Q16 進路支援(就職、進学、ガイダンス、キャリアサポートステーションなど)について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q17 進路支援(就職、進学、ガイダンス、キャリアサポートステーションなど)について満足していると感じることを教えてください。

- 就活イベントが結構ある
- 進学について、考えるようになって来た
- 実際に病院で働いている方や専門家の方の話を聞く授業があるのはとてもためになると思います
- 将来の進学の可能性について考えるきっかけになりました。
- 就職に心配することがなさそうなこと
- 今のうちからどのような職業があるかなど知る機会があること
- いつもわかりやすくガイダンスで説明してくれるため、わかりやすい

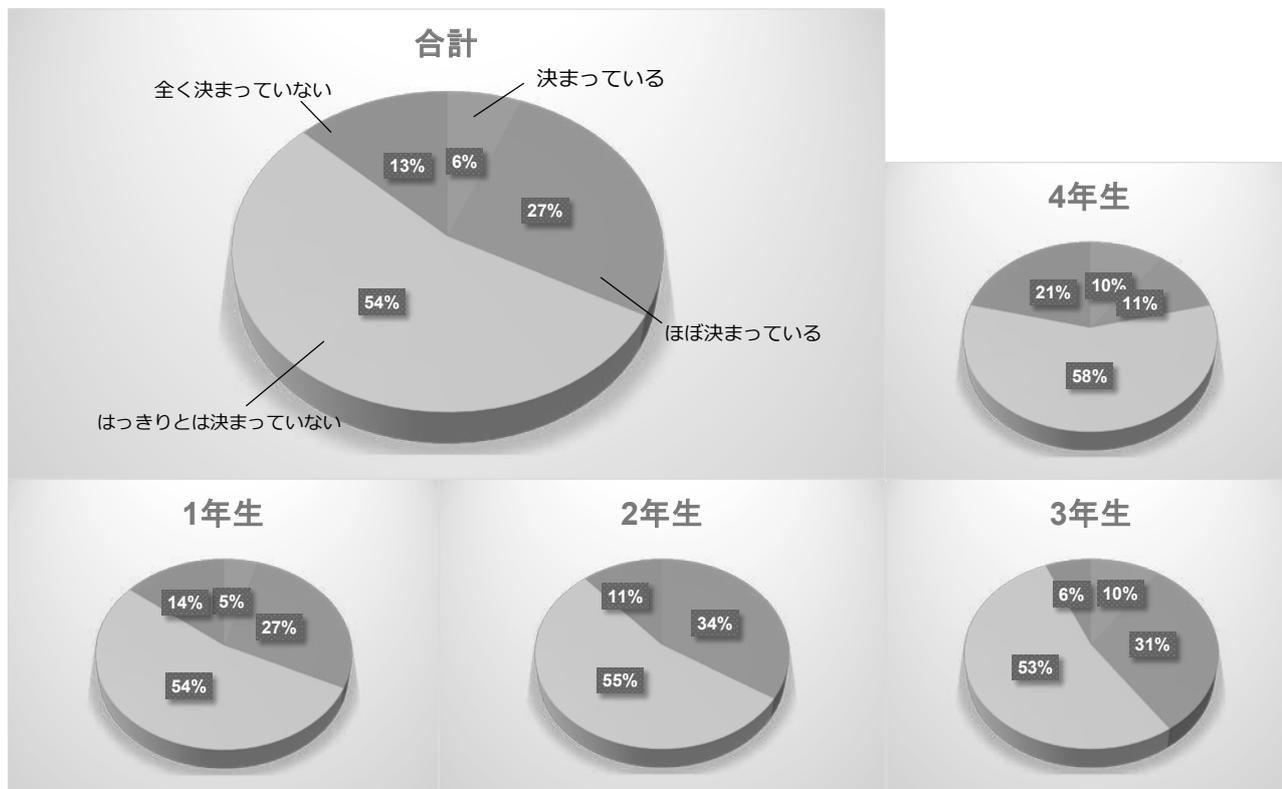
など計17件

Q18 進路支援(就職、進学、ガイダンス、キャリアサポートステーションなど)について満足していないと感じることを教えてください。

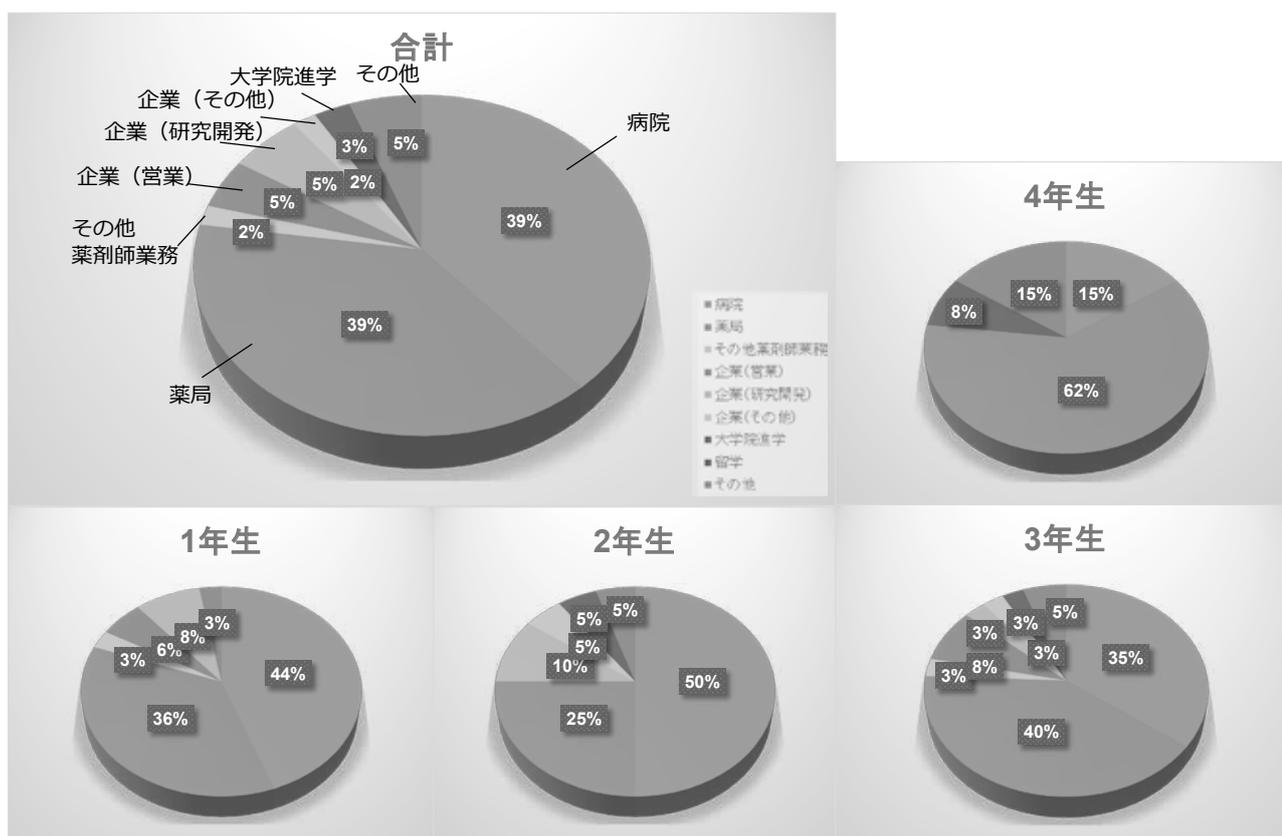
- 3年生だと、企業説明ガイダンスや講演は少し行きづらい
- 就職についてはまだあまり詳しい情報が得られる機会がないのかなと感じました
- 低学年の学生は、高学年がどのようなスケジュールなのか、など先のことが見えないまま過ごしている部分がある
- 相談などのシステムはまだあまり利用したことがないためわからない
- メーカーの研究・開発職などの情報が少ない
- 全学年参加できると書いてあるが、高学年ばかりで参加しづらい
- オンラインで参加できるイベントもあったら良いと思う

など計14件

Q19 自身の卒業後の進路について教えてください。
 1 決まっている、2 ほぼ決まっている、3 はっきりとは決まっていない、4 全く決まっていない

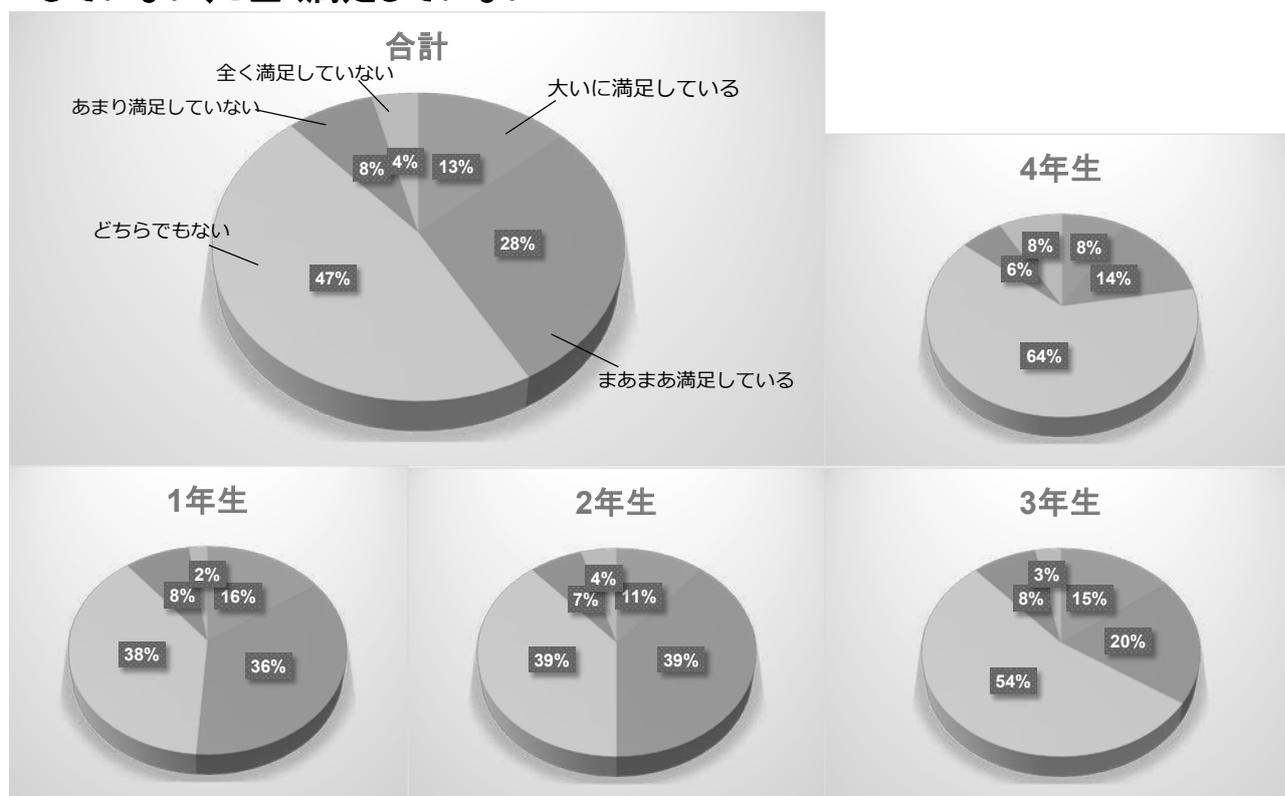


Q20 決まっている人にお聞きします。どの職種を希望していますか。



Q21 部活動などについて満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q22 部活動などについて満足していると感じることを教えてください。

- 自由参加であり、イベントもある
- 無理に参加しなくてもよいところ
- 先輩ができたため、過去問や勉強のコツについて教えてくれた
- 部活動を通して他の学年の人や、同学年の人と仲良くなれた
- テストに支障が出ない程度に活動できていて良いと思う
- 交友関係が広まったこと
- ライブハウスでライブができること。先輩と仲良くなれること

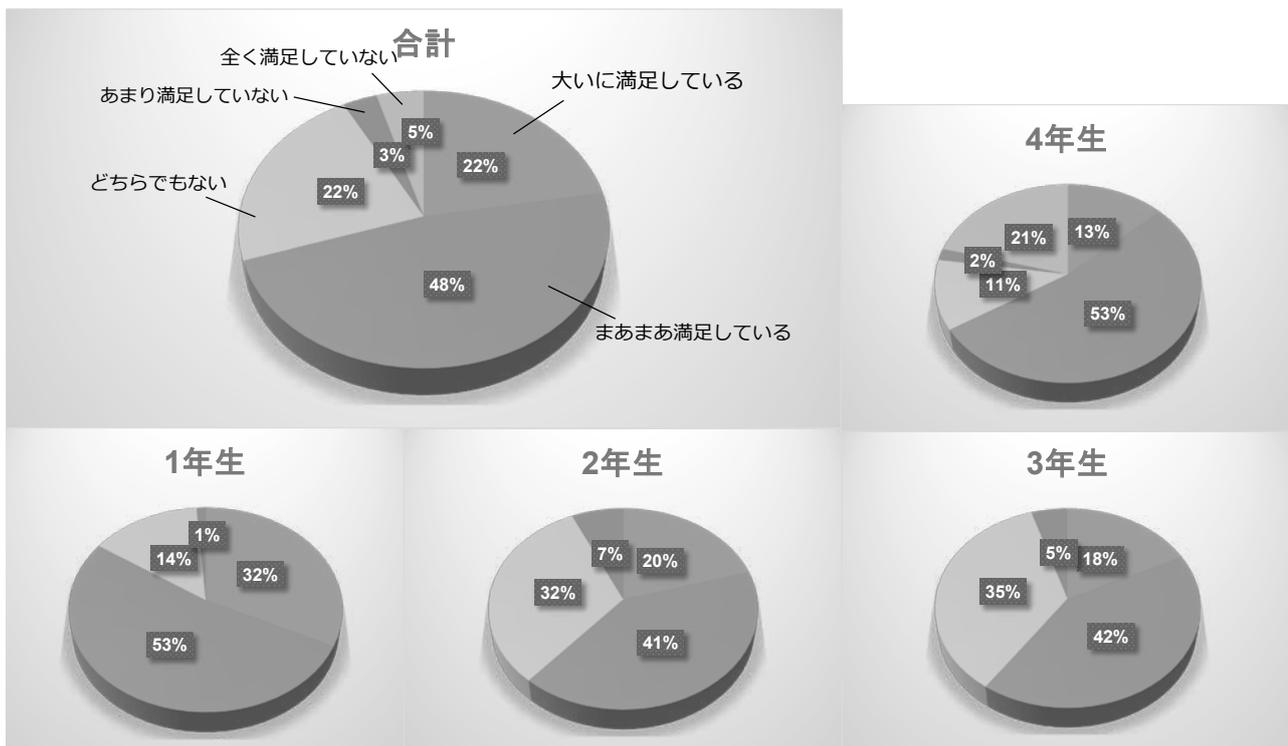
など計28件

Q23 部活動などについて満足していないと感じることを教えてください。

- 先輩が全て決めているので意見の食い違いや、連絡の有無などが問題になるときがあります
- 部活動の数が少なく、部活動が活発ではないこと
- しょうがないとは思いますが、もう少ししっかり部活に取り組みたい
- 講義や実習で部活動の時間が取れない

など計21件

Q24 健康面のサポート(保健室、予防接種、健康診断、心身健康相談)について満足度を教えてください。
 1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q25 健康面のサポート(保健室、予防接種、健康診断、心身健康相談)について満足していると感じることを教えてください。

- 保健室を利用したとき、先生が親身だった
- ここほっとルームを利用させていただいている
- 貧血で倒れた時に保健室で適切な対応をしてくださった
- 健康診断において自身の健康についてよく把握できること
- 親切に健康診断をやってくれること
- 健康サポートが徹底されているところ
- 健康診断がしっかりしているところ

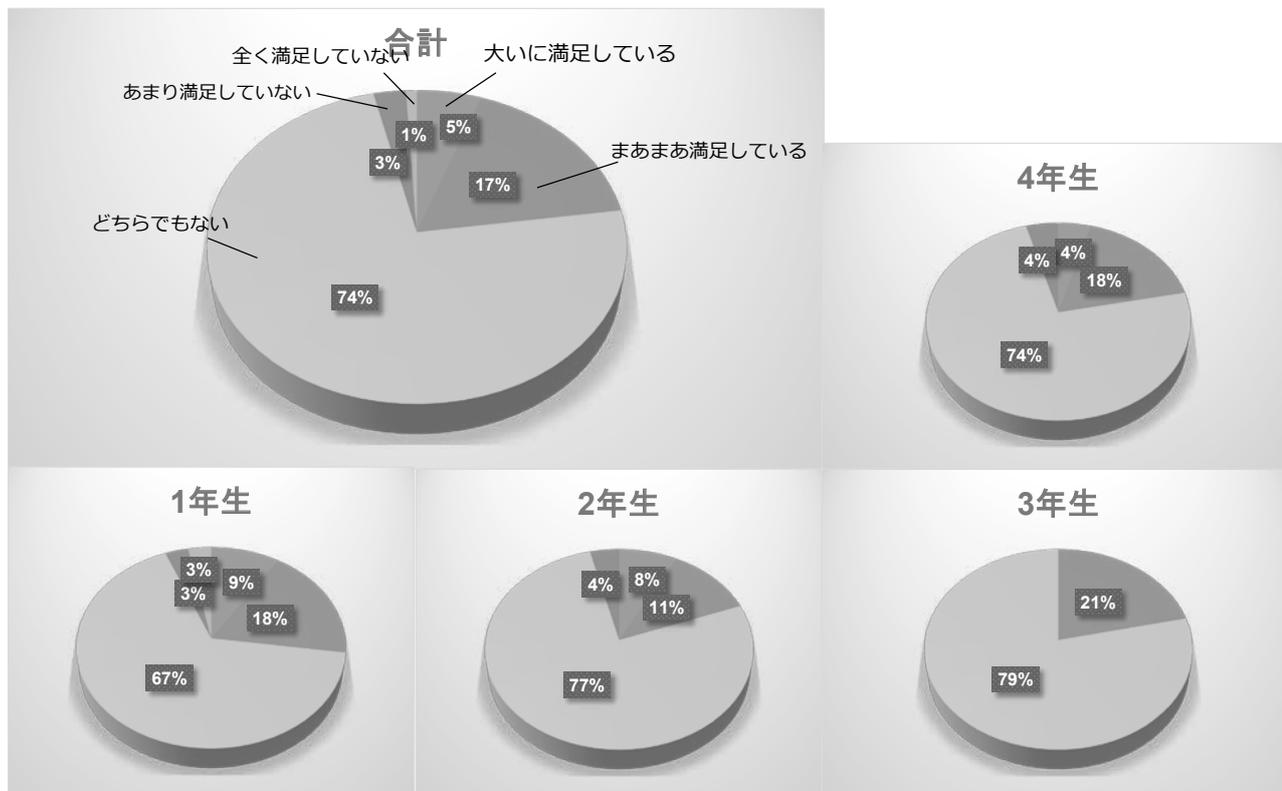
など計18件

Q26 健康面のサポート(保健室、予防接種、健康診断、心身健康相談)について満足していないと感じることを教えてください。

- 学校でインフル受けたいです
- 検査結果をもう少し早く返却してほしい
- 前のコロナワクチンの接種が夏休み中だった時があり、帰省中で受けることができなかった
- 健康診断で引っかかったワクチンが自腹なのが大変
- 健康診断が春休み中にあること

など計6件

Q27 オフィスアワーについて満足度を教えてください。
 1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q28 オフィスアワーについて満足していると感じることを教えてください。

- 先生が質問などに応じてくださるのはありがたいです。
- 訪問しやすい

計2件

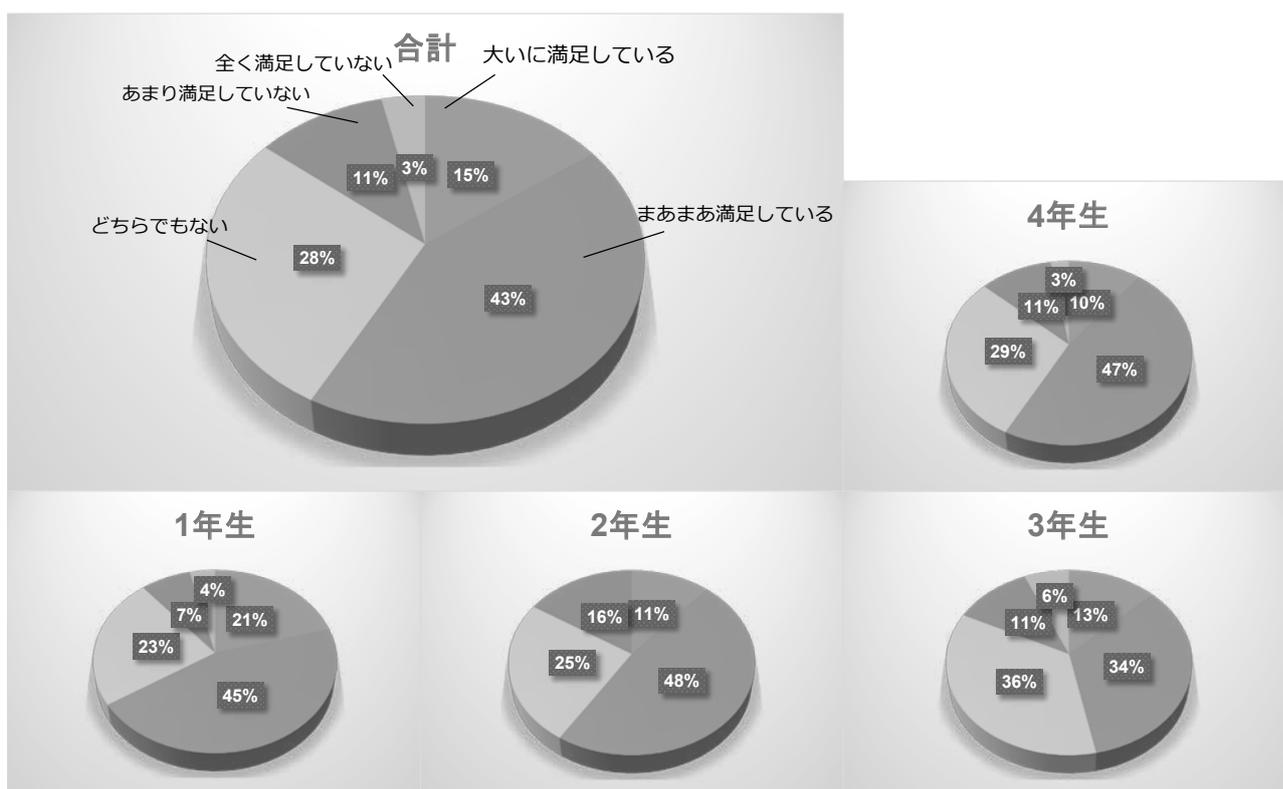
Q29 オフィスアワーについて満足していないと感じることを教えてください。

- ・ 授業と被っているタイミングがあり無理すぎる
- ・ オフィスアワーと講義の時間が被っていることがあり、利用しづらいことがある

など計3件

Q30 アドバイザー制度について満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



Q31 アドバイザー制度について満足していると感じることを教えてください。

- アドバイザーの先生を信頼しているから
- 成績について相談できる場があっていいと思います
- 同学年の知り合いができる
- 研究室の教授が優しいから
- 連絡したことに対してすぐに対応してくださったので助かった
- 他の学年や同学年の人と関わることができる
- 話せる先生がいるという安心感がある

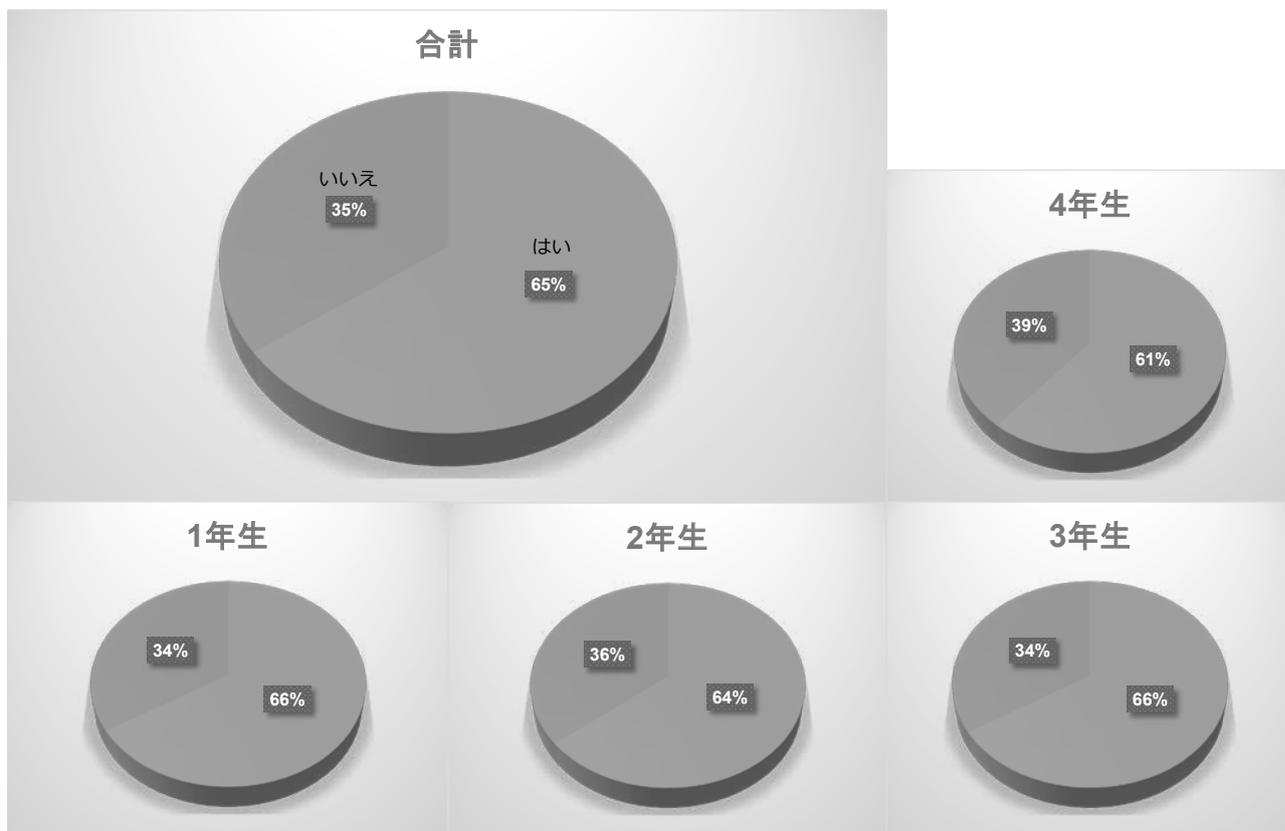
など計28件

Q32 アドバイザー制度について満足していないと感じることを教えてください。

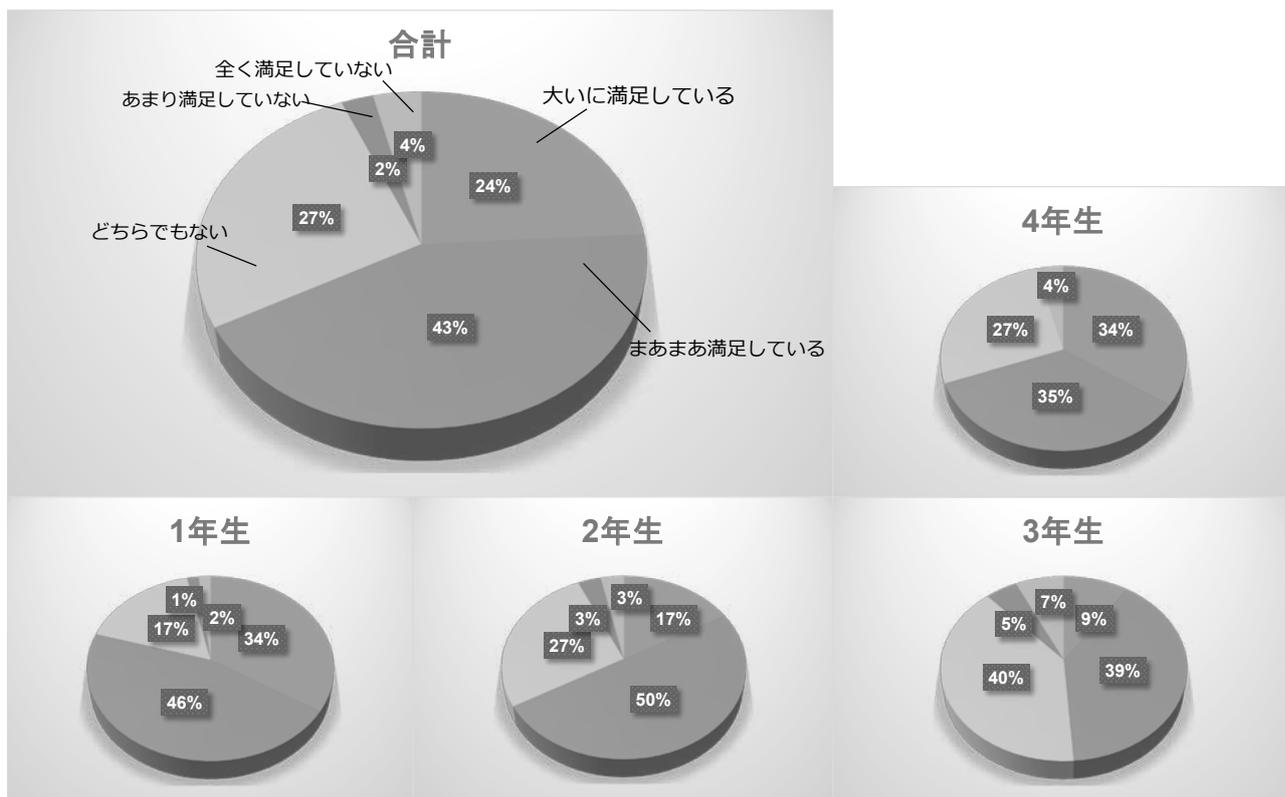
- 集まる機会が少なく、交流がほぼない
- 先生に、友人関係について相談に行ったら突き放された言い方をされた
- アドバイザーの他学年間の関わりがなく、また関わる必要性もあまり感じない
- 欠席届けにアドバイザーの先生の印が必要だが、先生とも関わる機会が少ないため、面倒に感じる
- 何度もメールをしてしまい、申し訳ないと思った
- アドバイザーから今後のアドバイザー会についてのほとんど連絡が来ないこと
- 書類提出の際にサインをもらいに行くのが大変

など計27件

Q33 アドバイザー会を実施しましたか。
1 はい、2 いいえ



Q34 アドバイザー会の満足度を教えてください。
1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



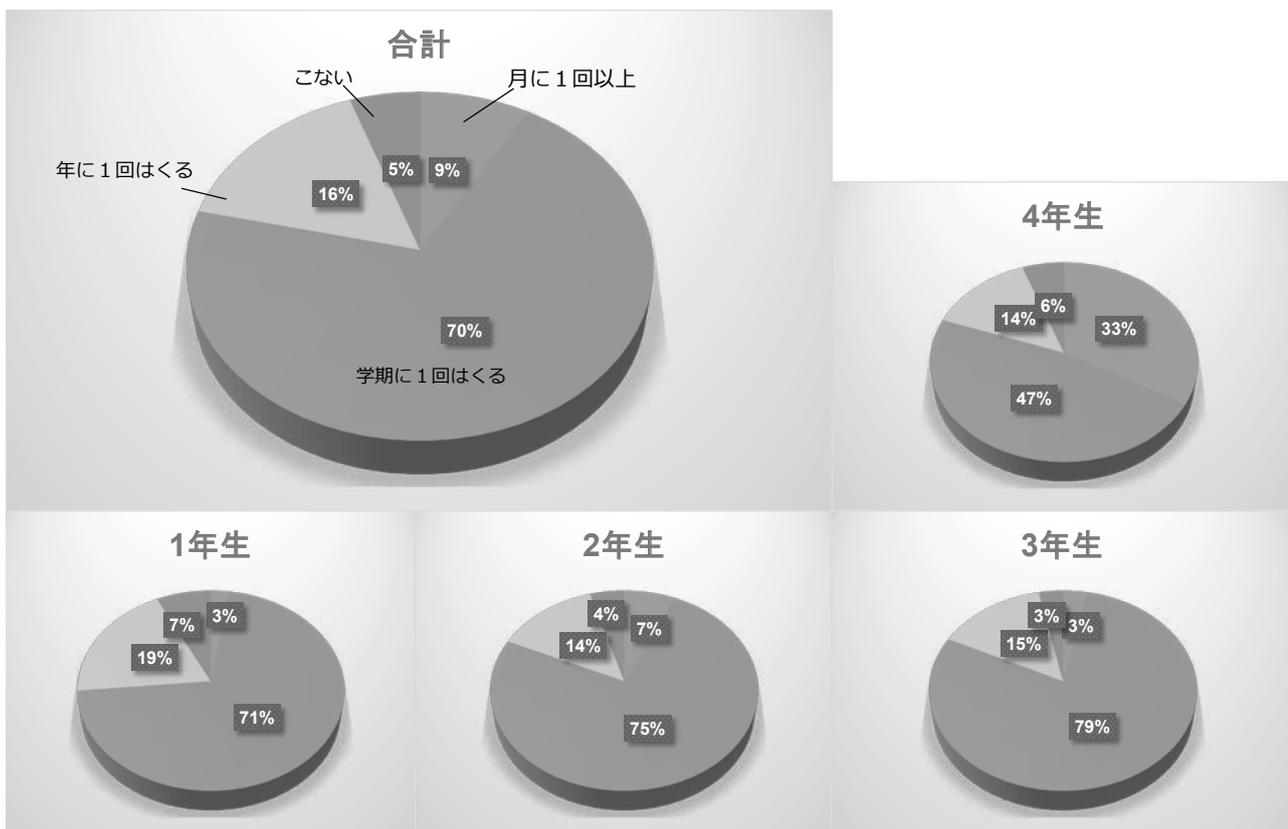
Q35 アドバイザー会について、ご意見があればお願いします。

- アドバイザーによって差がある
- アドバイザー先生ごとに特色のあるアドバイザー会でなく、アドバイザー会の内容を統一して欲しい
- もう少し縦の繋がりが増えれば、学習面の情報交換ができて後輩にも役立つと思う
- 任意での参加を許可して欲しいです
- もう少し早めにアド会のお知らせをいただきたいです
- 学外で2時間くらいアドバイザー会をやったのですが、席が固定で一部の人としか話せなかったのもっと他の学年の人と話しやすくして欲しいです
- 平日の学校がある日に行って欲しい

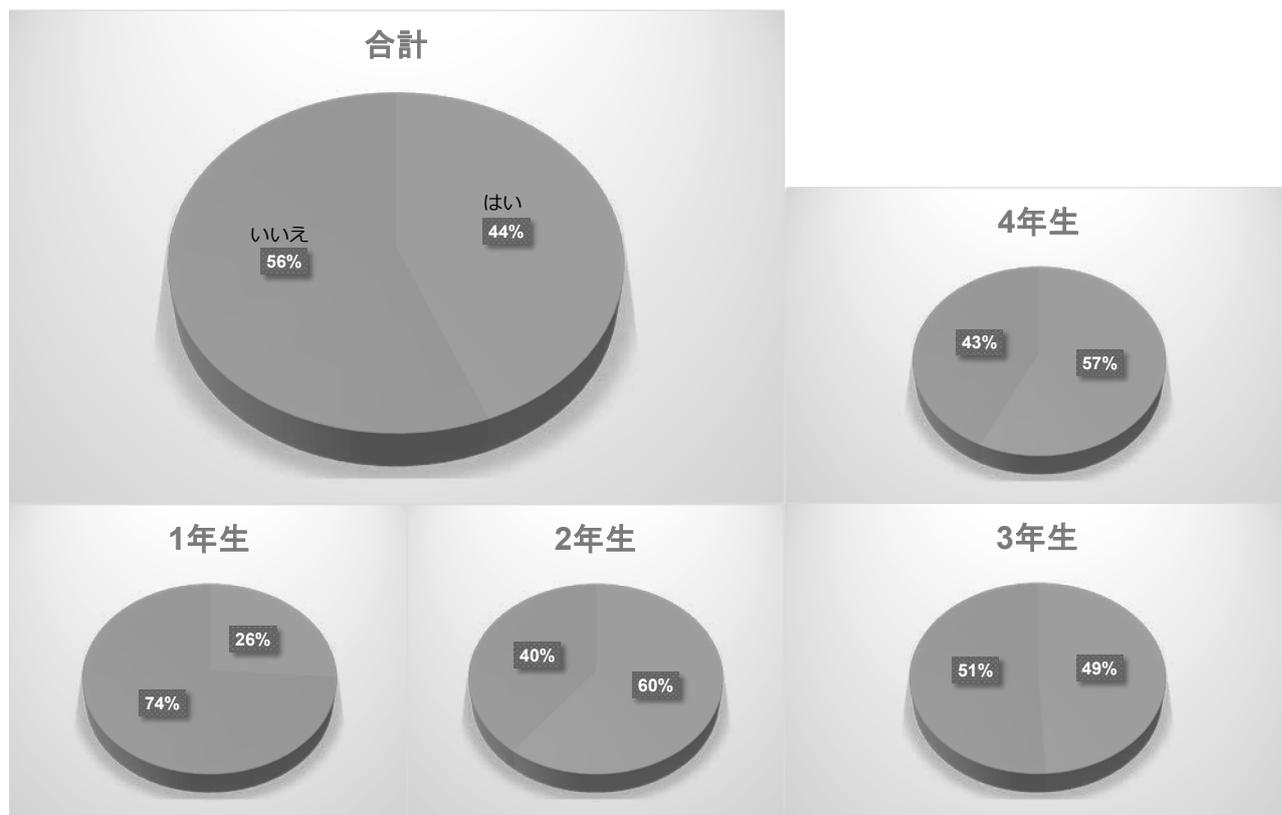
など計13件

Q36 アドバイザーからは適宜連絡が来ますか。

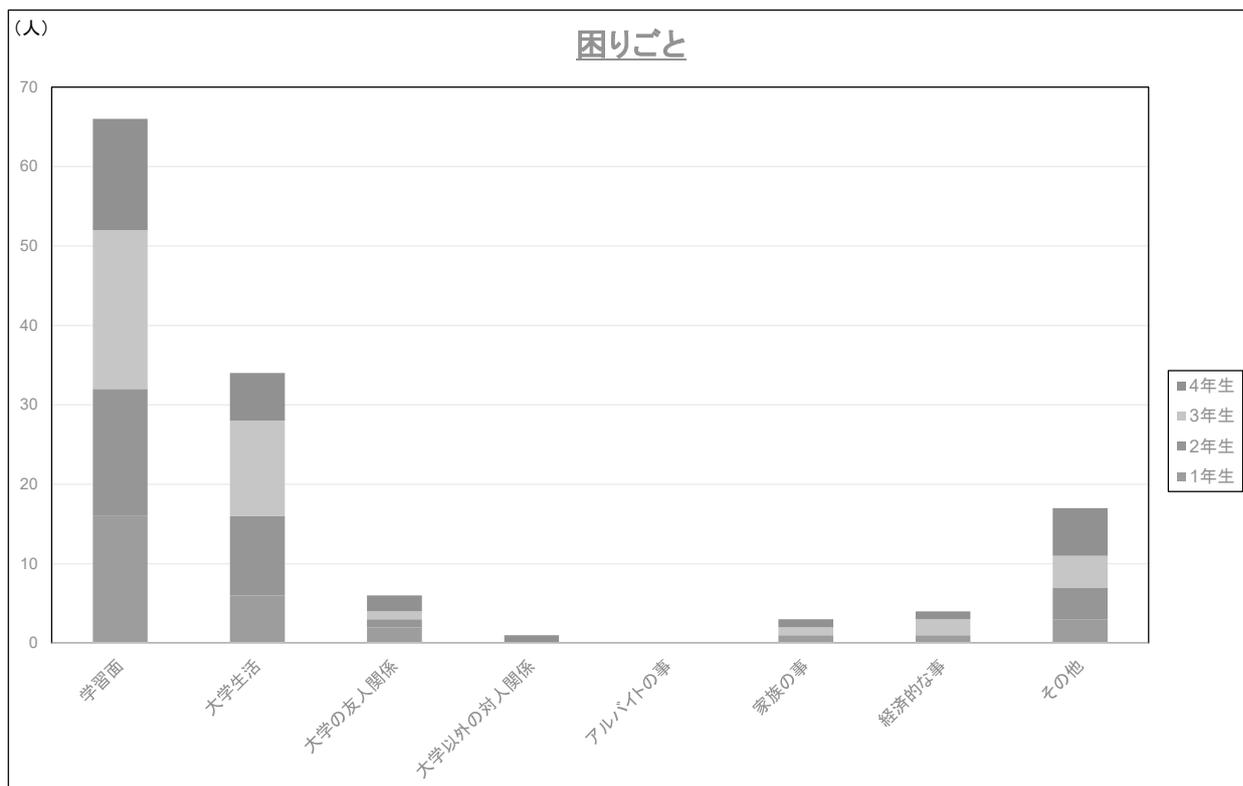
1 月に1回以上、2 学期に1回はくる、3 年に1回はくる、4 こない



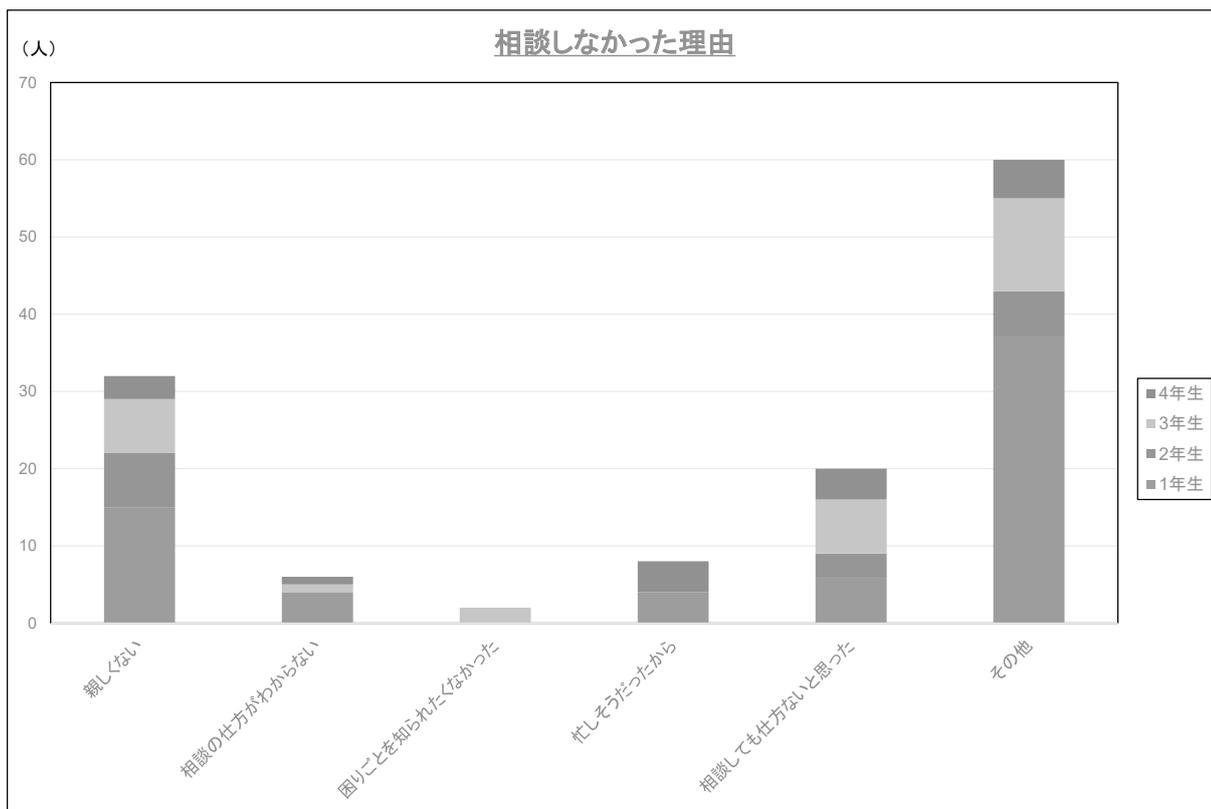
Q37 困ったことがあった時アドバイザーに相談したことがありますか。
1 はい、2 いいえ



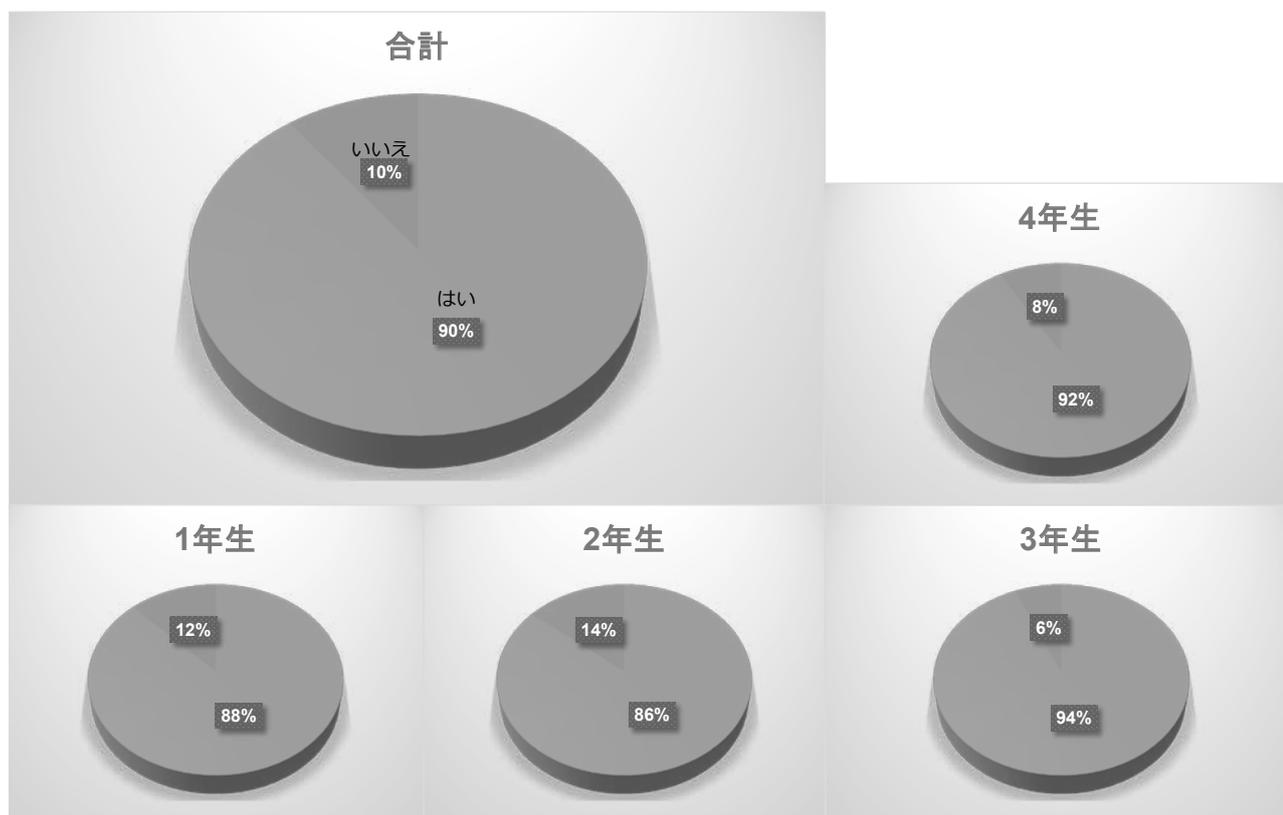
Q38 どんな困りごとでしたか？(複数回答可)。



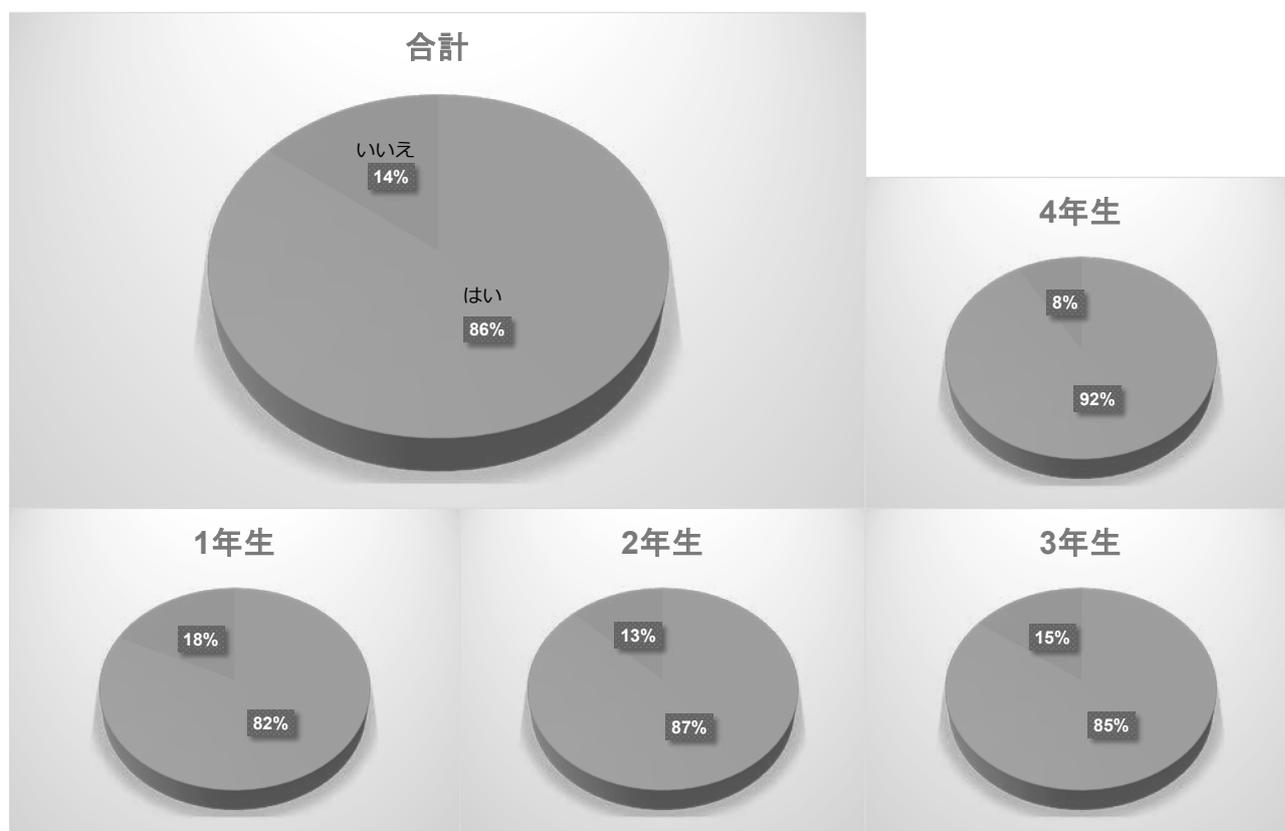
Q39 相談しなかった理由(複数回答可)



**Q40 ピアサポーター制度を知っていますか。
1 はい、2 いいえ**



Q41 manabaにピアサポーターのコンテンツがあることを知っていますか。
1 はい、2 いいえ

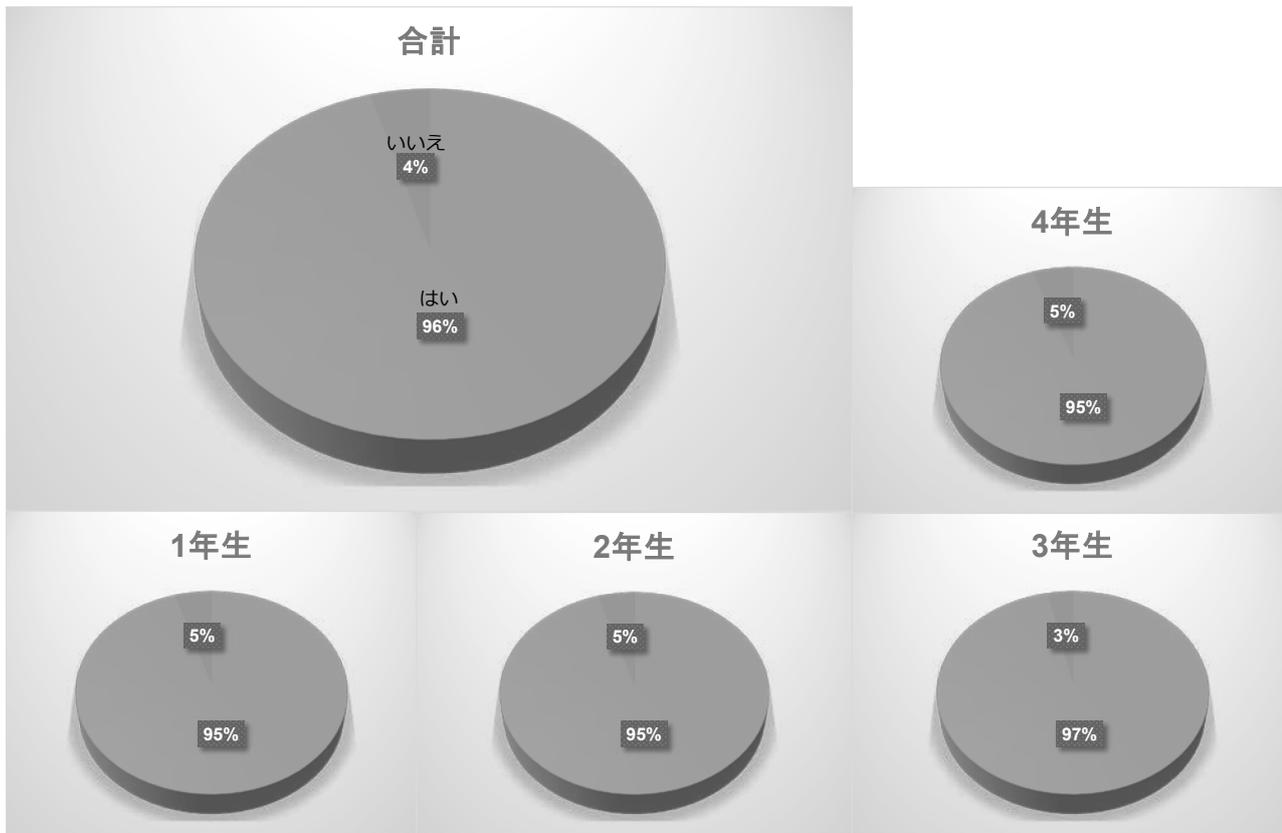


Q42 ピアサポーターについて、ご意見があればお願いします。

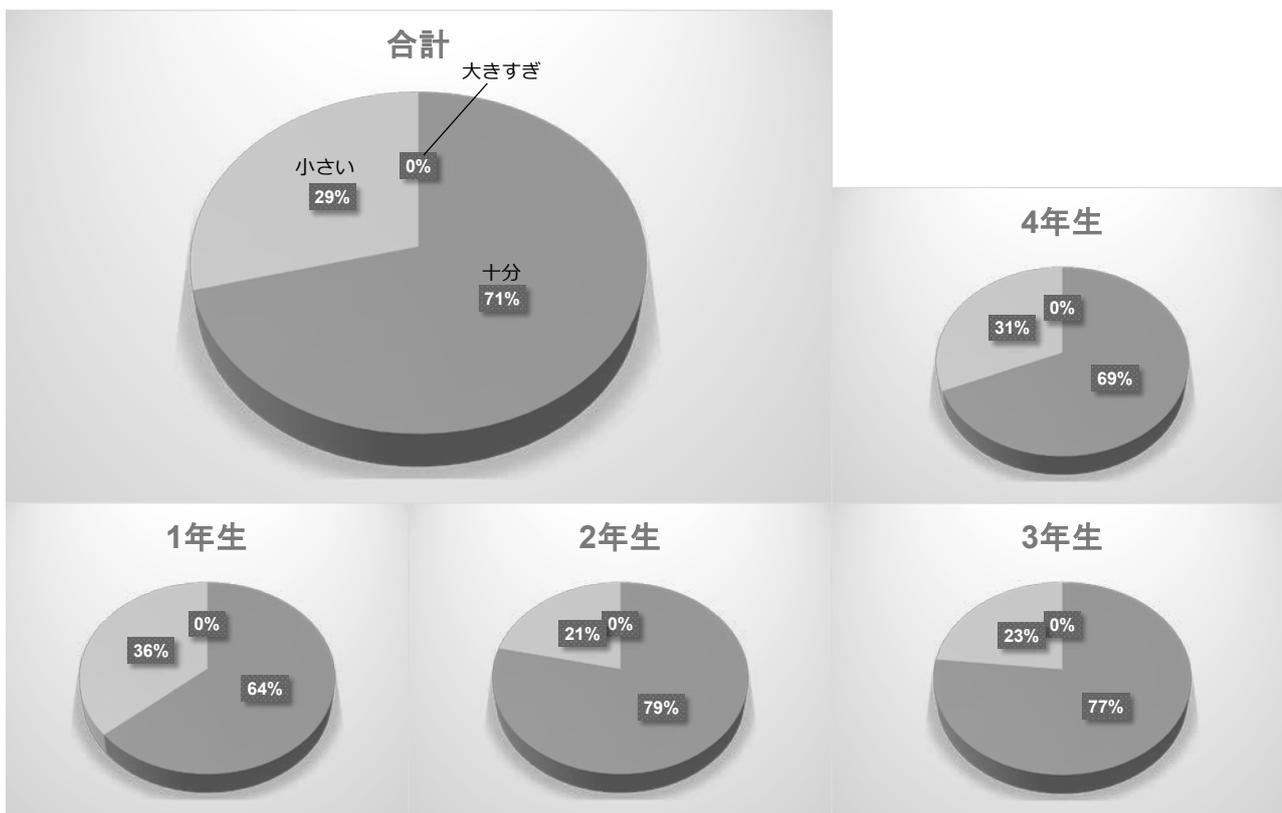
- わからないことがあったとき助けてくれて、プラスアルファのことも教えて下さり助かりました
- 質問などに答えているのが良いと思った
- 場所的に、利用しにくい
- Xで色々な情報を教えてくれるため、よく活用しています

など計6件

Q43 ロッカーについて使用していますか。
1 はい、2 いいえ

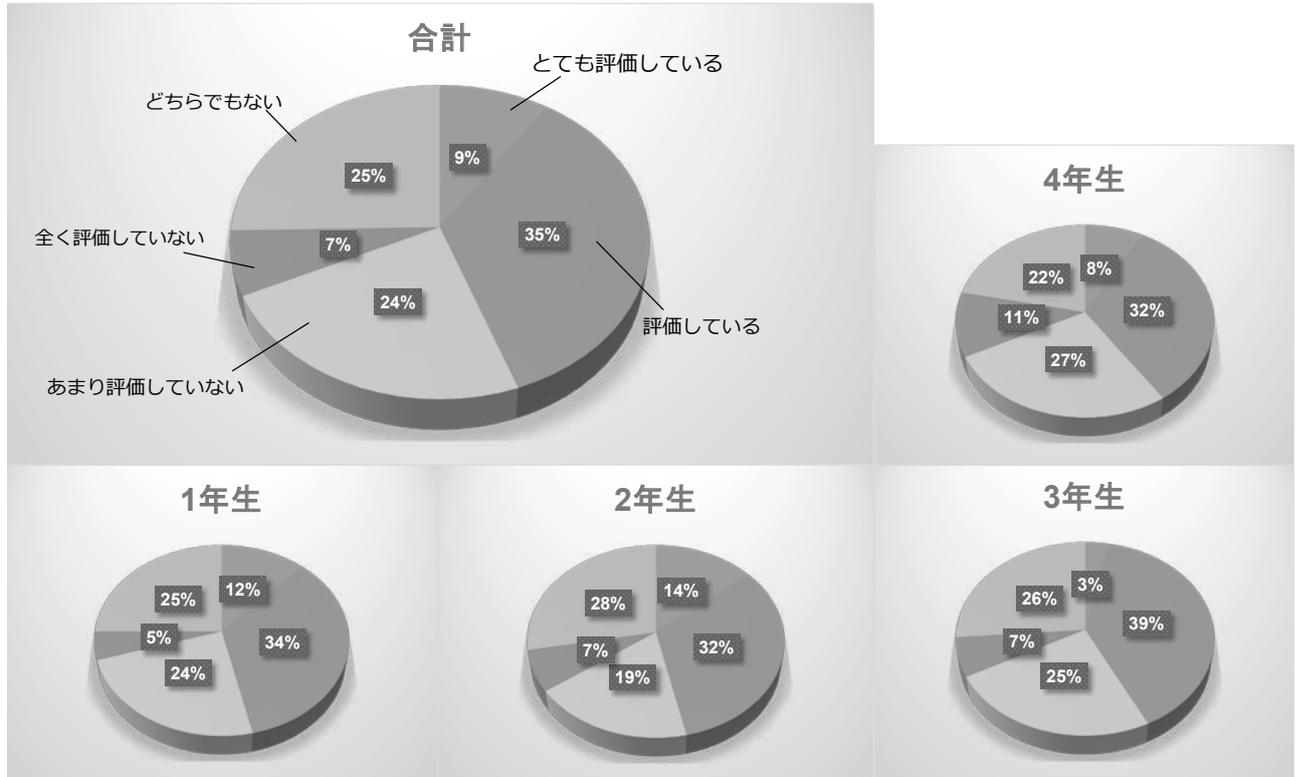


Q44 ロッカーを使用している人に聞きます。大きさについて回答ください。
1 大きすぎ、2 十分、3 小さい



Q45 出席不正についての大学の取り組みについて

1. とても評価している 2. 評価している 3. あまり評価していない
4. 全く評価していない 5. どちらでもない



Q45-2 出席不正についての評価しているところ

- ・ 出席不正はしてはいけないと強く求めているところ
- ・ ●●先生は、毎回やるのは大変だと思うが、欠かさず対策していてすごいと思う
- ・ たまに抜き打ちチェックがあること
- ・ きちんと取り組んでる人がわかるのが良いと思います
- ・ 不正に対し厳しい措置がされる事
- ・ 授業に出席している人が明確に分かっていいと思う
- ・ 時に出席確認を授業中にすること
- ・ 講義中に手書きの出席カードを配るところ。講義中に講義を受けている人数分配っているため不正を防げていると思う
- ・ 不正している人に対して徹底的に指導しているところ

など計39件

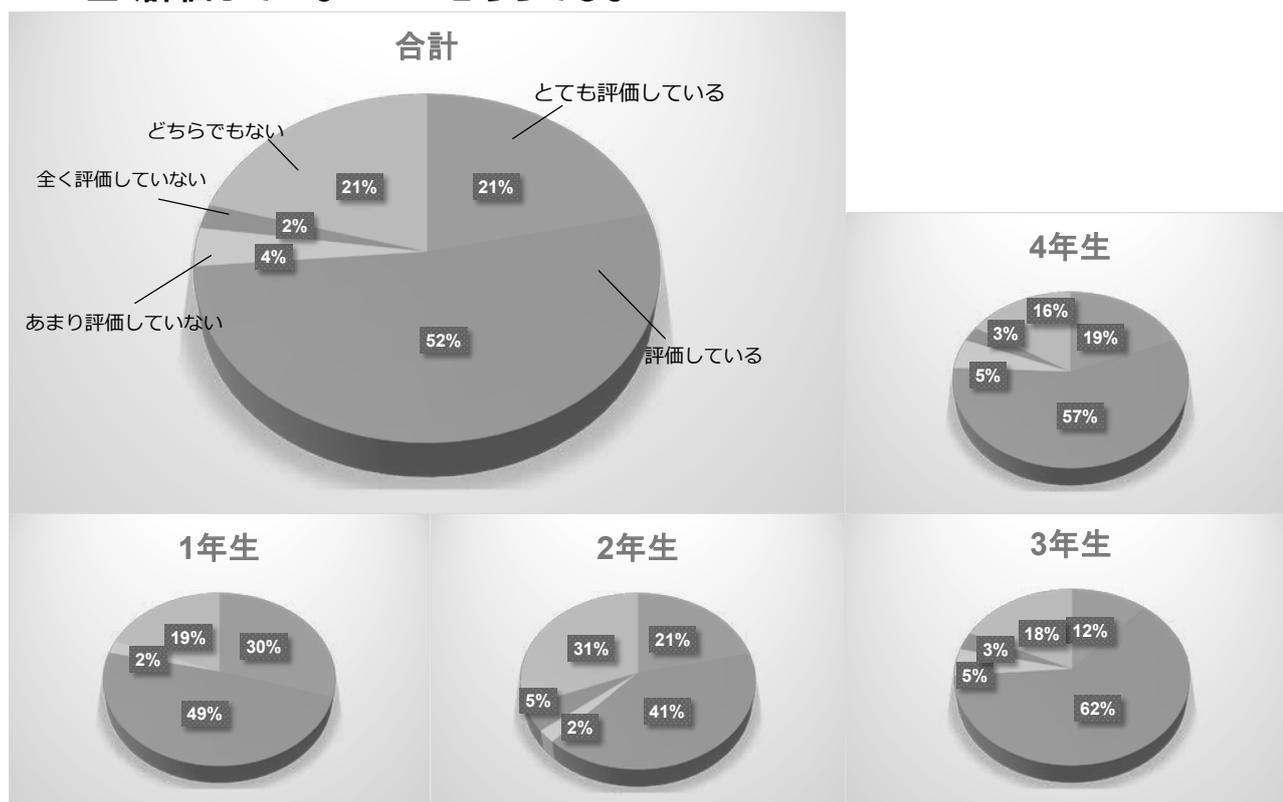
Q45-3 出席不正についての評価していないところ

- 注意喚起をするのが講義中のため、派生している人の耳に届いているのかわからない
- やろうと思えばいくらでも不正ができる
- 不正に対する処罰が軽すぎる
- 抜き打ちで出席確認に来る回数が少なく、出席不正をたくさん見逃してしまっていること

など計39件

Q46 薬物乱用防止に対する本学の取り組みについて

1. とても評価している 2. 評価している 3. あまり評価していない
4. 全く評価していない 5. どちらでもない



Q46-2 薬物乱用防止についての評価しているところ

- 低学年のうちから指導するのはいいと思う
- 警察の方からの説明の機会があったところ
- 薬物乱用の危険性についてしっかり説明していたから
- 学校側が徹底して指導してくれる事
- 注意喚起をちゃんと行っていると思う
- ポスターや口頭での説明がある
- 乱用防止の話聞く機会があるのは良い
- 講義までしてくださりより理解が深まった

など計22件

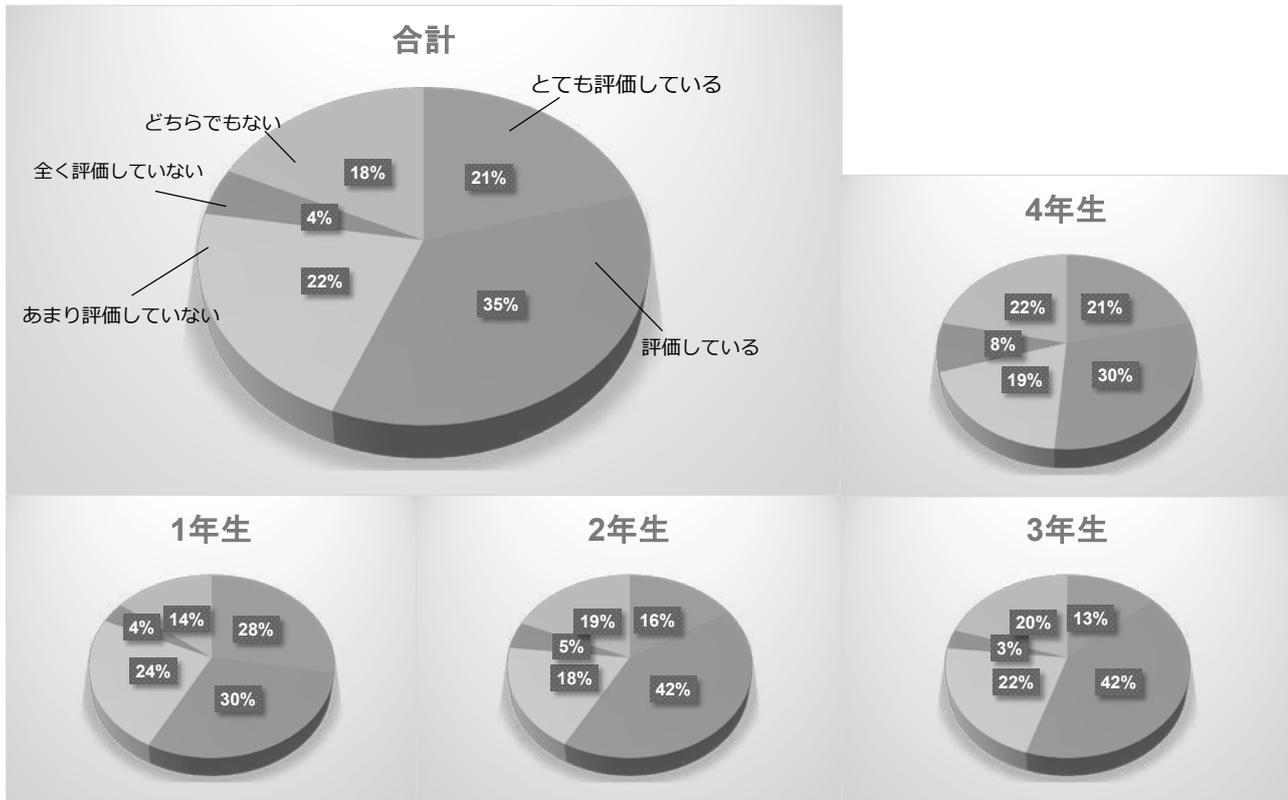
Q46-3 薬物乱用防止についての評価していないところ

- 忙しい4年の時はやめてほしい
- 印象に残りづらいところ
- 特に生徒に影響していないこと
- どのように薬物乱用防止がされているのか分からない

など計11件

Q47 キャンパス禁煙に対する本学の取り組みについて

1. とても評価している 2. 評価している 3. あまり評価していない
4. 全く評価していない 5. どちらでもない



Q47-2 キャンパス禁煙についての評価しているところ

- 入学時に誓約書を書くのは良いと思う
- タバコ臭いと感じたことがない
- 禁煙に関する話があったのは良かったと思う
- 誓約書を書かせること
- タバコの匂いが嫌いなのでとてもいいと思う
- 薬と混在してしまうと危ない等で禁煙にしていたり、キャンパス内が常に快適であり良いと感じた
- 喫煙の場所がしっかり決められていること

など計25件

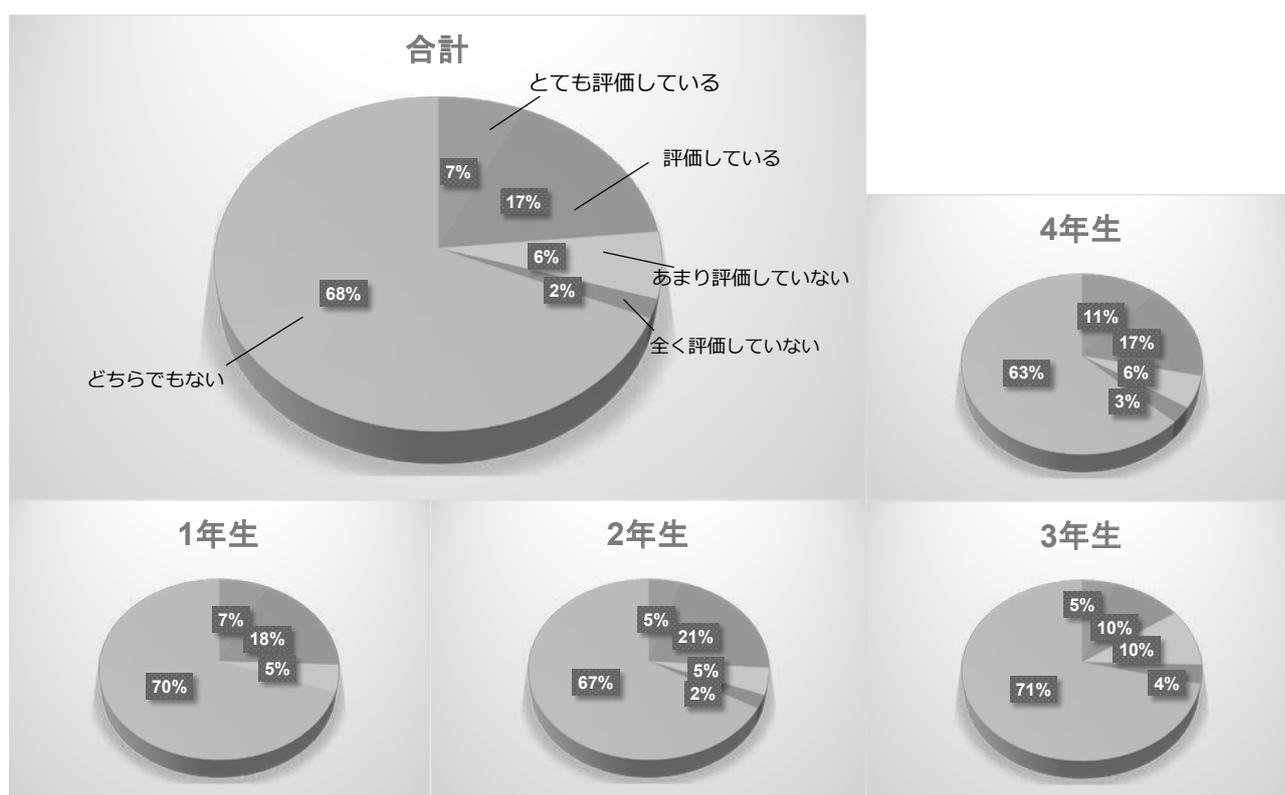
Q47-3 キャンパス禁煙についての評価していないところ

- 同学年の生徒からたまにタバコの匂いがするので、まだ徹底できていないのかなと感じました
- たばこの匂いがする人が苦手なため、そのような人がいると咳が出てしまう

など計29件

Q48 留年生に対する本学の取り組みについて

1. とても評価している
2. 評価している
3. あまり評価していない
4. 全く評価していない
5. どちらでもない



Q48-2 留年生に対する本学の取り組みについての評価しているところ

- 5者面談やその他の先生のサポートなどとても親切だと思います
- 留年しても、落とした科目が少なければ上級学年の科目を受講できるのは良いと思う。既に取得した科目の点数を上書き出来るのは良いと思う

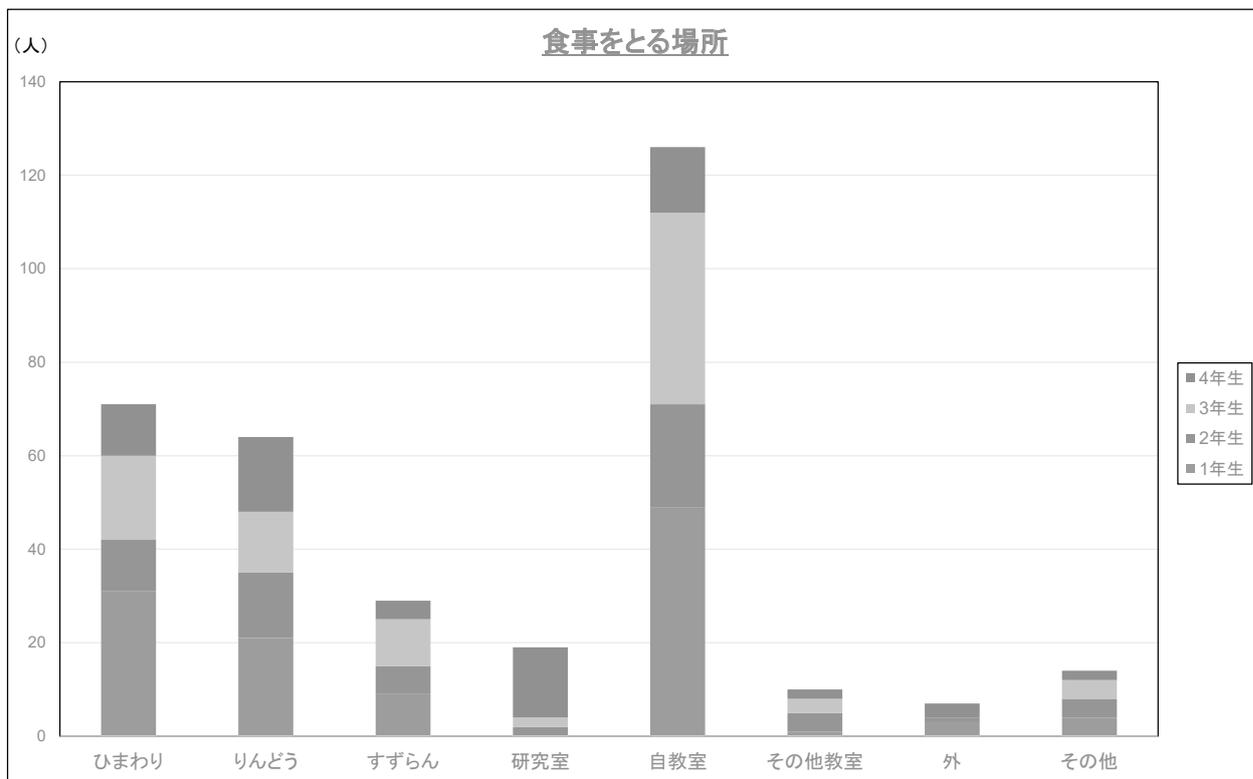
など計5件

Q48-3 留年生に対する本学の取り組みについての評価していないところ

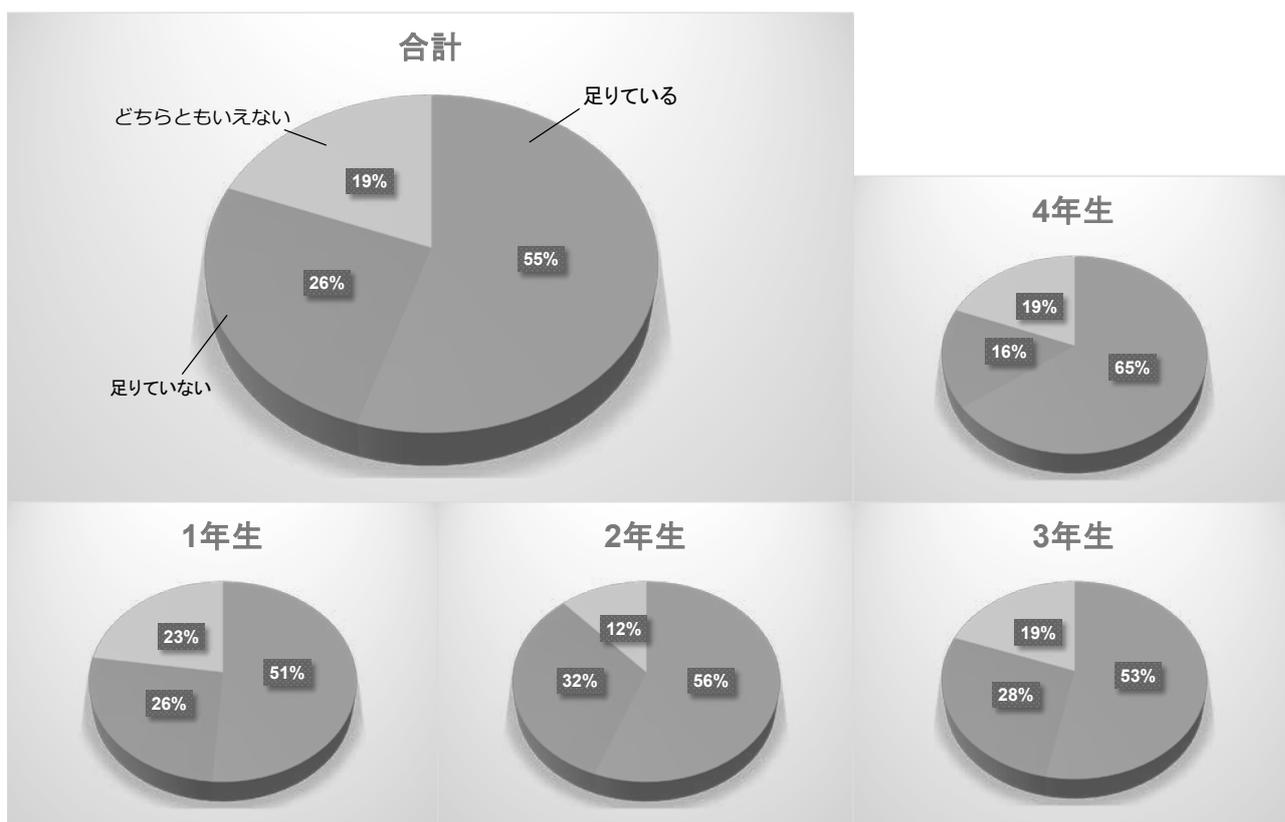
- 留年時に実習が行われなところ
- どういう措置を取っているかが分からない
- 在籍期間が1学年につき2年までと言うのが少し厳しい気がします。「1～3年生の在籍期間を計6年まで」みたいにした方がいいと思います
- 取り組みがわかりません

など計10件

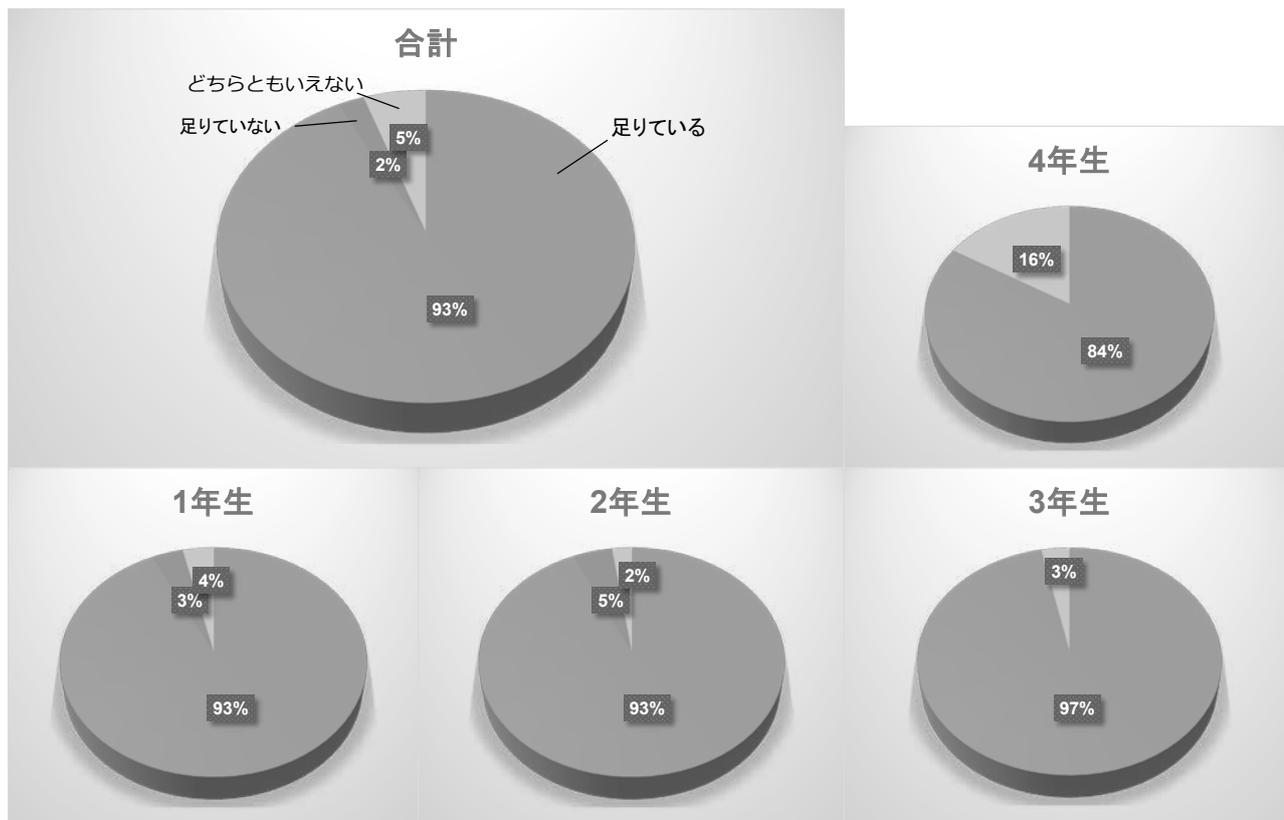
Q49 食事をする場所についてお聞きします。いつもどこで食事をとっていますか。
(複数回答可)



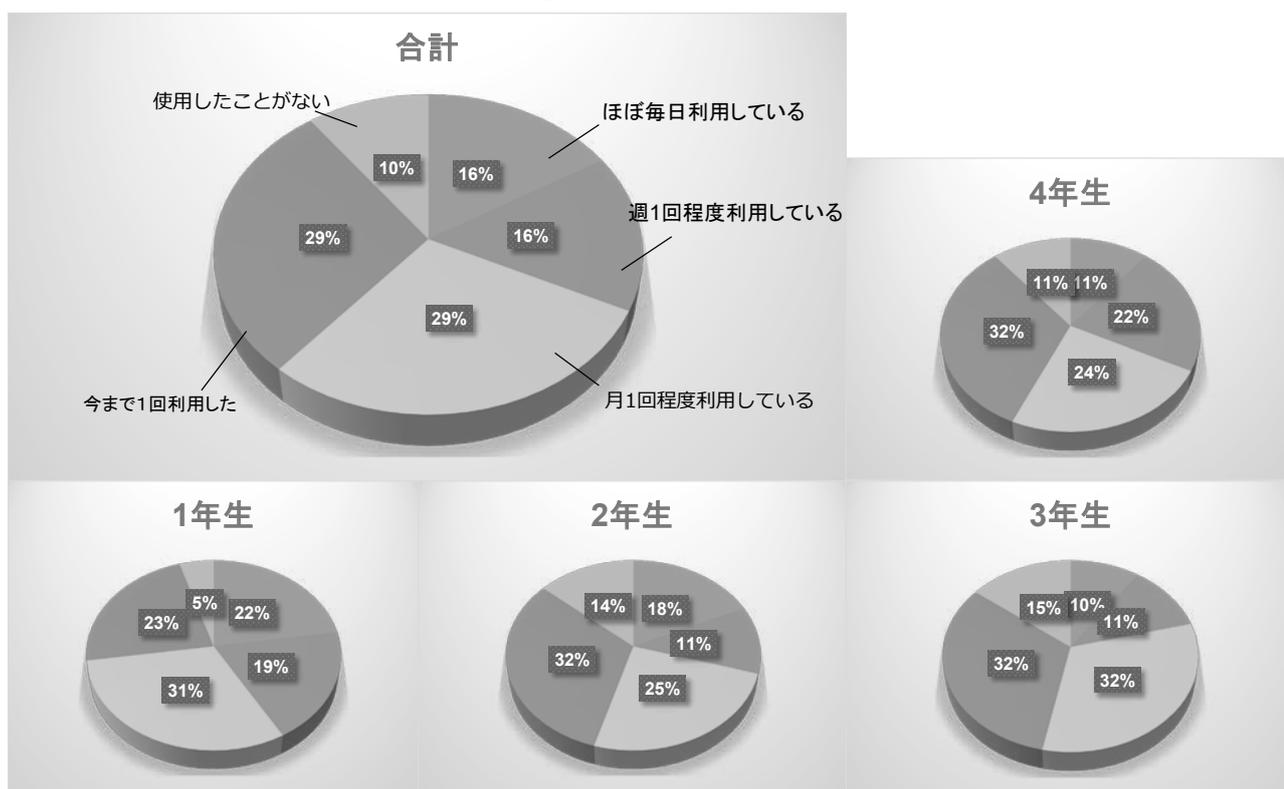
Q50 食事をする場所は十分ですか。
1 足りている、2 足りていない、3 どちらともいえない



Q51 食事の時間(長さ)についてお聞きします。
1十分、2足りていない、3どちらともいえない

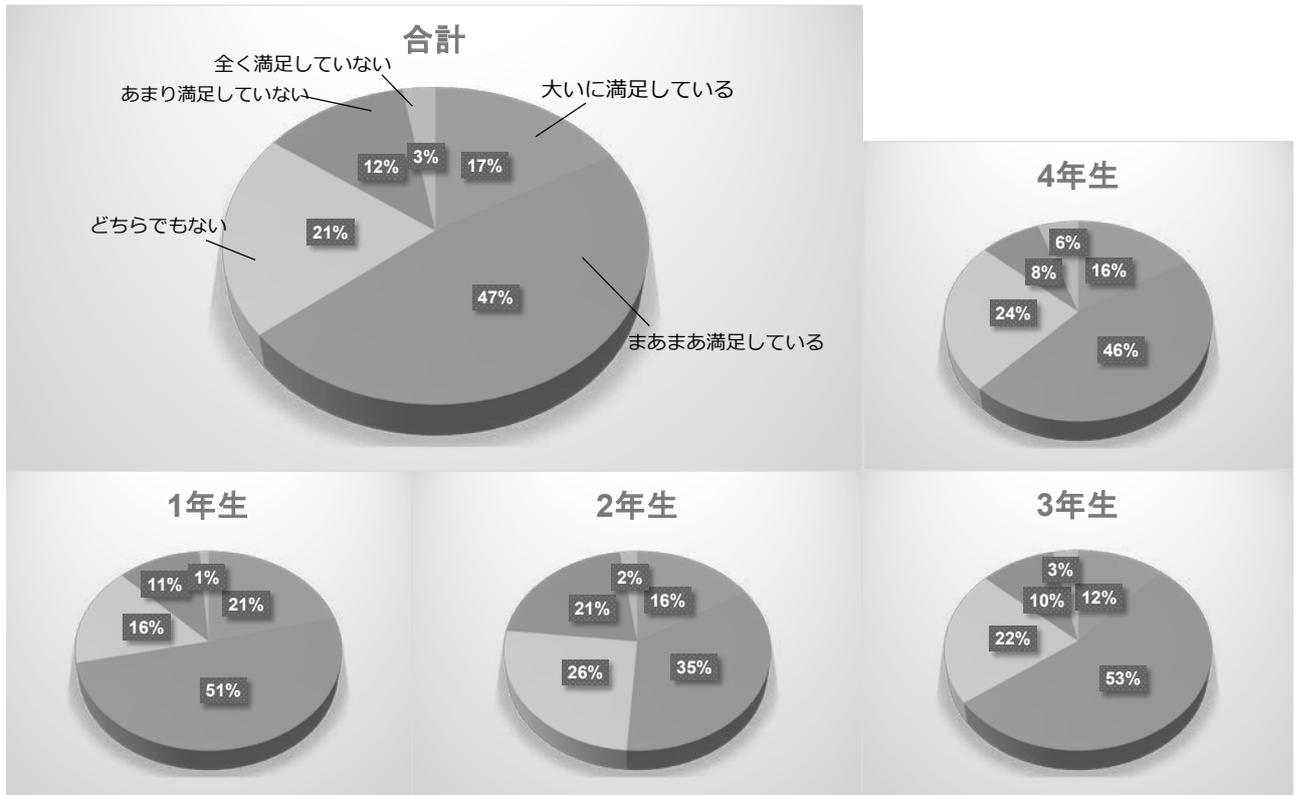


Q52 食堂を利用していますか。
1. ほぼ毎日利用している、2. 週1回程度利用している、3. 月1回程度利用している、4. 今まで1回利用した、5. 使用したことがない



Q53 食堂の満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



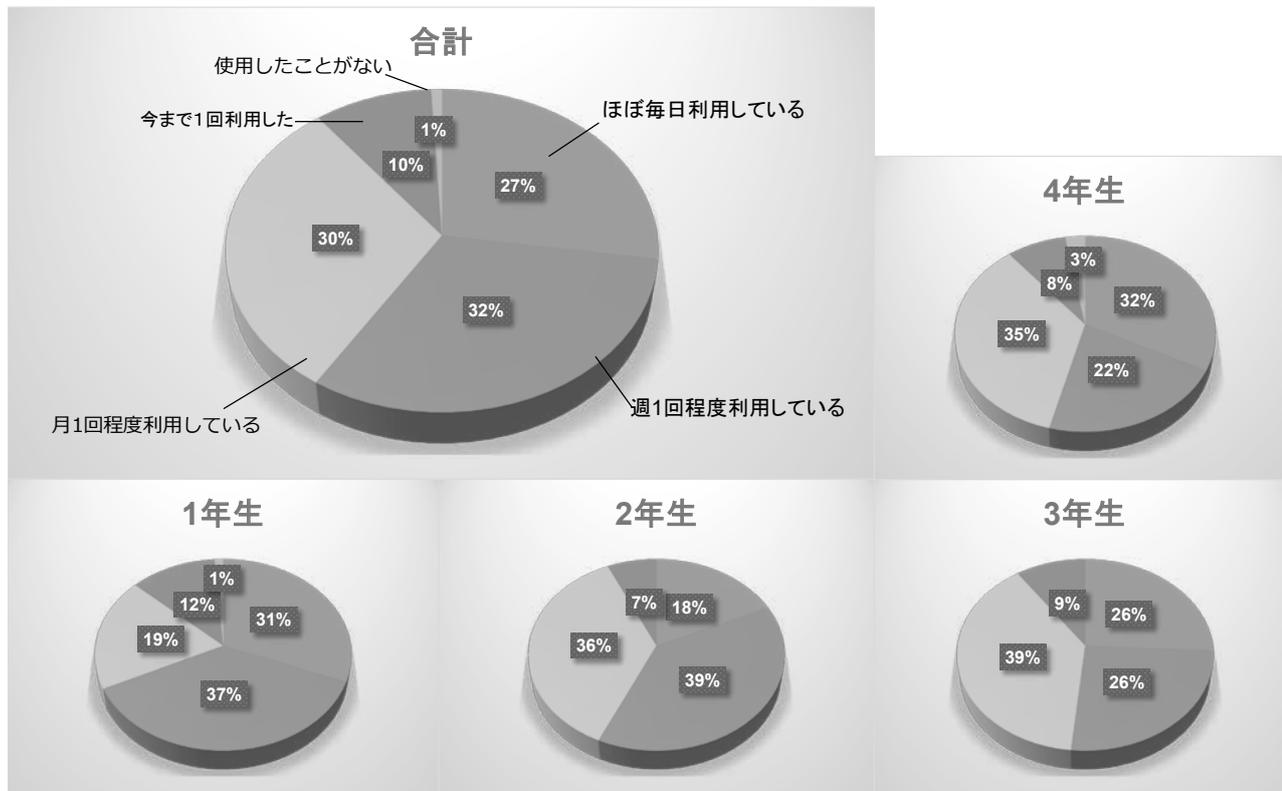
Q54 食堂について、あまり満足していない、全く満足していないと回答した人はその理由を教えてください。

- 席が少ない、高い
- パスタメインの食事が少ない
- 食堂はいつも混んでいて座る場所に困ることが多い
- レポートリーが少ない
- 量が少ない割に高い

など計22件

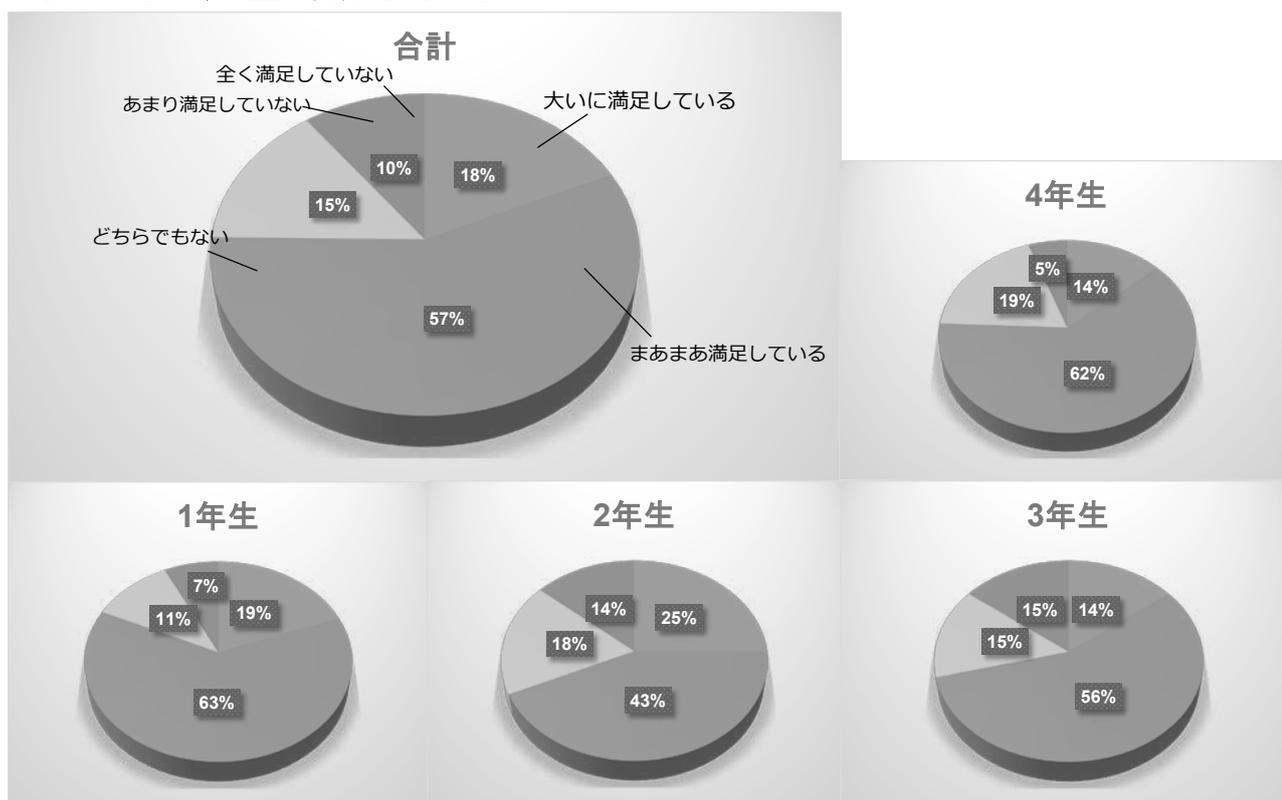
Q55 売店を利用したことがありますか。

1. ほぼ毎日利用している、2. 週1回程度利用している、3. 月1回程度利用している、4. 今まで1回利用した、5. 使用したことがない



Q56 売店の満足度を教えてください。

1 大いに満足している、2 まあまあ満足している、3 どちらでもない、4 あまり満足していない、5 全く満足していない



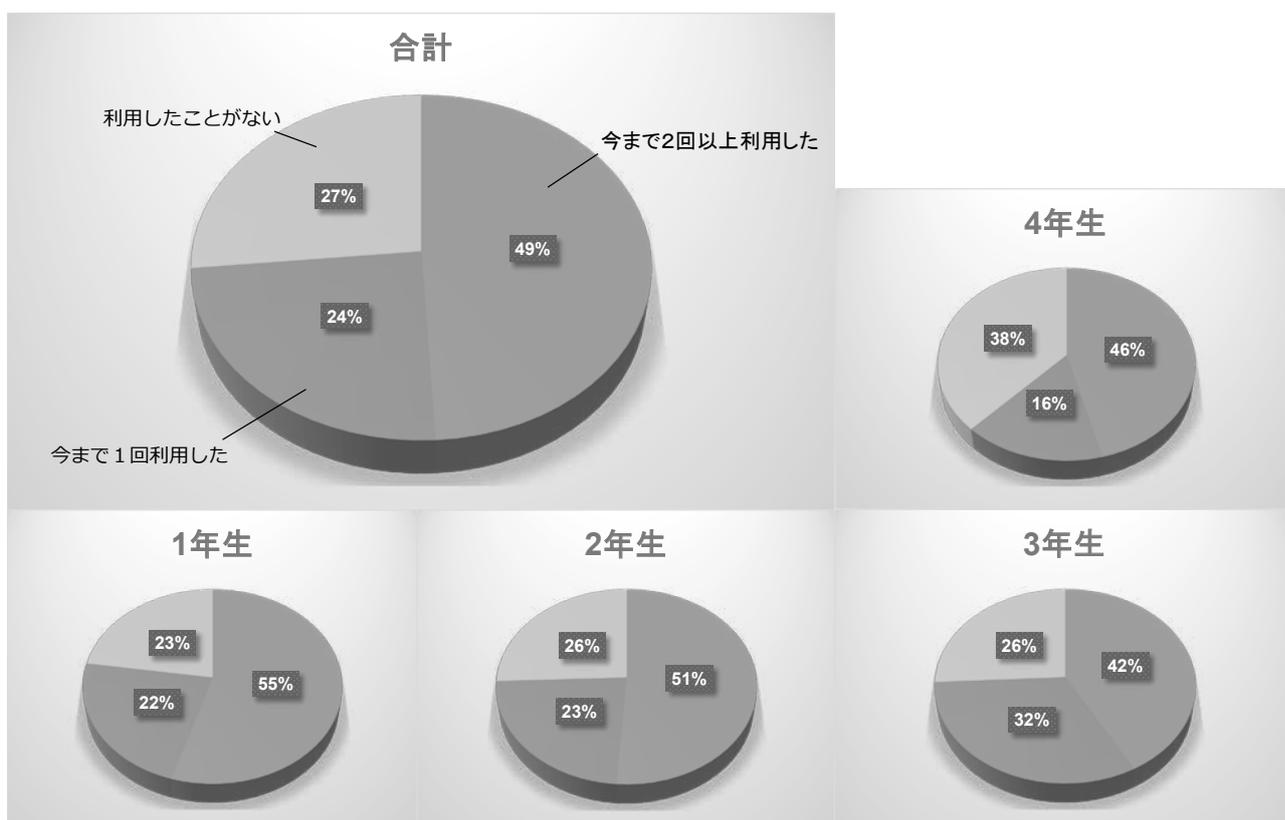
Q57 売店について、あまり満足していない、全く満足していないと回答した人はその理由を教えてください。

- 価格が高いため、わざわざ買いに行こうと思わない
- 営業時間の拡大を希望
- 高い、テスト期間中開店時間が短いと感じてしまう
- 品数少ない、レジ少なくて混む
- 品揃えが悪い。昼には売り切れてしまっているものが多い
- コンビニ価格よりも少し下げて欲しい

など計18件

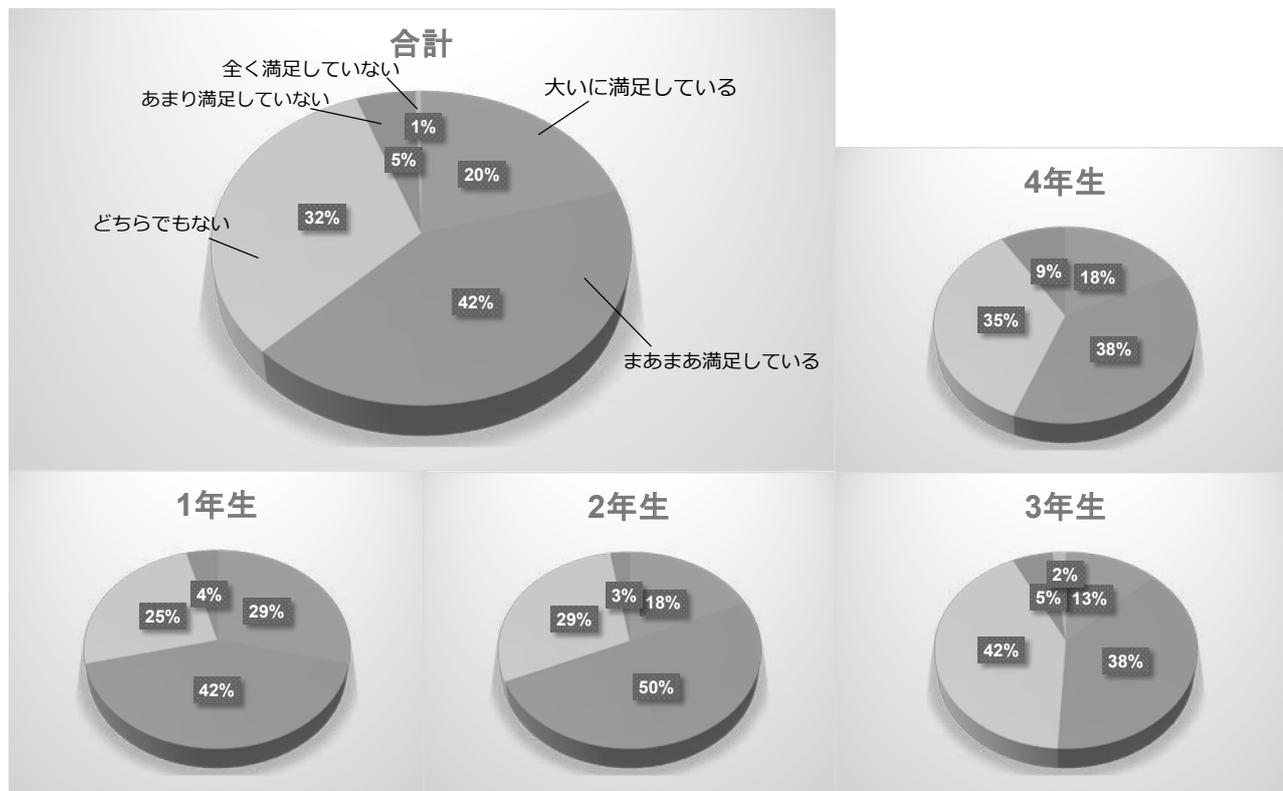
Q58 キッチンカーを利用したことがありますか。

1. 今まで2回以上利用した、2. 今まで1回利用した、3. 利用したことがない



Q59 キッチンカーの満足度を教えてください。

1大いに満足している、2まあまあ満足している、3どちらでもない、4あまり満足していない、5全く満足していない



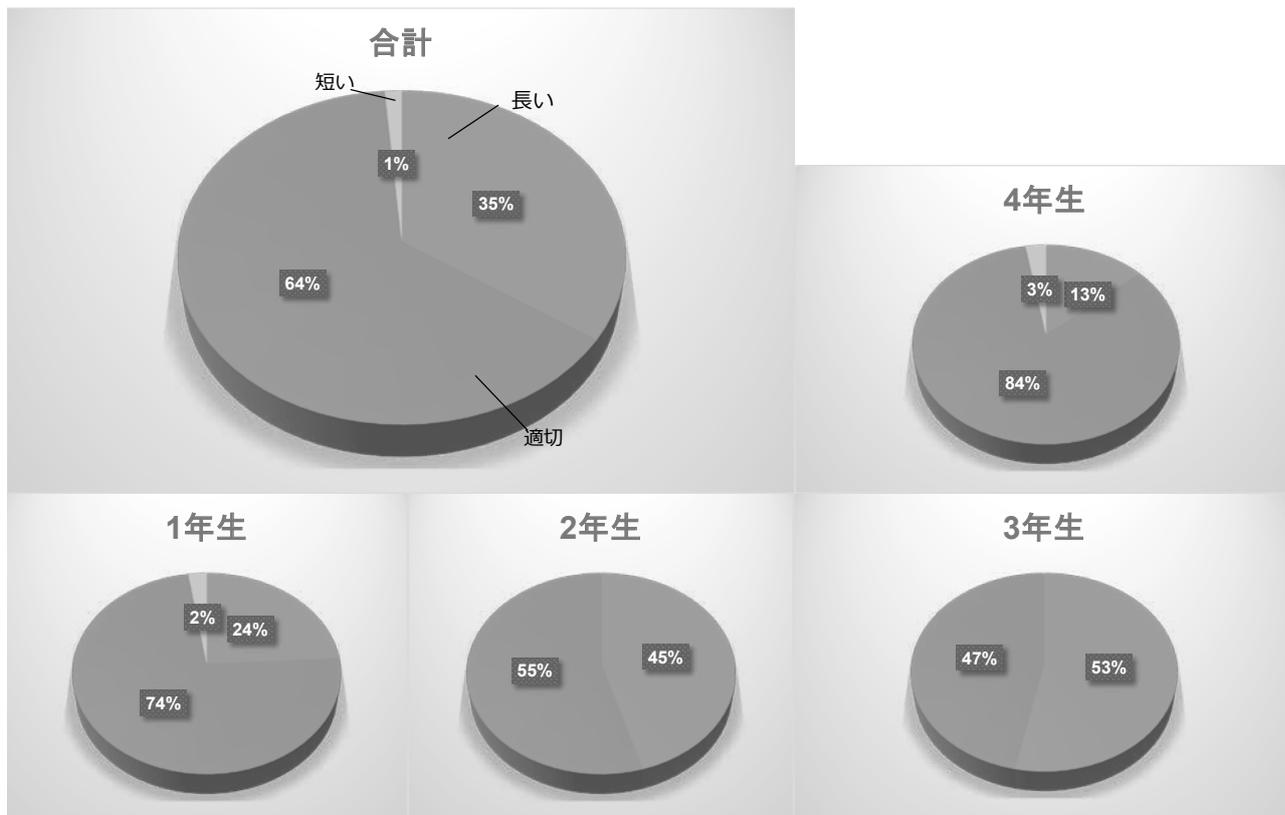
Q60 キッチンカーについて、どの食べ物がよかったですか。

- たいやき
- メロンパン
- クレープ
- ミニドーナツ。時間が経っても食べやすい。
- カレーパン
- 油そば
- メロンパン
- ステーキ丼
- アイス

など計44件

Q61 お昼休みの時間(長さ)についてお聞きします。

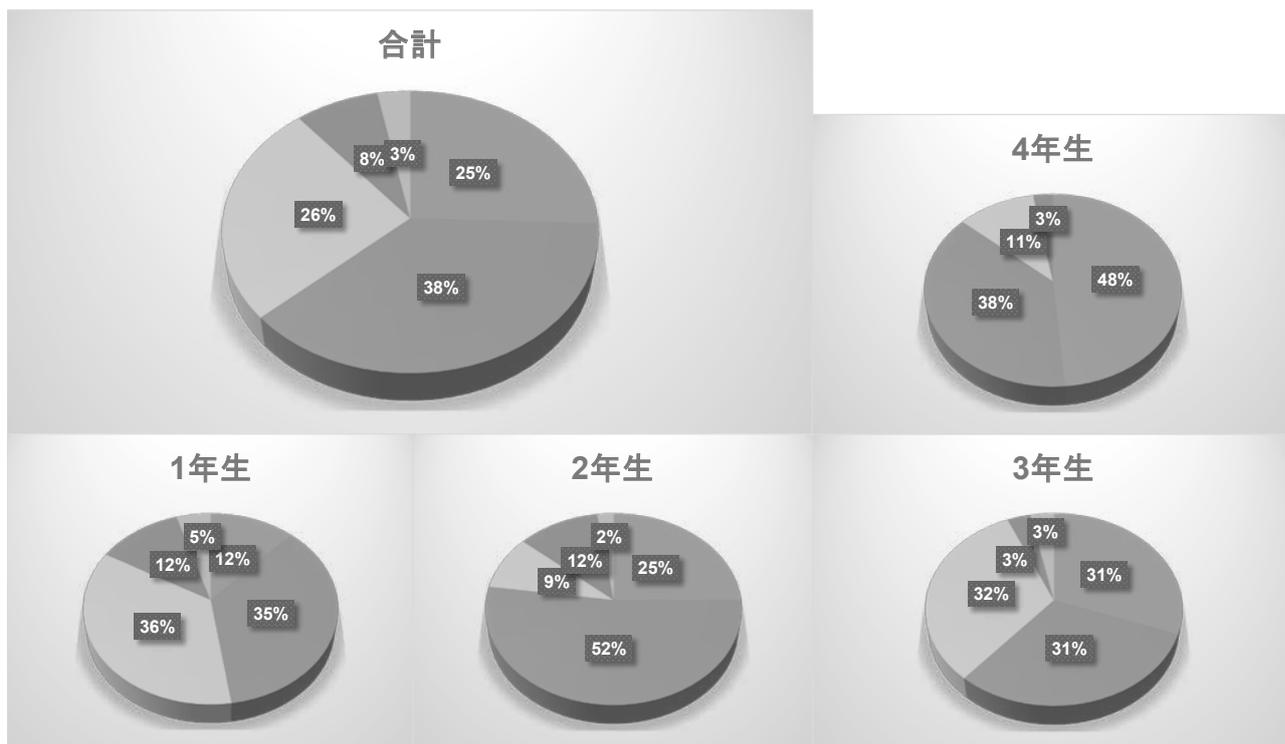
1. 長い、2. 適切、3. 短い



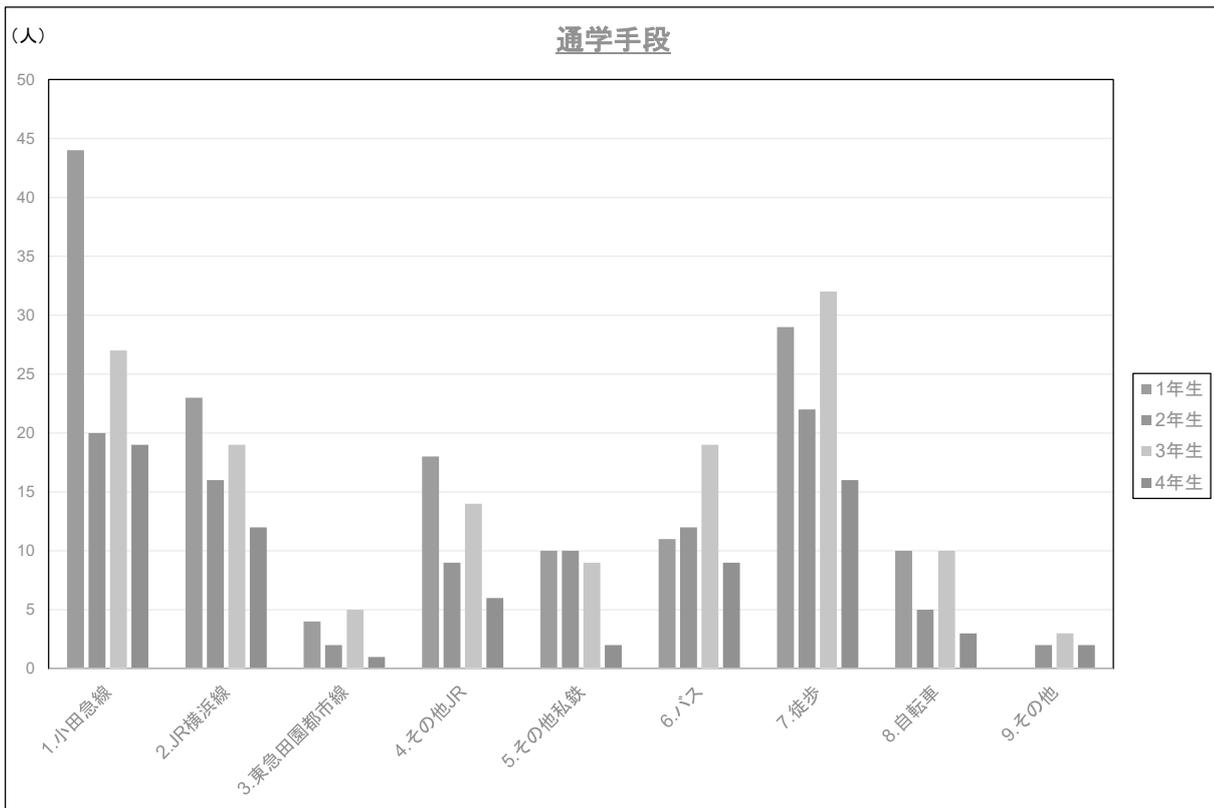
部活動について

Q62 部活動にはいくつ加入していますか。(未加入であれば0(ゼロ)を選んでください)。

1 0 2 1 3 2 4 3 5 4以上

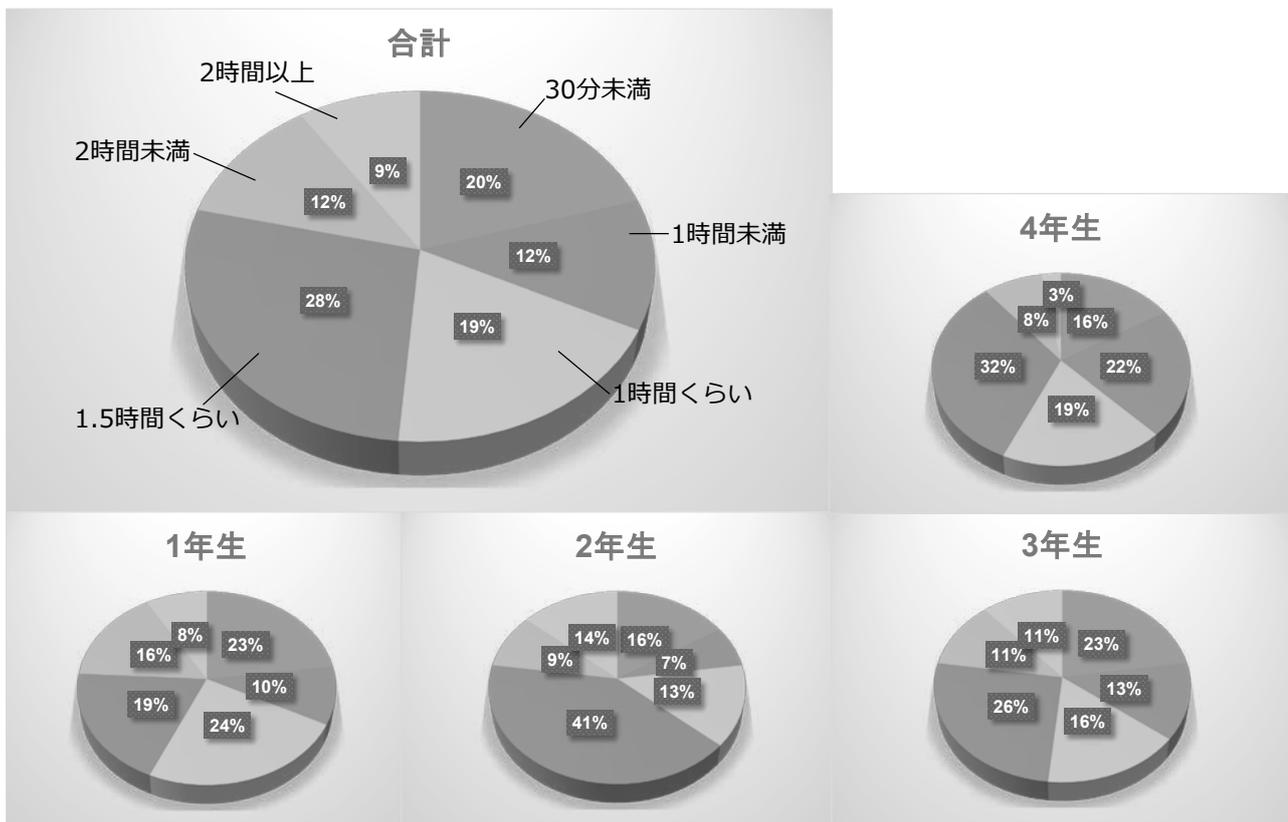


Q63 大学の最寄り駅までのどのような手段で登校していますか。(複数回答可)

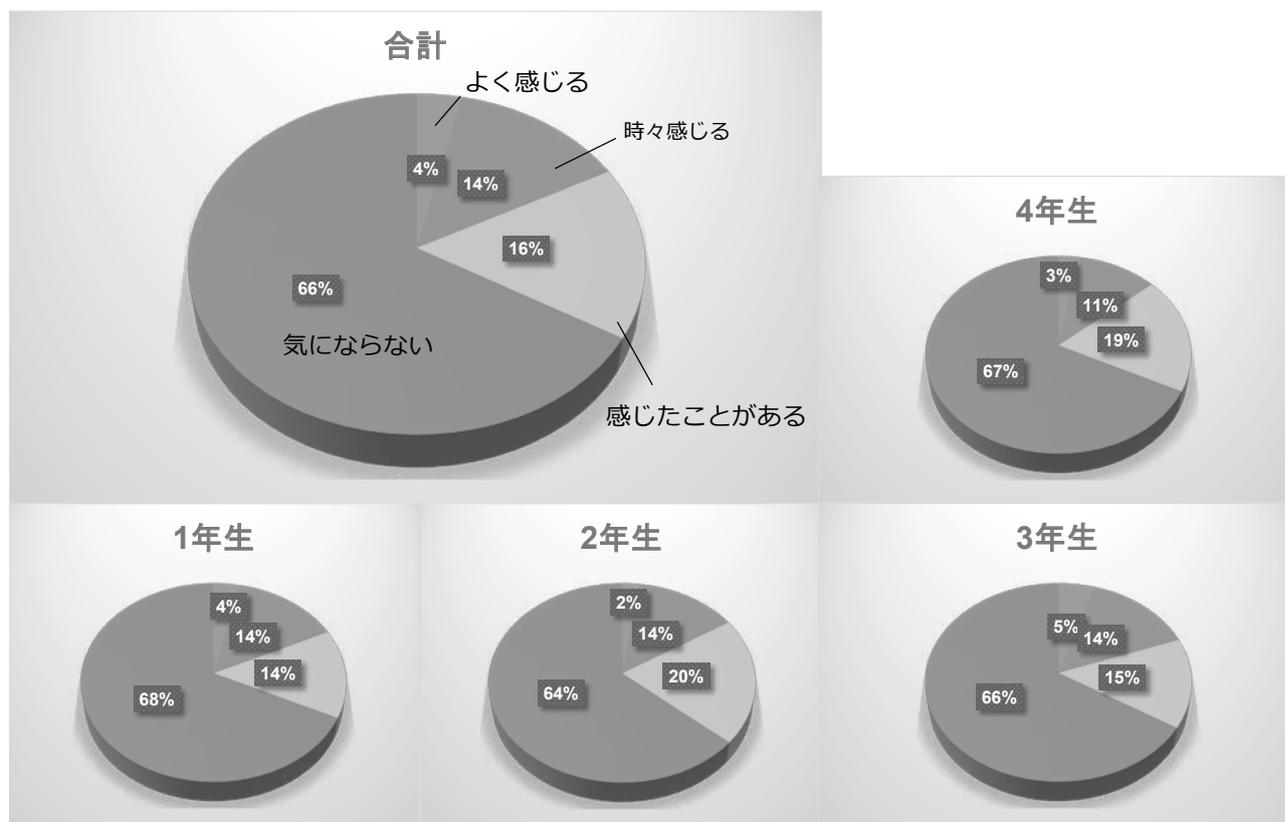


Q64 通学(自宅を出てから大学到着まで)にどのくらい時間がかかりますか。

1 30分未満 2 1時間未満 3 1時間くらい 4 1.5時間くらい 5 2時間未満 6 2時間以上



Q65 通学中に危険や不安を感じることはありますか。
1よく感じる、2時々感じる、3感じたことがある、4気にならない

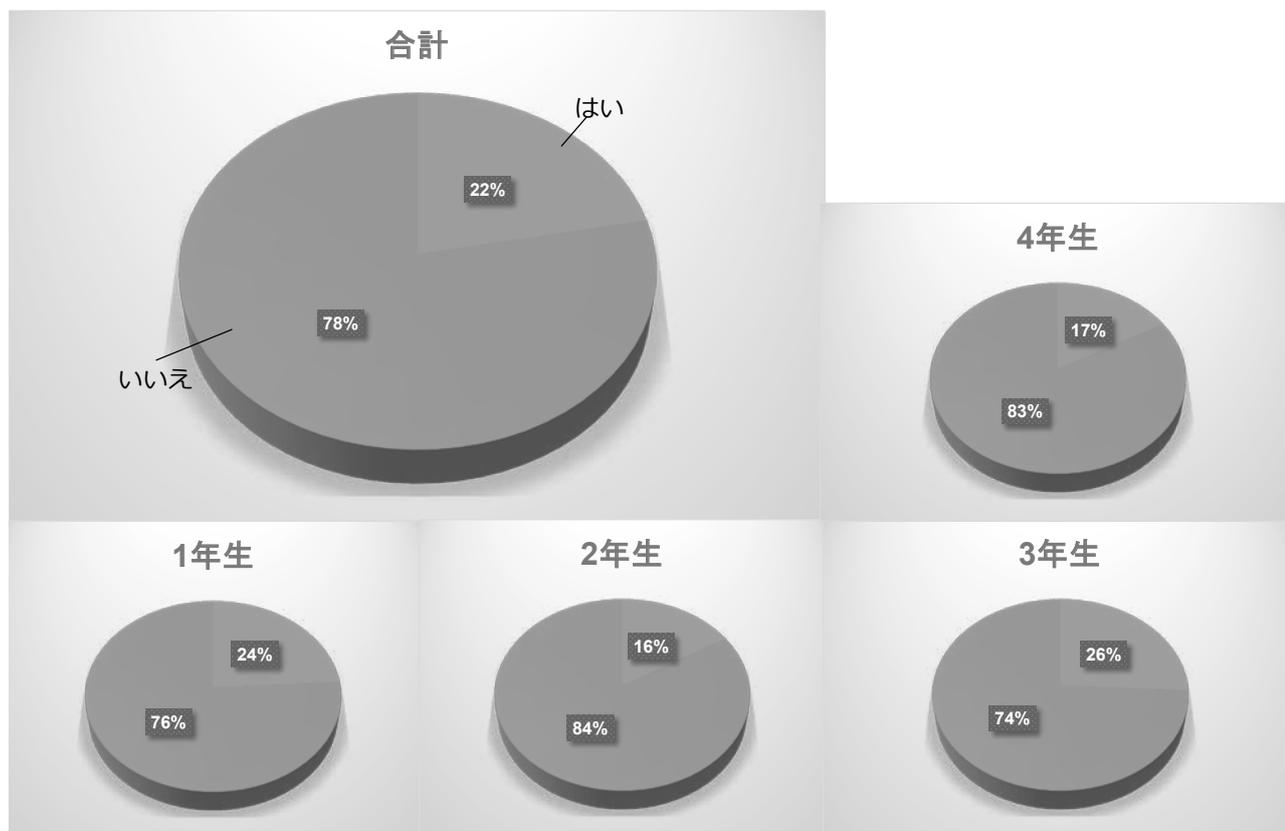


Q66 通学中に危険や不安を感じることはありますか。
どのような時に危険や不安を感じますか。

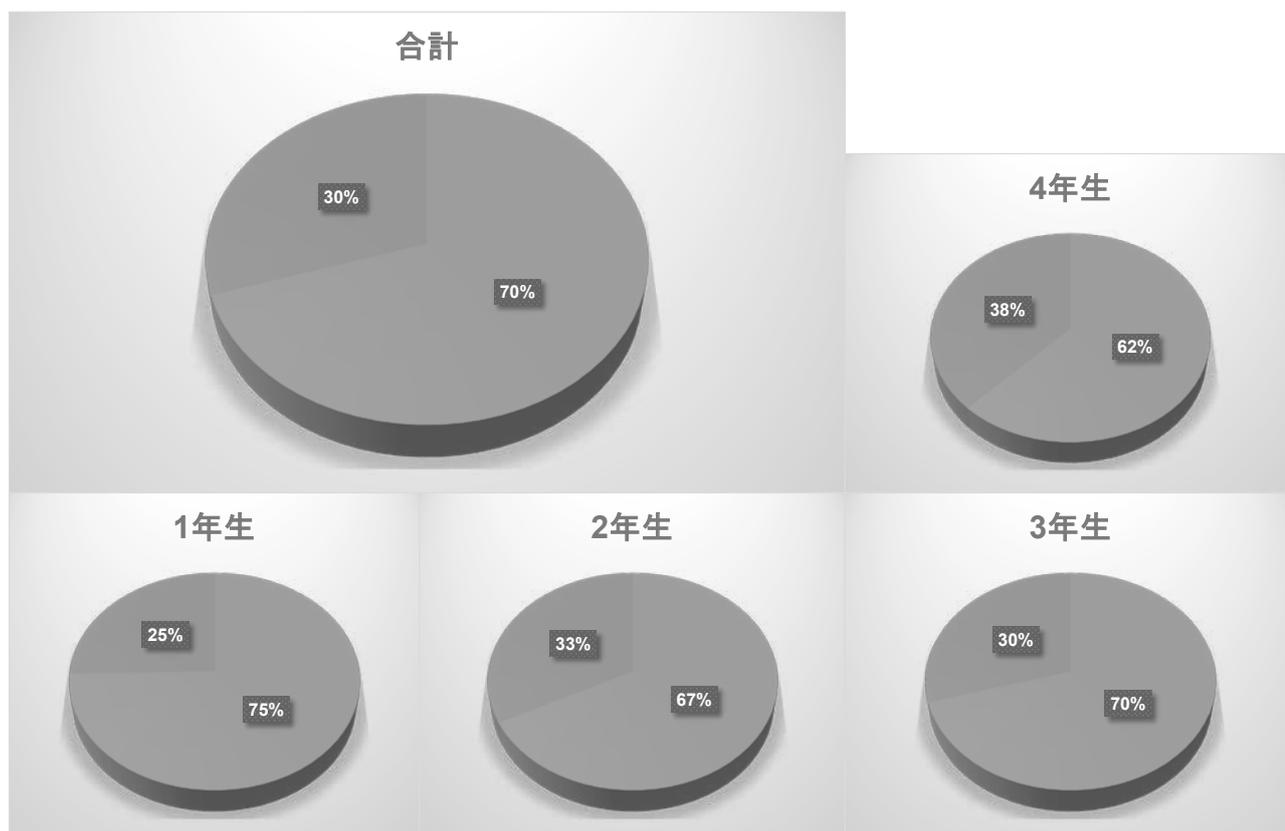
- 玉川学園前駅から昭和薬科大学までの通学路でスピードを出しすぎている車
- 玉川学園から学校に行くまでの道が狭いのに、車がものすごいスピードで来るため危険と感じることがある
- 満員電車で人に押されて潰されたとき
- 道が狭く車と接触しそうになること
- 新幹線通学なので他の地域での積雪や暴風雨によって新幹線の運行状況が変化する点
- 実習等で遅くなると、通学路がとても暗い
- 道が狭く、自動車がすごい勢いで来ると怖い
- 実習や勉強をされていて帰りが遅くなり、暗闇の中帰っているときです

など計35件

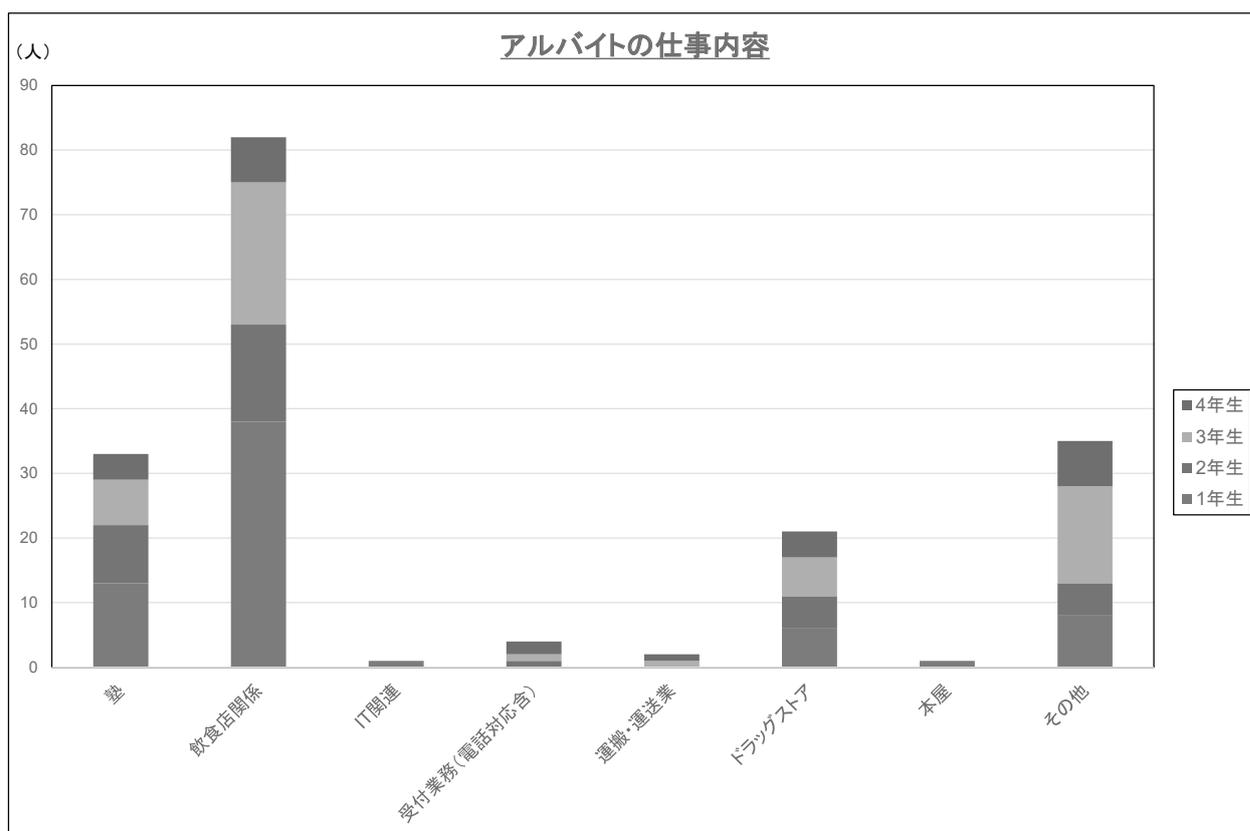
Q67 一人暮らしである。
1 はい、2 いいえ



Q68 アルバイトをしている。
1 はい、2 いいえ



Q69 アルバイトしている人はどのような仕事ですか(複数回答可)。

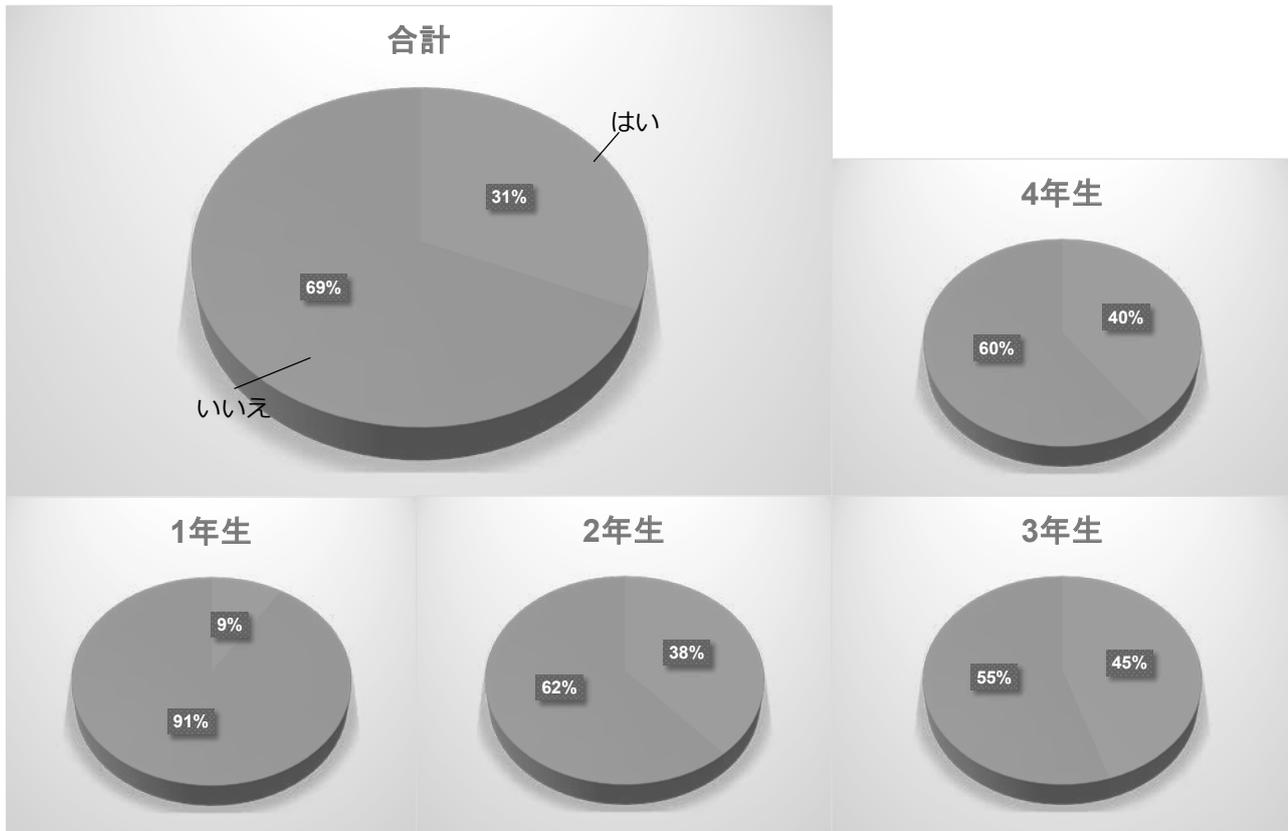


Q70 アルバイトしている人はどのような仕事ですか(複数回答可)。
 その他を選んだ人はどんなアルバイトか教えてください。

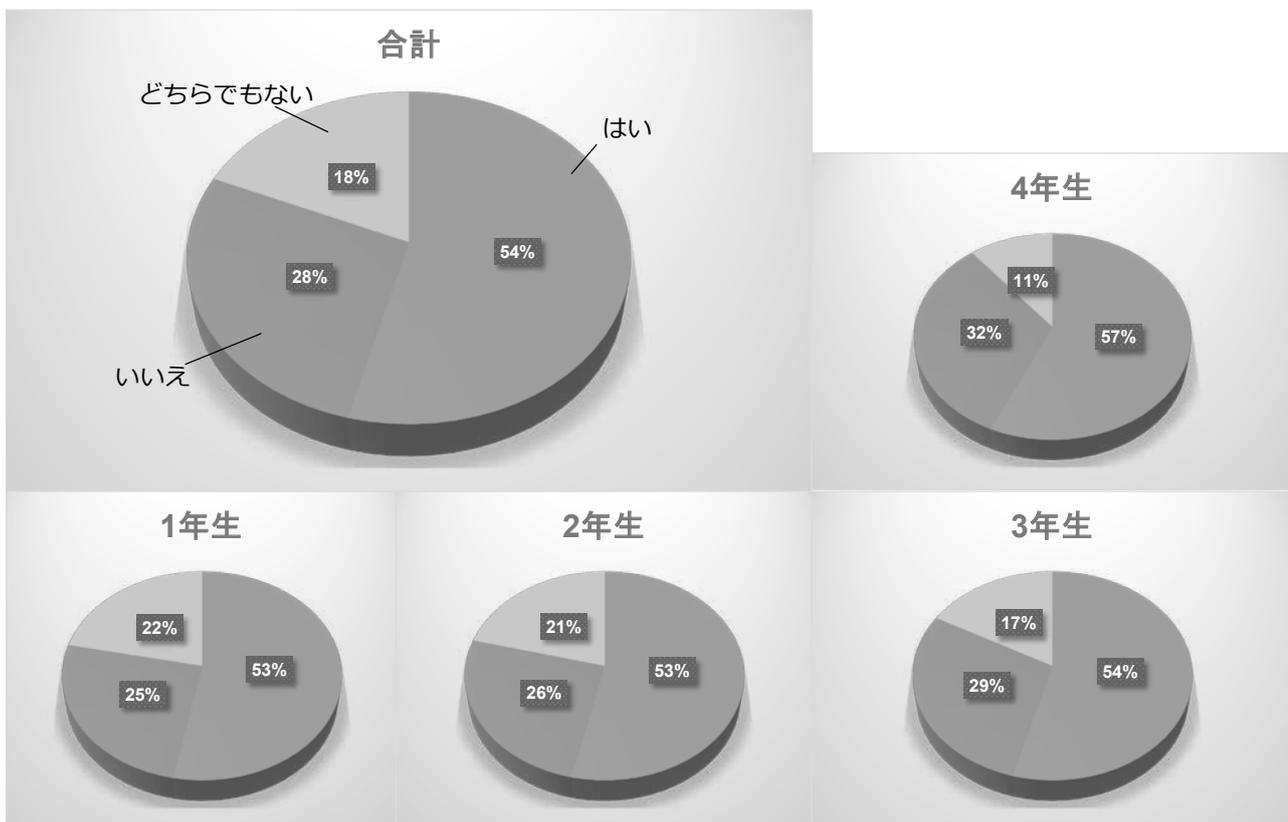
- キャラクターショーの中
- 病院のコロナワクチン接種スタッフ
- アパレル
- スーパーマーケットの品出し
- イベントスタッフ
- 税務署

など計25件

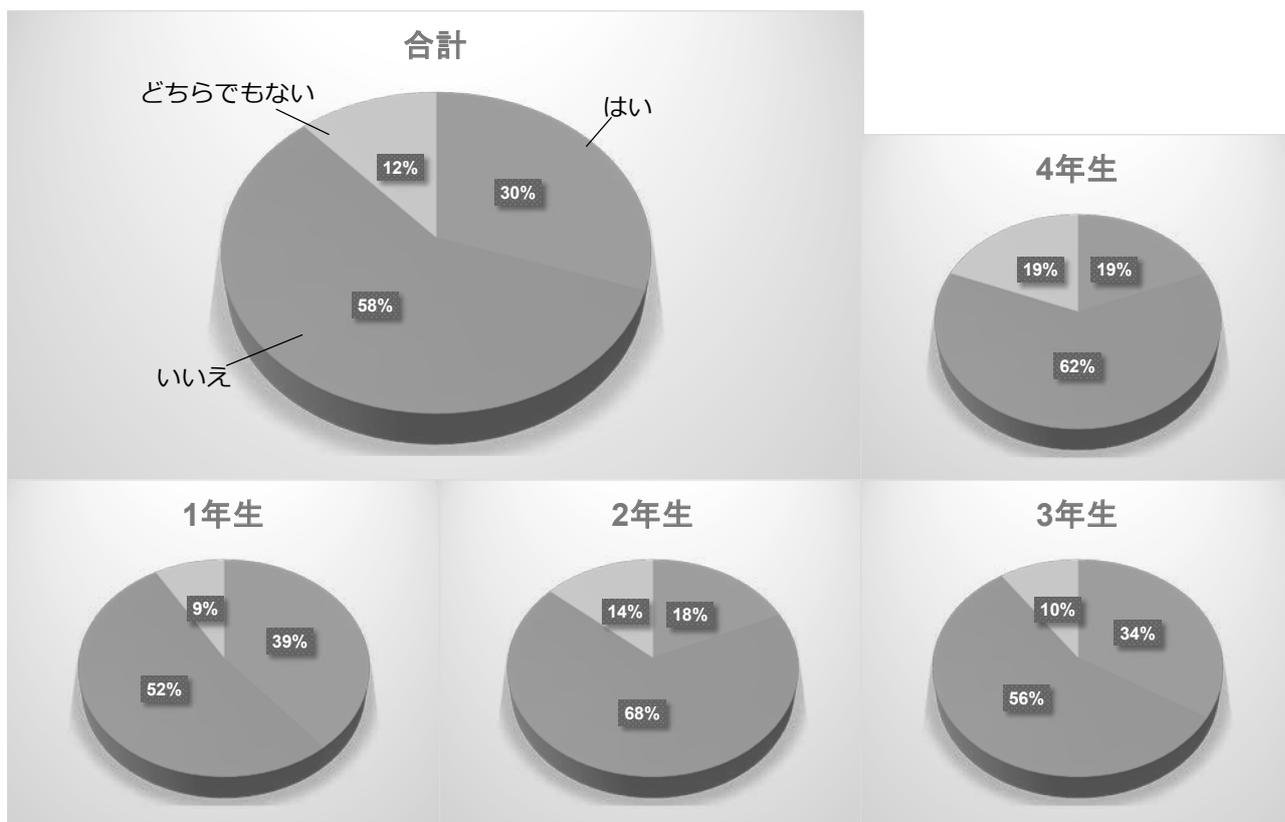
Q71 いいえの方にお伺いします。以前アルバイトをしていたが今はしていない。
1 はい、2 いいえ



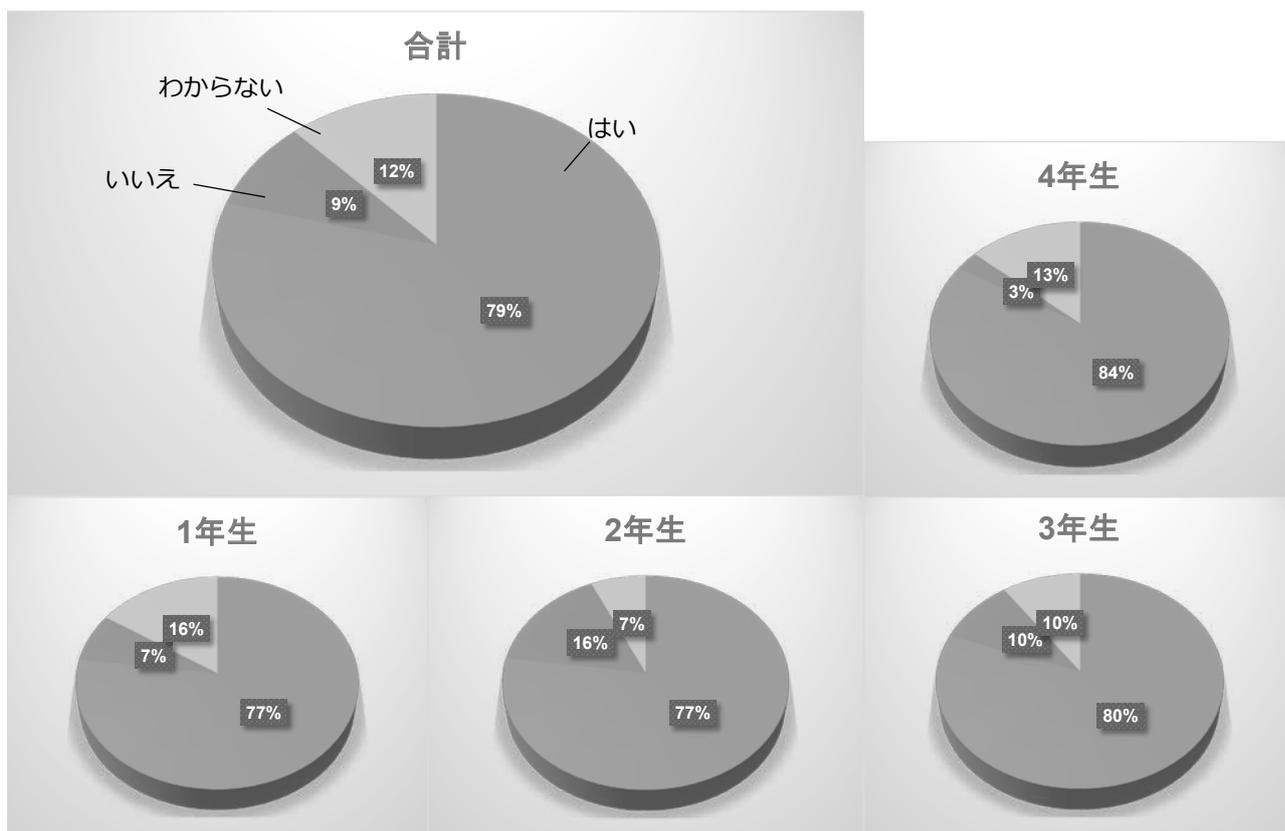
Q72 学費が心配である。
1 はい、2 いいえ、3 どちらでもない



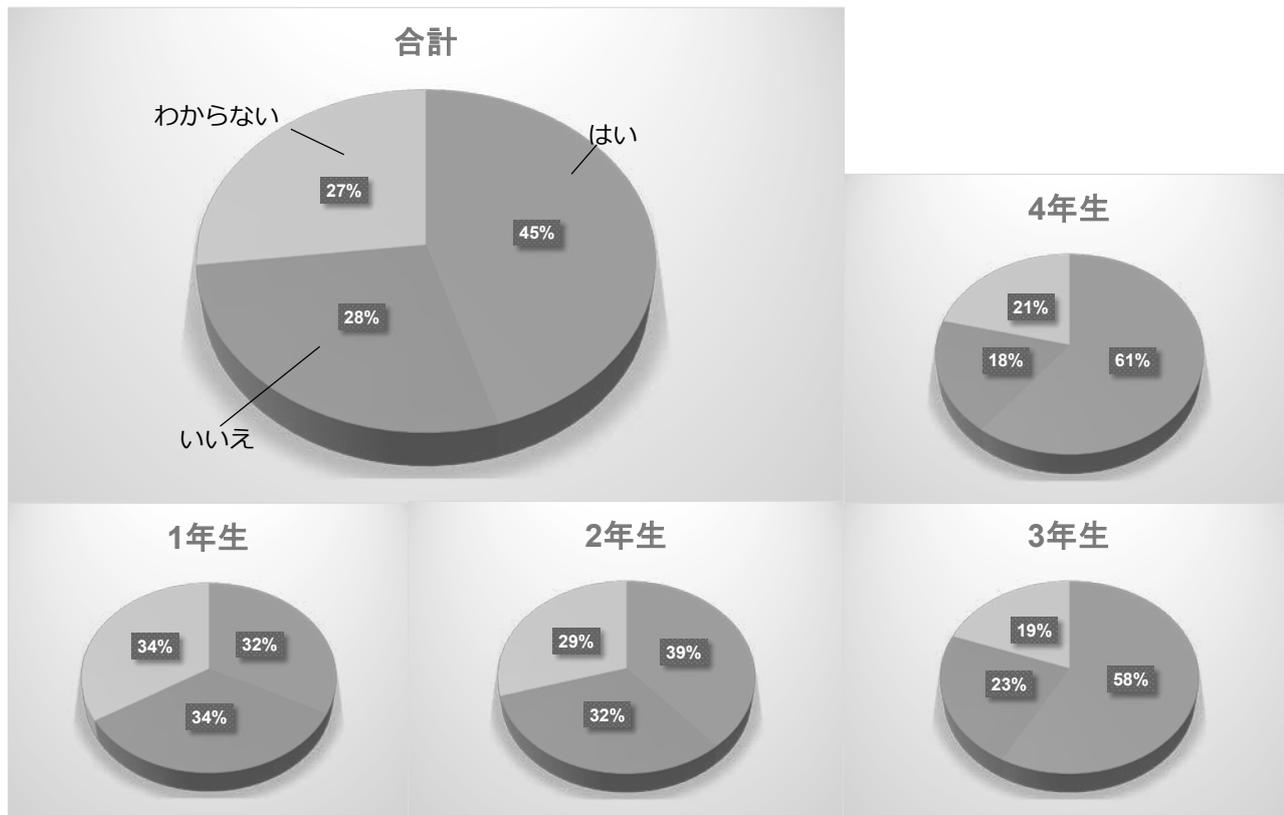
Q73 体調不良になったときどうすればいいかわからない。
1 はい、2 いいえ、3 どちらでもない



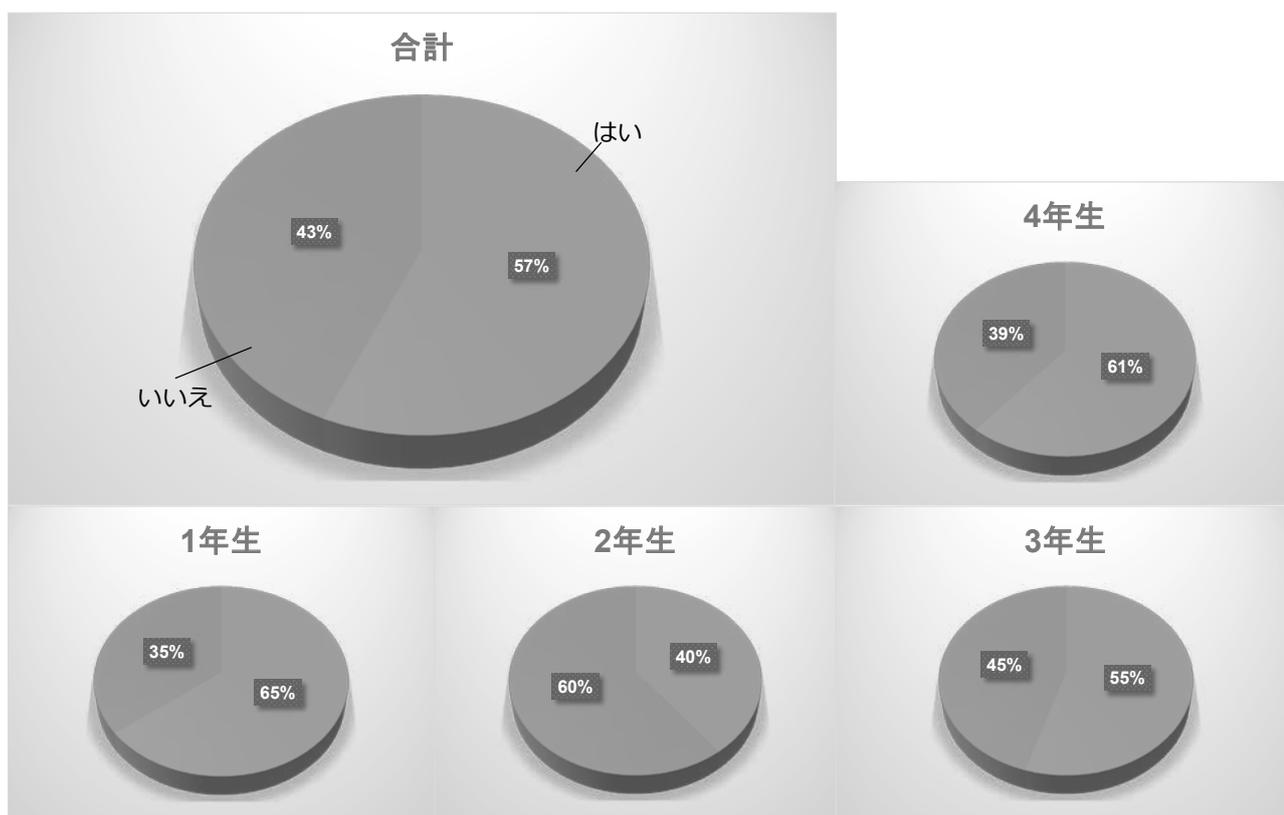
Q74 学内に信頼できる友人はいますか。
1 はい、2 いいえ、3 わからない



Q75 学内に信頼できる先生や職員はいますか。
1 はい、2 いいえ、3 わからない



Q76 ハラスメントの相談窓口があることは知っていますか？
1 はい、2 いいえ



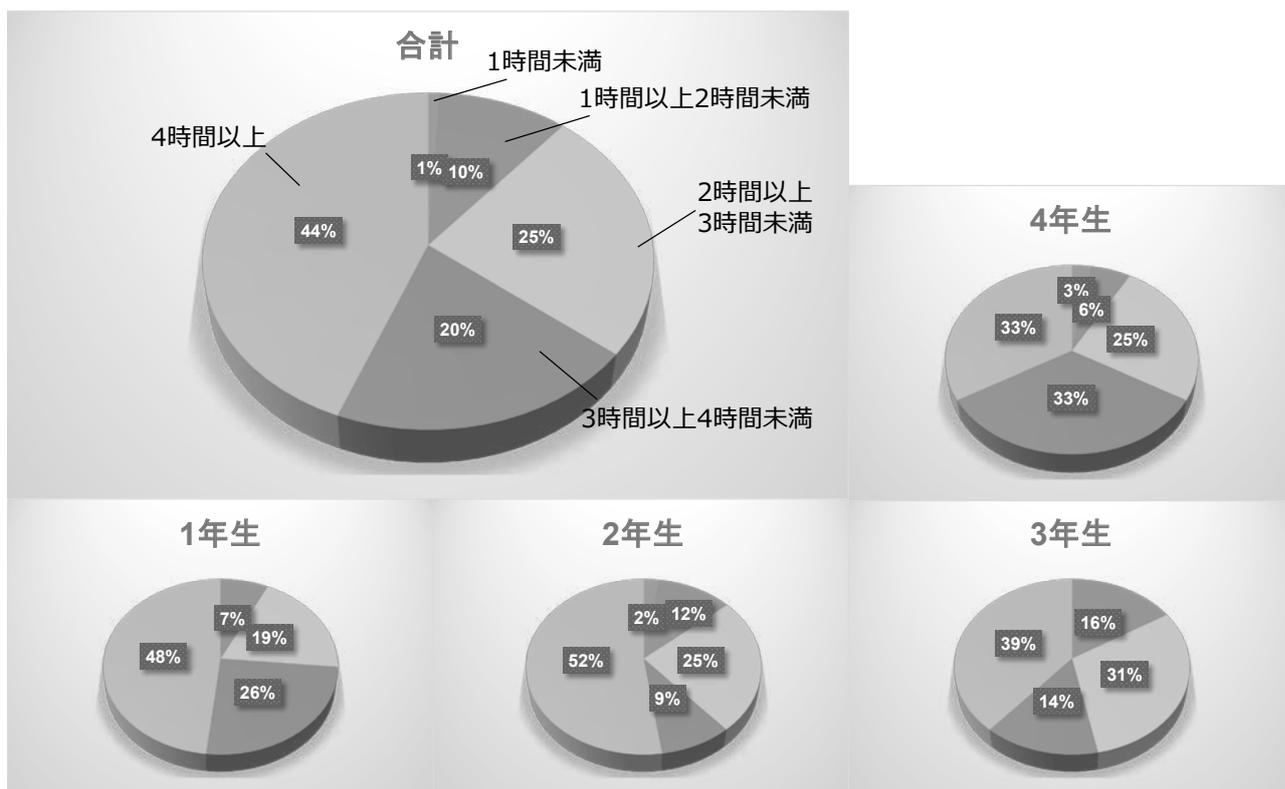
Q77 学生アンケートの項目に入れてほしいことはありますか。

- 授業中に教室内の秩序が保たれていたか
- 大学からのメールについて(リマインドメールが無駄に多すぎる気がするのでアンケート項目に入れても良いと思います。)
- 冷暖房の温度について

など計4件

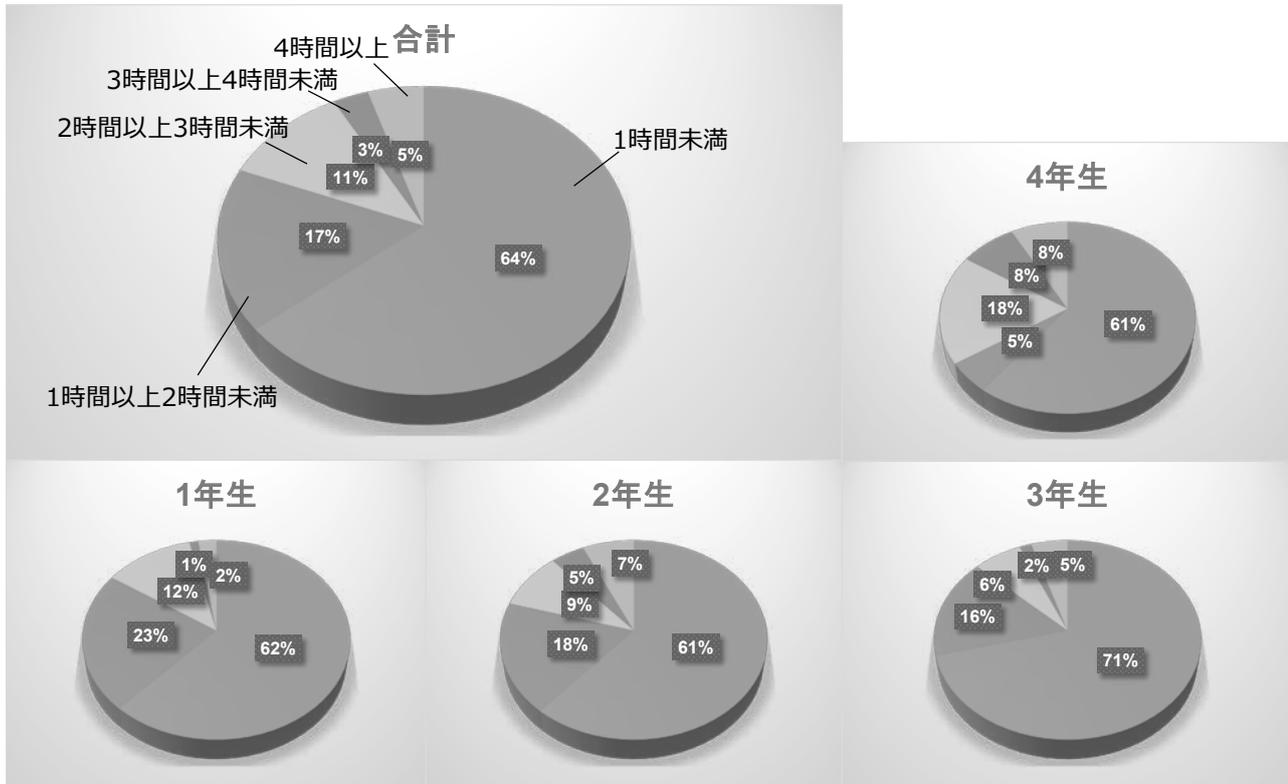
Q78 スマートフォンの1日の使用時間はどれくらいですか。

- 1 1時間未満 2 1時間以上2時間未満 3 2時間以上3時間未満
4 3時間以上4時間未満 5 4時間以上



Q79 ゲームは1日どれくらいやりますか。

- 1 1時間未満 2 1時間以上2時間未満 3 2時間以上3時間未満
 4 3時間以上4時間未満 5 4時間以上



(4) 入学試験委員会

委員会の開催

- 令和5年 4月27日(木)：オープンキャンパスの実施内容に関する件
- 令和5年 6月 9日(金)：学校推薦型選抜における在学生の入構に関する件
- 令和5年 7月25日(火)：指定校入試の評価に関する件
- 令和5年 9月 7日(木)：出願書類の作成における生成 AI の取り扱いに関する件
- 令和5年10月 4日(水)：1年次 入試区分別・前期成績及び進級状況に関する件
- 令和5年10月19日(木)：推薦入試担当業務に関する件
- 令和5年11月22日(水)：学校推薦型選抜の合否判定案に関する件
- 令和5年12月 4日(月)：学校推薦型選抜の合否判定案に関する件
- 令和5年12月11日(月)：共通テスト・担当試験室等に関する件
- 令和6年 1月26日(金)：規程(D特待、入学金免除)に関する件
- 令和6年 2月 7日(水)：入学試験B方式_合否判定案
- 令和6年 2月 8日(木)：新規指定校の選定及び解除に関する件
- 令和6年 2月 9日(金)：入学試験A・C・D方式_合否判定案
- 令和6年 2月10日(土)：新規指定校に関する件
- 令和6年 2月19日(月)：特待生選考試験結果に関する件
- 令和6年 2月29日(木)：推薦枠を増やす指定校に関する件

活動概要・現状

1. 入学試験

(1) 2024年度指定校制・学校推薦型選抜(追試験含む)

募集人員	70名			
選考期日	2023年11月18日(土)			
推薦依頼校	382 + 附属高校			
試験結果	志願者(女子)	受験者(女子)	合格者(女子)	入学者(女子)
	96(64)	96(64)	96(64)	96(64)

(2) 2024年度公募制・学校推薦型選抜(追試験なし)

募集人員	30名			
選考期日	2023年11月19日(日)			
試験結果	志願者(女子)	受験者(女子)	合格者(女子)	入学者(女子)
	188(128)	187(128)	79(55)	28(18)

(3) 2024年度一般選抜(追試験なし)

募集人員	A方式15名・B方式85名・C方式30名・D方式10名			
選考期日	B方式 2024年2月4日(日)			
	C方式 2024年2月3日(土)			
試験結果	志願者(女子)	受験者(女子)	合格者(女子)	入学者(女子)
A方式	481(314)	481(314)	246(163)	16(13)
B方式	663(387)	571(339)	323(189)	141(82)
C方式	102(62)	89(53)	40(19)	6(2)
D方式	94(51)	83(47)	44(26)	4(3)
計	1,340(814)	1,224(753)	653(397)	167(100)

(4) 2024 年度 1 年次入学者

クラス A	クラス B	合 計
146 (91)	145 (91)	291 (182)

2. 大学説明会

2023 年 6 月 30 日 (金) 14 時
スライド説明、個別相談 (希望者)
33 名参加、個別相談 10 名

3. 受験生向けイベント

(1) ミニオープンキャンパス [事前登録制] (各 25 組 50 名)

4 月 15 日 (土) 13 時の部・15 時の部
5 月 20 日 (土)、6 月 17 日 (土)、7 月 29 日 (土)、8 月 1 日 (火)、10 月 28 日 (土)
10 時 30 分の部・13 時 30 分の部
・スライド説明
・キャンパス案内 (希望者)
・個別相談 (希望者)
・在学生との懇談 (希望者) 5 月以降

(2) オープンキャンパス [事前登録制]

2023 年 9 月 17 日 (日)、18 日 (月・祝) 10 時の部、13 時の部 (各回 100 組 200 名)
・スライド説明
・キャンパス案内
・個別相談
・模擬講義

(3) 期間限定入試対策講座 [事前登録制]

予備校講師による入試対策講座 (化学・数学)
大学ホームページで動画公開
2023 年 7 月 30 日 (日)、8 月 2 日 (水)、6 日 (日) 各日 10 時～15 時

(4) キャンパス見学 [事前登録制] 自由見学

4 月～10 月 基本土曜日開催
4 月 22 日 (10 時)、9 月 2 日、4 日、10 月 7 日、3 月 23 日 (10 時 30 分)
8 月実施分 各日 10 時 30 分・13 時 30 分
4 日 (金)、18 日 (金)、22 日 (火)

4. 入学試験結果 都道府県別

都道府県名	志願者	受験者	合格者	入学者
北海道	19 (14)	17 (13)	14 (11)	4 (3)
青森	4 (4)	3 (3)	3 (3)	1 (1)
岩手	4 (2)	4 (2)	2 (0)	1 (0)
宮城	6 (3)	5 (2)	4 (2)	2 (0)
秋田	6 (4)	6 (4)	4 (2)	1 (1)
山形	6 (3)	5 (3)	2 (1)	1 (1)
福島	12 (5)	12 (5)	7 (1)	4 (0)
小計	57 (35)	52 (32)	36 (20)	14 (6)
茨城	52 (32)	47 (29)	30 (16)	12 (4)
栃木	27 (12)	24 (11)	14 (7)	6 (4)
群馬	23 (13)	22 (13)	14 (7)	4 (3)
埼玉	164 (95)	146 (86)	74 (48)	20 (10)
千葉	39 (20)	35 (17)	19 (12)	6 (2)
東京	495 (303)	456 (282)	228 (139)	69 (44)
神奈川	573 (369)	550 (354)	306 (192)	121 (85)
小計	1373 (844)	1280 (792)	685 (421)	238 (152)
新潟	20 (11)	17 (11)	7 (3)	3 (2)
富山	3 (1)	3 (1)	3 (1)	0 (0)
石川	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
福井	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
山梨	28 (23)	28 (23)	23 (21)	8 (7)
長野	39 (21)	34 (19)	22 (11)	10 (2)
岐阜	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
静岡	38 (32)	36 (30)	26 (23)	8 (7)
愛知	11 (8)	11 (8)	4 (3)	3 (2)
小計	140 (96)	130 (92)	86 (62)	32 (20)
三重	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
滋賀	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京都	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
大阪	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
兵庫	2 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)
奈良	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
和歌山	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
小計	6 (3)	6 (3)	1 (0)	0 (0)
鳥取	3 (1)	2 (1)	1 (0)	0 (0)
島根	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
岡山	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
広島	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
山口	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
小計	8 (3)	5 (3)	3 (2)	0 (0)
徳島	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
香川	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
愛媛	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
高知	3 (1)	2 (1)	2 (1)	0 (0)
小計	6 (4)	5 (4)	2 (1)	0 (0)
福岡	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
佐賀	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
長崎	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
熊本	5 (3)	5 (3)	2 (1)	0 (0)
大分	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
宮崎	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)
鹿児島	4 (2)	4 (2)	2 (1)	0 (0)
沖縄	11 (8)	9 (7)	5 (4)	3 (2)
小計	23 (16)	21 (15)	10 (7)	3 (2)
その他	11 (5)	8 (4)	5 (3)	4 (2)
小計	11 (5)	8 (4)	5 (3)	4 (2)
合計	1,624 (1,006)	1,507 (945)	828 (516)	291 (182)

() 内は女子の内数

5. 大学入試センター試験関係活動

時 期	内 容	場 所
7 月	令和 5 年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	資料配信のみ
8 月	令和 6 年度大学入学共通テスト入試担当者連絡協議会（第 1 回）	資料配信のみ
12 月	令和 6 年度大学入学共通テスト入試担当者連絡協議会（第 2 回）	資料配信のみ
1 月	大学入学共通テスト監督者等説明会（第 1 回）	本学
1 月	大学入学共通テスト監督者等説明会（第 2 回）	本学

6. 高校訪問、進学相談会関係活動

内 容	校数, 会場数	内 訳
高校説明会, 模擬授業等	30 校	神奈川 23, 東京 4, 埼玉 1, その他 2
指定校訪問	49 校	神奈川 17, 東京 9, 栃木 7, その他 16
進学相談会	22 会場	東京 9, 神奈川 2, 埼玉 2, その他 9

自己点検・評価

学生募集活動について、高校で行う模擬授業、東京 4 薬科大学合同相談会をはじめとする学外の進学相談会へ対応したほか、学内イベントとして推薦指定校の教員を対象とする大学説明会を 6 月に実施、少人数制のミニオープンキャンパスを毎月 1 回のペースで行いつつ模擬講義も含めたオープンキャンパスを 9 月に開催し、精力的に学生募集活動を進めることができた。

優秀な学生獲得を目的に注力している指定校については、新規の推薦指定校へ入試委員が個別訪問して進路指導担当の教員と面談、情報交換を行い、紐帯強化を図った。

2024 年度の学校推薦型選抜について、指定校制は志願者数が前年同数の 96 名、公募制は 187 名の生徒が受験し合格者 79 名、受験倍率は 2.4 倍となった。一般選抜をみると受験者は 1,507 名となり、昨年度の 1,944 名に比して 78%、人数としては 437 名減少した。

本年度入試は大きな傾向として年内入試である学校推薦型選抜で志願者が増加して一般選抜が減少する動きがみられるなか、昨年の明治薬科の定員増に続き、今年は順天堂大学、国際医療福祉・成田の新規開学、東邦の定員増と規制強化直前に駆け込みで学部の新規開設、定員増が相次いだ。この影響により関東地区の薬学部では特に一般選抜で需給緩和の傾向が強まり、本学の受験者数もこうした動きの影響を大きく受けることとなった。

今後に向けて

進路決定の早期化により年内入試である推薦入試の重要度が高まりつつあるなかで、今後も少子化が進み受験者増は望みにくい環境が続くため、本学で学びたい意欲を高くもつ指定校推薦での志願者獲得による質の維持も企図しつつ募集活動を進めていきたいと考えている。

なお当委員会は適正に機能しているものと思料しており、今後も入学試験管理委員会をはじめとする関係委員会と緊密に連携を図りながら、高い資質を有する学生の入学に寄与すべく多様な施策を展開していきたい。

(5) 実務実習委員会

委員会の開催

第1回 2023年7月25日(火)

- 議題
1. 委員長挨拶
 2. 幹事の選出
 3. 臨床実習事前学習Ⅰについて
 4. 臨床実習事前学習Ⅱについて
 5. 実務実習について

第2回 2023年8月30日(水)

- 議題
1. 実務実習の中止について(薬局)

第3回 2023年9月22日(金)

- 議題
1. 臨床実習事前実習での「事前実習支援システム」の使用について
 2. 2024年度の実習ならびにOSCEの日程について

第4回 2023年12月18日(月)

- 議題
1. 実務実習期間中の学会の参加について

活動概要・現状

外部団体の会議(オンライン含む)への出席など

- 1) 病院・薬局実務実習関東地区調整機構総会
2023年4月28日(金), 2023年12月15日(金)
- 2) 関東地区調整機構(指導薬剤師養成小委員会)
2023年6月26日(月), 2024年1月26日(金)
- 3) 東京都薬剤師会(薬局実務実習担当者会議)
2023年9月4日(月), 2023年10月24日(火), 2023年12月18日(月),
2024年1月26日(金), 2024年3月25日(月)
- 4) 東京都薬剤師会(伝達講習会)
今年度は無し
- 5) 東京都薬剤師会情報共有ワーキンググループ
2024年3月26日(火)
- 6) 神奈川県薬剤師会(実務実習委員会)
2023年8月28日(月)
- 7) 神奈川県薬剤師会(実務実習委員会・担当者会議)
2023年9月29日(金), 2024年2月13日(火)
- 8) 神奈川県薬剤師会(県薬・病薬・大学との懇談会)
2024年1月31日(水)
- 9) 神奈川県薬剤師会(各委員会との意見交換会)
今年度は無し
- 10) 実務実習教科担当教員会議
2023年5月13日(土)
- 11) 聖マリアンナ医科大学との意見交換会
2024年2月21日(水)

病院・薬局実務実習関係（資料 1, 2）

1. 2023 年度病院・薬局実務実習履修者内訳

	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期		合計	
	施設数	学生数								
契約病院	0	0	23	61	29	69	28	71	37	201
調整機構	0	0	1	1	10	9	1	1	12	11
病院合計	0	0	24	62	39	78	29	72	49	212
薬 局	61	62	72	78	75	72	0	0	179	212
合 計	61	62	96	140	114	150	29	72	228	212

※1名の学生が2施設に実習に行く場合、施設数は2、学生数は1で計上している。

※各期に同じ施設に実習に行く学生が2名以上いる場合でも施設数は1として計上している。ただし、合計においては、複数期実習を受け入れていても施設が同じであれば1施設とする。

2. 2023 年度病院・薬局実務実習者への説明会

- (1) 2023年4月1日（土） 第Ⅰ期 実務実習成果報告会説明会および中間報告会
- (2) 2023年5月8日（月） 第Ⅱ期 直前教育、WebSystem説明会（薬局）
- (3) 2023年5月17日（水） 第Ⅱ期 直前教育（薬局・病院）
- (4) 2023年6月24日（土） 第Ⅱ期 実務実習成果報告会説明会および中間報告会
- (5) 2023年7月31日（月） 第Ⅲ期 直前教育、WebSystem説明会（薬局）
- (6) 2023年8月18日（金） 第Ⅲ期 直前教育（薬局・病院）
- (7) 2023年9月30日（土） 第Ⅲ期 実務実習成果報告会説明会および中間報告会
- (8) 2023年11月15日（水） 第Ⅳ期 直前教育（病院）
- (9) 2023年12月23日（土） 第Ⅳ期 実務実習成果報告会説明会および中間報告会

3. 2023 年度病院・薬局実務実習成果報告会

- (1) 2024年2月24日（土） 第Ⅰ～Ⅳ期病院・薬局実務実習成果報告会

4. 2024 年度病院・薬局実務実習者への説明会

- (1) 2023年6月7日（水） 実習先指定ワクチン説明会
- (2) 2023年9月14日（木） 病院・薬局実務実習に関する書類説明会
- (3) 2023年11月13日（月） 病院・薬局実務実習に関する概要説明会（Yクラス）
- (4) 2023年11月14日（火） 病院・薬局実務実習に関する概要説明会（Sクラス）
- (5) 2023年12月14日（木） 病院・薬局実務実習に関するガイダンス
- (6) 2024年1月27日（土） 病院・薬局実務実習のための全体説明会
- (7) 2024年1月27日（土） WebSystem説明会（富士フィルム）
- (8) 2024年1月27日（土） Ⅰ～Ⅳ期薬局・病院実務実習のための連絡会
- (9) 2024年2月9日（土） 第Ⅰ期 直前教育（薬局）
- (10) 2024年2月14日（土） 第Ⅰ期 直前教育、WebSystem説明会（薬局・病院）
- (11) 2024年3月23日（土） 第Ⅰ期 実務実習成果報告会説明会および中間報告会

5. 2025 年度 病院・薬局実務実習予定者への説明会

- (1) 2024年1月26日（金） 2025年度 病院・薬局実務実習に関するエントリー説明会および第1回希望調査

6. 実務実習新任教員説明会

今年度は実施していない。

7. 2023 年度 実務実習事前学習（資料 3）

- (1) 臨床実習事前学習Ⅰ（前期）
 - ・実務実習ガイダンス・講義・演習 2023年5月23日～6月5日の6日間
 - ・症例検討 症例①入院患者，症例②在宅患者，学生は1症例2日間

実習日：6月6日（火）、8日（木）、12日（月）、13日（火）

・技能系実習 学生は1日2項目（実施4日間）

実習項目：①フィジカルアセスメント・懸濁法、②製剤（軟膏剤）・デバイス、
③配合変化・手洗い希釈、④医薬品情報・TDM

実習日：6月15日（木）、19日（月）、20日（火）、22日（木）、26日（月）、27日（火）、29日（木）、7月3日（月）

(2) 臨床実習事前学習Ⅱ（後期）

・実務実習ガイダンス・講義 2023年9月4日（月）

・技能系実習 学生は1日1項目（実施3日間）

実習項目：①散剤・水剤、②無菌調剤、③計数調剤・軟膏剤

実習日：9月11日（月）、12日（火）、14日（木）、15日（金）、19日（火）、
21日（木）の13:00 - 18:10

・症例検討 実習日：9月22日（金）、25日（月）、学生はどちらか1日

・コミュニケーション系実習 学生は1日1項目（実施3日間）

実習項目：①（病院）患者対応・持参薬チェック・多職種への情報提供／（病院）服薬指導・退院時指導、②（薬局）患者対応・疑義照会／（薬局）服薬指導・レセコン・ジェネリック医薬品、③（薬局）OTC／（在宅）在宅問診・フィジカルアセスメント

実習日：9月26日（火）、28日（木）、29日（金）、
10月2日（月）、5日（木）、6日（金）、10日（火）、12日（木）

・保険請求 1日（AB合同）

実習日：12月15日（金）の13:00 - 17:20

(3) 総合実習 学生は1日1項目（実施7日間）

実習項目：①患者対応、②散剤・水剤、③軟膏剤・計数、④無菌調製、⑤薬剤監査・持参薬チェック、⑥服薬指導、⑦疑義照会・OTC

実習日時：10月16日（月）、17日（火）、19日（木）、20日（金）、23日（月）、26日（木）、
30日（月）、31日（火）、11月13日（月）、14日（火）、16日（木）、20日（月）、
21日（火）、27日（月）の13:00 - 17:00

(4) 薬学共用試験 OSCE 自主練習会

12月1日（金）と4日（月）または5日（火）の12:30 - 17:00、学生は2日間

8. 多職種連携教育セミナー

(1) 杏林大学医学部（オンライン）

2023年6月28日（水） 17時45分～18時30分

2023年7月1日（土） 9時30分～13時

杏林大学111名、昭和薬科大学120名

A、B、C、D、Eで各6グループ：各7～8名

(2) 聖マリアンナ医科大学・東京純心大学（聖マリ会場、昭薬会場）

2023年9月9日（土） 13時00分～17時35分

聖マリアンナ医科大学116名、東京純心大学看護学部66名、昭和薬科大学120名

Aグループ（20班）、Bグループ（20班）：各班7～8名

(3) 東京大学・聖路加国際大学（オンライン）

2023年11月25日（金）14時～17時

東京大学（医学科111名、薬学科8名、健康総合科学科1名）、聖路加国際大学看護学部124名、昭和薬科大学103名

Aグループ（25班）、Bグループ（26班）：各6～7名

行事

1. 病院・薬局実務実習に関する連絡会等

第Ⅰ～Ⅳ期 実習施設対象 2024年1月27日（土）

1. 実習全般について、実務実習確認
2. 担当教員の訪問指導について
3. 実習終了後の報告会について

2. 実務実習成果報告会

2024年2月24日（土）、薬局と病院実務実習計22週間で「学んできたこと、成長できたこと」をまとめ、ポスター形式での発表を体育館にて行った。2023年度は1部制とし、実習先の指導薬剤師にも案内を行い、約20名の参加があった。

自己点検・評価

実務実習委員会は、4年次事前学習、5年次実務実習に関わる諸事についての企画、立案、運営、および実務実習に関して発生する諸問題についての対応策の検討およびその実施を行っている。

COVID-19が5月には5類感染症に分類となり、計画した日程を変更することなく実施することができた。昨年度からVRの導入、iPadやスマートホンなどを用いて実習前～実習後に自己学習できるような映像を作成し教員が創意工夫している。

多職種連携についても、聖マリアンナ医科大学－東京純心大学、杏林大学で行う課題（症例）は、作成当初から本学教員も携わっている。また、学生も他職種の役割などを習得するなど、大きな収穫があった。

5年次実務実習は、212名の学生が2023年2月20日から翌2024年2月11日までの4期に分かれて病院・薬局実務実習を行った。個人情報・法人機密情報の保護、5類感染症に分類されたとはいえ、医療機関での実習のため、「衛生的な手洗いの励行・アルコール手指消毒・咳エチケットに努め、感染予防を徹底、不要不急の外出はしないことなど医療人としての自覚を持って行動する」ように大学として指導を行った。

今年度も、「2023年度病院・薬局実務実習報告書」では、5月に5類感染症に分類となり、患者さんとの関わりを多く持ったからと思うが、服薬指導を多数実施できた、在宅医療に多数関わることができたなど、実習を行えた喜び、感謝の言葉がつつられていて、実務実習が充実していたことが伺えた。また、CD（電子版）を作成し、各実習施設ならびに配布した。

実務実習が実社会に触れる初めての機会であることから、適応に時間がかかる学生が年々増えてきている様に感じる。特に今年の学生は、2020年4月入学学生で入学式中止、講義もオンラインで開始、部活動も数年できない学年であり、それだけの理由ではないが、コミュニケーション力が不足している学生や、社会への適応能力が十分でない学生が多く感じられた。その様な学生に対し、きめ細かな教育が求められる。その為には1年次からのアドバイザー制度によるサポート体制の下、低学年からの実習、4年次の事前学習、そして5年次の実務実習につなげていくような対策を講じることが課題であると感じている。

今後に向けて

実務実習事前実習（4年次）

事前学習の日誌（レポート）で、FUJIFILMのシステムを本格使用するため（昨年は総合実習のみ実施）、運用方法を探りながら実施していきたい。令和9年度から始まるコアカリに準拠する事前学習の構築を検討していきたい。

病院・薬局実務実習（5年次）

実習に関して直前教育を行っているが、個人情報の保護に関して100%守られていないため、繰り返し教育を行ってきたい。また、薬局－病院－大学との連携を進めていきたい。また、コミュニケーションをとることが難しい学生がおり、実習先でトラブルになるケースがあるため、早めに対処できるよう、訪問担当教員にも周知し、これまで以上に臨床薬学教育センター教員と連携できるようにしたい。

2023年度 実務実習 病院

No.	病 院 名	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	合計
K01	聖マリアンナ医科大学病院	19	17	19	55
K02	川崎市立多摩病院	6	6	6	18
K03	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	7	7	7	21
K04	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	0	1	1	2
K06	町田市民病院	0	2	2	4
K08	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院	1	0	1	2
K09	医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	1	2	1	4
K10	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	1	1	1	3
K13	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院	1	1	1	3
K15	社会医療法人社団三思会 東名厚木病院	0	0	1	1
K16	大和市立病院	1	1	0	2
K17	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	3	3	3	9
K18	公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター	1	1	1	3
K20	社会医療法人財団互惠会 大船中央病院	1	1	1	3
K21	医療法人 徳洲会 湘南鎌倉総合病院	0	1	1	2
K22	公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市立市民病院	0	1	0	1
K23	藤沢市民病院	2	2	0	4
K24	小田原市立病院	0	1	1	2
K25	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	1	1	1	3
K27	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	2	2	2	6
K28	東海大学医学部附属病院	0	1	2	3
K29	東京医療生活協同組合 新渡戸記念中野総合病院	0	1	1	2
K30	立正佼成会附属佼成病院	0	1	1	2
K31	国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院	1	1	0	2
K32	東京大学医学部附属病院	2	4	4	10
K36	群馬大学医学部附属病院	1	0	0	1
K37	信州大学医学部附属病院	1	2	0	3
K39	筑波大学附属病院	0	0	2	2
K40	東京慈恵会医科大学附属第三病院	4	3	4	11
K44	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院	1	0	1	2
K45	さがみ林間病院	0	2	0	2
K47	埼玉医科大学総合医療センター	2	1	2	5
K49	埼玉医科大学病院	0	1	0	1
K53	公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院	1	1	1	3
K54	東京女子医科大学附属足立医療センター	0	0	2	2
K57	横浜市立市民病院	0	0	1	1
K58	国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院	1	0	0	1
T02	水戸赤十字病院	0	1	0	1
T03	医療法人社団善仁会 小山記念病院	0	1	0	1
T05	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 栃木県済生会宇都宮病院	0	1	0	1
T06	足利赤十字病院	0	1	0	1
T07	SUBARU 健康保険組合 太田記念病院	0	1	0	1
T08	桐生厚生総合病院	0	1	0	1
T09	公立館林厚生病院	0	0	1	1
T10	厚生連 新潟医療センター	0	1	0	1
T11	独立行政法人地域医療機能推進機構 山梨病院	0	1	0	1
T12	公益財団法人 リヴィーズ HANAZONO ホスピタル	0	(1)	0	(1)
T13	飯田市立病院	1	0	0	1
T14	常陸大宮済生会病院	0	1	0	1
	合計	62	78	72	212

2023年度 実務実習 薬局

No.	都県	エリア	薬局名	I 期	II 期	III 期	合計
1	茨 城	水戸	アルテ薬局	0	1	0	1
2		日立	東金沢薬局	1	0	0	1
3		龍ヶ崎	ひかり薬局守谷ゆりがおか店	0	0	1	1
4		つくば	あけぼの薬局メディカル店	0	0	1	1
5	栃 木	宇都宮3東	ピノキオ薬局今泉店	0	1	0	1
6	群 馬	前橋西部	一般財団法人同愛会 同愛会薬局	1	0	0	1
7		桐生東部	わたらせ薬局 厚生前	0	1	0	1
8	埼 玉	埼玉南西部	かくの木菅沢薬局	0	1	0	1
9		埼玉西部	あすなろ薬局	1	0	0	1
10		さいたま市	ドラッグセイムス宮原西口薬局	0	1	0	1
11		さいたま市	サン&グリーン薬局だいたくぼ	0	1	0	1
12		さいたま市	そうごう薬局浦和店	0	1	0	1
13		さいたま市	さくらそう薬局	0	0	1	1
14		川越	みさき薬局	0	0	1	1
15		秩父・埼玉北	(株)熊谷市薬剤師会会営薬局中西店	0	0	1	1
16		秩父・埼玉北	中央薬局日赤前店	0	2	0	2
17		越谷・春日部	東口薬局	1	0	0	1
18		越谷・春日部	鈴薬局大袋店	1	0	0	1
19		埼玉東部	グリーン薬局	1	0	0	1
20		川口・蕨・戸田	川口薬剤師会センター薬局	0	1	0	1
21		千 葉	松戸	アオイ薬局	1	0	0
22	印旛		須藤薬局	0	1	0	1
23	銚子		セキカラコ薬局 和田町店	0	1	0	1
24	君津		ひかり薬局東中央店	0	1	0	1
25	浦安		ドラッグセイムス浦安入船薬局	1	0	0	1
26	東 京	千代田区	和同会薬局	0	1	0	1
27		千代田区	いけだ薬局番町店	1	0	0	1
28		中央区	クオール薬局日本橋店	0	0	1	1
29		港区	慶應義塾大学薬学部附属薬局	0	0	1	1
30		新宿区	本田薬局中落合店	1	0	0	1
31		新宿区	薬局トモズ女子医大前店	0	0	1	1
32		新宿区	ワカマツ薬局	0	0	1	1
33		新宿区	龍生堂薬局アイランドタワー店	0	1	0	1
34		文京区	和同会薬局湯島店	0	0	1	1
35		台東区	車坂薬局	0	0	1	1
36		品川区	ミュキ薬局	0	0	1	1
37		大田区	スマイル薬局西糀谷店	1	0	0	1
38		世田谷区	経堂みどり薬局	0	0	1	1
39		世田谷区	ニイナ調剤薬局	2	0	0	2
40		世田谷区	経堂わかば薬局	0	2	1	3
41		世田谷区	丘の上薬局下高井戸店	1	0	0	1
42		世田谷区	かちどき薬局下馬店	0	1	0	1
43		渋谷区	たくみ外苑薬局	0	1	0	1
44		渋谷区	けやき薬局 宇田川店	1	0	0	1
45		中野区	なごみ薬局本店	0	1	0	1
46		杉並区	(有)高井戸薬局	0	0	1	1
47		杉並区	中村薬局支店	0	0	1	1
48		豊島区	(株)タサキ薬局	1	0	0	1

No.	都県	エリア	薬局名	I 期	II 期	III 期	合計
49	東 京	足立区	ファーコス薬局回生堂	0	0	1	1
50		足立区	梅田調剤薬局	0	0	1	1
51		足立区	東あやせ薬局	0	0	1	1
52		八王子	たなべ薬局	1	0	0	1
53		八王子	マロン薬局みなみ野店	0	0	1	1
54		八王子	八王子薬剤センター駅前薬局	0	1	0	1
55		八王子	ハートフルファーマシーサザンスカイトワー店	0	1	0	1
56		南多摩	コサカ薬局多摩センター駅前店	1	0	0	1
57		南多摩	龍生堂薬局ベルブ永山店	1	0	0	1
58		狛江	大塚薬局	0	0	1	1
59		狛江	サンヨー堂薬局	1	0	0	1
60		狛江	薬樹薬局野川	0	0	1	1
61		多摩中央	かちどき薬局小金井店	0	1	0	1
62		北多摩	なかや薬局拝島駅前店	0	0	1	1
63		北多摩	こばると薬局	0	1	0	1
64		北多摩	十字堂薬局	0	0	1	1
65		町田	あさひ調剤薬局町田店	0	2	0	2
66		町田	ケーエム薬局山崎店	0	1	1	2
67		町田	つばさ薬局町田店	0	0	1	1
68		町田	クオール薬局成瀬台店	1	2	0	3
69		町田	能ヶ谷調剤薬局	0	1	1	2
70		町田	マロン薬局鶴川店	1	0	1	2
71		町田	薬樹薬局町田旭町	1	1	1	3
72		町田	薬樹薬局オガワ	1	2	1	4
73		町田	健ナビ薬樹薬局成瀬	0	2	1	3
74		町田	薬樹薬局忠生	1	2	0	3
75		町田	かもめ薬局常盤店	0	0	1	1
76		町田	おれんじ薬局	1	1	1	3
77		町田	イワナガ大蔵薬局	0	1	0	1
78		町田	ミライのくすり屋さん	0	0	1	1
79		武蔵野	やすらぎ薬局	0	0	1	1
80	調布	神代薬局	1	0	0	1	
81	調布	クオール薬局調布店	1	0	0	1	
82	神 奈 川	鶴見	ウイン調剤薬局東寺尾店	1	0	0	1
83		神奈川	しんまち薬局	0	0	1	1
84		神奈川	しんわ薬局子安店	0	0	1	1
85		中	加藤回陽堂薬局	0	1	0	1
86		中	有限会社 日の出薬局	0	1	0	1
87		南	さくら薬局 横浜井土ヶ谷下町店	0	0	1	1
88		港南	桜台薬局	0	1	0	1
89		旭	明日花薬局	0	1	1	2
90		旭	株式会社横浜調剤薬局	2	1	0	3
91		旭	木須薬局駅前店	1	0	0	1

No.	都県	エリア	薬局名	I期	II期	III期	合計
92	神奈川県	磯子	有限会社上永谷薬局磯子店	1	0	0	1
93		金沢	平安堂薬局並木店	0	0	1	1
94		金沢	薬樹薬局 富岡	1	1	0	2
95		港北	有限会社すみれ薬局	0	0	1	1
96		港北	ホーゲン薬局	0	1	1	2
97		港北	みどり薬局新横浜店	0	1	0	1
98		中	プラス薬局	0	1	0	1
99		緑	えがお薬局	0	1	0	1
100		緑	望星横浜みどり薬局	1	0	1	2
101		青葉	龍生堂薬局あざみ野店	0	0	1	1
102		青葉	みどり薬局	1	0	0	1
103		青葉	みんなのくすり屋さん	0	1	0	1
104		青葉	ツバキ薬局	1	0	0	1
105		都筑	せせらぎ薬局	1	0	0	1
106		都筑	せせらぎ薬局センター南店	0	0	1	1
107		都筑	都筑セントラル薬局	0	1	0	1
108		戸塚	なの花薬局東戸塚店	1	0	0	1
109		栄	シーガル調剤薬局本郷店	0	0	1	1
110		栄	中村薬局犬山店	1	0	1	2
111		栄	クオール薬局笠間店	1	0	0	1
112		泉	あおぞら薬局	1	0	0	1
113		泉	クリエイトエスディー立場店薬局	0	1	0	1
114		泉	薬樹薬局いずみ中央2号店	0	1	0	1
115		瀬谷	コンパス薬局	0	0	1	1
116		幸	健ナビ薬樹薬局古市場	0	0	1	1
117		中原	ミキ薬局武蔵小杉店	0	1	0	1
118		高津	ファーコス薬局中央	0	0	1	1
119		高津	クスリのナカヤマ薬局久地駅前店	1	0	0	1
120		高津	くすりサガミ薬局	0	1	0	1
121		宮前	薬樹薬局宮前平2号店	1	0	0	1
122		多摩	ミネ薬局登戸店	1	0	0	1
123		麻生	しま薬局	0	0	1	1
124		麻生	有限会社たま調剤薬局千代ヶ丘店	0	0	1	1
125		麻生	フジ薬局新百合山手通り店	1	0	0	1
126		麻生	フジ薬局柿生店	1	1	1	3
127		横須賀・逗葉・三浦	薬樹薬局若松	0	0	1	1
128		横須賀・逗葉・三浦	わかば薬局大津店	0	1	0	1
129	平塚	こぐま薬局	0	1	0	1	
130	平塚	クローバー薬局	0	0	1	1	
131	平塚	ナカジマ薬局ららぽーと湘南平塚	1	0	0	1	
132	鎌倉	あおば薬局	1	0	1	2	
133	鎌倉	みらい薬局大船店	0	1	0	1	
134	藤沢	(株)大島薬局	1	0	0	1	
135	藤沢	あおば薬局	0	1	0	1	
136	藤沢	セレン薬局	1	0	0	1	
137	藤沢	有限会社善行調剤薬局	1	0	0	1	

No.	都県	エリア	薬局名	I 期	II 期	III 期	合計
138	神奈川県	小田原	健やか薬局	0	0	1	1
139		小田原	桜木薬局	1	0	0	1
140		小田原	夏目薬局	0	0	1	1
141		小田原	ひかり薬局本店	1	0	1	2
142		小田原	ミキ薬局小田原店	0	1	0	1
143		小田原	みなみぐち薬局	1	1	0	2
144		小田原	きずな薬局	1	0	0	1
145		小田原	くすのき薬局	0	0	1	1
146		茅ヶ崎	ホシ薬局	0	0	1	1
147		茅ヶ崎	ポニー薬局茅ヶ崎海岸店	0	1	0	1
148		相模原	柴胡会ちゅうおう薬局	0	1	1	2
149		相模原	東聖薬局相模原店	1	0	0	1
150		相模原	星が丘西薬局	1	0	0	1
151		相模原	薬樹薬局 矢部	1	1	0	2
152		相模原	いろは堂薬局	0	0	1	1
153		相模原	オレンジ薬局鹿沼台店	0	1	0	1
154		相模原	メリト薬局	1	0	0	1
155		秦野	ナカニシ薬局駅前店	0	1	0	1
156		伊勢原	株式会社あさひ薬局	0	0	1	1
157		伊勢原	そうごう薬局伊勢原店	0	0	1	1
158		伊勢原	望星薬局	0	1	0	1
159		厚木	薬樹薬局厚木水引	0	1	0	1
160		厚木	ヤマグチ薬局厚木中町店	0	0	1	1
161		厚木	若草薬局戸室店	0	1	0	1
162		厚木	なかよし薬局愛甲店	1	0	1	2
163		厚木	ひなた薬局半原店	0	0	1	1
164		厚木	さつき調剤薬局	0	0	1	1
165		海老名	アイン薬局海老名店	0	1	0	1
166		海老名	ガーデン薬局河原口店	0	1	1	2
167		大和綾瀬	健ナビ薬樹薬局南林間	1	0	0	1
168		大和綾瀬	薬樹薬局光が丘	0	1	0	1
169		大和綾瀬	薬樹薬局南林間	0	1	1	2
170		座間	オリーブ薬局	0	0	1	1
171		新潟	新潟 2	五十嵐東薬局	0	1	0
172	山梨	甲府	あおぞら薬局富士見店	0	1	0	1
173	長野	中信	日野薬局	0	1	0	1
174		上伊那	ほたる薬局辰野店	0	1	0	1
			合計	62	78	72	212

2023年度 4年生事前実習 外部講師一覧

	講師氏名	所属
1	池島 秀明	医療法人社団鵬友会湘南泉病院
2	桜井なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社
3	大野 郁子	公益財団法人日本医療機能評価機構
4	山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML 理事長
5	広池 暁子	トライアドジャパン株式会社
6	佐藤 幸栄	トライアドジャパン株式会社
7	鎌田 勝久	トライアドジャパン株式会社
8	野田和多流	トライアドジャパン株式会社

(6) 公開講座委員会

委員会の開催

第1回：令和5年5月23日

2023年度の講座開催（公開講座・市民講座）に向けての日程・オーガナイザーについて、外部講師の交通費について、委員会内規について

第2回：令和5年7月27日 メール委員会

2024年度予算案、第2回公開講座について、第17回市民講座について、次年度の公開講座・市民講座について

第3回：令和5年11月21日

2024年度 第1回公開講座について、第2回公開講座について、第19回市民講座について

第4回：令和5年12月7日 メール委員会

2024年度 第1回公開講座（6/2）の具体的な提案について

第5回：令和6年3月18日 メール委員会

2024年度 第1回・第2回公開講座の参加予定日程調整について、第2回公開講座のテーマについて

活動概要・現状

今年度は2つの公開教育講座と昭和薬科大学町田市生涯学習センター共催市民講座を開催した。

第1回公開教育講座は6月4日（日）に開催した。オーガナイザーは本学濱本和之教授が担当した。講座テーマは「せん妄」で2名の講師による講演を行った。最初に小川朝生氏（国立がん研究センター）が医師の立場から「せん妄って何？」という演題で、せん妄がどのようなものか、診断、治療等についての講演を行い、次に餅原弘樹氏（のぞみの花クリニック）が薬剤師の立場から「在宅緩和ケアにおける薬剤師のせん妄へのかかわり」というタイトルで、薬剤師がかかわる地域活動での実践的な事例を踏まえた内容の講演を行った。

第2回公開教育講座は10月1日（日）に開催した。オーガナイザーは本学菊池千草教授が担当した。講座テーマは「在宅医療への薬剤師の挑戦」で2名の講師による講演を行った。最初に大須賀悠子氏（在宅療養支援診療所薬剤師連絡会）が在支診薬剤師の立場から「在支診薬剤師の役割」という演題で、在宅医療に関わる医療者を支援するという新しい薬剤師の役割についての講義を行い、次に市川順子氏（ヒューメディカルしんまち薬局、本学出身者）が小児在宅医療に関わる薬剤師の立場から「小児在宅医療に薬局・薬剤師ができること」というタイトルで、薬剤師にはあまりなじみのない小児在宅医療の領域について、具体例を交えた内容の講演を行った。

昭和薬科大学・町田市生涯学習センター共催市民講座は11月18日（土）に開催した。オーガナイザーは本学石井功教授が担当した。講座テーマは「超高齢社会を生き抜く」で2名の講師による講演を行った。最初に本学石井功氏が衛生化学の立場から「生きる＝正しく食べる、正しく排泄する」という演題で、食餌の重要性についての講演を行い、次に鈴木啓悦氏が泌尿器科学の立場から「泌尿器の病気：頻尿や尿もれ、前立腺の病気など」という演題で排泄の重要性に関する内容の講演を行った。

自己点検・評価

第1回公開教育講座のアンケートは好意的なコメントが大部分を占め、例えば「認知症とせん妄との違いを十分吟味する必要があると感じた。」「せん妄に対する具体策を学ぶことができた。」「薬剤せん妄に対する代替薬が興味深かった。」という回答があった。また、第2回公開教育講座についても好意的なコメントが大部分を占め、例えば「在支診薬剤師の話は切望していた内容だった。」「勇気をもって困難を感じる業務を受けることはステップアップになると思った。」「小児在宅訪問の流れが非常にわかりやすかった。」という回答があった。従って、本年度は参加者の満足度の高い講座になったと考えられる。第1回は「せん妄」で、第2回は「在支診薬剤師」「小児在宅医療」の内容であり、第1回、第2回共に、珍しい題材を取り上げた講座となった。聴衆は知らなかった、知りたかった内容を多く含んでいて、実践的な内容も含まれていた。新鮮な内容が多く、そしてそれを活かすこともできる内容だったことが高評価の一因と考えられる。

昭和薬科大学・町田市生涯学習センター共催市民講座については、予約が全て埋まり会場は満席となった。活発な質問が多くあったため、内容も好評であったと考えられる。

今後に向けて

参加者数は、コロナ以前と比較して半減している状態が続いている。要因として有料化、そして利便性に

優れたオンライン型研修への参加者がコロナ禍で増加したこと等が挙げられる。公開講座のオンライン化は参加者数確保への有効な手段の一つであるが、オンライン化による質・教育効果の低下も考慮されるべきである。今後、多面的に本学の公開講座の在り方を検討する必要がある。

本年度の公開講座のテーマは人気のあるテーマを選んだわけではないが、受講者の満足度は非常に高かった。人気のあるテーマを選ぶのも重要であるが、大学教員の視点でテーマを選ぶことで、新鮮味のある講座になる可能性が示された。今後は幅広い枠組みでテーマの選定を行っていきたい。

共催市民講座で参加者が多かったが、それは参加者層に高齢者が多く、オーガナイザーがテーマを高齢者向けに設定し、狙い通りになったためと考えている。市民の幅広い層を対象としているため毎回高齢者向けというわけにはいかないが、高齢者にも届く内容にすることで、満足度の高い講座になると思われる。

(7) 自己点検・評価委員会

委員会の開催

令和5年6月12日(火)(メール委員会報告)

令和5年11月9日(火)(メール委員会報告)

令和5年12月13日(火)(メール委員会報告)

令和6年1月22日(月)(メール委員会報告)

令和5年2月19日(月)(メール委員会報告)

令和6年3月7日(木)

議案1. 新学務システムにおける「授業評価アンケート」について

議案2. 内部質保証体制の充実について

～「授業評価に基づく改善計画」「委員会報告書」のフォーマットの変更(継続審議)

令和6年3月25日(月)

議案1. 内部質保証体制の充実について

活動概要・状況

令和5年度は、第三者評価受審年度としての活動が中心となり、大学基準協会の実地調査(9月)及び薬学教育評価機構の訪問調査(11月)への対応と、それに付随する資料作成に多くの時間を費やした。また、最終評価結果案に対する本学の回答案を作成し、各評価機関へ提出した。

最終的に2つの評価機関から「適合」の認定は得られたが、薬学教育評価機構からは条件付の認定となり、多くの課題を解決し、令和8年度末までにその内容を報告することとなった。

例年の取り組みとしては、全教員に対して前期・後期の開講科目に関する学生による授業評価「授業評価アンケート」と担当教員個人による自己評価を依頼した他、学内関係部署に前年度の自己点検・評価に係る執筆を依頼し、「昭和薬科大学教育・研究年報2022年度版」の編集と冊子体での出版業務を行い、同時に本学Webサイトにも公開した。

また、令和6年度に向けて、評価機関からの指摘事項でもある様々な事項に対してPDCAを回すための各種フォーマットの変更についても検討し、学内の委員会活動や教員の自己評価に基づく授業の改善計画が次年度以降に活かされる仕組みを策定した。

自己点検・評価

第三者評価受審年度として精力的に活動したが、従来からの授業評価や教育・研究年報のあり方については十分な検証ができなかった。引き続き検証を行い、より効果的な評価項目の設定や充実した年報作成を目指していく必要がある。

また、評価機関からの様々な指摘を受け、これまで十分に機能していなかった内部質保証の体制については、そのあり方をしっかりと精査し、継続的な自己点検・評価活動を展開できる体制を早急に整備する必要性を痛感した。

今後に向けて

令和5年度の薬学教育評価機構及び大学基準協会の評価結果を踏まえ、本学の内部質保証が機能する体制を抜本的に改革していくことが求められている。今後、本委員会が中心となり、本学の教育・研究活動が展開していくための内部質保証体制構築に向けて検討していく。

(8) 将来計画委員会

委員会の開催

令和5年5月1日（月）
令和5年6月12日（月）
令和5年7月10日（月）
令和5年10月10日（火）
令和5年10月16日（月）

活動概要・状況

令和4年度に策定した教育研究組織体制を基に新設研究室を含む3研究室の教員公募を展開し、既設研究室の教授1名及び新設研究室の准教授1名の適任者を決定できたが、令和6年度に開始となる改訂モデル・コア・カリキュラムを視野に入れ新設する「臨床薬物治療学研究室（仮称）」については適任者を決定することが出来ずに次年度以降への持ち越しとなった。

また、この組織体制の変更に伴う教育職員資格基準の見直しを検討し、改正案について教授会での承認を得ることができた。

自己点検・評価

令和6年度の新設研究室発足に向けた教員採用を進めたが一部未充足となり、次年度の検討課題となった。

また、教育研究組織の見直しについては、今後の状況に照らし合わせた改革がさらに求められることから毎年度継続して検討を重ねる必要がある。

今後に向けて

令和6年度からスタートする改訂モデル・コア・カリキュラムに即した教育研究組織のあり方については、今後も継続して検討を行い、社会に役立てる人材輩出を行うために将来を見据えた組織構成について、さらに検討を行っていく。

(9) 国家試験対策委員会

委員会の開催

令和5年4月21日（金）（メール委員会）

1. 令和5年度後期薬学演習試験の合格基準について

令和5年5月12日（金）

1. 幹事の選出
2. 令和5年度委員会活動の担当について
3. 第2～4回薬学演習試験問題作成の依頼
4. 6年次国試確認試験および5年次確認試験の作問担当について
5. スタートアップ模試の結果について
6. 模試の振り返りとガイダンスの件
7. スタートアップ模擬試験成績不良者対象の面談について

報告

1. 令和5年度の国家試験対策委員会に関わる授業と対策

令和5年8月24日（木）

1. 令和5年度6年次留年生 最終総合演習の成績について
 2. 令和5年度 薬学演習試験問題（誤字脱字）チェックについて
- 報告

1. 令和4年度6年次生 国試後アンケートについて

令和5年11月20日（月）（メール委員会）

1. 令和5年度における6年次生の冬期における第2講義棟使用に関する件

令和5年11月22日（水）（メール委員会）

1. 5年次基礎薬学総合演習の単位に関する件

令和5年12月13日（水）（メール委員会）

1. 薬学ゼミナール直前補講の授業形態に関する件

令和5年12月20日（水）

1. 令和5年度第1, 2回薬学演習試験採点パターンについて
2. 令和5年度6年次集中補講について
3. 第109回薬剤師国家試験の解説書の作成について
4. 冬期施設開放の見回りについて
5. 冬期施設開放のガイダンスと誓約書について
6. その他
 - ・ESSでのCBT対策問題の追加について
 - ・ESS上で作成する演習試験での図の入れ込みについて

令和6年1月15日（月）

1. 令和5年度第3回薬学演習試験採点パターンについて
2. 令和5年度6年次集中補講について

令和6年2月7日（水）

1. 令和5年度第4回薬学演習試験合否判定について
2. 令和6年度後期6年次生 薬学演習試験出題責任者 兼 最終総合演習講義調整責任者（案）と最終総合演習・薬学演習試験について
3. 令和6年度前期6年次留年生 薬学演習試験出題責任者 兼 最終総合演習講義調整責任者（案）と最終総合演習・薬学演習試験について
4. 令和6年度6年次基礎薬学特論・演習、臨床薬学特論・演習と令和6年度前期6年次留年生最終総合演習及び薬学演習試験について

報告

1. 令和6年度6年次留年生日程（案）
2. 令和6年度5年次生 国家試験対策に関するお願いについて
3. 令和6年度6年次生 国試模擬試験の模試振り返り票について
4. 第109回薬剤師国家試験の解説書の作成について
5. 令和6年度6年次生の学習確認シートについて

令和6年2月9日（金）（メール委員会）

1. 令和6年度後期6年次生 薬学演習試験出題責任者 兼 最終総合演習講義調整責任者（案）と最終総合演習・薬学演習試験の資料修正について
2. 令和6年度前期6年次留年生 薬学演習試験出題責任者 兼 最終総合演習講義調整責任者（案）と最終総合演習・薬学演習試験の資料修正について
3. 令和6年度6年次基礎薬学特論・演習、臨床薬学特論・演習と令和6年度前期6年次留年生最終総合演習及び薬学演習試験の資料修正について
4. 令和6年度6年次留年生日程（案）の資料修正について
5. 第109回薬剤師国家試験の解説書の作成の資料修正について

活動概要・現状

〈5年生に対する対策〉

- ①模擬試験：3月に1回実施した。
- ②実習空期の確認試験：国家試験勉強への意識を促すことを目的として、去年に引き続き、実務実習の無い2つの期それぞれに1回受験する確認試験を行なった。

- ③今年度は、実務実習のⅠ期とⅡ期の間（5月）、Ⅲ期とⅣ期の間（11月）での基礎学力アップ補講は行わなかった。
- ④実務実習中に取り組みやすい学習内容を提示することについて今年度は実施しなかったが、学習を促す効果的な方法について、今後、検討中してゆきたい。

〈6年生に対する対策〉

- ①国試確認試験：4、5、6月に1回ずつ、計3回実施した。
- ②模擬試験：4月20日、8月2-3日、10月3-4日、10月24-25日、11月21-22日、1月25-26日に計6回実施した。
- ③基礎学力補講：4～7月にかけて外部講師による講義を計12日間実施した。令和5年度においては、すべての期間において講義形式を対面とした。
- ④総合学力補講：8～11月に計34日間、外部講師による全科目の補講を実施した。本年度も昨年度に引き続き基本的には講義形式を全面対面とし、
- ⑤直前補講：1～2月に10日間、外部講師による全科目の補講を実施した。総合学力補講では講義形式を全面対面としたが、国家試験も間近に迫っているためCOVID-19等の感染リスクを考慮し、対面とライブ配信を併用して希望する形式で受講できるようにした。
- ⑥集中補講：今年度も昨年度に引き続き、1月下旬の3日間（本年度は20～22日）で、医療系科目を中心に集中補講を行なった。受講対象者を絞り、講義形式としては全面対面とした。
- ⑦面談：第1回模擬試験の成績をもとに対象者を選び出し（面談対象者56名）、委員による面談を6月から定期的に実施した。面談結果を点数化し、低得点の学生がいれば、特別の対応をとるという対応は、今年度も継続して行った。委員による面談はその他に、希望者などに対して年間を通じて適宜行った。10月には薬学ゼミナールの専任講師による個人面談会も行なった。
- ⑧国家試験ガイダンス：基本的に、模擬試験などの6年生が全員集まる日にあわせて、年間を通じ適宜行った。今年度初めて、8月の閉鎖期間に入る前にもガイダンスを行った。
- ⑨閉鎖期間中の教室開放：冬期の閉鎖期間については自教室と学習室を開放した。ただし、申請した学生のみが利用できることとし、申請者には事前にガイダンスを行い、感染症対策などの利用時における注意事項を説明した。
- ⑩第108回薬剤師国家試験問題解説書の作成：本学の正答率が全国平均と比べて低かった問題を中心に解説書の作成を教育職員に依頼し、6年生に提示した。
- ⑪学習確認シート：6年生がアドバイザーとコミュニケーションをとり続け安い環境を作ることを目的として、国試対策で使用している参考書の勉強の進捗を、2週間に1回の頻度でアドバイザーに報告させるようにした。

〈5年次生科目 基礎薬学総合演習〉

実務実習空き期の5年生に対し、manabaに代えて新たにESSシステムを用いた演習を試みた。また、物理、化学、生物の講義を実施するために、講義担当者とその内容の調整を行った。

〈6年次生科目 最終総合演習〉

最終総合演習の講義担当者とその内容の調整を行った。また、最終総合演習の単位取得試験である薬学演習試験の出題者と出題内容の調整を行った。

自己点検・評価

6年生に対しては国試対策で使用している参考書の勉強の進捗をアドバイザーに報告させているが、教員の負担を少しでも減らすことができるように、今後、学習確認シートについては、来年度に向けて対象学年や頻度などを再検討する必要があると考える。教室開放については、光熱費の高騰などにより夏期閉鎖期間では実施できなかったが、冬期閉鎖期間では教室の利用を希望する6年生に対して個別にガイダンスを行い、利用上の注意を十分に説明した上で実施した。1日当たり利用者数はおよそ20-30名であったが、多いときには30名を超えることもあり、学年の1割またはそれ以上が利用しており、学習の場の提供も重要であることを感じた。今年度の補講に関しては、COVID-19を含む感染症の影響は少なくなっていたので、11月いっぱいまで全面対面で行った。また、昨年度からの新たな取り組みとして、1月下旬の連続した3日間で医療系科目を中心に集中補講を行なった。受講人数を絞った授業であるため実施当日の学生たちの評判もよく、非常に頑張っている様子がうかがえた。また、集中補講実施後アンケートにおいてもかなり好評であり、来年度も引き続き実施したいと考えている。模擬試験については、その結果を学生が自己分析する際に

利用するものとして、模試振り返り票と称し、科目ごと、問題区分ごとの得点を入力すると正答率が表示されるエクセルシートを用意した。この模試振り返り票の利用は以前より行っているが、一昨年度から本格的に始動させた。利用した学生には、自身の弱点を把握し、学習計画を立てるのに役立っていたようである。ガイダンスについては、一昨年度から第1回薬学演習試験が9月に前倒しになったことから、夏休みの過ごし方について特に重点的に行ない、その時期の過ごし方の重要性を伝えた。ただ、9月の第1回薬学演習試験は一昨年度からの試みであることから、今後、ガイダンスなどを含め、情報をしっかりと学生たちに伝えてゆきたいと考えている。

第109薬剤師国家試験は、2月17、18日に行われた。学生の自己採点情報からの予想としては前年に比べ難易度がかなり高くなっていたため、合格のボーダラインが低くなることが予想された。結果的にボーダラインは210点となり、本学の新卒者合格率は83.1%で、既卒者と合わせた総合では77.5%となった。新卒者合格率としては、昨年度とほぼ同等の合格率となった。他大学との比較においては必ずしも高い合格率とは言えないが、ストレート合格率としては70%を維持していた。一方、本年度においては、第3回演習試験に合格できなかった学生の中からも3名の国家試験合格者がでており、昨年度から新たに取り入れた集中補講をはじめとする直前での頑張りや勉強のやり方次第では、合格ラインに達することが可能であることが示された。

今後の対応

自己点検・評価のところでも触れた学習確認シートの利用については、頻度なども考慮しながら引き続き継続してゆきたいと考えている。5年生に対しては今後、費用対効果のバランスを考え、学習効果を促すための方策を検討すべきであると考え。閉鎖期間の教室開放は、冬期だけでなく夏期においても実施できるよう努めたいところではあるが、光熱費と学生からの需要を考えた上で適宜検討してゆきたい。ガイダンスと面談はより効果的なものを目指し、特に夏休み前のガイダンスについては学生が夏季休暇を有効に使えるように指導を徹底したい。来年度も引き続き、薬学教育推進センターの協力を得ながら対策の内容を見直し、新たな取り組みにも挑戦してゆきたい。

(10) 英語教育委員会

活動概要・現状

新入生を対象とするプレイスメントテストを4月の授業開始前に実施し、英語科目のクラス分けの資料とした。

11月および12月に実施される、2年次と1年次のプレイスメントテストの業者をTOEFLからELPA（英語運用能力評価協会）に変更した。変更の主な理由は、後者のほうが学生の英語力をきめ細かく評価することができる、費用も大幅に節約できる、といったことである。

2024年度より施行される新カリキュラムにおける英語教育科目について委員会で検討し、改革案を教務委員会委員長に提言した。また、英語以外の外国語で、英語の理解にも資すると思われるフランス語を「外国語教育科目」として新カリキュラムにおいて新設することを委員会で検討し、教務委員会委員長に提言した。

教務委員長より、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目として、本学の英語教育科目を認定できるか否か、できるとすればどの科目を認定するのか」という諮問を受け、この諮問について本委員会で審議し、審議結果を教務委員長に報告した。

自己点検・評価

2年次と1年次のプレイスメントテストを、今年度よりELPA（英語運用能力評価協会）を利用して実施した。これにより、費用を半分に抑えることができ、かつ、学生の英語力もより詳細に判定できるようになった。

新カリキュラムにおいて、英語教育に資する外国語科目として「フランス語」を新設することを教務委員会に提言したが、教授総会において承認されず、上記案を取り下げることとなった。英語以外の外国語科目の新設について英語教育委員会で議論することは適切ではないと考える。新カリキュラムにおける英語教育科目に関する改革案は教授総会で承認された。

「教育職員免許法施行規則第66条の6」について、英語教育委員会からの答申を含む教務委員会案が教授総会で承認されたことは、教職免許を取得しようとする本学卒業生等に資することであり、評価できる。

今後に向けて

英語科目において、希望する教員は全員がAV機器を使用することができたが、今年度は、教室にAV設備が設置されていないためプロジェクター等を教室に持ち込まねばならない授業が2コマある。英語の授業を行う小教室におけるAV設備の整備について、関連部署と協議する必要がある。

(11) 人文社会教育委員会

委員会の開催

◆7月20日

- ・後期「人と文化Ⅱ・Ⅳ」履修登録方法に関する協議
- ・前期「人と文化Ⅰ・Ⅲ」評価（再評価）に関する協議
- ・カリキュラム改訂WG人選に関する協議

◆8月25日

- ・後期「人と文化Ⅱ・Ⅳ」履修登録方法に関する協議
- ・2024年度の「人と文化」（新カリキュラム科目）に関する協議

◆11月26日（メール委員会）

- ・令和6年度のカリキュラムについての協議
（1年次：新カリキュラムをどのようなプログラムとするか。2年次：旧カリキュラムも含め人文科目全体としてどう運営するか）

◆12月8日

- ・新カリキュラム科目「リベラルアーツ・教養系教育」（必修選択科目）における以下事項に関する協議
進級基準、履修可能科目数、履修科目選択・登録方法、評価の方針
- ・新カリキュラム科目「リベラルアーツ・教養系教育」および旧カリキュラム科目「人と文化Ⅰ～Ⅳ」の非常勤講師に対する令和6年度講義委嘱状について協議

◆12月19日（メール委員会）

- ・新カリキュラム科目「リベラルアーツ・教養系教育」（必修選択科目）における履修科目選択・登録方法の協議

◆3月11日

- ・R6年度「人と文化Ⅰ～Ⅳ」および「リベラルアーツ / 教養系教育」の運営等について協議
- ・R6年度「人と文化」および「リベラルアーツ」シラバスチェックの分担について連絡

活動概要・現状

- ・新コアカリキュラムに対応するために、「人と文化」科目を「リベラルアーツ・教養系科目」として再編成した。
- ・2年生の旧コアカリキュラムに対応できるよう、コマ数や単位数に配慮した編成を工夫し、担当講師への申し送りを行なった。

自己点検・評価

良い点：

- ・学生が講義内容を把握してから科目登録できるように、講師に事前収録を依頼し、学生の登録前の全科目視聴が可能な体制を継続した。
- ・科目ごとにDPループリックとの対応を検討し、できる限り薬学教育コアカリキュラムにそった学習内容が得られるよう、新しい科目編成に注力した。
- ・学内教員が学生の関心にそのような新しい視点の科目を担当することを提案し、認められたため、本学に特徴的な内容の科目が配置できた。

改善すべき点：

- ・新しい科目のうち、次年度開講する3科目の担当講師を探す必要がある。
- ・非常勤講師と学生が直接コミュニケーションできる方法を確立する必要がある。

(12) 不正行為防止委員会

委員会の開催

日 時：令和5年9月26日（メール委員会）

議案 1. 令和6年度予算について

報告 1. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリストの提出について

自己点検・評価

令和5年度も前年度同様、本委員会が取り扱うべき不正事案は発生しなかった。

今後に向けて

引き続き、研究費のみならず研究全般において、不正や「うっかり」を未然に防止できるよう統括管理責任者（副学長）、コンプライアンス推進責任者（大学事務長）、研究倫理教育推進責任者（大学院研究科長）と連携を図っていく。

〔研究倫理教育推進室〕

委員会の開催

日 時：令和5年5月26日（メール委員会）（コンプライアンス推進室と合同）

議案 1. 2023年度コンプライアンス研修会について

日 時：令和5年6月29日（メール委員会）

1. 令和5年度研究倫理教育について（コンプライアンス研修会以外）

日 時：令和6年2月19日（メール委員会）

1. 研究データ保存確認調査について

活動概要・現状

1. 研究室における教育の実施
2. 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」Green Bookの通読（新規着任者・大学院1年生）
3. 日本学術振興会 研究倫理 eラーニングコース（e-Learning Course on Research Ethics）[eL CoRE]の受講（新規着任者）
4. 文部科学省への報告
「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリスト提出。
5. 1年次科目「薬学リテラシー」（山本学長）
6. 研究データ保存確認調査（2024年2月27日）

自己点検・評価

「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が求める趣旨、内容に沿った取り組みを継続した。

今後に向けて

引き続き、文部科学省のガイドラインに沿った管理体制の構築改善に努めたい。

〔コンプライアンス推進室〕

委員会の開催

日 時：令和5年5月26日（メール委員会）（研究倫理教育推進室と合同）

議案1. 2023年度コンプライアンス研修会について

活動概要・現状

1. 改正ガイドラインに沿った体制、不正防止基本方針・計画等の確認
令和3年度に構築した改正ガイドラインに沿った体制および不正防止基本方針・計画等の確認をした。
2. 監事との連携、情報提供、意見交換 2023年10月20日
3. 監査人との連携、情報提供、意見交換 2023年10月20日
4. 文部科学省への報告
「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」提出。
5. コンプライアンス研修会
令和3年度より、2年に1度の開催に変更となっており、令和5年度は開催した。
6. 誓約書の提出
7. メールマガジン（啓発活動）
平成28年9月より、月に1回の頻度で配信を継続している。研究費不正について理解が望まれる情報は多岐にわたり、集合形式の研修会においても、一度の機会に全ての情報を網羅することは難しい。このため補完的な位置づけとして、メールマガジンを企画し、実行している。毎月1項目のみ取り上げ、流し読みでも理解できるよう工夫している。

自己点検・評価

理事会ほか監事や公認会計士との連携など、学校法人が一体となって取り組む点については、継続的な取り組みが必要である。

今後に向けて

改正ガイドラインに沿った体制、不正防止基本方針・計画等の確認を行っていき、必要に応じて改訂を行う。

学内監査

1. 学内監査の質の向上のための会計士との意見交換・連携・講義 2022年11月9日
2. 学内監査の実施
公的研究費監査 2023年9月5日
一般・公的研究費監査 2023年11月7日
最終監査 2024年3月4日～6日
抜き打ち監査 記載省略
3. リスクアプローチ監査の実施

No	分類	No	調査名
1	物品	(1)	業者選定（業者別執行比率調査）
		(2)	マーキング（事後チェック）
		(3)	業者帳簿突き合わせ調査
		(4)	換金性の高い物品調査
2	出張	(1)	出張計画ヒアリング調査
		(2)	出張実績確認調査
3	非常勤雇用者	(1)	採用時ヒアリング
		(2)	支払時ヒアリング
4	その他	(1)	専門的知識を有する者による事後チェック

(13) FD 委員会

委員会の開催

2023年5月10日(水)

- 議題：1) 幹事の選出
2) 令和5年度FD研修会について

2023年9月7日(木)(メール委員会)

- 議題：1) 令和6年度予算について

その他

第1回FD研修会 一昭和薬科大学のDP、CPを見直そう—

対象 全教員

日時 2023年6月10日 または 6月17日 9:00-12:00

活動概要・現状

2024年度入学生から、薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)に準拠した、本学のカリキュラムを構築しなければならないことから、カリキュラム構築の基盤となる、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)を見直すためのFD研修会を開催し、DP、CPに対する考え方を深め、改定作業に着手した。

自己点検・評価

今年度は本学のカリキュラム改定の作業が多く、時間的制約もあり、FD研修会を1回しか開催できなかった。授業方法改善のような常に教員からの要望が多いテーマに関する研究会を実施することができなかった。

新任講義担当教員教務研修会は、該当者が無く、実施しなかったが、前年度3月に実施した内容のブラッシュアップ作業を行った。

今後に向けて

2024年度は、教員の教育力向上に寄与できるFD研修会を開催する。また、教育のみならず、研究や社会貢献に寄与できるFD研修会も企画していきたい。

(14) 共用試験委員会

委員会の構成

OSCE小委員会

CBT小委員会

昭和薬科大学SP会運営ワーキンググループ

委員会の開催

共用試験委員会

第1回 令和5年5月10日(水)

第2回 令和5年8月24日(木)

小委員会

CBT小委員会

第1回 令和5年8月24日(木)

第2回 令和5年12月21日(木)

第3回 令和6年2月27日(火)

活動概要・現状

共用試験委員会

共用試験委員会は OSCE 小委員会、CBT 小委員会を下部組織として運営した。共用試験委員会としては、OSCE 関連、CBT 関連の日程確認、それぞれの試験の全体運営を行った。また、SP 会の運営については、昭和薬科大学 SP 会運営ワーキンググループが中心となって行った。

OSCE 小委員会

1. OSCE 評価者養成講習会

令和 5 年 6 月 24 日（土） 12:30～15:30
学内教員 1 名 学外 6 名／合計 7 名参加
参加者（学外のみ）には修了証を発行した。

2. OSCE 模擬医師養成講習会

令和 5 年 9 月 30 日（土） 13:00～16:10
病院薬剤師 3 名、薬局薬剤師 11 名／合計 14 名参加
参加者には修了証を発行した。

3. OSCE 直前講習会

令和 5 年 11 月 29 日（水） 18:00～20:30
学内教員 27 名、学外教員 4 名、病院薬剤師 18 名、薬局薬剤師 19 名／68 名参加
令和 5 年 12 月 2 日（土） 9:30～12:00
学内教員 15 名、学外教員 4 名、病院薬剤師 20 名、薬局薬剤師 20 名／59 名参加
参加評価者 合計 127 名（予備評価者含む）

4. 令和 5 年度 OSCE 本試験及び追再試験

受験学生：237 名

【本試験】

①実施日 令和 5 年 12 月 9 日（土） 9:00～17:40

②課題 5 領域 6 課題
各課題 6 レーンで実施

③ OSCE 担当スタッフ数

1) 評価者：125 名（学内教員 42 名、学外教員 8 名、病院薬剤師 38 名、薬局薬剤師 37 名）
外部評価者：病院薬剤師、薬局薬剤師、東京薬科大学・日本薬科大学・横浜薬科大学教員

2) SP：29 名

3) その他スタッフ：運営、評価入力、誘導、ロールプレイ担当スタッフ、時間管理など教職員 71 名、学生（5 年生および大学院生）49 名

④ モニター

千葉大学よりモニター 1 名が派遣された。
また、本学から千葉大学の OSCE 本試験にモニター 1 名を派遣した（令和 5 年 12 月 3 日）。

⑤ 会場

試験会場：領域 1、3、5／第 2 講義棟 4 階・5 階
領域 2-1／実習棟 2 階 第 1 実習室
領域 2-2、4／実習棟 2 階 第 2 実習室
学生集合室／第 2 講義棟 2 階 201 教室、202 教室
終了学生の待機場所／第 2 講義棟 3 階 301 教室、302 教室
評価入力／実習棟 5 階 PC 演習室

⑥ 試験実施方法及びタイムスケジュール

OSCE 開始前に、外部評価者を交えてテストラン実施。
（課題閲覧：1～2 分、課題実施：5 分、移動後待機：1～2 分）
学生を 5 グループ（4 グループ 48 名、1 グループ 45 名）に分けた。
集合は午前 2 グループ、午後 3 グループ。
試験終了学生と他の学生との接触を避けるため、集合時間と解散時間及び使用教室を考慮した。
また、集合場所とは別に荷物を置く教室を設け、携帯電話等を保管した。

⑦評価表入力

評価表は薬学共用試験センターフォーマットで評価者が記入後、入力担当者がPC入力した。入力データは、試験当日に薬学共用試験センターへ送信した。

【追再試験】

①実施日 令和6年2月16日(金) 10:10～11:55

②課題 5領域6課題

③OSCE担当スタッフ数

1) 評価者：12名(外部評価者 6名)

2) SP：4名

3) その他スタッフ(運営、入力など)：12名

④モニター

千葉大学よりモニター1名が派遣された。

また、本学から千葉大学のOSCE追再試験にモニター1名を派遣した(令和6年2月15日)。

⑤会場

試験会場：実習棟2階 第2実習室、実習棟5階 第7実習室

その他、本試験に準じて行った。

【本試験、追再試験結果】

合格基準：細目評価70%以上、概略評価5以上

受験者数 237名、合格者数 236名(不合格者1名は本試験、追再試験ともに欠席)

5. 他大学への評価者派遣

教員8名を評価者としてOSCE本試験に派遣した。

東京薬科大学 1名

日本薬科大学 2名

横浜薬科大学 5名

CBT小委員会

1. 令和5年度CBT体験受験、本試験及び追再試験

【体験受験】

①実施日：令和5年9月5日(火)、6日(水) 8:50～17:30

②実施場所：本学PC演習室

③モニター：東京大学より各日モニター1名が派遣された。

また、本学から東京大学のCBT体験受験にモニター1名を派遣した(令和5年7月28日)。

④タイムスケジュール等：薬学共用試験センターから提供されたタイムスケジュールに則って行った。

各ゾーン2時間の試験時間を確保した。

【本試験】

①実施日：令和6年1月10日(水)、11日(木) 8:50～17:30

②実施場所：本学PC演習室

③モニター：東京大学より各日モニター1名が派遣された。

また、本学から東京大学のCBT本試験にモニター1名を派遣した(令和6年1月22日)。

④タイムスケジュール等：薬学共用試験センターから提供されたタイムスケジュールに則って行った。

各ゾーン2時間の試験時間を確保した。

【追再試験】

①実施日：令和6年3月5日(火)

②実施場所：本学PC演習室

③モニター：東京大学よりモニター1名が派遣された。

④タイムスケジュール等：薬学共用試験センターから提供されたタイムスケジュールに則って行った。

各ゾーン2時間の試験時間を確保した。

【本試験、追再試験 結果】

合格基準：正答率 60% 以上

受験者数 236 名、合格者数 227 名

昭和薬科大学 SP 会運営ワーキンググループ（昭薬 SP 会運営 WG）

1. SP 担当教員の資質向上のための研修会参加

担当教員 3 名が、令和 5 年 8 月 5 日に日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会が開催した「模擬患者（SP）養成を基礎から学ぶワークショップ」に参加した。

2. SP 養成講習会・説明会

養成講習会の実施ならびに今後の予定、参加登録のための事務手続について説明した。今年度は 8 回開催し、合計 34 名が参加した。

3. OSCE 直前講習会

OSCE の概要説明の後、各領域で評価者と打ち合わせを行った。

令和 5 年 11 月 29 日（水） 18:00 ～ 20:30

参加者：11 名

令和 5 年 12 月 2 日（土） 9:30 ～ 12:00

参加者：18 名

4. OSCE 練習会

各領域に分かれ担当教員とシナリオの読み合わせ、すり合わせを行い、教員が学生役となりロールプレイを実施した。

令和 5 年 12 月 4 日（月） 9:00 ～ 16:00 の間で参加者の都合に合わせ 1 時間程度実施

参加者：22 名

令和 5 年 12 月 5 日（火） 9:00 ～ 16:00 の間で参加者の都合に合わせ 1 時間程度実施

参加者：7 名

5. OSCE 本試験・再試験への対応

本試験は領域 1 に 15 名、領域 5 に 14 名を配置し、1 レーンにつき 2 名若しくは 3 名でローテーションを組み、1 回あたり 4 名を担当した。

再試験は 4 名（うち 2 名は予備）を配置した。1 月 24 日（水）、2 月 5 日（月）に事前練習会を実施し、領域 1 は 4 名、領域 5 は 1 名を担当した。

自己点検・評価

1. 共用試験委員会全体

共用試験委員会内に OSCE 小委員会と CBT 小委員会を設け、業務を分担して実施した。また SP 関連業務については実務実習委員会の昭薬 SP 会運営 WG に一任した。これら 3 つの体制により、運営が円滑に実施できた。共用試験委員会としては薬学共用試験センターへの対応、学生の受験手続き、受験環境の整備、試験結果の通知等の業務を行い、OSCE 及び CBT の準備と実施は、それぞれの小委員会が行った。また昭薬 SP 会運営 WG は、コロナ禍で中止されていた SP の OSCE への参加が再開することに伴い、SP 養成講習会を開催するとともに、OSCE に参加する SP に対する OSCE 直前講習会と練習会を実施した。

2. OSCE 関連

今年度は薬学共用試験センターから、コロナの 5 類感染症への移行に伴い、コロナ禍前の 6 課題となること、SP も従来通りになることの通知があった。そこで、これらに対応し、かつ感染防止対策を講じて実施し、本試験、追再試験共に問題なく運営することが出来た。6 課題体制での運営に戻ったが、学生誘導の手順について再確認と適切な分担を図ったことでトラブルはなかった。以上より、OSCE 小委員会は円滑に機能できたといえる。またこれに対して、必要に応じて臨床薬学教育研究センター事務職員の適切な応援があった。

3. SP 関連

上記、薬学共用試験センターからの通知に対応するため、まず SP 担当教員が SP 養成教員向けのワー

クシヨップに参加することで認識を新たにした。そして昭葉 SP 会会員へ SP 参加再開を連絡し、SP 養成講習会を開催した。その際、OSCE 本試験に参加可能な人数が不十分であることが判明したため、急遽、近隣の自治会等への依頼を行い、OSCE 本試験では十分な人数の SP に参加していただくことが出来た。

今後、新規勧誘などの活動を通じて本学 SP 会に対する地域の方々の理解を深め、会員数の増加に繋げて行きたい。

4. CBT 関連

今年度は薬学共用試験センターから、コロナの5類感染症に移行に伴い、CBT はコロナ禍前と同様の2日間以内の日程で行う旨の通知があった。そこで、これに対応し、体験受験および本試験は2日間で行うこととし、かつ感染防止対策を講じた。また、2019年度から CBT の試験監督を教員全員に順番で担当してもらうことになったことに伴い、本学の態様に応じた簡易マニュアルとして「昭和薬科大学における CBT 試験監督者への注意事項」を作成しているが、今年度の状況に合わせた改訂を行い、体験受験、本試験の前に説明会を開催し、当該マニュアルを用いて丁寧に説明を行った。なお、CBT 受験に対する学生の意識として OSCE に比べて緊張感が足りないとの意見があったことから、体験受験および本試験は試験集合時間前に第6実習室に一旦学生を集合させて、20名ずつ PC 演習室へ移動させることとした。これらの結果、体験受験、本試験、追再試験のいずれも問題なく運営することが出来た。

今後に向けて

1. 円滑な OSCE、CBT の運用

薬学共用試験に関わる様々な業務について、円滑に業務を遂行できる体制を継続する。

今後、必要に応じて、緊急時対応マニュアルの改訂やその他のマニュアルの作成を行うこととする。CBT における、本学の態様に応じた簡易マニュアル「昭和薬科大学における CBT 試験監督者への注意事項」についても現状に合わせて適宜修正を行っていく。

2. SP 関連の対策

今後、SP の高齢化による離脱と OSCE 試験への参加人員の減少は続いていくと思われる。新規 SP の募集は毎年継続的に実施することが大切である。新規勧誘などの活動などを通じて本学 SP 会に対する地域の方々の理解を深め、会員数の増加に繋げて行きたい。特に来年度は学生数が多く OSCE は7レーンで行う可能性があり、その場合、今年度よりも多くの SP が必要になるため、必要十分な人数の確保が求められる。

(15) 利益相反委員会

活動概要・現状

利益相反委員会では、外部の競争的資金申請及び共同研究開発について利益相反の有無に関する審議を中心に活動した。

令和5年度は外部資金2件の審査を行い、いずれも利益相反には該当しないと判断した。

自己点検・評価

令和5年度の外部資金2件に関する利益相反について、いずれも審議がスムーズに行われたことが良い点として挙げられる。

また、共同研究等を主管する庶務課が平常時より連携して契約内容等を確認し、利益相反に係る項目をチェックできていることも良い点として挙げられる。

問題点等としては、多様な利益相反の内容を正しく評価し、委員会を通して開示するために、さらなる審議事案の蓄積できるかが今後の課題として挙げられる。

今後に向けて

今後も、委員会内におけるスムーズな審議運営が引き続き行えるよう、適正かつ迅速な利益相反マネジメントを行う。

また、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益相反を適切に評価の上、正しく開示することが大切なため、連携を強化しながら十分注意を払い適切に対応する。

4. 常設運営委員会

(1) 図書館運営委員会

委員会の開催

第1回 令和5年4月27日(木) メール委員会

1. 幹事の選任について

第2回 令和5年5月31日(水)

1. 令和6年度電子ジャーナル等契約について
2. 選書について
3. OA出版MDPIの登録中止について
4. 図書館利用規程の開館時間変更について
5. 選書ツアーについて

報告

1. 令和4年度決算報告
2. 令和5年度予算報告
3. 令和4年度図書館利用統計報告
4. 電子ジャーナル利用状況報告

第3回 令和5年6月1日(木) メール委員会

1. 選書のお願い(令和5年度第1回)

第4回 令和5年6月21日(水) メール委員会

1. 購入希望図書について

第5回 令和5年6月29日(木) メール委員会

1. 図書館利用規程について

第6回 令和5年7月11日(火) メール委員会

1. 第1回寄贈図書受入について

第7回 令和5年8月22日(火) メール委員会

1. 選書のお願い(令和5年度第2回)

第8回 令和5年9月12日(火) メール委員会

1. 購入希望図書について

第9回 令和5年9月19日(火)

1. 令和5年度電子ジャーナル等の契約について
2. 令和5年度図書館予算案について

報告

1. 選書ツアー応募について
2. 図書のリクエストについて
3. 新刊図書入荷案内メール配信について

第10回 令和5年10月12日(木) メール委員会

1. 第2回寄贈図書受入について

第11回 令和5年10月20日(金) メール委員会

1. 選書ツアー学生選書リストについて

第12回 令和5年11月7日(火) メール委員会

1. 選書のお願い(令和5年度第3回)

第13回 令和5年12月5日(火) メール委員会

1. 購入希望図書について

第14回 令和6年1月30日(火) メール委員会

1. 選書のお願い(令和5年度第4回)

第15回 令和6年2月20日(火) メール委員会

1. 第3回寄贈図書受入について

第16回 令和6年3月5日(火) メール委員会

1. 購入希望図書について

第17回 令和6年3月19日(火) メール委員会

1. 令和5年度末図書除籍リスト確認のお願い

活動概要・現状

- ・6月29日閲覧室のパーティションを撤去し、座席制限を撤廃した。これにより新型コロナウイルス感染症流行前の開館状況に全面的に復帰した。
- ・今年度初めて学生選書ツアーを10月14日に開催し、2年～4年次の計5名の学生が参加した。これにより小説、教養書など計67冊購入した。
- ・昨年に引き続き10月25日に1年次薬学リテラシーにおいて、図書館やインターネットを利用して学習や研究に必要な情報等を収集できることを目標に講義を実施した。1年生には入学時に図書館ガイダンスを行っているが、学生生活に不慣れな時期であり図書館への関心が向きにくいことから、後期実施のこの講義は関心を向けてもらう一助となっている。
- ・2024年度予算編成において、更なる円安の状況下、電子ジャーナルの本体価格は平均6.7%の伸びを示し、また主たる学術情報データベース4本においては10%以上の伸びを示した。結果として情報検索費は500万円弱の予算増となり、2024年度予算から新聞2紙の中止等の対応を実施した。

自己点検・評価

- ・新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から感染症法上の位置付けが、2類から5類感染症に移行したため、6月29日閲覧室のパーティションを撤去し、座席制限を撤廃した。それに伴い、2023年度の入館者は昨年度を大幅に上回り、9月には新型コロナウイルス感染症流行前の2019年に匹敵する数となった。
- ・今年度より開始した学生による選書ツアーにより小説、教養書など計67冊購入することとしたが、在学生・教職員ともに好評であった。1年次薬学リテラシーの講義の際に行った図書館に関する学生アンケートでも、小説など学術本以外の書籍について多くの要望が寄せられ同様な傾向であることを委員会内で認識した。
- ・次年度予算計上において、今年も円安により電子ジャーナルや学術情報データベースの価格は上昇したが、契約の削減は最小限に留め、教育・研究の妨げにならないよう努力した。

今後に向けて

座席制限を解除した2023年度図書館入館者数は昨年度を3,000人以上上回り、38,000人余りとなった。貸出冊数は昨年度並みであったが、コロナ禍前の2019年度に匹敵するレベルに回復している。

2024年度も入館者増加の推進と利用促進に努めていきたい。

2023年10月に初めて実施した学生選書ツアーは購入図書について特別展示をしたが、在学生・教職員ともに好評であり2024年度も実施し、図書館へ興味を持ってもらえるようにしたい。

2023年度末から為替は更なる円安傾向を強めている。図書館予算の多くを占める海外の電子ジャーナル・学術情報データベース高騰に繋がりがかねない。次年度予算計上まで動向を注視していきたい。

(2) 薬用植物園運営委員会

委員会の開催

第1回（メール会議）

開催日：令和5年4月26日（水）

- 審議事項
1. 令和5年度幹事について
 2. 薬草教室再開について

第2回（メール会議）

開催日：令和5年5月8日（月）

- 審議事項
1. 令和4年度教育研究年報案について
 2. 令和5年5月17日教授総会報告資料について

第3回（メール会議）

開催日：令和5年9月5日（火）

- 審議事項
1. 令和6年度 予算（案）について

第4回（メール会議）

開催日：令和5年11月7日（火）

審議事項 1. 令和5年度委員会中間報告（案）について

第5回（メール会議）

開催日：令和5年11月17日（金）

審議事項 1. 令和6年度薬草教室の日程について

第6回（薬用植物園にて）

開催日：令和6年3月14日（木）

審議事項 1. 令和6年度薬草教室の日程と講演担当者について
2. 令和5年度に改修した、草本区散水設備の現地確認

活動概要・現状

1. 薬草教室：

通常4月よりスタートするが、新型コロナに対する周りの状況をみて5月より再開した。
全5回開催し、参加者は計192名であった。

2. 団体見学：

11件の申込みがあり、延べ272名の見学者を受け入れた。

3. 日本薬剤師研修センター主催の漢方薬・生薬講座の植物園研修：

5月と9月に実施し、計45名の薬剤師が参加した。

4. 土曜日の一般開放：

令和5年度4月より新型コロナ以前の状態に戻した結果、来園者数は492名であった。

以上の結果、令和5年度の利用者数は1,001名であった。以下の表に概要を示す。

令和5年度（2023年度）薬用植物園利用者数実績（2024.4.4現在）

月	薬草教室	団体見学		漢方薬・ 生薬研修会	土曜日 自由見学	計
	(人)	(団体)	(人)	(人)	(人)	(人)
4月	-	1	12		98	110
5月	23	1	34	25	41	123
6月	48	0	0		48	96
7月	27	4	128		30	185
8月	-	0	0		21	21
9月	33	1	30	20	42	125
10月	61	0	0		45	106
11月	-	2	50		30	80
12月	-	0	0		30	30
1月	-	0	0		11	11
2月	-	1	10		45	55
3月	-	1	8		51	59
計	192	11	272	45	492	1,001

R5 年度「薬草教室」の詳細・参加者数

開催日	テーマ	講師	人数
5月20日	牧野さんが名付けた薬用植物	高野 昭人	23
6月17日	葛根湯	中根 孝久	48
7月8日	今見ごろの薬用植物	佐竹 元吉	27
9月16日	富士山の植物	磯田 進	33
10月21日	食中毒の原因となる植物	篠崎 淳一	61
計			192

団体見学の内訳

来園日	団体名	人数
4月25日(火)	町田市コンベンション協会	12
5月25日(木)	里山ウォーキング	34
7月11日(火)	成瀬台ラジオ体操会	60
7月16日(日)	町田ウォーキング協会	36
7月22日(土)	グランセリーナ自治会	10
7月31日(月)	多摩植物友の会	22
9月30日(土)	日本技術士会	30
11月12日(日)	ボーイスカウト川崎43団カブ隊	40
11月28日(火)	町田第五小学校(ふれあいデー)	10
2月17日(土)	日本アユールベータスクール	10
3月23日(土)	桜美林中学校科学部	8
計		272

日本薬剤師研修センター・漢方薬・生薬薬剤師講座：植物園研修

来園日	担当	人数
5月21日	中根孝久	25
9月17日	中根孝久	20

自己点検・評価

1. 植栽植物の充実：

交流のある学外の植物園などから8種の植物を導入することができた。

また、小田原シダの会の協力で新たに13種のシダ植物を導入した。

2. 対外的な活動：

町田市第5小学校ふれあいデー(11/28)に参加した児童7名は、さまざまな植物に触れ、においをかいだり、甘いものを味わったりして、大変喜んでくれた。毎年、感想文をいただき、好評のようなので小学生の団体見学の要請があった場合には今後も積極的に受け入れて、子供たちへの自然教育に役立てていきたい。

団体見学では、日ごろから植物に興味を持っていて詳しい参加者も多いので、植物名の展示などには十分注意し、正しい情報の提供に努めなければならないと感じた。

佐賀県武雄市歴史資料館より依頼があり、植物写真を11点提供した。

3. 設備の修繕・整備工事：

温室前草本区の水道及び散水設備の大規模改修工事を行った。

温室前の道路から調整池につながる雨水排水管が、植栽樹木の根の侵入により詰まっていたため、高圧洗浄作業により土砂や根を除去した。

4. キャンパス内の植栽管理：

ナラ枯れ(カシノナガキクイムシという小さい甲虫が樹幹に入りナラ菌を感染させ、樹木を枯死させてしまう現象)や、寿命により枯死してしまった樹木の伐採を実施した。

また、植物園北側隣接地の斜面でもナラ枯れ被害が著しく、伐採作業を行った。

今後に向けて

1. 植栽植物及び展示方法の充実：

植物園協会を通じた種苗交換などを利用し、植物の導入・充実に努めると共に、掲示ラベルの改善やQRコードの導入により、分かりやすい展示方法の工夫を進めていきたい。

2. キャンパス内の植栽管理：

危険樹木、危険昆虫等についても目を配り、随時対応していきたいと考えている。

(3) 動物実験委員会

2023年度 研究室別_動物施設利用回数

	薬理学	薬物治療学	薬剤学	薬品物理化学	生化学	衛生化学	2023年度合計	2022年度合計	昨年度比(%)
4月	1	201	49	16	61	344	672	536	125
5月	1	149	45	0	69	331	595	555	107
6月	0	189	39	20	68	289	605	472	128
7月	2	122	3	13	44	207	391	295	133
8月	0	143	23	0	55	213	434	365	119
9月	0	188	41	13	41	157	440	372	118
10月	0	148	22	0	54	152	376	478	79
11月	0	143	23	0	55	213	434	538	81
12月	0	162	18	0	53	235	468	534	88
1月	0	160	10	5	37	213	425	386	110
2月	0	191	39	21	43	266	560	481	116
3月	0	261	18	35	55	371	740	556	133
合計	4	2,057	330	123	635	2,991	6,140	5,568	110

2023年度 研究室別 年間動物使用数

	薬理学(実習)	薬物治療学	薬剤学	薬品物理化学	生化学	衛生化学	微生物モニタリング	2023年度合計	2022年度合計	昨年度比(%)
マウス	281	1,674	309	91	8,079	4,344	15	14,793	14,820	100
ラット	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0
モルモット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	281	1,674	309	91	8,079	4,344	15	14,793	14,840	100

活動概要・現状

1. 動物実験の機関管理

昭和薬科大学動物実験計画審査要領に基づき 20 件の動物実験継続申請書、1 件の動物実験新規申請書を委員会にて審議した。審議結果を学長に答申し、すべて承認された。

2. 実験動物研究施設の管理運営

- ①圧力容器法定検査 (2023年7月)
- ②P1A 区域、コンベンショナル区域、P2A 区域、イヌ・ネコ飼育室及び前室の天井蛍光灯の LED への交換実施を実施 (2023年10月)
- ③節電対策 (廊下照明の半点灯) の実施
- ④消耗品使用の実情に合わせ、受益者負担の減額を実施

自己点検・評価

昨年度に引き続き、残る区域の天井照明の LED 化を実施し、これをもって施設内の LED 化工事は終了した。大きなインフラ (全体空調、オートクレーブ、ケージワッシャー、飼育室) の整備はほぼ完了し、多くの動物実験者が利用しやすい環境を整えている。

今後に向けて

近年、社会的には動物愛護・脱動物実験の大きな流れがある中で、薬学医学の発展に不可欠であり、かつ他では代替不可能な貴重な動物実験の実施を継続するため、適切な実験動物研究施設の管理運営、動物実験の承認審査と点検管理を続けていく。

(4) 機器分析研究施設運営委員会

委員会の開催

【第1回機器分析研究施設運営委員会】

日時：令和5年5月16日（火）メール委員会

- 議題：1. 2023年度機器分析研究施設運営委員会幹事の選出について
2. NMRについて（報告）
3. 質量分析について（報告）

【第2回機器分析研究施設運営委員会】

日時：令和5年6月9日（金）14：30～14：55

- 議題：1. 議案に先立ち、注意点の再確認
2. NMRの予約について
3. その他の報告事項

【第3回機器分析研究施設運営委員会】

日時：令和5年8月18日（金）14：30～14：40

- 議題：1. 令和6年度の委員会予算について
2. 質量分析について
3. その他の報告事項
4. 後期から生薬・天然物の実習が始まる件について

【第4回機器分析研究施設運営委員会】

日時：令和5年12月8日（金）14：30～14：55

- 議題：1. 令和6年度の委員会予算ヒアリングについて
2. 依頼測定の利用方法について
3. 質量分析機器の老朽化について
4. X線装置の現状について

活動概要・現状

定期的に委員会を開催し、施設・装置の運用等の状況確認を行っている。機器のトラブル等はその都度対応できしており、機器に関しては問題無く処理している。保守費用の一部は引き続き利用者で負担しており、保守費用・内容の見直しも行いながら、適正な費用と内容を保つよう努めている。

質量分析の測定申込については、測定者と利用者が試行錯誤しながら検討している最中であるが、今のところ円滑に利用されている。

自己点検・評価

大きなトラブルは生じていない。施設内が公平に利用されているかどうかについては、未調査であるので、共同利用施設であることを鑑み、偏らない利用を工夫する必要がある。

今後に向けて

導入後から年月を経ている機器全般について見直す必要がある。これらについて、今後の必要性和実現可能性とを十分考慮に入れながら、検討を重ねていく予定である。

(5) 共同機器運営委員会

委員会の開催

昨年度に引き続き、メーリングリスト使用によるメール会議を6回開催し、以下の議案について検討を行った。

議事

- 1) 幹事の選出について
- 2) 委員会予算について
- 3) 共同機器修理について
- 4) 共同機器の更新（購入）について

活動概要・現状

昨年度に続き、共焦点顕微鏡と DNA シークエンサー（SeqStudio）の年間保守契約が締結された。

自己点検・評価

年間保守契約について、次年度以降も共焦点顕微鏡と DNA シークエンサー（SeqStudio）を対象機器とした。

尚、共焦点顕微鏡については、購入後13年目を過ぎ、不具合が生じることが多くなっている。共焦点顕微鏡に限らず、多くの機器が老朽化している現在、共同機器の適切な利用と保守の重要性についての周知が不十分であったと思われる。

今後に向けて

より安全で適切な機器の使用を心がけていただくために学内啓蒙活動をさらに行いたい。また昨年度に続き、必要な機器の更新や不用になった機器の廃棄についてのルール作りを行っていく。

(6) 放射線安全委員会

委員会の開催

- ・ 令和5年5月12日 放射線安全委員会（メール委員会）
 - 審議事項 1. 令和5年度幹事の選出について
 - 2. 令和5年度放射線安全管理に関する組織について
- ・ 令和5年6月9日 放射線安全委員会
 - 審議事項 1. 予防規程の改訂について
 - 報告事項 1. 令和4年度 自主点検の結果について
 - 2. 令和4年度 RI 研究施設使用者数について
 - 3. 令和4年度 個人被ばく線量測定、算定結果について
 - 4. 令和4年度 RI 研究施設（管理区域内）利用状況について
 - 5. 令和4年度 RI 受入量、払出量、使用量、保管量について
 - 6. 令和5年度 RI 健康診断、RI 教育訓練実施および RI 使用者登録について
 - 7. その他
- ・ 令和5年8月1日 放射線安全委員会
 - 審議事項 1. 測定器の点検・校正に関する手引書並びに点検及び校正の実施計画の制定について
 - 2. 放射線施設等の自主点検に関する手引書の改訂について
 - 3. 作業環境測定に関する手引書の改訂について
 - 4. その他／低温実験室の冷却ユニットの修理について
 - 報告事項 1. 学校法人昭和薬科大学 放射線障害予防規程の改訂について
- ・ 令和5年8月4日 放射線安全委員会（メール委員会）
 - 審議事項 1. 学校法人昭和薬科大学 放射線障害予防規程の追加改訂案について
- ・ 令和5年9月27日 放射線安全委員会（メール委員会）
 - 報告事項 1. 測定器の点検・校正に関する手引書について
 - 2. 点検及び校正の実施計画について

- ・令和5年10月27日 放射線安全委員会（メール委員会）
報告事項 1. 低温室の冷却ユニットの修理について
- ・令和5年11月9日 放射線安全委員会（メール委員会）
報告事項 1. 無停電電源装置用バッテリー交換について
2. 令和6年度放射線安全委員会予算原案について
- ・令和6年2月25日 放射線安全委員会（メール委員会）
審議事項 1. 令和5年度教育訓練の評価について
2. 令和6年度教育訓練当日スケジュール（案）について
- ・令和6年3月19日 放射線安全委員会（回覧）
報告事項 1. 点検及び校正の実施計画の追加について

活動概要・現状

法令に基づき、令和5年度の放射線業務従事者（RI使用者）に対する教育訓練を令和5年4月8日（土）に実施した。

健康診断は、令和5年3月30日（木）に実施した。

教育訓練においては、法令の解説、安全管理の実際については、DVDによる事前教育、RI研究施設内部の説明と入退室時の注意事項、RIの注文方法、譲受、払い出しの仕方、廃棄物の処理法、放射性同位元素の管理区域内での使用方法、サーベイメータの取扱等の説明を行った。

RI使用者の登録申請は各所属長を通じて行う仕組みである。今年度は登録申請した職員と学生のうち、放射線業務に従事した者は29名であった。

管理区域内の月ごとの清掃、スミア試験、空气中濃度測定などは、これまでと同じく委託業者の大和アトムミックエンジニアリングが実施した。また、RI使用者自身による管理区域内の整理を8月と1月に実施した。

自己点検・評価

令和5年10月に本学「放射線障害予防規程」の改訂が行われた。改訂後も変更点に漏れなく対応し、RI使用者に対する教育訓練やRI管理、RI研究施設の管理・運営を適切に行った。

今後に向けて

問題となる点はなかったことから、これまで通り、委員会活動を行うことを基本としたい。

(7) 生物・遺伝子資源管理委員会

委員会の開催

- (1) 令和5年5月30日（火）＜メール委員会＞
議事 1. 幹事の選出
2. DNA組換え実験計画の審議
- (2) 令和5年7月5日（水）＜メール委員会＞
議事 1. DNA組換え実験計画の審議
- (3) 令和5年9月20日（水）＜メール委員会＞
議事 1. DNA組換え実験計画の審議
- (4) 令和6年2月9日（金）＜メール委員会＞
議事 1. P1/P2実験室承認証の有効期限についての審議
- (5) 令和6年3月15日（金）＜メール委員会＞
議事 1. DNA組換え実験計画の審議

活動概要・現状

1) DNA組換え実験計画の審議

令和5年度には12件のDNA組換え実験の申請があった。全委員で審議の上、すべての実験を承認した。

2) P1/P2 実験室承認証の有効期限についての審議

今後の新規および更新申請から P1/P2 実験室承認証の有効期限を無期限とした。それに対応して委員会に対して年度末に実験室の現状報告を義務付ける。また、必要に応じて委員長と幹事による実験室の査察を実施し、P1/P2 実験室として不備があれば改善を勧告する。

自己点検・評価

本学における教育や研究の中で実施される DNA 組換え実験及び微生物取扱い実験を安全、かつ、円滑に実施できる体制を整えることがこの委員会の目的である。本委員会で審議した案件や取り扱った情報を、ゲノム関連実験を実施する可能性のあるすべての研究室で共有できるように、P1/P2 実験室を保有するすべての研究室から実際に実験に携わっている教員を委員として選出し、委員会運営に直接参加してもらう体制を構築している。

カルタヘナ法の施行やゲノム関連実験の多様化に対応すべく 1. 遺伝子組換え実験、2. 核酸の挿入を伴わないゲノム編集実験、3. 購入した遺伝子組換え産物を使用した実験の 3 カテゴリーに分け、それぞれに専用の審査申請書の様式を昨年度に整備し、今年度から運用を始めた。新様式については大きな問題なく運用できており、申請に関する利便性が向上した。

実験申請の有効期限を無期限とする代わりに、今年度から毎年度末に継続または終了の、どちらかの報告書の提出を義務付けた。この変更は実験管理体制の強化に役立っていると評価している

実験計画申請書は委員会メンバー全員で精査し、国の指針と本学の規定を満たしていると認められる場合にのみ承認した。多くの場合、複数回の審査を経た後で承認した。令和 5 年度も提出された DNA 組換え実験計画が適正に審査されたと評価している。

今後に向けて

安全かつ法律を遵守した実験を実施するためには、申請、審査、承認、報告のサイクルが重要である。これらの手続きが厳格かつ円滑に進められるような体制が必要である。昨年度に策定した申請書書式および運用の改訂はこの目的に沿ったものであった。今後も、よりよい研究環境のために必要に応じて改訂を加えていく必要がある。

昨年度は本委員会が管理する実験に関する教育体制の構築には手が回らなかった。今後は DNA 組換え実験を含むゲノム編集実験に関連する研究が一般化している状況への対応として講習会を含む全学的な教育体制を整えて、ゲノム編集に造詣の深い人材を育成していきたい。

(8) 環境保全委員会

活動状況

1. 委員会の開催

(1) 第 1 回 令和 5 年 11 月 10 日

第 1 号議案 令和 5 年度環境保全委員会幹事の決定

第 2 号議案 作業環境測定の実施の運用の見直しについて

2. 廃棄物回収

(1) 感染性廃棄物回収

毎週金曜日実施

処理業者：株式会社リバース

運搬業者：株式会社シンシア

(2) 実験・実習廃液・廃試薬等回収

第 1 回：令和 5 年 8 月 3 日実施

第 2 回：令和 6 年 3 月 6 日実施

処理業者：三友プラントサービス株式会社

運搬業者：早来工営株式会社

3. 講習会参加等

2023 年度 事業系一般廃棄物講習会

日時 2024年1月16日(火)

場所 町田市庁舎3階 3-2・3-3会議室

参加者 庶務課小山

講習会内容

・事業系一般廃棄物について(環境政策課3R推進係担当者)他

4. 報告書・アンケート等提出【 】は提出先

- (1) 令和4年度適正管理化学物質使用量等報告書【町田市】
- (2) 第1種指定化学物質(PRTR)の排出量及び移動量の届出書【東京都】
- (3) 廃棄物の減量及び再利用に関する計画書【町田市】
- (4) ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の保管及び処分状況等届出書【東京都】
- (5) 特定排出事業者の産業廃棄物適正処理報告書【東京都】
- (6) 産業廃棄物管理票交付等状況報告書【東京都】
- (7) PCBに汚染された絶縁油を含む電気機器等の所有・保管に係る調査の実施状況等に関する調査【環境省】
- (8) 氏名変更等届出書【町田市】

※(4)ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の保管及び処分状況等届出書については、ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物は、昨年度に全ての処分が終了したため、今年度は「処分をした」という報告を提出した。

5. 作業環境測定

「労働安全衛生法」に基づき、有機溶剤(第1類、第2類)及び特定化学物質(第1種、第2種)を使用する部屋の作業環境測定を実施した。1回目の作業環境測定を9月、2回目の作業環境測定を3月に実施し、その結果を衛生委員会と共有した。

3月の検査では、基準値を上回る物質が検出された研究室があり、衛生委員会と共同で改善を求める案内を出した。

6. フロン漏洩簡易点検

環境省「フロン排出抑制法」に基づき、学内のフロン入り機器が適正に管理されているかを点検する「フロン漏洩簡易点検」を今年度も継続して実施した。

点検結果から、本学のフロン入り機器は適正に管理されていると判断された。

7. 廃棄物の減量・分別廃棄の対策

昨年度の行政視察時に廃棄物の減量・分別廃棄につき強い要望があったこともふまえ、学内の廃棄物の減量・分別廃棄の対策を行った。

今年度は、多くの来客が予想されるイベント時の対策強化を重点に行った。

最大の来客がある昭葉祭でも、3年ぶりにほぼコロナ禍以前と同様に行われたにも関わらず、廃棄物の減量・分別廃棄については、大きな問題点等は指摘されずに終了することができた。

【以前から行われており、今年度も継続した対策】

- ・廃棄物処理業者と意見交換の場を持ち、他の事業所で行われている対策等をヒアリングした。
- ・学内のごみ箱、廃棄物集積所を清潔に保ち、使用しやすい環境を保つべく努力した。
- ・「昭和薬科大学廃棄物分別一覧」を更新し、学生・教職員へ教授会・掲示・電磁的方法を用いて再周知した。
- ・委員長より、教授会・教授総会で改めて分別廃棄を依頼した。

【今年度より行われた対策】

- ・昭葉祭等多くの来客が予想されるイベントが実施される時は、各門及び模擬店等設置場所に「昭和薬科大学廃棄物分別一覧」を掲示し、大学が分別廃棄を重視していることをアピールする。
- ・昭葉祭等の大きなイベント時は、事前に学生や屋外清掃担当者と話し合い、定期的にごみ箱のごみ回収を依頼した。これにより「ごみ箱が満杯で分別廃棄をしたくてもできない」という状況を極力避けることができた。

8. 中和処理施設清掃

中和処理施設の清掃を実施し、同時に中和処理施設の塗装状態等の不具合の点検等も行った。

実施日：令和6年2月7日

実施業者：大成有楽不動産株式会社

9. 排水処理施設点検

「水質汚濁防止法」に基づき、中和処理施設内の排水処理施設の点検を引き続いて実施している。

実施頻度 毎月2回

10. 水質分析

「水質汚濁防止法」による指定有害物質の計量分析（濃度測定）を実施した。

定期調査として中和処理施設 中和処理水及び動物し尿浄化槽 放流水の採取を行い、対象となる指定有害物質の計量分析（濃度測定）を行った。

また、2、3月には「28項目分析調査」として中和処理施設 中和処理水のより詳細な指定有害物質の計量分析（濃度測定）を行い、同時に「28項目調査」では測定できない、動物し尿浄化槽 放流水の指定有害物質の計量分析（濃度測定）、動物実験施設 中和処理水の指定有害物質の計量分析（濃度測定）、RI研究施設 原水の指定有害物質の計量分析（濃度測定）を行った。

測定した全ての物質で、水質汚濁法の基準値を下回り、本学の排水は水質汚濁防止法に適合していると結論付けた。

本年度の指定有害物質の計量分析（濃度測定）の実施状況

(1) 中和処理施設 中和処理水の計量証明書

(令和5年6月22日・令和5年12月18日・令和6年2月5日)

オーヤラックスクリーンサービス株式会社

(2) 動物し尿浄化槽 放流水の計量証明書

(令和5年6月16日・令和5年9月14日・令和5年12月12日・令和6年3月13日)

株式会社神奈川環境研究所

(3) 動物実験施設 中和処理水の計量証明書

(令和6年2月5日)

オーヤラックスクリーンサービス株式会社

(4) RI研究施設 原水の計量証明書

(令和6年2月16日)

オーヤラックスクリーンサービス株式会社

(5) 講義棟・実習棟・研究棟 末端蛇口 上水水道の計量報告書

(令和6年2月15日)

オーヤラックスクリーンサービス株式会社

11. 薬品管理システムの運用について

薬品管理システムの運用業務として、サーバーの保守、消耗品の発注、トラブル対応等の業務を行った。

また、平常点検等は別に、保守会社立会いの下、

・マイナーバージョンアップ・点検作業（サーバ）・IIS ログの取得

・Windows Update 履歴の取得・DBのバックアップ状況確認・動作確認

を行い、良好な使用環境の維持に努めている。

12. 研究棟ドラフトチャンバー更新（第1期）後の状況確認・他について

町田市労働基準監督署町田支署による 研究棟ドラフトチャンバー更新（第1期）後の状況確認・他が行われ、環境保全委員会担当者も同席した。

日時 令和5年10月18日（水）10:00～11:30

労働基準監督官 八王子労働基準監督署町田支署 吉増 純氏

立会者 施設課担当者・環境保全委員会担当者・衛生委員会担当者・

中央監視室所長他

視察内容 更新機器の状況確認、作業環境測定記録の確認
有機溶剤健康診断記録の確認

指導内容 作業環境測定につき、現在の1週間に1回以上使用している物質に限定して行っているが、労働安全衛生法第65条に基づき、作業環境測定の実施の運用の見直しを行ってほしい。

本状況確認・他終了後、環境保全委員会担当者が八王子労働基準監督署へ出向き、上記内容が記載された指導票を労働基準監督官より受け取った。

11月10日、本件につき第1回環境保全委員会を開催し、労働安全衛生法第65条に基づき、作業環境測定の実施の運用の見直しを行うことが決議された。

11月15日、環境保全委員会委員長が本件を教授総会で報告し、来年度より労働安全衛生法第65条に基づき作業環境測定の実施の運用の見直しを行うことを教授会員に周知した。

11月20日、環境保全委員会担当者が八王子労働基準監督署へ出向き、是正（改善）報告書及び第1回環境保全委員会議事録を労働基準監督官に提出した。

来年度より労働安全衛生法第65条に基づく作業環境測定の実施の運用の見直しを実施するため、作業環境物質の集計及び相見積の徴取等を行った。

自己点検・評価

令和5年10月18日（水）に実施された、研究棟ドラフトチャンバー更新（第1期）後の状況確認において、八王子労働基準監督署町田支署労働基準監督官より、作業環境測定の実施運用の見直しを求められた。見直しの方向性について監督署へ報告したところ、その後に特段の是正（改善）要求の連絡がないことを考慮すると、一応の解決は見たと思われる。

町田市からも依頼があった廃棄物の分別・削減についても、毎年大きな問題等が発生しなかったことを鑑みると、完全とはいかないものの、ある程度の高い水準を保っているといえる。

特にコロナ禍後初めての、外部の方の参加を制限しない昭葉祭等では、多くの来客があったにも関わらず、廃棄物の分別・削減について特段の問題がなく終了することができ、学生・職員の垣根を越えてよい取組ができたと考えられる。

その他の事項に関しても、委員会の活動を通し、学内の環境向上のための一助になっていると評価して良いと思われる。

今後の対応

八王子労働基準監督署町田支署労働基準監督官より指摘があった労働安全衛生法第65条に基づく作業環境測定の実施の運用の見直しについて、来年度の最大の課題になると思われる。

調査内容が充実していることも勿論ではあるが、コスト等も倍増することから、経済的な側面からも本件を検討する必要がある。

また、環境保全委員会として、安全で衛生的な職場環境を作ることを目的として、様々な活動に取り組んでいきたい。安全で快適な職場づくりは、学生だけでなく職員にとっても重要な課題であり、他委員会等とも連携しながら、積極的に取り組めたらと考えている。

具体的には、廃棄物の処理、作業環境測定の実施、フロン漏洩点検の実施といった学内環境維持的な側面や、薬品管理システムの運用等の利便性向上の側面、廃棄物の減量やその分別の徹底といった日常的な管理面など、様々な側面からのアプローチをはかっていきたい。

(9) 情報教育運営委員会

委員会の開催

1. 第1回 情報教育運営委員会

日 時：2023年7月31日（月）14時30分～15時30分

議 題：

1. 幹事の選出
2. 本学における ChatGPT 等をはじめとする生成系 AI への対応
3. コンピュータ演習室での飲食禁止の試験的規則変更
4. その他

2. 第2回 情報教育運営委員会

日 時：2023年12月21日（木）12時00分～12時45分

議 題：

1. 「本学の教育における生成系 AI の利用に関する留意事項」のウェブ公開方法
2. 計算サーバ受益者負担金の設定について
3. 学生便覧の変更について

報 告：

1. 授業収録動画の再生遅延に関する報告

活動概要・現状

例年同様、授業目的公衆送信補償金制度の管理団体より利用報告の依頼があり、授業担当教員にウェブ上で報告するよう告知した。

コンピュータ演習室において、図書館と同様に「飲は可とするが、必ずフタをする」ことを条件に飲を認める運用に変更した。これに伴い、令和6年度学生便覧の記載内容を修正した。

本学入学試験の出願時に受験生が提出する志望理由書について、ChatGPT 等生成系 AI の対策を検討するよう入試管理委員長に依頼することとなった。

「本学の教育における生成系 AI の利用に関する留意事項」を本学ホームページに掲載するにあたり、業者を介さず随時更新できるよう、PDF ファイルをそのまま掲載する公開方法とした。

メディアサイト内の授業収録動画の再生遅延現象が2022年6月から発生している。原因不明のため、次回の授業収録配信システムのリプレース（2025年8月）までは、前期及び後期定期試験の1ヶ月程度前に、YouTube に授業動画をアップロードすることを引き続き実施する。

情報センターが全額負担していた計算サーバの費用を受益者負担に変更した。管理システムを使用する費用が発生するため、1コア1時間の使用で新サーバは4円、旧サーバは2円とする。

PC の購入を検討している学生（主に新入生）対象に、PC の推奨スペックの文書を更新し、本学ホームページに公開した。

自己点検・評価

コンピュータ演習室における飲食の問題は以前から散見されていたが、フタ付きの飲み物のみ許可したことで、学生にとってより利用しやすい環境になったと考えられる。

授業収録動画再生遅延の問題が未解決であるが、迅速に代替措置を講じたことで、支障なく学生へ動画配信を提供できている。

今後に向けて

生成系 AI の進歩に合わせて、AI 利用に関する留意事項を定期的に加筆修正して行く必要がある。授業収録配信システムは本学にとって重要なサービスの一つであるため、極力 YouTube のような外部サービスに依存せずに運用できることが望ましい。次回安定した配信システムを導入できるような種々の検討を行いたい。

(10) 学務システム運営委員会

活動概要・現状

【学務システム運営委員会の開催】

1. 第1回 学務システム運営委員会

【開催日時】 2023年9月28日（木）

- 【議 題】
1. 学務システム改修およびデータ移行の現状報告について
 2. 幹事について
 3. 学務システム変更のアナウンスについて
 4. 新システムの説明会について
 5. アクセス権限について

2. 第2回 学務システム運営委員会

【開催日時】 2023年10月30日（月）メール会議

- 【議 題】 1. 新学務システム説明会（教員向け）日時について

3. 第3回 学務システム運営委員会

【開催日時】 2023年11月28日（金）メール会議

- 【議 題】 1. 新学務システムの利用権限付与について

4. 第4回 学務システム運営委員会

【開催日時】 2024年3月4日（月）メール会議

- 【議 題】 1. 保護者サイトの運用について

【新学務システム（A-portal・入試システム・学習成果の可視化）導入WGの開催】

1. 日 時：2023年4月11日（火） 教務・学生支援・情報センター
2. 日 時：2023年5月9日（火） 教務・学生支援・情報センター
3. 日 時：2023年5月18日（木） 入試
4. 日 時：2023年5月23日（火） 教務・学生支援・情報センター
5. 日 時：2023年5月31日（水） 学生支援
6. 日 時：2023年6月13日（火） 学生支援
7. 日 時：2023年7月5日（水） 学生支援
8. 日 時：2023年9月15日（金） 学生支援
9. 日 時：2023年9月15日（金） 教務・学生支援
10. 日 時：2023年9月27日（水） 教務・学生支援・情報センター
11. 日 時：2023年10月13日（金） 教務・学生支援
12. 日 時：2023年10月23日（月） 教務・学修成果の可視化
13. 日 時：2023年11月7日（火） 学生支援
14. 日 時：2023年11月14日（火） 教務・学修成果の可視化
15. 日 時：2023年11月17日（金） 教務・学修成果の可視化
16. 日 時：2023年11月17日（金） 教務・学生支援
17. 日 時：2023年12月8日（金） 入試
18. 日 時：2023年12月22日（金） 教務・学修成果の可視化
19. 日 時：2024年1月5日（金） 教務
20. 日 時：2024年1月10日（水） 学生支援
21. 日 時：2024年1月25日（木） 教務・学修成果の可視化
22. 日 時：2024年2月1日（水） 教務・学生支援
23. 日 時：2024年2月8日（木） 教務・学修成果の可視化
24. 日 時：2024年2月26日（月） 教務・学修成果の可視化
25. 日 時：2024年3月25日（月） 教務・学修成果の可視化

自己点検・評価

本年度は新システムへの最終的な仕様変更、旧システムからのデータ移行、新システムへの対応説明会等、極めて対応事項が多く、本委員会のみならず多くの関係者にとって極めて多忙な年度であった。委員長として、大量の業務であるにも関わらず、迅速かつ丁寧に対応いただいた多くの事務関係者に心より感謝申し上げます。

期限内にすべてのデータ移行と新システムへの対応が完了した。

今後に向けて

新年度となり、新システム稼働時の不具合等に早急に対応する。また保護者にもアカウントを発行し7月中旬から「A-Portal（保護者用）」として利用できるようにする。

5. その他の委員会

(1) 大学紀要編集委員会

活動概要・現状

1) 紀要第 58 号の作成

- ・6月に募集要項に関する情報を含むお知らせを全教育職員に配布した。
- ・原稿の締め切りを9月末として、期日までに集まった原稿を委員会メンバーで回覧、チェックを行った。
- ・投稿原稿のチェックは1本の原稿につき2名以上の委員で行った。
- ・チェックした結果を投稿者に返却し、修正等の依頼を行った。
- ・修正稿確認後、印刷に回し、その後著者校正と編集委員会校正を行った。
- ・完成した紀要は、あいさつ状と共に例年配布している配布先リストにもとづき、庶務課の協力のもと郵送し、学内にも配布した。

2) 機関リポジトリ

- ・昨年度の紀要第 57 号に続き、今年度も機関リポジトリ化を進めた。
- ・今年度の紀要第 58 号も、図書館の協力により本学ホームページで公開した。

自己点検・評価

紀要第 58 号を 3 月 8 日に発行することができた。今年度は、原稿依頼の宣伝活動の成果だと思うが、投稿論文は予想以上に集まった。今号では、原著論文 5 報（内学外から 2 報）、今回から新たに取り組んだ海外出張報告 1 報を掲載することができた。

今後に向けて

大学紀要は、学術的な貢献を果たすことだけでなく、大学内の（非常勤講師も含めた）職員同士の知的交流を促すという意味も持つ。従って、論文だけでなく、国外出張や学内教育プロジェクトの報告に関する原稿なども積極的に募集することによって、投稿原稿の確保していきたい。

(2) RI 使用者委員会

委員会の開催

- ・令和 5 年 5 月 16 日 RI 使用者委員会（メール委員会）
審議事項 1. 令和 5 年度幹事の選出について
報告事項 1. 令和 5 年度放射線安全管理に関する組織について
- ・令和 5 年 8 月 2 日 RI 使用者委員会（メール委員会）
報告事項 1. RI 研究施設 低温室の冷却ユニットの故障について

活動概要・現状

RI 使用者委員会は RI 研究施設の安全で円滑な運営を行うために置かれているもので、放射線安全委員会と連携して活動している。

8 月と 1 月には、RI 施設内の整理を行った。

自己点検・評価

管理区域内において、事故を起こすことなく、安全に RI を使用する実験を行うことができた。

今後に向けて

問題となる点はなかったことから、これまで通りの手続きを踏むことにより、今後も継続して安全に RI 実験を行えるようにする。

(3) 倫理審査委員会

審議事項

受付番号	審議結果	日付
2023-1	該当せず	2023/5/25
2023-2	承認	2023/6/19
2019-8	研究計画変更	2023/6/29
2023-3	承認	2023/7/10
2023-4	該当せず	2023/7/21
2023-5	承認	2023/8/4
2023-6	対象外	2023/8/4
2023-7	該当せず	2023/9/29
	申請取り下げ	2023/9/7
2023-8	該当せず	2023/9/22
2023-9	承認	2024/1/10
2023-10	受理せず	2023/11/15
2023-11	受理せず	2023/12/8
2023-12	該当せず	2023/12/21
2023-13	該当せず	2023/12/22
2022-7	研究計画変更	2023/12/20
2023-14	該当せず	2024/1/16
2023-15	承認	2024/3/6
2023-16	該当せず	2024/2/2
2023-17	該当せず	2024/2/20
2023-18	該当せず	2024/2/26
2023-19	該当せず	2024/4/19
2023-20	未定	未定

活動概要・現状

本委員会は、基本的には「ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、本学主導で行うヒトの試料・情報を扱う研究計画の妥当性を審査し、かつ、円滑・適切に研究が行われるよう活動している。

委員会の開催

- ・倫理審査請求のあった研究内容について審査すべく、委員会を開催した。基本的には、その申請書一式を各委員にメールで配信し、各自で精読し、意見をメールにて交換する方式、所謂メール委員会の形式を執った。
- ・本年度は、倫理審査請求が延べ23件あった。これら審査請求に対して逐次委員会を開催し、研究内容を吟味した結果、承認7件、審査請求に該当せずとしたもの11件、申請取り下げになったもの1件、受理せず：2件、審査対象外：1件、継続審議中：1件であった。これによって、本委員会では、発足以来、計176件の倫理審査請求を承認し、1昨年度から新たに発行することになった倫理審査判断不要報告書は計5件発行した。研究終了報告件数は0件であった。

自己点検・評価

学内での適正な研究を主導すべく、委員会にて厳正に研究内容を吟味し、学内での適正かつ安全な研究活動維持に尽力した。具体的には、学内のホームページに「昭和薬科大学倫理審査委員会審査請求手続き」が掲載され、申請者に分かりやすく、適正かつ安全な研究活動維持に尽力した。本年も「生命科学・医学系研究」以外の研究と判断されたものが多く、「該当せず」とした。ただし、利益相反、個人情報保護の観点で問題がないかを併せて審査した。また、利益相反案件の場合、利益相反委員会の判断を得たことを前提に「該当せず」と判断したものがあった。加えて、改正後個人情報法に則った「個人情報の管理主体が研究代表者

になり医学系指針を行うこと」や「多機関共同研究に係る研究は、代表者がその所属する委員会に申請することになり1本化されたこと」の改正に則り、「受理せず」が散見された。

今後に向けて

学内のホームページの「昭和薬科大学倫理審査委員会倫理審査請求手引」の中には、フローチャートも掲示されているが、今後も効率の良い委員会体制と各研究者の意識を高める啓発活動を維持継続する必要がある。また、審査請求者には、研究を終了（中止の場合を含む）したときには、遅滞なく倫理審査委員会に報告していただくように促していきたい。また、引き続き生命・医学系指針の改正内容の中で、改正後個情法に則った2点

- 1) 個人情報管理主体が研究代表者になり医学系指針を行うこと
- 2) 匿名加工情報（復元不可能）か仮名加工情報（他の情報と照合して個人を特定）かの明記することに加え、
- 3) 多機関共同研究に係る研究は、代表者がその所属する委員会に申請することになり1本化されたことの周知に努めていきたい。

(4) 任期制評価委員会

委員会の開催

令和5年5月1日（月）

議案1. 令和4年度自己申告書の評価資料作成について

令和6年2月8日（木）

議案1. 教員個人評価基準について

その他

令和5年5月15日（月） 任期制データ集計作業

活動概要・状況

例年通り、常勤する教員からの自己申告書を基に基礎データを作成した。

令和5年度の評価対象となる教員は、教授3名、准教授2名、講師3名、助教1名の計9名であり、再任願と共に提出された調査書を精査し、職位別による教育活動、研究活動、研究・組織の運営、組織・社会活動の領域ごとに点数を算出し、当該教員の評価報告書を作成した。

その他、全評価対象者の評価報告書には、基礎データを用いて職位別順位を記載し、その旨を通知した。

自己点検・評価

例年通り、前年度実績に基づく常勤する教員への評価報告書を作成し、職位別順位の状況をフィードバックしたが、前年度からの課題である今後の評価のあり方に関して、教員個々の自己改善を促すための評価の指標や仕組み作りの具体的な改革案を立案するには至らなかった。

今後に向けて

公正・公平な教員評価を目標として、多岐にわたる教員の業務内容の変化に対応するとともに、全教員の自己改革・自己改善につなげるための新たな評価方法や評価項目を盛り込んだ教員評価のあり方を次年度以降も検討していく。

(5) 入学試験管理委員会

委員会の開催

- 令和5年11月22日(水)：学校推薦型選抜の合否判定案
- 令和5年12月4日(月)：指定校推薦入試・追試験の合否判定に関する件
- 令和6年2月7日(水)：令和6年度入学試験B方式合否判定案
- 令和6年2月9日(金)：令和6年度入学試験A・C・D方式合否判定案
- 令和6年2月26日(月)：アドミッション・ポリシーの見直しに関する件

活動概要・現状

当委員会は入学試験の合否判定その他入学者選考に関する重要事項の審議を主たる目的とした委員会である。

2024年度入学試験については、11月以降順次実施された指定校制・公募制の学校推薦型選抜、一般選抜について入学試験委員会から提出された入学試験結果の資料に基づき合否判定案を慎重に検討し、指定校制推薦、公募制推薦、A方式、B方式、C方式およびD方式の募集区分毎に入学予定者数の対入学定員比を確認しながら最終判定を行い、291名の新入生を迎えた。

またアドミッション・ポリシーの見直しについて合同の意見交換会を実施し、当委員会がとりまとめたコメントを入学試験委員会の検討に資するべく提供したところである。

自己点検・評価

2024年度入学者数は対定員比 121.3%となっており結果として予想を上回る入学者数となったが、本年度は順天堂大学、国際医療福祉大学(成田)が新規開学することから、歩留まりの予測が非常にしづらい環境下であった。

指定校、公募制、A、C、D方式は予想歩留まり程度であったが、B方式が予想歩留まりより10%以上多くなったことが、今年度の入学者数増の主な原因である。入学定員の確保が困難となる状況を避けながら、質の高い学生の獲得を目指すという難しい課題に取り組んだ結果として積極的に受けとめ、今後の糧としていきたい。

公表されたアドミッション・ポリシーの下、十分に時間をかけて作成された入試問題をはじめとする多面的な評価により入学試験を実施、適切な機関決定を経て定員を充足する入学者数を確保しており当委員会は適正に機能しているものと思料している。

今後に向けて

進路決定の早期化により年内入試である推薦入試の重要度が高まりつつあるなかで、今後も少子化が進み受験者増は望みにくい環境が続くものと思料される。

こうした環境下で学生の質を維持・向上させるため、例えば、本学で学びたい意欲を高くもつ指定校推薦での志願者獲得による質の維持を企図するなど、今後も引き続き当委員会を中心とする全学体制によりアドミッション・ポリシーに適う学生の確保に努めていく。

(6) 就職支援委員会

委員会の開催

- (1) 令和5年5月10日(水)
 - 議 事 1. 委員会幹事の選出に関する件
2. 令和5年度ガイダンス予定に関する件
 - 報告事項 1. 令和4年度卒業生進路報告について
2. 令和4年度合同企業説明会の開催結果について
- (2) 令和5年6月14日(水)
 - 議 事 1. 令和5年度ガイダンス予定に関する件
2. オンライン面接スペースの貸し出しに関する件
 - 報告事項 1. 就職相談の枠増設について
2. 見直されたキャリア形成支援活動(インターンシップ)の周知について
3. 進路決定届の項目の見直しについて
4. その他
- (3) 令和5年9月13日(水)
 - 議 事 1. ミニFD研修会に関する件
2. オンライン面接スペースの貸し出しに関する件
3. 薬剤師入門に関する件(検討)
 - 報告事項 1. 病院薬剤師会からの依頼について
2. 就職ガイダンス進捗状況について
3. その他
- (4) 令和5年10月13日(金)【メール委員会】
 - 報告事項 1. ミニFD研修会について
2. キャリア研究会について
- (5) 令和5年11月8日(金)【メール委員会】
 - 報告事項 1. キャリア研究会について
2. 進路決定状況について
- (6) 令和5年12月22日(金)
 - 報告事項 1. キャリア研究会開催報告について
2. ミニFD研修会開催報告について
3. 進路決定状況について
4. ガイダンス進捗状況について
- (7) 令和6年3月6日(水)【メール委員会】
 - 報告事項 1. 進路決定状況(2024.3.4現在)及び内定届未提出者催促について
2. 合同企業説明会・合同病院説明会実施報告について
- (8) 令和6年3月11日(月)【メール委員会】
 - 議 事 1. 「製薬企業理解セミナー」への参加に関する件
- (9) 令和6年3月12日(火)【メール委員会】
 - 議 事 1. 相模原・町田地域教育連携PFからのアンケート依頼に関する件

活動概要・現状

本学学生の就職内定状況、就職支援委員会の支援内容などを全学で共有するため、定例教授総会の際を活用してさまざまな就職支援データの開示、情報発信、キャリア支援ガイダンスの告知を行った。

今年度、本学が主催で企画開催した就職・キャリア支援に関するガイダンス・セミナーは、計34回実施した。今年度は20種類の企画について対面方式で実施した。主な就職説明会は以下のとおりである。

- 1) 就職活動スタートアップガイダンス：4年次学生を対象に本格的に将来を考えるきっかけとしてもらう趣旨で、4月26日午後実施した。
- 2) キャリア研究会：4年及び5年次学生を対象に職種や業界について知る目的の研究会を11月15日、17日午後、製薬企業や官公庁を中心に計34社・団体を招聘し対面形式で開催した。
- 3) 合同企業説明会：新6年生を主な対象者とした説明会を、2月15日、16日、3月14日午後、保険薬局・ドラッグストア57社、官公庁5団体を招聘し、計3日間に亘り対面形式で開催した。

- 4) 合同病院説明会：新6年生を対象者とした説明会を2月21日午後に計24病院施設を招聘し対面形式で開催した。
- 5) ようこそ先輩！OB/OGに聞いてみよう：各業界で活躍する本学卒業生を招聘し、後輩である在生に対して自身のキャリアの話や就職活動などについて懇談する趣旨で、今年度は6年制薬学教育課程7期生（2018年）卒業生4名を招き、対面形式により開催した。
- 6) 沖縄県Uターン・Iターンガイダンス：薬剤師数が最も少ないのが沖縄県の薬剤師の地域偏在を解消する目的で沖縄県、および沖縄県薬剤師会主催によるオンライン就職ガイダンスを2月14日午前を実施した。
- 7) ミニFD研修会：教職員向けに、就職活動に関する学生相談への対応の参考とする趣旨で、就職相談に関する研修会を12月19日午後を実施した。
- 8) 島根県就職ガイダンス：沖縄県Uターン・Iターンガイダンスと同様の目的で島根県、および島根県薬剤師会主催によるオンライン就職ガイダンスを3月21日午後を実施した。

キャリア・サポート・ステーション（CSS）における個別面談による対応数（予約分のみ）は147件であった。今年度は対面及びオンラインで面談を実施した。その他、進路支援システムの充実や改修、就職支援委員や学生課担当者との電話やメールで相談に関しても充実させた。

自己点検・評価

昨今の早まっている就職活動事情に対応すべく、4月に4年生向けのスタートアップガイダンスを実施し多くの学生が参加した。就職活動に対する意識を高めることができた点は評価できる。また、病院就職向けのガイダンスを前年度より1か月前倒して実施した。

中期計画に従い、教員に対して学生の就職活動事情の認識や活動の理解を深めてもらうために、ミニFDを12月に実施した。多くの教員が参加し、実施後のアンケートにおいてもポジティブな意見が多くみられ、初めてのFD実施であったが、評価できる活動であった。

沖縄県と島根県の薬剤師向けの就職ガイダンスを実施した。沖縄県と本学とは歴史的に関係性が深く、県薬剤師会の全面的な協力のもとガイダンスを実施でき、多くの学生が参加した。本学OBが就職している島根県の就職ガイダンスでも10名程度の学生が参加しており、これら地方における就職活動に対して一定の方向性を見出すことができ評価できる活動であった。

コロナ禍による限定的な活動から解放され多くの活動が対面で実施できた。オンラインでの活動もメリットがあるため、対面とオンラインを使い分けながら昨年度よりも活発に活動できた点は評価できる。

今後に向けて

本学の就職事情は保険薬局・ドラッグストア・病院を合わせて80%以上であり、ここ10年来変わっていない。ドラッグストアが右肩上がりである傾向が強まっていることで、病院への就職が若干減少気味である。これらの就職先以外のメーカーや企業を希望する学生が増えている実感は年々強くなってきており、今後は企業向けのガイダンスのさらなる充実や活動の方向性を与えることも考えていく必要がある。定期的に企業に就職したOBの話聞く機会を設けることは必須と思われる。

今年度、沖縄県と島根県への就職ガイダンスを実施し、多くの学生が興味を持って参加してくれたことは評価できる。関東近辺を就職先として選ぶ傾向はまだまだ強いが、地方を希望する学生が一定数いることが分かったため、今後他都道府県就職も視野に入れたガイダンス実施も考える必要がある。

今年度初めてミニFDを実施し、多くの教員が参加してくれた。教員の就職事情の理解はきっと学生の就職のためになると思われ、今後も機会を設けていきたい。

薬剤師になることを前提に、就職先は多様化してきている。このような時代の流れに敏感となって今後も就職支援活動を行っていきたい。

令和5年度 就職支援イベント・ガイダンス 開催実績

開催月	テーマ	対象学年	形式
4月	スタートアップガイダンス	4年	対面形式
5月	自己分析対策講座	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	薬剤師のマナー取得講座	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	業界・企業研究の進め方講座	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	インターンシップ講座	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
6月	インターンシップ選考対策講座 (製薬・治験向け)	主に4・5年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	業界研究講座《病院》	主に4年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	業界研究講座《製薬・治験・卸》	主に4年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	業界研究講座《薬局・ドラッグストア》	主に4年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	業界研究講座 《食品・化粧品・化学・医療機器等》	主に4年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
業界研究講座《公務員》	主に4年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載	
10月	秋から始める就活準備講座 (5年実務実習Ⅰ・Ⅱ期)	5年	対面形式
	選考対策講座(履歴書・エントリーシート)	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	選考対策講座(小論文)	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	就職先選びの考え方、情報収集のしかた 講座	主に4・5年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	募集要項の見方講座	主に4・5年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	選考対策講座(履歴書・エントリーシート)	主に5年(全学年参加可)	対面形式
11月	面接対策講座	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	SPI対策講座	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	秋から始める就活準備講座 (5年実務実習Ⅱ・Ⅲ期、Ⅲ・Ⅳ期)	5年	対面形式
	キャリア研究会の歩き方	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
	キャリア研究会(医薬品関連企業、官公庁)	主に4・5年(全学年参加可)	対面形式
2月	ようこそ先輩!OB・OGに聞いてみよう	全学年	対面形式
	実務実習直前キャリアガイダンス	4年	対面形式
	(就職活動直前おさらい講座)求人票の見方	主に5年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	(就職活動直前おさらい講座) 採用動向と就職先選びの考え方	主に5年(全学年視聴可)	ガイダンス動画を進路支援システムに掲載
	(就職活動直前おさらい講座) 履歴書/エントリーシート対策	主に5年(全学年参加可)	対面形式
	沖縄県Uターン・Iターン薬剤師就職ガ イダンス	全学年	Zoom
	(就職活動直前おさらい講座)面接対策	主に5年(全学年参加可)	対面形式
	合同企業説明会(薬局・ドラッグストア)	主に新6年(全学年参加可)	対面形式
	合同病院説明会(病院)	主に新6年(全学年参加可)	対面形式
3月	(就職活動直前おさらい講座) 病院志望者向け選考対策	主に5年(全学年参加可)	対面形式
	合同企業説明会(官公庁)	主に新6年(全学年参加可)	対面形式
	島根県就職ガイダンス	全学年	Zoom

病院	44	薬局・ドラッグストア	146
聖マリアンナ医科大学病院	5	アインホールディングス	16
相模原協同病院	3	サンドラッグ	13
順天堂大学医学部附属順天堂医院	3	総合メディカル	11
伊勢原協同病院	2	日本調剤	10
東海大学医学部附属病院	2	ウエルシア薬局	8
浦添総合病院	1	クリエイトエス・ディー	6
神奈川県リハビリテーション病院	1	薬樹	6
杏林大学医学部附属病院	1	スギ薬局	5
群馬中央病院	1	アイセイ薬局	4
甲府病院	1	イオンリテール	4
国立がん研究センター東病院	1	クオール	4
国立病院機構関東信越グループ	1	なの花薬局	4
埼玉医科大学病院	1	かもめ薬局	3
さいたま赤十字病院	1	ココカラファイングループ	3
篠ノ井総合病院	1	トモズ	3
順天堂東京江東高齢者医療センター	1	マツモトキヨシ	3
信州大学医学部附属病院	1	富士薬品	3
新百合ヶ丘総合病院	1	I&H	2
総合川崎臨港病院	1	アポクリート	2
聖隷福祉事業団	1	エスシーグループ	2
地域医療機構推進機構 (JCHO)	1	クスリのアオキ	2
地方独立行政法人 新小山市市民病院	1	日生薬局	2
東京慈恵会医科大学附属病院	1	ファーマライズホールディングス	2
東京通信病院	1	メディックス	2
徳洲会グループ 湘南鎌倉総合病院	1	P&S	1
徳洲会グループ 南部徳洲会病院	1	アビック薬局	1
徳洲会グループ 名瀬徳洲会病院	1	ウインファーマ	1
戸田中央総合病院	1	エフアンドエフ	1
トヨタ記念病院	1	大島薬局	1
日本海総合病院	1	杏林堂薬局	1
山形大学医学部附属病院	1	クラスターメディカル	1
横浜栄共済病院	1	さくら薬局グループ クラフト株式会社	1
横浜市立大学附属市民総合医療センター	1	さど調剤グループ	1
横浜市南部病院	1	シップヘルスケアファーマシー	1
		新共薬局	1
		誠心堂薬局	1
		セキ薬品	1
		中央調剤薬局	1
		徳永薬局	1
		ノムラ薬局	1
		パフモ	1
		望星薬局	1
		まろん	1
		ユニスマイル	1
		フォーラル	1
		友愛メディカル	1
		雄飛堂	1
		ライブリー	1
		ワークイン (つくし薬局)	1
		わかば	1
製薬企業	4		
杏林製薬	1		
武田薬品工業	1		
マルホ株式会社	1		
Meiji seika ファルマ	1		
その他の企業	11		
IQVIA サービスーズジャパン	3		
イービーエス	2		
エイツヘルスケア	2		
エスアールディ	1		
小川香料	1		
三協	1		
東邦ホールディングス	1		
公務員	4		
神奈川県	1		
川崎市	1		
相模原市	1		
兵庫県	1		
		進学	3
		昭和薬科大学大学院	3

単位：人

令和5年度 卒業生進路別人数表 (学部)

令和6年3月31日

薬学部薬学科		総計			割合 (%)
		男	女	計	
進 学	本学	1	2	3	1.4
	他大学			0	0.0
	進 学	1	2	3	1.4
就 職	製薬企業 (MR)	1	3	4	1.8
	製薬企業 (研究)			0	0.0
	製薬企業 (開発)			0	0.0
	製薬企業 (開発以外)			0	0.0
	製 薬 企 業	1	3	4	1.8
	企業 (CRO・SMO)		8	8	3.7
	企業 (食品・化粧品)	1	0	1	0.5
	企業 (卸)		1	1	0.5
	企業 (その他)		1	1	0.5
	そ の 他 企 業	1	10	11	5.0
	製薬企業・その他企業	2	13	15	6.8
	病院 (国立)	3	2	5	2.3
	病院 (公立)	1	6	7	3.2
	病院 (私立)	7	25	32	14.6
	研修生			0	0.0
	病 院	11	33	44	20.1
	薬局 (調剤薬局)	48	48	96	43.8
	薬局 (調剤併設ドラッグストア)	21	29	50	22.8
	薬局 (ドラッグストア)			0	0.0
	薬 局	69	77	146	66.7
公 務 員	2	2	4	1.8	
教育 (研究生)・その他等				0	0.0
進 路 決 定 者 合 計		85	127	212	96.8
就 職 せ ず (留 学 等)				0	0.0
活 動 中				0	0.0
判断保留中・国試後・未定		2		2	0.9
不 明 ・ 未 提 出		3	2	5	2.3
未 決 定 者 合 計		5	2	7	3.2
総 計		90	129	219	100.0

令和5年度 学生面談予約数

年	月	面談予約数	年	月	面談予約数
令和5年	4月	10	令和5年	10月	8
	5月	12		11月	11
	6月	17		12月	13
	7月	6	令和6年	1月	12
	8月	1		2月	14
	9月	11		3月	32
			合計		147

この他に随時対応、予約外対応あり

(7) 薬学教育推進センター運営委員会

委員会の開催

令和5年6月2日（金）

1. 幹事の選出
2. 4年次 CBT 対策について
3. LSS の活動について
4. 令和5年度留年生の学習支援について
5. 6年次生の学習支援について
6. 教育支援システム（ESS）の運営について
7. 教育カリキュラム策定のための活動について

令和5年7月13日（木）（メール会議）

1. 4年次 CBT 対策案について

令和5年9月22日（金）

1. 4年次 CBT 対策演習会について
2. 4年次総合確認試験について

令和5年12月14日（木）

1. 新入生対象の学修支援について
2. 令和5年度4年次 CBT 対策について
3. 令和6年度4年生学習支援関連日程について
4. 4年生対象 PROG テストについて
5. 令和5年度薬学教育推進センター FD 研修会について

令和6年3月28日（木）

1. 4年次 CBT 対策について
2. CBT 不合格者への対応について
3. 学習支援について（主に低学年次学生に対して）
4. 学修ガイダンス、新入生オリエンテーションについて
5. プレイメントテストについて
6. LSS について
7. 令和6年度留年者、単位未修得者に対する対応
8. 教育支援システム（ESS）について
9. PROG について
10. 6年次生の学習支援等について
11. 教員の教育活動への支援について
12. 教学マネジメント、教育カリキュラム策定等のための活動

活動概要・現状

今年度は特に4年次共用試験 CBT 対策の強化を図った。年度初めの4年次生対象のガイダンスにおいて4年次までの学習内容を整理し知識として定着させることの重要性を説明すると共に学習支援の年間スケジュールを提示した。知識の定着度を確認する機会として、前期には CBT 対策確認試験、後期には総合確認試験を実施し、更に9～10月には「CBT 対策演習会」を実施して薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿った学習内容全てを振り返る機会を提供した。更に、CBT 再試験対象者に向けた演習会を実施し、アドバイザー教員と協働した個別の対策も行なった。

留年生の他の学生や教員との交流及び学内での主体的な学習を促進するため、今年度も1～4年次留年生を対象とした「午後演習プログラム」及び「ステップアップ・ワークショップ」を実施した。今年度は授業実施形式が年度初めから全面対面となり、これらの対策への留年生の参加状況が改善した。

ラーニング・サポート・ステーションの運営、6年次生や6年次留年生に対する個別学習支援や国家試験対策に関する分析等をはじめ、従来より実施している学習支援活動も継続して行なった。

前年度に導入した教育支援システム（ESS）の活用として、6年次薬学演習試験の問題作成依頼～編集へ

適用し、これらの運用に携わった。

事業計画「教学マネジメントシステムの充実」2年目の担当として、薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に沿った学部のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）及びDPルーブリックの見直し並びに新しいカリキュラムの構築に関わり、年度内の策定に至った。また、学生によるDPルーブリックの自己評価を実施すると共に、新しい学務システムと連動する学修成果の可視化システムの構築を進めた。

自己点検・評価

今年度は4年次生の学習支援に力を入れたものの、CBT不合格者の明らかな減少には繋がらなかったことは反省すべきところである。一方で、留年生に対する学習支援への参加者が増加し、大学で自主的に学習に取り組む学生も増えつつあることは評価できる。また、事業計画のプラットフォームとして教務委員会や学務システム運営委員会などの関連委員会と協働して、DP、CP及びDPルーブリックの見直しとカリキュラム改定を行うと共に、学修成果の可視化・評価の間接評価であるDPルーブリックの自己評価を実施し、学修成果の可視化システムの構築といった直接評価への道筋が建てられたことは評価できる。

今後に向けて

4年次生の学習支援については、アンケートなどで学生からの意見を聴取・分析した上で改善を図ってきたい。また、学修成果の可視化・評価については、直接評価のシステムを完成させ、間接評価と合わせて分析できるようにしたい。更に、今年度は継続的な活動のみとなってしまった低学年や高学年に対する学習支援についても、学生アンケートの分析を行うなどして、より改善できる点を見いだして実践していきたい。

(8) IR 運営委員会

委員会の開催

第1回 IR 運営委員会

【開催日時】 2023年6月27日（火） 15時00分～16時30分

- 【議 題】 1. データ解析ソフト「Spotfire」デモンストレーション
2. 幹事の選出

第2回 IR 運営委員会（メール審議）

【開催日時】 2023年8月21日（月）

- 【議 題】 1. 令和6年度予算について

データ解析ソフト「Spotfire」操作説明会

【開催日時】 2023年10月3日（火） 15時30分～17時00分 本館3F IR室

【内 容】 Excelデータの取り込み、新しい分析の実行 等

活動概要・現状

2023年度は、上記の内容で2回の委員会（内1回はメール審議）を開催し、討議を行った。

IR解析ソフト「Spotfire」のデモンストレーションを実施し、次年度予算での導入を決定し、スポットで作業も依頼することとした。

代理店データによる解析ソフト「Spotfire」操作説明会を開催した。

自己点検・評価

「Spotfire」ソフトを用いて、過去の学生のデータを利用し、検証結果を教授総会においてプレゼンテーションしたところ反響が大きく、手ごたえを感じることができた。今後、本ソフトを利用することで教育の場に活かせると思われる。

今後に向けて

今後、当委員会ではデータを入れるところまでを担当し、分析については他部署の要請に応じ実施することになる。「国家試験合格率を上げる」、「留年生を出さない」等の目的のための分析が考えられるが、どの部署がそれを求めるのかということまで進んでいない状況である。当委員会としてはデータを準備しておく必要があると考えられる。

(9) 地域連携センター運営委員会

委員会の開催

第1回：令和5年5月23日（火）

1. 教授総会報告
2. 役割分担
3. 地域活動説明会詳細
4. 町田市展示会
5. その他

第2回：令和5年7月7日（金）

1. 相模原・町田地域教育連携プラットフォーム（さがまち PF）関連報告と検討
2. ユニコムプラザさがみはら
3. 町田市薬剤師会報告
4. 地域活動説明会報告
5. その他

第3回：令和5年9月5日（火）メール委員会

1. 令和6年度予算について

第4回：令和5年10月6日

1. さがまち PF 進捗
2. 町田市薬剤師会との共催による生涯学習講座について
3. 8月のさがまちカレッジ講座の報告
4. 地域活動マッチング会の報告
5. 神奈川県薬剤師会の研修について
6. 教授総会報告
7. その他

第5回：令和5年12月4日

1. さがまち PF 進捗と担当決め
2. 生涯学習講座の1月と3月開催回の内容について
3. 学生の地域活動の報告会
4. 科学技術週間について
5. その他

第6回：令和6年2月7日（水）メール委員会

1. さがまち PF 教授総会報告について

第7回：令和6年3月4日（月）

1. さがまち PF 進捗
2. 生涯学習講座について
3. ユニコムプラザさがみはら 大学情報コーナーのための「かわら版」について
4. 科学技術週間について
5. その他

活動概要・現状

1. ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナーに出展（2023年4月～2024年3月）
2. 相模原・町田地域教育連携プラットフォームに参加（2023年10月～）
3. 科学技術週間イベントに参加（4月17日～4月23日）
電子顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう（4月20日）
4. 第1回町田市薬剤師会協議会（6月1日）
5. さがまちコンソーシアム定時社員総会に参加（6月）
6. 学生向け地域活動説明会（6月10日）11名参加
7. 参加団体向け地域活動説明会（6月19日）10団体参加
8. 地域活動マッチング会（7月1日）17名が活動
9. おくすり・子育ておしゃべり会（7月21日）
10. さがまちカレッジ中学生高校生対象講座（実験：梶川瑞穂）（8月21日）8組参加
11. さがまちカレッジ中学生高校生対象講座（実験：石田寛明）（8月22日）16組参加
12. ユニコムプラザさがみはら まちづくりフェスタにダンス部が参加（10月16日）
13. 2023年度第1回生涯学習講座（10月28日）23名参加
14. さがまちカレッジ講演（講師：唐澤悟）（11月24日）13名参加
15. 神奈川県薬剤師会との共催オンライン研修会（11月26日）教職員1名・学部学生7名参加
16. おくすり・子育て相談カフェ実施（12月1日）
17. 神奈川県薬剤師会との共催オンライン研修会（12月10日）教職員1名・学部学生2名参加
18. 2023年度第2回生涯学習講座（1月27日）ハイブリッド開催 25名参加
19. 地域活動報告会（1月30日）
20. 2023年度第3回生涯学習講座（3月16日）ハイブリッド開催 26名参加

自己点検・評価

- ・継続してきた町田市薬剤師会との連携による活動を今年度も充実した内容で実施できた。特に生涯学習講座では「薬剤師のキャリア形成・地域での活動」をテーマとして、さまざまな活躍の様子を発信し、好評を得た。
- ・ユニコムプラザさがみはらにおける大学情報コーナーで活用するための「かわら版」発行を決定し、学生主体での情報発信の提案を行い、実践を開始した。
- ・さがまちカレッジ講座では、実験も座学も本学の特色ある研究をアピールする機会として活用できた。実験講座では多くの中高生が参加し、薬学の面白さに触れた。座学では高齢者の方をはじめ市民の健康意識の向上に貢献できた。
- ・地域活動を望む大学生と協働を望む地域団体のマッチングを行い、中間支援団体の町田市地域活動サポートオフィスの支援を受けて、充実した地域活動を学生が体験することができた。報告会では共に活動すること、地域課題への気づき、貢献できた実感等を発表し、学長からの賞状を受け取った。感謝状を受け取った地域団体にも学生の体験の感想を聞いたことや相互交流ができたという点で好評であった。
- ・さがまちPFの活動が本格化し、役割分担しながら、また学内の合意や協力を得ながらスタート体制を整えた。
- ・町田市と協力してお薬おしゃべり会、お薬子育て相談カフェの活動を行なった。
- ・JKK本町田住宅に居住する学生の地域活性化のために活動の支援を行なった。

今後に向けて

- ・町田市薬剤師会と連携して、学生の学びにつながる活動や、薬剤師の生涯学習への貢献が可能なプログラムを継続していきたい。
- ・地域活動に学生が参加する仕組みがスタートして、学生にも地域にも好評なので、今後も中間支援を受けながら充実させたい。
- ・さがまちPFにこれまでのさがまちカレッジ等の活動を通して蓄積してきたノウハウを活かしていきたい。単科大学の限界を広げるような大学間連携に期待したい。一方で、学内の体制と協力しながら無理のない進行を心がけたい。
- ・町田市との連携をさらに進めたい。また、相模原市、川崎市、多摩市など、近隣の自治体との連携の方向性を模索したい。

6. 大学院

(1) 大学院入試管理委員会

委員会の開催

令和5年4月18日(火)(メール会議)

1. 令和6年度入学試験「臨床心理学」出題者について

令和5年7月18日(火)

1. 令和6年度入学試験結果(7/18(火)学内推薦)に関する件
2. 入学資格審査に関する件

令和5年10月17日(火)

1. 令和6年度入学試験結果(10/17(火)一般1期)に関する件
2. 令和6年度入学試験合格発表について

令和6年3月5日(火)

1. 令和6年度入学試験結果(3/5(火)修士1名:一般2期、博士1名:社会人推薦2期)に関する件
2. 令和7年度入学試験(日程・科目)に関する件【継続審議】

活動概要・現状

令和6年度入学試験実施結果

課程	入試実施日	入試種別	志願者	受験者	合格者
修士課程	10月17日(火)	一般1期	2名	1名	1名
	3月5日(火)	一般2期	1名	1名	1名
		社会人推薦	0名	0名	0名
博士課程	7月18日(火)	学内推薦	3名	3名	3名
		社会人推薦1期	0名	0名	0名
	10月17日(火)	一般1期	0名	0名	0名
	3月5日(火)	一般2期	0名	0名	0名
		社会人推薦2期	1名	1名	1名

自己点検・評価

修士課程・博士課程とも定員を満たしている。研究入門などの試みより大学における研究をアピールし、また社会人や留学生が入学しやすい環境を整えてきた成果と思われる。

今後に向けて

本年度受検した大学基準協会による評価では、アドミッションポリシーに合致した大学院入学試験を実施していないと指摘された。現状では、英語試験、専門科目試験及び面接を実施しているが、面接時の質問内容はその時々試験官の任意とするのではなく、アドミッションポリシーの各項目への適否を確認する作業などが必要と思われ、今後面接時のルールを決めていく。

(2) 大学院自己点検・評価委員会

委員会の開催

令和5年5月23日（火）

1. 昭和薬科大学大学院自己点検・評価報告書の作成と昭和薬科大学自己点検・評価委員会への提出

活動概要・現状

大学院薬学研究科から提出された事業報告書を確認の上、昭和薬科大学大学院自己点検・評価報告書として昭和薬科大学自己点検・評価委員会に提出し、令和4年度昭和薬科大学教育・研究年報として公表した。

自己点検・評価

本年度受検した大学基準協会の大学評価（認証評価）では、学部における「大学自己点検・評価委員会」、全学における「学校法人昭和薬科大学自己点検・評価委員会」とともに、大学院における本委員会の活動に対して、改善・向上に結びつく十分な自己点検・評価を行っていないとして厳しいコメントが寄せられた。

今後に向けて

他の自己点検・評価委員会とあわせて、内部質保証のための実効性のある大学院の自己点検・評価のあり方を至急検討する。

(3) ハイテクリサーチセンター運営委員会

委員会の開催

令和5年6月16日（金）（メール会議）

1. 本年度導入 MALDI-TOF-MS の設置場所について

令和5年8月30日（水）（メール会議）

1. 令和6年度予算申請について

活動概要・現状

(1) 第14回ハイテクリサーチセンター成果報告会

令和5年5月19日（金）、ハイテクリサーチセンター成果報告会を開催した。本学記念講堂前で15研究室・部門から計57演題（うち54演題が学生発表）がポスター発表され、計3時間の活発な議論が行われた。教員審査員及び学生による投票により、化学系と生物系の2つの分野においてそれぞれ総得点の1～3位を優秀発表賞とし、報告会終了後に食堂ひまわりで開かれた懇親会・表彰式において学長から賞状と副賞を授与した。

発表場所：記念講堂前広場（講義棟2階）

14:00-15:00 ポスター発表1（奇数演題）

15:00-16:00 ポスター発表2（偶数演題）

16:00-17:00 ポスター発表3（全演題、再度あるいは引き続き発表）

17:00-18:00 食堂ひまわりにおいて懇親会・表彰式

【優秀発表賞：化学系】

化学系1位

N-(1-アズレニル)型芳香族アミドの構造と立体挙動

◎ 柚木雅志、伊藤愛、唐澤寛和、安里まりの、浅見優希、石井亜椰子、天木崇真、山崎龍、岡本巖（薬品化学）

化学系2位

triazolo[c]coumarin 新規合成法の開発と蛍光特性評価

◎ 関根美夢、石田寛明、伊藤俊将（医薬分子化学）

化学系3位

治療と診断を目指したイミダゾナフチリジンの光増感作用

◎松本祥汰、濱田浩一、水谷顕洋、唐澤悟（薬品分析化学）

【優秀発表賞：生物系】

生物系 1 位

IRBIT による脂肪細胞分化制御機構の解析

◎高村浩美、小野竜誠、大橋綾乃、伊藤優里香、濱田浩一、水谷顕洋（薬物治療学）

生物系 2 位

硫黄転移酵素欠損マウスにおける青酸配糖体アミグダリンの急性毒性と慢性毒性

◎渋谷海、神保亮太、清水萌瑞、星井瑛介、篠塚大輝、梶原若、蘭光健人、赤星軌征、石井功（衛生化学）

生物系 3 位

γ -アルキルラクトン：(Z)-7-dodecen-4-olide は、ブドウ球菌属特異的な抗菌効果を発揮する

◎高橋英莉、梶川瑞穂、浅井大輔、金本大成（微生物学）

(2) ハイテクリサーチセンター月例報告会（計 9 回）

令和 5 年 4 月 12 日（水）【担当：薬化学研究室】

演題①：【長期国外出張報告】ベンザインとジエンとの付加環化反応の機構とペリ選択性の起源に関する計算化学研究

令和 5 年 6 月 7 日（水）【担当：薬物治療学研究室】

演題①：免疫と恐怖消去

演題②：生体脳を標的とした実験手法

令和 5 年 7 月 28 日（金）【担当：衛生化学研究室】

演題①：シアン解毒における硫黄転移酵素 2 種の異なる役割

演題②：各種リガンドによる PPAR 活性調節とその分子基盤

演題③：短期発症 NASH 病態マウスモデルの作成

令和 5 年 9 月 8 日（水）【担当：生化学研究室】

演題①：TGF- β による Claudin4 遺伝子発現制御とその生理的機能の解析

演題②：消化器がんに対する新規分子標的医薬品開発を目指した TMEPAI 結合化合物の探索

令和 5 年 10 月 25 日（水）【担当：薬品分析化学研究室】

演題①：NO ラジカルで！MRI 造影剤開発～還元抵抗性ナノ微粒子型 NO ラジカル～

演題②：TEMPO で！脂質ラジカルに見える化～ヘテロスピン MRI 造影剤開発に向けた研究～

演題③：多置換性で！ShoyakuGreen を超えろ

演題④：光増感剤で！治療と診断のデュアル機能を目指す

演題⑤：光で！らせん反転する分子の合成とそのメカニズム解明

令和 5 年 11 月 10 日（金）【担当：生薬・天然物化学研究室】

演題①：Classification, Chemical Profile, Biosynthesis

令和 5 年 12 月 8 日（金）【担当：医薬分子化学研究室】

演題①：パラジウム / タリウム協奏触媒系を用いたピリジン誘導体の C3-H 選択的アルケニル化反応の開発

令和 6 年 1 月 24 日（水）【担当：薬化学研究室】

演題①：価数の異なる金触媒の戦略的な利用：プロパルギルアルコールを合成素子とした環状化合物の合成

令和 6 年 3 月 22 日（金）【担当：社会薬学研究室】

演題①：自治体による薬局を活用した事業

演題②：医薬品とは異なる遺伝子治療の安全性と取り組み

自己点検・評価

コロナ禍をへて各種学会も正常化しつつあるが、若者の科学離れや少子化・コロナ禍の影響などにより、多くの学会で学会員・学会参加者が減っていると聞く。その中で、ハイテクリサーチセンター成果報告会は毎年盛況であり、本学の研究活性化に大きく貢献しているものと思われる。一方で月例報告会は日程により多くの聴衆が集まらない時もあり、対策が今後の検討課題である。

今後に向けて

成果報告会及び月例報告会を継続し、さらに発展させ、本学の研究活動全般の活性化に繋げる。また、理事長の許可を得て、本年度 MALDI-TOF/MS の設置のためハイテクリサーチセンター総合研究室 -2 の利用を開始した。共同機器運営委員会と協力してハイテクリサーチセンターの整備を進め、より積極的に活用していきたい。

7. 施設

(1) 体育施設

活動概要・現状

体育施設を管理運営する体育学研究室の教育職員の採用が延期されたことにより、これまでと同じように大学事務長が暫定的に管理運営を継続している。

基本的には暫定的に運営管理するという趣旨から、これまでと同じように下記にあげる施設を本学行事、体育実技、本学学生の課外活動、本学学生が所属する学生団体の各種大会、職員の福利厚生のもととして利用している。

- 1 体育館
- 2 武道場（空手、柔道、少林寺・剣道）
- 3 卓球場
- 4 テニスコート
- 5 グラウンド
- 6 弓道場

自己点検・評価

体育施設は活動概要に記した内容により、年間計画に沿って適切に管理運用されている。

今後に向けて

各施設、設備の老朽化が進んでいることから大規模な改修工事及び管理運営の検討を行っていく。

(2) RI 研究施設

活動概要・現状

RI 研究施設は、「放射性同位元素等の規制に関する法律」による原子力規制委員会の許可施設である。関連法令、本学放射線障害予防規程に従い、アイソトープの管理、放射線業務従事者の管理、RI 研究施設管理・運営を行なった。以下に具体的な活動内容を示す。

1. 放射線管理状況報告（原子力規制委員会へ提出）
2. 核燃料物質管理報告（原子力規制委員会へ提出）
3. 放射線安全委員会予算管理
4. アイソトープ管理
 - 1) 研究用アイソトープ発注、入庫、使用、保管、廃棄の管理
 - 2) RI 使用カード、廃棄カードの作成と記録の整理
 - 3) RI 保管庫の在庫確認
 - 4) 日本アイソトープ協会への RI 廃棄物の委託廃棄
5. 放射線業務従事者管理
 - 1) 学内教育訓練の実施
 - 2) 管理区域への入退室カード（IC カード）登録
 - 3) 入退室記録管理
 - 4) 個人被ばく線量（ルミネスバッジ装着）管理
6. RI 施設管理
 - 1) 排気排水管理
 - 2) 管理区域エリアモニタ管理
 - 3) 汚染検査
 - 4) 機器管理
 - 5) 設備管理
7. 緊急時の対応に関する教育訓練

なお、本年度は放射線管理システムオペレーションコンソールの更新を行った。

自己点検・評価

令和5年10月に本学「放射線障害予防規程」の改訂が行われた。改訂後も変更点に漏れなく対応し、アイソトープの管理、放射線業務従事者の管理、RI研究施設管理・運営を、関連法令、本学放射線障害予防規程に従い、厳重に適切に行った。

今後に向けて

これまで通り関連法令、本学放射線障害予防規程に基づいた適切な管理を行う。

(3) 機器分析研究施設 (Research Facility for Instrumental Analysis)

研究施設短報

清谷：ミュオン回転緩和法を用いたタンパク質のプロトン・電子移動の実空間・実時間での可視化に関する研究について、茨城県東海村のJ-PARC/MLFのミュオン科学実験施設において、2023B期の実験課題募集で採択された課題の実験を実施し、データ解析および議論を行っている。また、成果の一部について学会等で発表した。

本山：今年度より新規採用。週1回の勤務のため、依頼測定が停滞しがちであることから、依頼測定をより円滑に実施するため、依頼測定の専用サイトを作成、開設した。

学会、研究会報告

○竹下聡史, 友野大, 清谷多美子, 梅垣いづみ, 下村浩一郎, 幸田章宏, 西村昇一郎, 中村惇平, 杉山純, 平石雅俊, 岡部博孝, 門野良典： 高分子における負ミュオンの超微細相互作用の測定
日本物理学会 第78回年次大会(仙台) 令和5年9月

○Tamiko Kiyotani, Masatoshi Hiraishi, Ichiro Tanaka, Nobuo Niimura, Shoichiro Nishimura, Akihiro Koda： μ SR STUDY OF THE INTERNAL MAGNETIC FIELDS OF AMINO ACIDS
HYPERFINE2023(奈良) 令和5年11月

○Soshi Takeshita, Dai Tomono, Tamiko Kiyotani, Izumi Umegaki, Koichiro Shimomura, Akihiro Koda, Shoichiro Nishimura, Jumpei Nakamura, Jun Sugiyama, Masatoshi Hiraishi, Hirotaka Okabe, Ryosuke Kadono： Negative muon spin relaxation measurement in polymer
HYPERFINE2023(奈良) 令和5年11月

○Ichiro Tanaka, Tamiko Kiyotani, Masatoshi Hiraishi, Nobuo Niimura, Shoichiro Nishimura, Akihiro Koda： TRIAL TO OBSERVE ENZYMATIC REACTIONS USING MUONS
HYPERFINE2023(奈良) 令和5年11月

○Soshi Takeshita, Dai Tomono, Tamiko Kiyotani, Izumi Umegaki, Koichiro Shimomura, Akihiro Koda, Shoichiro Nishimura, Jumpei Nakamura, Jun Sugiyama, Masatoshi Hiraishi, Hirotaka Okabe, Ryosuke Kadono： Negative muon spin relaxation measurement in polymer
MRM2023/IUMRS-ICA2023(京都) 令和5年12月

○梅岡夏基, 清谷多美子, 平石雅俊, 新村信雄, 田中伊知朗： ミュオンを利用した酵素反応の観察の試み
量子ビームサイエンスフェスタ2023(水戸) 令和6年3月

教育研究活動支援

核磁気共鳴装置(NMR)：

3機のNMR[ブルカージャパン社製400MHz、およびクライオプローブ(極低温検出器)を装備した600MHz、日本電子社製400MHz]が通年稼働した。全てのNMRはオートサンプルチェンジャーを装備することにより効率的な測定を可能にしており、年間を通して昼夜ともにほぼ利用されている。

2機の400MHzのNMRの利用について、カリキュラムに配慮して、3年生の2月頃から利用可能と

なっており、学生利用登録者数は100名を越え、年間の測定本数も1万本前後の利用が続いている。

600MHzのNMRに関しては、天然物をはじめとする微量しか得られない有機化合物、高分子量のタンパク質の構造解析および同定が行われ、測定本数は800本余りで昨年度より約20%増加した。本装置について、測定本数は400MHzのNMRの約1/10であるが、1試料あたりの測定時間が長いことから、稼働時間はほぼ同じである。利用については教員のみとしているが、利用研究室では、学生が600MHz-NMRの実験に立ち会うことにより、実験方法やデータ処理、構造解析に関する教育を行っている。

3年生の生薬・天然物化学実習(9、10月)では、生薬から抽出された試料を600MHzのNMRで測定を行い、得られたデータを用いて解析演習を行った。

質量分析装置 (MS) :

例年通りMS700、T100LP(日本電子社製)の2台が稼働した。これら2台の質量分析装置は2006年度に導入され、今年度で18年目となることから、故障の発生率が上昇傾向にあるとともに、製造中止となった部品もあり、今後ますます維持が困難になっていくことが懸念される。更新の検討が必要な時期が来ていると思われる。

単結晶 X 線回折装置 :

教員および大学院生の利用が可能である。また、各研究室内で結晶構造解析ソフトを用いての構造解析は学部学生も可能である。測定数については昨年度より約30%減少しているが、コンスタントに利用されている。多くは有機化合物の結晶構造解析であるが、タンパク質結晶の予備実験の利用も増えつつある。

ORD-CD :

教員、研究室配属の4年生以上の学部生および大学院生の利用が可能な解放装置である。利用状況については、タンパク質および有機化合物試料の測定が継続的に実施されている。

FT/IR :

教員、研究室配属の4年生以上の学部生および大学院生の利用が可能な解放装置であり、化学系研究室を中心にコンスタントに利用されている。

元素分析装置 (薬品化学研究室管理) :

利用状況は年度および時期により変動はあるものの一定量の利用が続いている。

自己点検・評価

日頃より利用者とのコミュニケーションを心掛けており、研究室の事情により装置の利用方法および規則に関して不都合が生じた際は、早急に改善策を検討・提案するとともに、利用しやすい利用規則に変更するなどの対応を行っている。

施設利用に関しては、セキュリティーの面から出入口に電子錠を設置しており、利用登録者は24時間、各自のIDカードで入退室可能である。昨年来のコロナ禍で、夜間および週末・休日施錠から終日施錠に切り替え、万が一の事態に備えて各利用登録者の入退室時間の管理を行っている。

施設利用について、定期点検や故障発生時以外は、年間を通して24時間利用可能な体制をとっている。施設利用については、原則的に利用研究室より申請を受け、装置講習および施設利用の説明を受講した者に入退室許可を与えており、利用者が安心して利用できるよう配慮している。

全装置は、年間を通して24時間稼働しており、また、装置数も決して多くないことから故障は避けられないが、メーカーと保守契約を結ぶことにより、故障時の迅速な対応、さらには一刻も早い原状回復を期すべく万全の態勢を調えている。さらに毎年装置の定期点検を実施し、年間を通して高性能な状態を維持している。

当施設は、利用者が安全で安心して利用できるよう、更によりよい成果を挙げられるよう施設の体制作りについて、機器分析研究施設運営委員会が中心となって、利用研究室および施設スタッフの協力により、さらに利用者の協力を得て円滑に管理・運営・運用されているものと評価する。

今後に向けて

今後も利用者および利用研究室と密に連携し、より一層の効果的、効率的な装置の運用を図りたい。

< 2023 年度 研究室別利用状況 > (測定本数)

1. 核磁気共鳴装置 (NMR) : ユーザー測定

AV400NEO (ブルカー・ジャパン)

研究室名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
天然物化学	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	5	12	25
薬化学	0	33	322	242	15	10	14	13	8	9	19	35	720
医薬分子化学	129	128	132	95	114	146	193	108	90	169	197	172	1,673
薬品化学	43	49	145	77	1	23	21	82	41	113	148	144	887
薬品物理化学	0	6	21	9	6	3	6	2	0	12	0	0	65
薬品分析化学	106	146	181	83	56	71	78	113	79	90	92	90	1,185
機器分析研究施設	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	8
合計	281	362	804	513	193	253	312	318	218	393	462	454	4,563

ECZ400S (日本電子)

研究室名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬化学	330	287	179	117	29	61	55	98	27	108	85	88	1,464
医薬分子化学	144	83	115	103	113	128	141	151	354	328	256	231	2,147
薬品化学	301	261	318	133	61	30	18	3	22	91	113	24	1,375
薬品分析化学	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5
機器分析研究施設	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	5
合計	775	634	614	353	204	221	214	252	403	527	455	344	4,996

AV600 (ブルカー・ジャパン)

研究室名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
天然物化学	27	12	151	59	20	113	6	0	24	0	12	11	435
医薬分子化学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
薬品化学	14	4	27	41	0	0	4	0	0	9	10	0	109
薬品分析化学	5	0	11	18	0	0	0	0	0	0	6	0	40
機器分析研究施設	0	0	0	0	0	8	22	0	0	0	12	0	42
合計	46	16	189	118	20	121	32	0	24	9	44	11	630

2. 質量分析装置 (MS)

T100 (日本電子) : ユーザー測定

研究室名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医薬分子化学	122	56	40	81	24	43	87	110	60	19	49	119	810
薬品物理化学	367	60	125	11	8	0	38	37	38	44	38	12	778
薬品化学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
薬品分析化学	37	41	39	57	39	22	21	23	21	36	11	12	359
合計	526	158	204	149	71	65	146	170	119	99	98	143	1,948

MS700、T100 (日本電子) : 依頼測定

研究室名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
天然物化学	2	1	5	2	0	0	3	0	0	0	0	0	13
薬化学	19	10	21	13	0	2	1	1	0	1	5	0	73
医薬分子化学	0	0	0	26	4	14	11	16	7	26	14	20	138
薬品化学	17	12	12	10	0	0	3	1	0	8	19	14	96
薬理学	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
機器分析研究施設	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
合計	38	23	38	51	4	27	18	18	7	35	38	34	331

3. 単結晶 X 線回折装置 XtaLAB Synergy Custom (リガク) : ユーザー測定

※ 8、9 月は故障のため利用なし

研究室名 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	*8 月	*9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
薬化学	0	2	28	0	0	0	0	1	0	0	0	1	32
医薬分子化学	0	0	0	4	0	0	0	0	2	1	10	0	17
薬品化学	4	6	19	5	0	0	3	1	0	7	10	2	57
薬品分析化学	15	10	10	7	0	0	7	0	6	6	4	2	67
合 計	19	18	57	16	0	0	10	2	8	14	24	5	173

4. 円二色分散計 (ORD-CD) J-1500 (日本分光) : ユーザー測定

研究室名 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医薬分子化学	27	7	4	0	1	0	0	0	3	0	0	0	42
薬品化学	0	2	28	14	0	0	0	0	0	0	8	0	52
衛生化学	0	16	33	16	5	15	12	30	3	9	5	0	144
薬品分析化学	18	4	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
合 計	45	29	85	30	6	15	12	30	6	9	13	0	280

5. 赤外分光光度計 FT/IR-420 (日本分光) : ユーザー測定

研究室名 \ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医薬分子化学	0	0	13	19	0	0	4	0	0	0	0	2	38
薬品分析化学	15	8	16	16	16	10	5	6	15	7	0	0	114
合 計	15	8	29	35	16	10	9	6	15	7	0	2	152

※研究室管理

1. 元素分析装置 FLASH EA1112 (Thermo Finnigan) (管理 : 薬品化学研究室)
利用実績なし

8. その他

(1) 2023 (令和 5) 年度外部資金取得状況

項 目	件数	合計金額 (千円)	備 考
科学研究費助成事業 (文部科学省・日本学術振興会)	41	40,075	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)	2	3,800	
厚生労働科学研究費補助金	1	1,000	
奨励研究助成金	4	3,270	
東京都道路整備保全公社	1	4,396	

(2) 輸出管理委員会

活動概要・現状

- 新規着任者の研修について、5月31日にメールで対象者に依頼し、例年通り実施した。
- 経済産業省「安全保障貿易に係る機微技術管理ガイダンス (改正第4版)」に沿った管理に努めた。

自己点検・評価

本年度もコロナ禍による各種混乱があったが感染防止に配慮しながら、規程施行4年目を終えた。輸出可否の審議案件は無かった。

令和3(2021)年11月18日で公布された「役務通達」(「外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び外国為替令第17条第2項の規定に基づき許可を要する技術を提供する取引又は行為について」(平成4年12月21日付け4貿局第492号)等の一部を改正する通達)の改正が令和4(2022)年5月1日から施行されたことに伴い、新たな体制整備に務め、今後実態に沿った体制整備を進めて行く。

今後に向けて

経済産業省「安全保障貿易に係る機微技術管理ガイダンス (改正第4版)」に沿った管理を今後も行う。

Ⅱ. 研究室年間業績と研究室活動短報

医療薬学系 (Devision of Pharmacy and Health Sciences)

医療薬剤学分野

(1) 薬剤学研究室 (Laboratory of Pharmaceutics and Biopharmaceutics)

教授 宇都口直樹
准教授 小泉 直也
講師 野村 鉄也
特任助教 萩原美美子

学会報告

○岸本 ひかり、仁井田 怜子、宮崎 賢太郎、酒井 慶伍、野村 鉄也、萩原 美美子、小泉 直也、宇都口 直樹：がん擬似血管標的治療法の開発を目指した管腔形成モデルの開発と EphA2 シグナルの関与

日本薬剤学会第 38 年会 (名古屋) 2023 年 5 月
[岸本 ひかり (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、仁井田 怜子 (令和元年度卒業生)、
宮崎 賢太郎 (令和 2 年度卒業生)、酒井 慶伍 (令和 3 年度卒業生)]

○今井 那穂、八木下 智帆、日暮 美咲、小泉 直也、萩原 美美子、野村 鉄也、宇都口 直樹：ウイルスタンパク質を用いた高分子物質の細胞内導入に関する検討

第 39 回日本 DDS 学会 (千葉) 2023 年 7 月
[今井 那穂 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、八木下 智帆 (令和 4 年度卒業生)、
日暮 美咲 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

○小西 あかり、小金澤 亮太、高野 涼、野村 鉄也、萩原 美美子、小泉 直也、宇都口 直樹：がん擬似血管を標的とした免疫療法の開発に向けた基礎的検討

第 39 回日本 DDS 学会 (千葉) 2023 年 7 月
[小西 あかり (令和 5 年度卒業研究 6 年生)
小金澤 亮太 (令和 4 年度卒業生)、高野 涼 (令和 3 年度卒業生)]

○土屋 ももえ、川島 優花、野村 鉄也、清水 温都、萩原 美美子、小泉 直也、宇都口 直樹：腫瘍組織血管内皮細胞に対する scFv-Fc 融合タンパク質の創製と結合特性解析

第 39 回日本 DDS 学会 (千葉) 2023 年 7 月
[土屋 ももえ (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、川島 優花 (令和 4 年度卒業生)]

○小泉 直也、多門 大輔、福安 亜美、大瀬 海羽、山形 菜奈子、萩原 美美子、野村 鉄也、宇都口 直樹：粘膜上皮バリアー透過機能を持つタンパク質キャリアの開発

第 39 回日本 DDS 学会 (千葉) 2023 年 7 月
[多門 大輔 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、福安 亜美 (令和 4 年度卒業生)、
大瀬 海羽、山形 菜奈子 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

研究室活動短報

令和 5 年 (2023 年) 度、研究室には、大学院生 (修士) 1 名、6 ~ 4 年次学生 39 名が所属し、研究活動が行なわれた。研究テーマとして、従来から行っているアデノウイルスタンパク質を利用した DDS、新生血管を標的とした DDS に関する研究である。

教育においては、学部生は月に 1 回の全体でのデータ発表会を行い、科学的論理思考、問題解決能力、プレゼン能力の醸成に努めた。

自己点検・評価

令和 5 年度は、学会発表 5 件の発表がなされたが、原著論文を発表できなかった。研究データとしては得られていることから、論文化して、発表していきたい。

今後に向けて

原著論文の発表はもちろん、インパクトの高い雑誌への投稿を目指す。国際学会への参加も行っていききたい。データ発表会は数多く行ったが、研究の基礎力の醸成のための文献紹介の機会が少なかった。今後は、文献紹介を増やしていきたい。

(2) 薬物動態学研究室 (Drug Metabolism and Pharmacokinetics)

教授 山崎 浩史
准教授 清水万紀子
講師 村山 典恵
特任助教 安達昂一郎

学会報告

○上原 正太郎、樋口 裕一郎、米田 直央、山崎 浩史、末水 洋志：ヒト化肝臓 TK-NOG マウス由来肝細胞 (Hu-liver cells) による薬物誘発性肝毒性の検出

第 30 回 HAB 研究機構学術年会 (東京) 2023 年 5 月

○宇野 泰広、山崎 浩史：イヌ、ブタ、カニクイザルにおけるチトクロム P450 の同定・解析

第 50 回日本毒性学会学術年会 (横浜) 2023 年 6 月

○上原 正太郎、保田 昌彦、樋口 裕一郎、米田 直央、川井 健司、山崎 浩史、末水 洋志：SGX523 はヒト肝キメラマウスにおいてアルデヒド酸化酵素を介した難溶性代謝物形成を介して腎毒性を引き起こす

第 50 回日本毒性学会学術年会 (横浜) 2023 年 6 月

○長谷川 拓郎、白方 渉太、高島 宏昌、山崎 浩史、栗形 麻樹子、北嶋 聡：LC-MS/MS を用いたウサギ血漿、精液および子宮内容物中のサリドマイドとその代謝物の同時測定法のバリデーション

第 50 回日本毒性学会学術年会 (横浜) 2023 年 6 月

○安達 昂一郎、別府 賢、山崎 浩史：生理学的薬物動態モデルを用いた薬物過量服用患者の体内動態解析

第 45 回日本中毒学会総会・学術集会 (さいたま) 2023 年 7 月

○後迫 玄城、村山 典恵、小原 恭子、山崎 浩史、宇野 泰広：ツパイ CYP2E1 の同定と解析

第 166 回日本獣医学会学術集会 (東京 (ハイブリッド)) 2023 年 9 月

○Makiko Kuwagata, Hiromasa Takashima, Ryo Haneda, Kanako Tanaka, Takuro Hasegawa, Hiroshi Yamazaki, Satoshi Kitajima: Possible teratogenic effects mediated by seminal plasma exposed to thalidomide in rabbits

Eurotox Congress 2023 (Ljubjana, Slovenia) 2023 年 9 月

○Hiroshi Yamazaki, Shotaro Uehara, Makiko Shimizu, Hiroshi Suemizu: Roles of Human Cytochrome P450 1A2 2C9, and 3A4/5 enzymes in drug oxidations mediated by metabolically inactivated human hepatocytes in previously transplanted chimeric mice

25th North American ISSX Meeting (Boston, USA) 2023 年 9 月

○Shotaro Uehara, Masahiko Yasuda, Yuichiro Higuchi, Nao Yoneda, Kenji Kawai, Hiroshi Yamazaki, Hiroshi Suemizu: Metabolism and renal toxicity of SGX523 in chimeric mice with humanized liver

2023 international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (Shizuoka, Japan) 2023 年 9 月

○Yasuhiro Uno, Yuhki Minami, Genki Ushirozako, Kyoko Kohara, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: Identification and characterization of tree shrew CYP2Cs

2023 international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th

Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (Shizuoka, Japan) 2023 年 9 月

○Genki Ushirozako, Norie Murayama, Kyoko Kohara, Hiroshi Yamazaki, Yasuhiro Uno: Identification and characterization of tree shrew CYP2Ds

2023 international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (Shizuoka, Japan) 2023 年 9 月

○Norie Murayama, Saho Morikuni, Yasuhiro Uno, Hiroshi Yamazaki: Cytochrome P450 2C21 and 2C41 Functionally Metabolize Warfarin and Omeprazole in Dogs

2023 international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (Shizuoka, Japan) 2023 年 9 月
[森國 紗帆 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

○Makiko Shimizu, Miaki Makiguchi, Mizuki Harano, Hiroshi Yamazaki: Evaluation and confirmation for rare but impaired variants of human flavin-containing monooxygenase 3 found in an updated database of a Japanese cohort

2023 international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (Shizuoka, Japan) 2023 年 9 月
[原野 美月 (2023 年度卒業研究 5 年生)、巻口 美晶 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

○小川 碧、山本 茜、濱畑 啓悟、山崎 浩史: 鱈摂取後の特有の体臭からトリメチルアミン尿症と診断し、家族解析から *FMO3* 遺伝子の新規変異が確定された 1 例

第 290 回日本小児科学会兵庫県地方会 (兵庫 (ハイブリッド)) 2023 年 9 月

○清水 万紀子、上原 正太郎、大山 勝宏、田中 庸一、齋藤 嘉朗、末水 洋志、吉田 さやか、山崎 浩史: シトクロム *P450 2D6* 遺伝子多型を考慮したアトモキセチンおよびその 4-水酸化体と脱メチル体代謝物のヒト体内動態予測

第 44 回日本臨床薬理学会学術総会 (神戸) 2023 年 12 月

○山崎 浩史、大山 勝宏、上原 正太郎、田中 庸一、齋藤 嘉朗、末水 洋志、清水 万紀子: 自発有害事象報告事例に散見される単独処方患者での責任酵素遺伝子多型に伴う仮想薬物血中および肝中濃度上昇

第 44 回日本臨床薬理学会学術総会 (神戸) 2023 年 12 月

○田中 庸一、濱野 彩香、福永 航也、平塚 真弘、山崎 浩史、齋藤 嘉朗、花尻 (木倉) 瑠理: CYP2C9 基質薬物の代謝における *CYP2C9*3* の影響の比較

第 44 回日本臨床薬理学会学術総会 (神戸) 2023 年 12 月

○Gilberto Padilla Mercado, Christopher Cook, Lucas Albrecht, Grace Cary, Brenda Edwards, Derik Haggard, Nancy Hanley, Michael F. Hughes, Anna Jarnagin, Tirumala D. Kodavanti, Evgenia Koral-Bexell, Anna Kreutz, Mayla Ngo, Caitlyn Patullo, Risa Sayre, Bhaskar Sharma, Jonathan Wall, Hiroshi Yamazaki, John Wambaugh, Caroline Ring: An informatics framework for toxicokinetics using the *CvT database* and *invivoPKfit*

63rd SOT annual meeting (Salt Lake City, Utah) 2024 年 3 月

○宇仁田 亮、安達 昂一郎、別府 賢、山崎 浩史: 9-carboxymethoxymethylguanine (CMMG) 血中濃度測定は帯状疱疹治療中の意識障害の原因推定に有用である

第 51 回日本集中治療医学会学術集会 (札幌) 2024 年 3 月

○清水 万紀子、菱沼 英史、巻口 美晶、齋藤 さかえ、平塚 真弘、山崎 浩史: 更新された日本人遺伝子メタデータバンクに掲載された新規フラビン含有モノオキシゲナーゼ 3 遺伝子変異酵素の機能解析

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 2024 年 3 月
[巻口 美晶 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

○安達 昂一郎、清水 万紀子、庄野 文章、船津 公人、山崎 浩史：一般化学物質の薬物動態パラメータ決定因子であるオクタノール／水分配係数の逆相液体クロマトグラフィー保持時間を利用した実験的検証

日本薬学会第 144 年会（横浜）2024 年 3 月

○村山 典恵、上原 正太郎、大山 勝宏、安達 昂一郎、田中 庸一、清水 万紀子、斎藤 嘉朗、末水 洋志、山崎 浩史：オメプラゾール単独処方患者での有害事象自発報告事例と責任酵素チトクロム P450 2C19 自己誘導を含む効果修飾による仮想肝中濃度上昇

日本薬学会第 144 年会（横浜）2024 年 3 月

安達 昂一郎、大山 勝宏、田中 庸一、村山 典恵、清水 万紀子、斎藤 嘉朗、○山崎 浩史：フルバスタチン単独処方患者での有害事象自発報告事例と責任酵素チトクロム P450 2C9 遺伝子多型に伴う仮想血中および肝中濃度上昇

日本薬学会第 144 年会（横浜）2024 年 3 月

原著論文

Yasuhiro Uno, Shiori Jikuya, Yutaro Noda, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: A Comprehensive Investigation of Dog Cytochromes P450 3A (CYP3A) Reveals A Functional Role of Newly Identified CYP3A98 in Small Intestine.

Drug Metab Dispos, **51**, 38-45 (2023)

[野田 優太郎（2023 年度卒業研究 6 年生）]

Koichiro Adachi, Katsuhiko Ohya, Yoichi Tanaka, Tasuku Sato, Norie Murayama, Makiko Shimizu, Yoshiro Saito, Hiroshi Yamazaki: High hepatic and plasma exposures of atorvastatin in subjects harboring impaired cytochrome P450 3A4*16 modeled after virtual administrations and possibly associated with statin intolerance found in the Japanese adverse drug event report database.

Drug Metab Pharmacokinet, **49**, 100486 (2023)

[佐藤 翼（2023 年度卒業研究 6 年生）]

Yasuhiro Uno, Yutaro Noda, Norie Murayama, Kyoko Tsukiyama-Kohara, Hiroshi Yamazaki: Novel cytochrome P450 1 (CYP1) genes in tree shrews are expressed and encode functional drug-metabolizing enzymes.

Comp Biochem Physiol C, **265**, 109534 (2023)

[野田 優太郎（2023 年度卒業研究 6 年生）]

Makiko Shimizu, Akane Yamamoto, Miaki Makiguchi, Erika Shimamura, Yuka Yokota, Mizuki Harano, Hiroshi Yamazaki: A family study of compound variants of flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) in Japanese subjects found by urinary phenotyping for trimethylaminuria.

Drug Metab Pharmacokinet, **48**, 100490 (2023)

[嶋村 衣里加、横田 侑香、原野 美月（2023 年度卒業研究 5 年生）、巻口 美晶（2023 年度卒業研究 6 年生）]

Yasuhiro Uno, Shiori Jikuya, Yutaro Noda, Asuka Oguchi, Norie Murayama, Hiroaki Kawaguchi, Kyoko Tsukiyama-Kohara, Hiroshi Yamazaki: Newly identified cytochrome P450 3A genes of tree shrews and pigs are expressed and encode functional enzymes.

Comp Biochem Physiol C Toxicol Pharmacol, **267**, 109579 (2023)

[大口 明日香（2023 年度卒業研究 5 年生）、野田 優太郎（2023 年度卒業研究 6 年生）]

Shotaro Uehara, Makiko Shimizu, Hiroshi Suemizu, Hiroshi Yamazaki: Roles of human cytochrome P450 3A4/5 in dexamethasone 6 β -hydroxylation mediated by liver microsomes and humanized liver in chimeric mice metabolically suppressed with azamulin.

Drug Metab Pharmacokinet, **49**, 100504 (2023)

Shotaro Uehara, Yuichiro Higuchi, Nao Yoneda, Hiroaki Kato, Hiroshi Yamazaki, Hiroshi Suemizu: Unique Human N10-Glucuronidated Metabolite Formation from Olanzapine in Chimeric NOG-TKm30 Mice with

Humanized Livers.

Drug Metab Dispos, **51**, 480-491 (2023)

Genki Ushirozako, Yutaro Noda, Norie Murayama, Hiroaki Kawaguchi, Kyoko Tsukiyama-Kohara, Hiroshi Yamazaki, Yasuhiro Uno: Newly Identified Tree Shrew Cytochrome P450 2A13 (CYP2A13) is Expressed in Liver and Lung and Encodes a Functional Drug-Metabolizing Enzyme Similar to Dog CYP2A13 and Pig CYP2A19.

Drug Metab Dispos, **51**, 610-617 (2023)

[野田 優太郎 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Yasuhiro Uno, Saho Morikuni, Mitsuya Shiraishi, Atsushi Asano, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: Novel cytochrome P450 2C94 functionally metabolizes diclofenac and omeprazole in dogs.

Drug Metab Dispos, **51**, 637-644 (2023)

[森國 紗帆 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Yasuhiro Uno, Saho Morikuni, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: 2-Oxidation, 3-methyl hydroxylation, and 6-hydroxylation of skatole, a contributor to the odour of boar-tainted pork meat, mediated by porcine liver microsomal cytochromes P450 1A2, 2A19, 2E1, and 3A22.

Xenobiotica, **53**, 60-65 (2023)

[森國 紗帆 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Miaki Makiguchi, Makiko Shimizu, Yuka Yokota, Erika Shimamura, Eiji Hishinuma, Sakae Saito, Masahiro Hiratsuka, Hiroshi Yamazaki: Variants of Flavin-containing Monooxygenase 3 Found in Subjects in an Updated Database of Genome Resources.

Drug Metab Dispos, **51**, 884-891 (2023)

[横田 侑香、嶋村 衣里加 (2023 年度卒業研究 5 年生)、巻口 美晶 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Koichiro Adachi, Katsuhiko Ohyama, Yoichi Tanaka, Hina Nakano, Tasuku Sato, Norie Murayama, Makiko Shimizu, Yoshiro Saito, Hiroshi Yamazaki: Plasma and hepatic exposures of celecoxib and diclofenac prescribed alone in patients with cytochrome *P450 2C9*3* modeled after virtual oral administrations and likely associated with adverse drug events reported in a Japanese database.

Bio Pharm Bull, **46**, 856-863 (2023)

[中野 陽奈 (2023 年度卒業研究 5 年生)、佐藤 翼 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Shotaro Uehara, Yuichiro Higuchi, Nao Yoneda, Ryoji Ito, Takeshi Takahashi, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki, Kazuhiro Murai, Hayato Hikita, Tetsuo Takehara, Hiroshi Suemizu: HepaSH cells: Experimental human hepatocytes with lesser inter-individual variation and more sustainable availability than primary human hepatocytes.

Biochem Biophys Res Commun, **663**, 132-141 (2023)

Yasuhiro Uno, Yutaro Noda, Saho Morikuni, Norie Murayama, Hiroshi Yamazaki: Liver microsomal cytochrome P450 3A-dependent drug oxidation activities in individual dogs.

Xenobiotica, **53**, 140-148 (2023)

[野田 優太郎、森國 紗帆 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Koichiro Adachi, Hina Nakano, Tasuku Sato, Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki: Liver and plasma concentrations of food chemicals after virtual oral doses extrapolated using in silico estimated input pharmacokinetic parameters to confirm reported liver toxicity in rats.

Bio Pharm Bull, **46**, 1133-1140 (2023)

[中野 陽奈 (2023 年度卒業研究 5 年生)、佐藤 翼 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Koichiro Adachi, Masayoshi Utsumi, Tasuku Sato, Hina Nakano, Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki: Modeled Rat Hepatic and Plasma Concentrations of Chemicals after Virtual Administrations Using Two

Sets of in silico Liver-to-Plasma Partition Coefficients.

Bio Pharm Bull, **46**, 1316-1323 (2023)

[中野 陽奈 (2023 年度卒業研究 5 年生)、内海 正義、佐藤 翼 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Ryo Unita, Koichiro Adachi, Akiyoshi Inada, Makiko Shimizu, Satoru Beppu, Hiroshi Yamazaki: A decreasing plasma concentration of a toxicologically active metabolite 9-carboxymethoxymethylguanine after dialysis – a potential new clinical biomarker for improving encephalopathy in patients treated with acyclovir.

J Infect Chemother, **29**, 1068-1070 (2023)

Michiaki Kojima, Kanami Machida, Sumie Cho, Daichi Watanabe, Hiroyuki Seki, Miyuki Shimoji, Ayuko Imaoka, Hiroshi Yamazaki, F. Peter Guengerich, Katsunori Nakamura, Koujirou Yamamoto, Takeshi Akiyoshi, Hisakazu Ohtani: The influence of temperature on the metabolic activity of CYP2C9, CYP2C19, and CYP3A4 genetic variants in vitro.

Xenobiotica, **53**, 357-365 (2023)

Makiko Shimizu, Miaki Makiguchi, Yuka Yokota, Erika Shimamura, Moegi Matsuta, Yuria Nakamura, Mizuki Harano, Hiroshi Yamazaki: Simple confirmation methods for rare but impaired variants of human flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) found in an updated genome resource databank.

Drug Metab Pharmacokinet, **53**, 100528 (2023)

[横田 侑香、嶋村 衣里加、松田 萌、中村 友里愛、原野 美月 (2023 年度卒業研究 5 年生)、
巻口 美晶 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Daisuke Negishi, Okimichi Mitsumatsu, Hiromi Mitsumatsu, Miaki Makiguchi, Makiko Shimizu, Hiroshi Yamazaki: Synovial fluid and plasma concentrations of tedizolid in patients with osteoarthritis infected with *Staphylococcus aureus* effectively determined with fluorescence detection.

J Pharm Health Care Sci, **9**, 33 (2023)

[巻口 美晶 (2023 年度卒業研究 6 年生)]

Haruna Nagayoshi, Norie Murayama, Vitchan Kim, Donghak Kim, Shigeo Takenaka, Hiroshi Yamazaki, Guengerich FP, Shimada T. Oxidation of Naringenin, Apigenin, and Genistein by Human Family 1 Cytochrome P450 Enzymes and Comparison of Interaction of Apigenin with Human P450 1B1.1 and *Scutellaria* P450 82D.1.

Chem Res Toxicol, **36**, 1778-1788 (2023)

Yasuhiro Uno, Shotaro Uehara, Genki Ushirozako, Norie Murayama, Hiroshi Suemizu, Hiroshi Yamazaki: Cytochrome P450 1A2 and 2C Enzymes Autoinduced by Omeprazole in Dog Hepatocytes and Human HepaRG and HepaSH Cells Are Involved in Omeprazole 5-Hydroxylation and Sulfoxidation.

Xenobiotica, **53**, 465-473 (2023)

Shotaro Uehara, Masahiko Yasuda, Yuichiro Higuchi, Nao Yoneda, Kenji Kawai, Masami Suzuki, Hiroshi Yamazaki, Hiroshi Suemizu: SGX523 causes renal toxicity through aldehyde oxidase-mediated less-soluble metabolite formation in chimeric mice with humanized livers.

Toxicol Lett, **388**, 48-55 (2023)

依頼・招待講演等

○山崎 浩史: 特別講演 II 「薬物代謝研究の進歩と展望」

第 30 回 HAB 研究機構学術年会 (東京) 2023 年 5 月

○山崎 浩史: 「医薬品における雄性生殖を介した発生毒性リスクの考え方」モデル動物体内動態情報から考えるサリドマイド類のヒト精漿への移行

第 50 回日本毒性学会学術年会シンポジウム (横浜) 2023 年 6 月

○Hiroshi Yamazaki: Species and individual differences of drug oxygenations mediated by polymorphic human cytochrome P450 enzymes

The 10th International Congress of Asian Society of Toxicology (Taipei, Taiwan) 2023年7月

○Hiroshi Yamazaki: Model Selection for Drug Oxygenations Mediated by Polymorphic Human Enzymes

2023 international joint meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics (Shizuoka, Japan) 2023年9月

総説

Hiroshi Yamazaki, Makiko Shimizu: Species specificity and selection of models for drug oxidations mediated by polymorphic human enzymes.

Drug Metab Dispos, **51**, 123-129 (2023)

Gio B. Gori, Michael Aschner, Christopher J. Borgert, Samuel M. Cohen, Daniel R. Dietrich, Corrado L. Galli, Helmut Greim, John S. Heslop-Harrison, Sam Kacew, Norbert E. Kaminski, James E. Klaunig, Hans W. J. Marquardt, Olavi Pelkonen, Ruth Roberts, Kai M. Savolainen, Aristidis Tsatsakis, Hiroshi Yamazaki: US regulations to curb alleged cancer causes are ineffectual and compromised by scientific, constitutional and ethical violations.

Arch Toxicol, **97**, 1813-1822 (2023)

活動概要・現状

本年度は、職員4名とともに薬物動態学研究室の研究活動を行った。研究テーマは、薬物酸化酵素活性の遺伝的多型による個人差に関する基礎研究、薬物血中モニタリングによる救急救命あるいは個別化医療の基盤研究、ファーマコゲノミクス情報を利用する医薬品等規制調和評価研究、医薬候補品より生成するヒト反応性代謝物の評価に関する創薬研究、一般化学物質のヒト生理学的薬物動態予測によるリスク評価研究、および創薬を支援する実験動物モデルの開発基盤研究であった。研究室からの学会発表は、招待講演4題と一般発表23題、論文発表は原著23報、総説2報であった。競争的外部資金は、日本学術振興会、日本医療研究開発機構、厚生労働省、日本化学工業協会長期自主研究活動等から援助を得た。東北メディカルメガバンク機構との共同研究成果が米国薬理学会機関誌に掲載され、筆頭著者巻口美晶（2023年度卒業研究6年生）は、米国薬理学会から Highlighted Trainee Author (HTA) に選抜され、表彰された。

自己点検・評価

研究室では「患者さんに役立つ薬物動態学研究」を掲げ、努力しており、精密機器類等のハード面や、実験報告や文献紹介などのセミナーの体制などソフト面をそれぞれ構築し、整備を進めている。本研究室で一貫して行っている魚臭症候群の研究や、救急患者および高齢者や小児の安全な投薬治療のために多剤併用における薬物動態についての研究・解析を行いながら広く情報提供している点は、具体的な効果のある取り組みと評価している。化学物質の体内動態評価技術の開発は、産業分野への貢献につながるものと評価している。

今後に向けて

「患者さんに役立つ薬物動態学研究」を目指し、精密機器類等のハード面や、実験報告や文献紹介などのセミナーの体制などソフト面をそれぞれ再構築し、国際的に認知された専門研究室の一翼を担うよう、整備を進める。

薬物治療学分野

(3) 薬物治療学研究室 (Pharmacotherapeutics)

教授 水谷 顕洋

講師 濱田 浩一

助教 松田 真悟

特任助教 小島 拓之

大学院博士課程4年 後藤 靖明

大学院博士課程4年 水野 郁美

学会報告

1. 大橋 綾乃、濱田 浩一、高村 浩美、波多野 直哉、伊藤 優里香¹、菅谷 菜々美、山本 伊織、後藤 靖明、御子柴 克彦、水谷 顕洋 “IRBIT を介した GEF 活性調節による脂肪細胞分化制御” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31
2. 武藤 亜侑、小島 拓之、堀 綾乃、松岡 宏武、濱田 浩一、御子柴 克彦、水谷 顕洋 “IRBIT の IP3 受容体を介したオートファジー調節機構について” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31
3. 堀 綾乃、小島 拓之、土橋 勇斗、岡山 萌、御子柴 克彦、濱田 浩一、水谷 顕洋 “Long-IRBIT 欠損マウス肝臓におけるオートファジー活性について” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31
4. 伊藤 優里香、濱田 浩一、高村 浩美、大橋 綾乃、菅谷 菜々美、山本 伊織、後藤 靖明、御子柴 克彦、小島 拓之、水谷 顕洋” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31
5. 中澤 葵、五十嵐 朋葉、大矢 翔太、後藤 靖明、濱田 浩一、水谷 顕洋 “脈絡叢上皮細胞における IRBIT ファミリーと AE2 および NBCn2 の結合とその調節メカニズムについて” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31
6. 矢島 綾乃、松田 真悟、高橋 里帆、日高 京香、水谷 顕洋 “背側海馬内免疫活性に着目した恐怖消去の性差を担う分子機構：CCL5-CCR5” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31
7. 高橋 愛梨、松田 真悟、角 侑香、吉田 淑恵、水谷 顕洋 “腹腔内および腹側海馬内への TrkB アゴニスト投与による恐怖消去の性依存的効果” 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31 日本薬学会 横浜 2024/3/28-31

論文発表

原著

Sihngo Matsuda "Importance of home cage condition for contextual fear memory, fear extinction and spontaneous recovery: Cage size and bedding material" *Neurosci Lett.* 2023 804: 137204. doi: 10.1016/j.neulet.2023.137204

研究室短報

ここ数年間、ずっと「萌芽はある」と唱え続けているように思う。COVID-19 も落ち着き、以前同様の研究活動が可能になってきているが、今年も、その萌芽を大きく育てて収穫するには至っていない。そこまで欲張りをしていないわけではないが、世界に向けて研究成果を発表するからには、少なくともそのデータに自信を持てるまでは追求するのが当たり前だ。学生さんも教員も、じっくり腰を落ち着けて研究に打ち込む環境を作り出すのが非常に難しくなっている昨今、どうしても「自身を持てるまで」には時間がかかる。ますます「萌芽」を大切に、じっくり育てたい。

自己点検・評価

1) 教育

- ・講義：「生理学」、「疾患と治療 1」、「疾患と治療 2」、「疾患と治療 3」、「疾患と治療 4」
 - ・実習：「病態・治療学実習 1」、「病態・治療学実習 2」
- を担当した。

2) 研究

- (i)：IRBIT ファミリーとその標的分子による細胞内 Ca^{2+} 、 HCO_3^- 動態の制御
IRBIT family の標的分子である IP3R, NBCe1, AE2 を中心に、エネルギー代謝、老化、脳間質液 / 脳脊髄液の恒常性という局面での IRBIT family の生理的機能を解明していく。
- (ii)：SYNCRIP の生理機能解明
赤血球の分化抑制機構と呼吸中枢の発達、さらには、神経変性疾患における SYNCRIP の生理機能を明らかにしていく。
- (iii)：性差と週齢差に着目した恐怖記憶の脳内制御機構の解明
恐怖記憶、殊に恐怖消去の性差に関わる分子・神経回路基盤を解明していく。

今後に向けて

今後も変わらず、しつこく、とことん追求していくのみである。

薬理学分野

(4) 薬理学研究室 (Pharmacology)

教授 渡邊泰男
准教授 土屋幸弘
講師 神戸敏江
特任助教 荒木笙馬

学会報告

○白石 由菜、神戸 敏江、千葉 輝正、齋藤 俊昭、田口 恭治、阿部 賢志：MPTP 誘発 Parkinson 病モデルマウスに対する 1-benzyl-N-propargyl-TIQ の抑制作用

日本薬学会年会 第 144 会年会 (横浜) 令和 6 年 3 月
[千葉照正 (平成 24 年度収支修了生)、阿部賢志 (平成 9 年度卒業生)]

○荒木笙馬、土屋幸弘、笠松真吾、居原秀、中川秀彦、赤池孝章、渡邊泰男：シスタチオニン γ -リアーゼの自己活性調節機構

レドックス R&D 戦略委員会 第 2 回 夏のシンポジウム (横浜) 令和 5 年 8 月

原著論文

Honami Echizen, Kenjiro Hanaoka, Kazuhito Shimamoto, Ryota Hibi, Sachiko Toma-Fukai, Hisashi Ohno, Eita Sasaki, Toru Komatsu, Tasuku Ueno, Yukihiko Tsuchiya, Yasuo Watanabe, Takao Otsuka, Hiroaki Saito, Satoru Nagatoishi, Kouhei Tsumoto, Hirotsu Kojima, Takayoshi Okabe, Toshiyuki Shimizu, Yasuteru Urano: Discovery of a cystathionine γ -lyase (CSE) selective inhibitor targeting active-site pyridoxal 5'-phosphate (PLP) via Schiff base formation.

Sci. Rep., **13**, 16456 (2023)

Shoma Araki, Tsuyoshi Takata, Katsuhiko Ono, Tomohiro Sawa, Shingo Kasamatsu, Hideshi Ihara, Yoshito Kumagai, Takaaki Akaike, Yasuo Watanabe, Yukihiko Tsuchiya: Cystathionine γ -Lyase Self-Inactivates by Polysulfidation during Cystine Metabolism.

Int. J. Mol. Sci., **24**, 9982 (2023)

[高田剛 (平成 26 年度博士修了生)]

Koji Osuka, Yusuke Ohmichi, Mika Ohmichi, Satoru Honma, Chiharu Suzuki, Masahiro Aoyama, Kenichiro Iwami, Yasuo Watanabe, Shigeru Miyachi: Angiogenesis in the Outer Membrane of Chronic Subdural Hematomas through Thrombin-Cleaved Osteopontin and the Integrin $\alpha 9$ and Integrin $\beta 1$ Signaling Pathways.

Biomedicines, **11**, 1440, (2023)

研究室活動短報

本年度は職員 4 名と、学部学生 43 名：6 年次生 (総合薬学コース 8 名、臨床薬学コース 8 名)、5 年次生 (総合薬学コース 6 名、臨床薬学コース 6 名、情報薬学コース 2 名)、4 年次生 (総合薬学コース 6 名、臨床薬学コース 6 名、情報薬学コース 1 名) で活動した。

研究内容は、渡邊教授・土屋准教授・荒木特任助教は、超イオウ分子／一酸化窒素の細胞内シグナル伝達への関与をテーマとして、1) S/N ハイブリッド分子種、超硫黄分子によるタンパク質翻訳後修飾、2) 一酸化窒素の細胞内シグナル伝達への影響、3) 超分子産生酵素の翻訳後修飾による制御、4) 一酸化窒素合成酵素の翻訳後修飾による制御 に着目した。神戸講師は、抗がん剤誘発末梢神経障害の発症機序をテーマとした。

外部資金による研究助成は、科学研究費補助金の共同研究者で渡邊が 1 件 (代表、徳光浩：基盤 B 「CaMKK シグナル伝達の制御機構解明とそれに基づく分子標的薬創製」 (2021-2023 年度)) であった。

自己点検・評価

本年は昨年に比べて学会活動が少なかったが、蓄積されたデータの論文化と蛍光顕微鏡の可視化実験での共同研究の論文化に貢献ができたのは評価できる。現在、大学院生が在籍しておらず、研究の楽しさや意義の啓蒙活動を行いたい。

今後に向けて

教育活動では、地方会への参加を利用し、学生の積極的な学会参加を促し多角的な視点もてる薬剤師になれるように指導してゆきたい。研究活動ではこれまでの研究成果の知見を踏まえ、引き続き論文化を行う。細胞情報薬理学的に超イオン分子／一酸化窒素の細胞内シグナル伝達研究を推し進め、いわゆるシグナル創薬の基盤を築きたい。

化学薬学系 (Devison Pharmaceutical Chemistry)

有機化学分野

(5) 薬化学研究室 (Organic Chemistry)

教授 田村 修
准教授 森田 延嘉
講師 橋本 善光
大学院博士課程3年生 山本 彩可

学会報告

○千秋妃美、森田延嘉、田中耕作三世、橋本善光、田村修、Norbert Krause：水溶性金触媒を用いる環境調和型 2,3-ジヒドロベンゾフラン類・インダン類の合成

第 21 回次世代を担う有機化学シンポジウム (愛知) 令和 5 年 5 月
[千秋妃美 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]

○橋本善光、Wang-Yeuk Kong、Dean J. Tantillo：ジオトロピー転位を経由するジオキサビシクロ [4.2.1] ノナノン骨格構築反応の機構研究

第 33 回基礎有機化学討論会 (岡山) 令和 5 年 9 月

○森田延嘉、佐々木茜梨、千秋妃美、橋本善光、田村修：金触媒を利用したベンゾ [1,2-*b*:5,4-*b'*] ジフラン類の合成

第 67 回日本薬学会関東支部大会 (東京) 令和 5 年 9 月

○山本彩可、井手洋介、松田直人、田中耕作三世、橋本善光、森田延嘉、田村修：ヘテロアレンによるニトロ形成とその分子内 1,3-双極子付加環化反応

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム (岐阜) 令和 5 年 11 月
[井手洋介 (平成 29 年度卒業生)、松田直人 (令和元年度卒業生)、
山本彩可 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

○橋本善光、千秋妃美、高橋茉希、田中耕作三世、森田延嘉、田村修：金/白金触媒を用いたビシクロ [3.3.1]/[3.3.0] ケーラル骨格構築反応の機構および選択性の起源

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム (岐阜) 令和 5 年 11 月
[千秋妃美 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、高橋茉希 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

○千秋妃美、石井奈穂、森田延嘉、橋本善光、田村修：金触媒を用いるシクロブタン類の合成

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月
[石井菜穂 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)、千秋妃美 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]

○梅沢孝仁、森田延嘉、千秋妃美、橋本善光、田村修：金触媒を利用した多置換ピロール類の合成

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月
[梅沢孝仁 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)、千秋妃美 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]

本田侑基、○単智博、山本彩可、橋本善光、田中耕作三世、森田延嘉、田村修： α, β -不飽和オキシムへの Kharasch 付加反応

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月
[単智博 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)、本田侑基 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、
山本彩可 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

○山本彩可、胡内達也、齊藤陸、田中耕作三世、橋本善光、森田延嘉、田村修：直接的ニトロ化法を利用した三成分連結型反応とその応用

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月
[齊藤陸 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)、胡内達也 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、

山本彩可 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

○橋本善光、吉田究、古郡美優、吉野徹、田中耕作三世、森田延嘉、田村修： α, β -不飽和オキシムの求電子のエポキシ化と α, β -エポキシオキシムの開環反応

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月

[吉田究 (平成 29 年度卒業生)、古郡美優 (令和元年度卒業生)、
吉野徹 (令和 4 年度卒業生)]

原著論文

Kosaku Tanaka III, Mayumi Yoshida, Ayaka Yamamoto, Yoshimitsu Hashimoto, Nobuyoshi Morita, Osamu Tamura: Synthesis of *N*-Aryl Isoxazolidines by Photo-Promoted *N*-Selective Arylation of Oximes and Cyclization Using Hypervalent iodine Reagents and Copper Catalysts.

Adv. Synth. Catal., **365**, 1419 – 1424 (2023)

[吉田真弓 (令和 4 年度卒業生)、山本彩可 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

Takahiro Yamada, Kosaku Tanaka III, Yoshimitsu Hashimoto, Nobuyoshi Morita, Osamu Tamura: Electrophilic C3-H Alkenylation of 2,6-Dialkoxypyridine Derivatives via Pd(II)/Ti(III) Reaction Systems.

Adv. Synth. Catal., **365**, 3138 – 3148 (2023)

Hiroto Sagara, Yoshio Suzuki, Nobuyoshi Morita, Shintaro Ban, Kosaku Tanaka III, Ayaka Yamamoto, Yoshimitsu Hashimoto, Osamu Tamura: Direct Generation of *N*-Alkoxy carbonyl Nitrones from Oximes: Intramolecular Cycloaddition of Oximes Having Alkene Moieties.

Adv. Synth. Catal., **365**, 3927 – 3934 (2023)

[相良浩人 (平成 28 年度卒業生)、鈴木良生 (平成 27 年度卒業生)、
山本彩可 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

Ayaka Yamamoto, Kosaku Tanaka III, Yoshimitsu Hashimoto, Nobuyoshi Morita, Osamu Tamura: Intermolecular 1,3-Dipolar Cycloaddition Reaction of *N*-Carbamoyl Nitrones Generated by *N*-Selective Carbamoylation of Oximes with Isocyanates.

Chem. Eur. J., **30**, e202303790 (2024)

[山本彩可 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

Nobuyoshi Morita, Shingo Uchida, Hitomi Chiaki, Naho Ishii, Kentaro Tanikawa, Kosaku Tanaka III, Yoshimitsu Hashimoto, Osamu Tamura: Gold(III)-Catalyzed Propargylic Substitution Reaction Followed by Cycloisomerization for Synthesis of Poly-Substituted Furans from *N*-Tosylpropargyl Amines with 1,3-Dicarbonyl Compounds.

Molecules, **29**, 378 (2024)

[内田慎吾 (平成 29 年度卒業生)、千秋妃美 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、
石井菜穂 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)、谷川健太郎 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)]

Nobuyoshi Morita, Saki Kurami, Naho Ishii, Kosaku Tanaka III, Yoshimitsu Hashimoto, Osamu Tamura: (*E*)-5-[Bromo(phenyl)methylene]-4-phenyl-2-(*p*-tolyl)-4,5-dihydrooxazole.

Molbank, **2024**, M1769 (2024)

[倉見早紀 (平成 28 年度卒業生)、石井菜穂 (令和 5 年度卒業研究 4 年生)]

Nobuyoshi Morita, Daichi Yamashita, Yoshimitsu Hashimoto, Osamu Tamura: An Efficient Stereoselective Synthesis of *cis*-2,6-Disubstituted Tetrahydropyrans via Gold-Catalyzed Meyer-Schuster Rearrangement/Hydration/oxa-Michael Addition Sequence

Catalysts, **14**, 228 (2024)

[山下大智 (平成 28 年度卒業生)]

研究室活動短報

2023 年度は教員 3 名、大学院博士課程 3 年 1 名、6 年生 12 名、5 年生 8 名、4 年生 9 名の合計 33 名で研

究活動を行った。田村はアルケンを有するオキシムから発生させた *N*-アルコキシカルボニルニトロンの分子内付加環化反応を開発し、論文化した。森田は金触媒存在下、*N*-トシルプロパルギルアミンと活性メチレン化合物から、C-N 結合の開裂を伴った連続反応によるフラン類の合成法を開発し、論文化を進めている。橋本は、オキシムやヒドラゾンを用いる極性転換により付加環化反応における電子的な組み合わせを逆転させる手法を開発中である。また今年度、研究室に量子化学計算用ワークステーションを導入し、理論化学研究でも着実に成果を得ている。

自己点検・評価

研究面では、学会発表数が 10 件、原著論文が 7 報という成果が得られたので評価できる。今後も蓄積されているデータの論文化を進めていきたい。教育面では、スタッフが事務作業に追われ、しっかりとした指導ができなかったと反省している。

今後に向けて

来年度は大学院博士課程 1 年生が 2 名新たに加わる。研究面では、大学院生を中心に学部学生を引っ張ってもらい、研究を進めていきたい。また得られた研究成果とともに、学会発表数を増やしたい。蓄積した研究データを論文として発表し、成果を社会に還元していきたい。

教育面では、模擬試験や確認試験などの機会を利用して、定期的に研究室学生と面談を行い、勉強する習慣をつけるように指導していく。薬剤師国家試験の全員合格を目指す。

(6) 薬品化学研究室 (Pharmaceutical Organic Chemistry)

教授	岡本	巖
准教授	山崎	龍
講師	伊藤	愛

学会報告

○山崎 龍, 小野 真梨子, 森田 健人, 福田 和男, 伊藤 愛, 岡本 巖: *N*-アルケニルアセトアニリドへのマジックメチル効果

第 33 回基礎有機化学討論会 (岡山) 2023 年 9 月
[小野 真梨子 (令和元年度卒業生), 森田 健人 (平成 29 年度卒業生)]

○伊藤 愛, 安里 まりの, 浅見 優希, 福田 和男, 山崎 龍, 岡本 巖: *N*-(チエニル)型アミドの立体構造特性とコンフォメーションにおける分子内 S-O 相互作用の効果

第 52 回複素環化学討論会 (仙台) 2023 年 10 月
[安里 まりの (令和元年度卒業生), 浅見 優希 (平成 29 年度卒業生)]

○柚木 雅志, 伊藤 愛, 山崎 龍, 岡本 巖: 1,3-置換型アズレンを有する *N*-メチルアミド類の合成と立体構造特性

第 48 回反応と合成の進歩シンポジウム (岐阜) 2023 年 11 月
[柚木 雅志 (令和 5 年度博士 2 年生)]

○富田 真由子, 伊藤 愛, 柚木 雅志, 土田 あい, 渡邊 万由子, 石井 亜椰子, 天木 崇真, 山崎 龍, 岡本 巖: 芳香族アミドにおける *N*-(2-アズレニル) 構造の立体特性と立体優先性

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 2024 年 3 月
[富田 真由子 (令和 5 年度卒業研究 5 年生), 柚木 雅志 (令和 5 年度博士 2 年生),
土田 あい (平成 29 年度卒業生), 渡邊 万由子 (令和 4 年度卒業生),
石井 亜椰子 (平成 30 年度卒業生), 天木 崇真 (平成 28 年度卒業生)]

原著論文

Ryu Yamasaki, Yuko Okada, Hiromi Iizumi, Ai Ito, Kazuo Fukuda, Iwao Okamoto: Structure and Additive-free Transamidation of Planar *N*-Cyano Amides.

The Journal of Organic Chemistry, 88, 5704–5712 (2023)

[岡田 柚子 (令和元年度卒業生), 飯泉 浩美 (平成 30 年度卒業生)]

Ai Ito, Marino Asato, Yuki Asami, Kazuo Fukuda, Ryu Yamasaki, Iwao Okamoto : Synthesis and conformational analysis of *N*-aromatic acetamides bearing thiophene: effect of intramolecular chalcogen-chalcogen interaction on amide conformational stability.

The Journal of Organic Chemistry, **88**, 7075–7087 (2023)

[安里 まりの (令和元年度卒業生), 浅見 優希 (平成 29 年度卒業生)]

Ryu Yamasaki, Mariko Ono, Kento Morita, Ai Ito, Kazuo Fukuda, Iwao Okamoto : Structures and Reactivities of *N*-Alkenyl-Substituted Anilides: The “Magic” Methyl Effect on Alkene.

The Journal of Organic Chemistry, **88**, 14487–14493 (2023)

[小野 真梨子 (令和元年度卒業生), 森田 健人 (平成 29 年度卒業生)]

活動概要・現状

継続して芳香族アミドを中心とした研究を進めている。

N-アルケニル型の芳香族アミド化合物は、*N*-アルキル型とは異なる構造特性を有することを既に見出していたが、更に小さな置換基の導入による位置特異的な構造変換特性を示すことを見出した。このアミド窒素上の置換基による反応活性化と反応特性についても新たな知見を見出し、反応素子としての可能性を開拓している。

一方で複素環を導入した場合の相互作用と、立体的な影響についての問題が未解決であるが、比較的立体障害の小さな芳香環の場合について、立体特性の知見が得られつつある。また複素環化合物を有する場合の特性についての定量化を試み、系統的な理解を進めている。

総合コースにおいては、反応機構を始め、基礎的な有機化学の勉強指導を行っている。臨床コースにおいては、機器分析による化合物解析の演習・勉強会を行っている。

自己点検・評価

卒業研究においては、学生達はそれぞれのテーマについて取り組み、単なる実験操作に陥らないように進めている。上述の研究成果は学生が見出した内容であり、各々の卒業研究が実った成果となっている。

今後に向けて

卒業研究を推進すると同時に、有機化学に関する勉強会を行うことで、学生が継続的に卒業まで勉強に取り組む環境を整える。

メディシナルケミストリー分野

(7) 医薬分子化学研究室 (Drug Design and Medicinal Chemistry)

教授 伊藤 俊将
講師 石田 寛明
講師 大橋 南美
特任助教 山田 孝博
大学院学生 D4 矢野 哲也
大学院学生 D3 京谷 竜宏
大学院学生 D2 関根 美夢

学会報告

○大橋南美、三浦有里未、石田寛明、伊藤俊将
スルホンアミド型 DHA 誘導体の PPAR γ リガンドとしての評価
日本ケミカルバイオロジー学会 第 17 回年会 (大阪) 令和 5 年 5 月
[三浦有里未 (令和元年度卒業生)]

○京谷竜宏、石田寛明、齋藤俊昭、伊藤俊将
熱も金属も歪みも必要としない Huisgen 環化反応
日本ケミカルバイオロジー学会 第 17 回年会 (大阪) 令和 5 年 5 月
[京谷竜宏 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

○伊藤俊将
医薬品も収斂進化する
アカデミックディテリング研究会 第 2 回学術大会 (本学) 令和 5 年 9 月

Mutsuki Suzuki, Toshimasa Itoh, ○Nami Ohashi
CELL IMAGING OF CPP-CONJUGATED NUCLEAR RECEPTOR COACTIVATOR PEPTIDE
第 60 回ペプチド討論会 (滋賀) 令和 5 年 11 月
[鈴木睦生 (令和 5 年度 6 年生)]

○京谷竜宏、石田寛明、齋藤俊昭、伊藤俊将
求核性アミノ酸に対するエチニルスルホンアミドの反応性に関する研究
日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月
[京谷竜宏 (令和 5 年度博士課程 3 年生)]

○石田寛明、五十嵐良樹、阿部笑里、京谷竜宏、伊藤俊将
分子内塩基アシスト型共有結合モチーフの開発研究
日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 5 年 3 月
[五十嵐良樹 (令和 5 年度 6 年生)、阿部笑里 (令和 5 年度 4 年生)]

原著論文

Miyu Sekine, Hiroaki Ishida, Toshimasa Itoh
Synthesis of Triazolo[c]coumarins and Differences in the Fluorescence Properties of Their Isomers
Asian J. Org. Chem, 12, e202300013 (2023).
[関根美夢 (令和 5 年度博士課程 2 年生)]

Hiroyuki Kojima, Ryota Yanagi, Eri Higuchi, Mami Yoshizawa, Tomoyuki Shimodaira, Misaki Kumagai, Tatsuhiko Kyoya, Miyu Sekine, Daichi Egawa, Nami Ohashi Hiroaki Ishida, Keiko Yamamoto, Toshimasa Itoh
Covalent Modifier Discovery Using Hydrogen/Deuterium Exchange–Mass Spectrometry
J. Med. Chem, 66, 4827-4839 (2023)
[小島弘之 (平成 29 年度博士課程修了生)、柳諒太 (平成 27 年度卒業生)、樋口愛理 (平成 29 年度卒業生)、

下平智之(平成30年度卒業生)、京谷竜宏(令和5年度博士3年生)、関根美夢(令和5年度博士課程2年生)、
江川大地(平成27年度博士課程修了生)]

Takuya Kobayakawa, Masaru Yokoyama, Kohei Tsuji, Masayuki Fujino, Masaki Kurakami, Takato Onishi,
Sayaka Boku, Takahiro Ishii, Yutaro Miura, Kouki Shinohara, Yuki Kishihara, Nami Ohashi, Osamu
Kotani, Tsutomu Murakami*, Hironori Sato* & Hirokazu Tamamura

Low-molecular-weight anti-HIV-1 agents targeting HIV-1 capsid proteins.

RSC Adv., 13, 2156-2167 (2023).

Takahiro Ishii, Takuya Kobayakawa, Kouki Matsuda, Kohei Tsuji, Nami Ohashi, Shingo Nakahata, Airi
Noborio, Kazuhisa Yoshimura, Hiroaki Mitsuya, Kenji Maeda & Hirokazu Tamamura

Synthesis and evaluation of DAG-lactone derivatives with HIV-1 latency reversing activity.

Eur. J. Med. Chem., 256, 115449 (2023).

その他

依頼・招待講演

活動概要・現状

当研究室の構成員は教員4名、博士課程大学院生3名、6年生16名、5年生12名、4年生14名の計49名であった。情報コースはAIの可能性に関する調査研究を行い、臨床コースは臨床系の学術論文のうち、医薬品の効果や副作用、構造活性相関に関する調査研究を行った。総合コースは創薬研究に役立つことを念頭に昨年度と同様タンパク質との共有結合に関する研究、核内受容体とキレートを形成する金属錯体など創薬に関する基礎研究を実施した。セミナーでは研究成果や教育的な内容の発表が行われ、ディスカッションを行った。

自己点検・評価

セミナーに関しては、発表内容および質問の質が4年、5年、6年と学年を追うごとに向上している。化学の基礎研究から臨床系の発表を行っており、多角的な観点で議論を行えた。卒論生と大学院生のディスカッション能力の向上に大きく寄与できたと考えている。一方、卒論研究のうち、ウェット研究に割ける時間が減少傾向にあり、卒論研究に対して満足のゆく実験時間を与えてあげられなかった点が悔やまれる。研究成果に関しては薬学部の創薬系の研究室として納得できる実験成果は得られなかった。その中で、研究室の悲願であった共有結合型化合物のスクリーニング法の開発に成功し、研究成果がジャーナルオブメディシナルケミストリー誌に掲載された。5名の卒業生と2名の大学院生の取り組みが実を結んだ。

今後に向けて

研究内容に関しては、低分子化合物の設計と合成、ペプチド型中分子の設計と合成、医薬品の標的タンパク質に関する基礎研究に構造生物学を織り込み、それらが融合した領域へと発展させていきたい。並行して、臨床に関連付けられた基礎研究も視野に入れていき、社会に貢献できる研究を行っていきたい。

学部学生と大学院生は精力的に研究を行っている。それに応えるため、教員一同環境を整え、そして課題解決能力を身に付けてもらえるように丁寧に教育指導を行っていく。

医薬資源学分野

(8) 生薬・天然物化学研究室

(Laboratory of Pharmacognosy and Natural Products Chemistry)

教授 中根 孝久

講師 篠崎 淳一

修士課程 1年 TRAN THI LAN NHI

学会報告

○村上佳織、石川祐子、田中信幸、中根孝久、三宅克典、岩科司、水野貴行：ハナシユクシヤ (*Hedyechium*) に含まれるフェノール化合物の抗酸化活性

植物色素研究会第33回大会、東京、2023年11月

○秦奇、西川綾子、立澤文見、中根孝久、岩科司、水野貴行：ペトレア (クマツヅラ科) の花から単離されたポリアシル化アントシアニンとその他のフェノール成分

園芸学会春季大会、東京、2024年3月

依頼・招待公演等

中根孝久： *Adiantum* 属シダのケモタキノミー研究

植物色素研究会第33回大会、東京、2023年11月

原著論文

Takayuki Mizuno, Haruka Seto, Takahisa Nakane, Yoshinori Murai, Fumi Tatsuzawa and Tsukasa Iwashina, Anthocyanin and Flavones from the Flowers of *Tripura divaricata* (Lamiaceae) and their Contribution to Blue Violet Color

Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B, 49(2), 57–64 (2023)

Motoyasu Minami, Yukako Honda, Kaoru Ueno, Tetsuya Matsunaka, Junbo Wang, Liping Zhu, Akihito Takano, Takahisa Nakane, Ecological and pharmacognostical characteristics in *Ephedra saxatilis* in the Yarlung Zangbo River Valley of southeastern Tibetan Plateau, China

Journal of Natural Medicines, 77, 614–619 (2023)

Tsukasa Iwashina, Sri Rahayu, Takahisa Nakane, Takayuki Mizuno, Chie Tsutsumi, and Didik Widayatmoko, Three Minor Flavone Glycosides from *Aeschynanthus* Species and Cultivars (Gesneriaceae)

Natural Product Communications, 18(8), 1-4 (2023)

Qi Qin, Fumi Tatsuzawa, Takahisa Nakane, Takashi Kaidzuka, Tsukasa Iwashina and Takayuki Mizuno, Anthocyanins and Flavonols from the Flowers of *Ranunculus* Cultivars (Ranunculaceae) and Their Color Expression

The Horticulture Journal, Preview (2024)

活動概要・現状

本年度は、教育職員2名、学部学生23名（総合薬学コース6年生7名、5年生3名、4年生6名、情報薬学コース6年生0名、5年生0名、4年生1名、臨床薬学コース6年生2名、5年生3名、4年生1名）で研究活動を行った。

中根教授が分担研究者として参加した科研費基盤B「乾燥地での薬草を利用した持続可能な節水型高付加価値農業による塩害防止」において、ウズベキスタンなど海外での植物調査及び採集した薬用植物を用いて、トリテルペノイドなど中心に含有成分の単離、構造決定を行い、成果を報告した。今年度は、5月から6月にかけてウズベキスタンでの調査・採集を行い、成分分析用の植物試料22種を入手した。昨年度から取り組んでいる「薬用植物の国内栽培化のための調査及び品質評価」研究において、日本国内で採集したオオツヅラフジ（防已）、アケビ（木通）及びカギカズラ（釣藤鈎）の成分分析による品質評価を行い、同時に栽培方法の検討を行った。篠崎講師は、*Aleuritopteris* 属及び *Iemphylum* 属シダ類由来のスクアレノ環化酵素の機能解析研究を行った。

今年度は4月、8月を除く計5回（5月～10月）の薬草教室を開催し、中根教授（6月）、篠崎講師（10月）によりそれぞれ1回担当した。

自己点検・評価

昨年度に引き続き、マンパワー不足のなかで、充実した研究活動が行えたとは言い難い。教育では、対面講義による従来の講義体系が戻ったことにより、教員、学生とも程よい緊張感のもと講義が行えたと思う。学生実習においては、従来の実習内容に戻ったことから、一連の実験の流れを経験できたことで学生にとって充実した内容となったと思われる。

今年度、研究、教育活動の多くがコロナ前の状況に戻ったことは喜ばしいことである。卒業研究を通して、多くの学生が自ら考え、行動に移す努力が見受けられるなど成長を感じた。一方で、研究室員の不足から十分な研究活動ができたとは言い難い状況ではあるが、本年度の目標はおおむね達成できたと考えている。

今後に向けて

次年度より新たに講師1名を加えた3人体制になることから教育・研究活動をより充実させ、より良い成果をあげられるようにしていきたい。

物理薬学系

物理化学分野

(9) 薬品物理化学研究室 (Physical Chemistry)

教授 秋澤 宏行
講師 宿里 充穂
助教 尾江 悟

学会報告

○水野雄貴、林龍昕、尾江悟、秋澤宏行、久下裕司：複数の integrin $\alpha_v\beta_3$ と同時結合可能な多価 cRGD の化学構造：複数の細胞株を用いた検討

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム（札幌）令和 5 年 7 月

○水野雄貴、林龍昕、尾江悟、秋澤宏行、久下裕司：複数の integrin $\alpha_v\beta_3$ と同時結合可能な多価 cRGD ペプチドの開発と多様な放射性同位元素で標識可能な構造への展開

第 6 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会（千葉）令和 5 年 9 月

○柳川友希、尾江悟、菊地正悟、宿里充穂、秋澤宏行：放射性ヨウ素結合非対称型シアニン色素の側鎖への官能基導入が体内挙動に与える影響

日本薬学会 第 144 年会（横浜）令和 6 年 3 月

[柳川友希（令和 5 年度卒業研究 5 年生）、菊地正悟（平成 30 年度学部卒業生）]

活動概要・現状

令和 5 年度に当研究室に所属していた学生は、学部 6 年生 10 名（内訳：総合薬学コース 4 名、情報薬学コース 2 名、臨床薬学コース 4 名）、学部 5 年生 6 名（内訳：総合薬学コース 2 名、臨床薬学コース 4 名）、学部 4 年生 9 名（内訳：総合薬学コース 5 名、情報薬学コース 1 名、臨床薬学コース 3 名）の合計 25 名であった。

総合薬学コースの学生はウェットの研究を、情報薬学及び臨床薬学コースの学生は調査研究（ただし、1 名はウェットの研究）を行い、学生 1 人当たり 6～7 週間に 1 回の頻度で研究の進捗を研究室セミナーで報告した。学生 1 名が学会発表を行った。

学外活動として、秋澤は日本核医学会 教育・専門医審査委員会委員、日本アイソトープ協会 医学・薬学部会 放射性医薬品専門委員会委員をつとめた。

自己点検・評価

令和 5 年度は、研究成果の発表、報告、公表を増やすことを目標とし、そのための取り組みを行った。しかし、実際の発表、報告、公表までには至らなかったものが多く、結果として、その数は減った。一因として、研究計画に不十分な点があったことが考えられ、改善が必要と考える。評価できる点としては、学生間で研究内容について議論する姿が見られたことが挙げられる。

今後に向けて

令和 6 年度は、令和 5 年度中に報告する予定であった研究成果も含めて、着実に成果報告を行いたい。そのために、教員間、教員-学生間のコミュニケーションをしっかりととり、目的をより明確にしながら研究、実験を進めるようにしたい。また、将来にわたってコンスタントに成果報告を行うためにも、より綿密な研究計画を立てることを意識したい。

分析化学分野

(10) 薬品分析化学研究室 (Analytical Chemistry of Medicines)

教授 唐澤 悟
准教授 白井 一晃
講師 鈴木 憲子
特任助教 梅野 智大
博士課程 3年 松本 祥汰
2年 飯塚 直子

学会報告

○白井 一晃、石井 一步、村瀬 早槻、梅野 智大、長谷川 真士、唐澤 悟 Pd触媒ドミノ型反応を利用したアザ [5]ヘリセンの合成とその光物性

日本第33回 基礎有機化学討論会 (岡山コンベンションセンター・岡山市) 令和5年9月
[石井 一步 (令和5年度卒業研究6年生)、村瀬 早槻 (令和3年度学部卒業生)]

○松本 祥汰、梅野 智大、白井 一晃、唐澤 悟 ターンオン型三価金属検出蛍光プローブの開発と光増感剤としての評価

日本分析化学会第72年会 (熊本城ホール・熊本市) 令和5年9月
[松本祥汰 (令和5年度博士課程3年生)]

○飯塚 直子、梅野 智大、白井 一晃、長沼 辰弥、唐澤 悟 還元抵抗性をもつナノ微粒子型 NO ラジカルの合成と物性評価

第62回電子スピンスイエンズ学会総会 (神戸大学・神戸市) 令和5年11月
[飯塚直子 (令和5年度博士課程2年生)]

○白井 一晃、江藤 亮介、有野 陸、菊池 啓介、川幡 正俊、長谷川 真士、唐澤 悟
らせん性ピリリウム塩の集積構造制御と光物性

第16回有機 π 電子系シンポジウム (志んぐ荘・兵庫) 令和5年12月
[江藤 亮介 (令和5年度卒業研究6年生)、有野 陸 (令和4年度学部卒業生)、
菊池 啓介 (令和5年度卒業研究4年生)]

○白井 一晃、鈴木 日菜、白水 なずな、川幡 正俊、小堀 康博、唐澤 悟 ジヒドロピリダジン縮環型ヘリセン分子の光異性化を伴ったらせん反転機構解明

日本薬学会 第144年会 (パシフィコ横浜・横浜市) 令和6年3月
[鈴木 日菜 (令和5年度卒業研究5年生)、白水 なずな (令和5年度卒業研究4年生)]

○飯塚 直子、梅野 智大、白井 一晃、吉原 大輔、長沼 辰弥、唐澤 悟 有機 NO ラジカルから成るベシクル型ナノ微粒子の還元抵抗性評価

日本薬学会 第144年会 (パシフィコ横浜・横浜市) 令和6年3月
[飯塚直子 (令和5年度博士課程2年生)]

○松本 祥汰、梅野 智大、白井 一晃、唐澤 悟 治療過程の可視化が可能な重原子フリー光増感剤の開発

日本薬学会 第144年会 (パシフィコ横浜・横浜市) 令和6年3月
[松本祥汰 (令和5年度博士課程3年生)]

○加藤 稜麻、松本 祥汰、梅野 智大、白井 一晃、唐澤 悟 プッシュプル型二環式蛍光プローブの発光特性とオルガネラ蛍光イメージング

日本薬学会 第144年会 (パシフィコ横浜・横浜市) 令和6年3月
[加藤 稜麻 (令和5年度卒業研究5年生)、松本祥汰 (令和5年度博士課程3年生)]

○横溝 茜、松本 祥汰、白井 一晃、山田 健一、唐澤 悟 脂質ラジカル検出型ヘテロスピン MRI 造影剤の開発

日本薬学会 第144年会 (パシフィコ横浜・横浜市) 令和6年3月
[横溝 茜 (令和5年度卒業研究5年生)、松本祥汰 (令和5年度博士課程3年生)]

○鈴木 憲子・澤田 雅斗・守谷 礼司 産地によってモンモリロナイトのセシウムイオン交換挙動は異なるのか?

日本化学会第104春季年会 (船橋) 令和6年3月
[澤田雅斗、守谷礼司 (令和5年度卒業研究6年生)]

○唐澤 悟 ピリダジルヘリセンの光反応中間体の評価
神戸大学分子フォトサイエンス研究センター共同研究成果報告会 (神戸大学・神戸市) 令和6年3月

原著論文

Kazuteru Usui, Ami Amano, Kasumi Murayama, Miho Sasaya, Ryota Kusumoto, Tomohiro Umeno, Satsuki Murase, Naoko Iizuka, Shota Matsumoto, Yasufumi Fuchi, Kazuyuki Takahashi, Masatoshi Kawahata, Yasuhiro Kobori, Satoru Karasawa Photoisomerization of "Partially Embedded Dihydropyridazine" with a Helical Structure *Chem Eur. J.* **29**, e202302413 (2023). [Ami Amano (令和2年度卒業生)、Miho Sasaya (令和4年度卒業生)、Satsuki Murase (令和3年度卒業生)、Naoko Iizuka (令和5年度博士課程2年生)、Shota Matsumoto (令和5年度博士課程3年生)]

Tomohiro Umeno, Moeka Fujihara, Shota Matsumoto, Naoko Iizuka, Kazuteru Usui, Satoru Karasawa, Quantitative and Nondestructive Colorimetric Amine Detection Method for the Solid-Phase Peptide Synthesis as an Alternative to the Kaiser Test *Anal. Chem.* **95**, 15803 – 15809 (2023) [Moeka Fujihara (令和5年度卒業研究6年生)、Shota Matsumoto (令和5年度博士課程3年)、Naoko Iizuka (令和5年度博士課程2年生)]

Tomohiro Umeno, Lisa Muroi, Yuto Kayama, Kazuteru Usui, Koichi Hamada, Akihiro Mizutani, Satoru Karasawa, Naphthyridine-Based Electron Push-Pull-Type Amine-Reactive Fluorescent Probe for Sensing Amines and Proteins in Aqueous Media *Bioconjugate Chem.* **34**, 12435 – 12438 (2023) [Lisa Muroi Yuto Kayama (令和5年度卒業研究6年生)、Shota Matsumoto (令和5年度博士課程3年)]

Kazuki Kobayashi, Nozomi Kasakura, Seiya Kikukawa, Shota Matsumoto, Satoru Karasawa, Takeshi Hata. Facile preparation of polycyclic halogen-substituted 1,2,3-triazoles by using intramolecular Huisgen cycloaddition *Org. Biomol. Chem.* **21**, 9610 – 9615 (2023). [Shota Matsumoto (令和5年度博士課程3年)]

総説

飯塚直子 還元抵抗性をもつナノ微粒子型 NO ラジカルの開発
電子スピサイエンス学会、42、37 (2024) [飯塚直子 (令和5年度博士課程2年生)]

共同研究

株式会社 クレハ 令和4年10月1日～令和5年9月30日

研究室活動短報

昨年度と同様に研究室スタッフ4名で4月から運営を開始したが、8月をもって梅野特任助教が京都府立医科大学へ異動された。梅野先生が在籍された3年半にわたり当研究室運営にご尽力頂いたことは感謝の念に堪えません。特に研究に対する真摯な姿勢を学生へ与えていただいたこと教員を代表して深く御礼申し上げます。

新4年生として総合薬学コース10名、臨床薬学コース5名の学生が研究室に配属され、合計40名以上の大所帯での研究室運営を引き続き行った。9月以降梅野特任助教が異動されたが、博士課程学生2名が在籍していたため、彼らの惜しめない努力によって研究体制を維持することができた。新型コロナウイルスの影響もほぼなくなり、より活発な研究活動が行えた。一定数の学会発表と原著論文が発表できた点は大いに評価でき、特に分析化学において歴史ある雑誌であるアメリカ化学会 Analytical Chemistry へ昨年度に引き続き2年連続で研究内容が掲載されたことは大変喜ばしい。また、昨年を上回る4件の学会関連の受賞があり、大変喜ばしいニュースが続いた。日本薬学会年会の優秀ポスター賞においても、3年連続の受賞であ

り、研究室メンバーの励みとなった。

- ①梅野特任助教：日本薬学会 2023 年度関東支部奨励賞
- ②飯塚直子（令和 5 年度博士課程 2 年）：電子スピンスサイエンス学会優秀ポスター賞
- ③松本祥汰（令和 5 年度博士課程 3 年）：学内ハイテクリサーチ報告会 ポスター賞（物理・化学部門）3 位
- ④加藤稜麻（令和 5 年度 5 年生）：日本薬学会第 144 年会学生優秀発表賞（ポスターの部）

また臼井准教授を代表とする研究で、*Wiley Chem. Eur. J.* のフロントカバーに採択された。光でピラジカルが発生するピリダジルヘリセン誘導体の光ラセミ化の成果が評価された。また梅野特任助教を代表とする研究で、*Bioconjugate Chem.* のサプリメントカバーに採択された。タンパク質を蛍光ラベル化できる小分子の研究成果が評価された。多くの学生と関係したスタッフに感謝申し上げます。

昨年に引き続き株式会社クレハとの共同研究を 1 年間行った。

学修面においては、多くの卒業生が薬剤師国家試験に合格できた。4 - 5 学年がすべて進学でき、また 4 年生が薬学共用試験（CBT・OSCE）に全員合格し、実務実習へ参加できることとなった。

自己点検・評価

運営：8 月までは梅野特任助教が在籍していたため、昨年度と同じスタッフによる安定的な運営が実施できたことは評価できる。博士課程大学院生 2 名が丁寧に学部生へ指導してくれたおかげで、1 年間を通してアクティビティ高く研究活動ができた点は評価に値する。また、コロナ明けでコンパを行うことができ、さらには体育祭へ研究室で参加したことで学生間や学生と教員間でのコミュニケーションをはかることができ、一体感が生まれたことは大変喜ばしいことであった。

研究：コロナ禍の 3 年が終わり、昨年度までに比べて充実した研究運営ができた。学会・論文発表数が一定数維持できたことは成果である。昨年度に引き続き研究成果に対する受賞があった。学会関連の受賞が三件、学内での受賞一件と大変喜ばしいことが続いた。原著論文として、*Anal. Chem.*、*Bioconjugate Chem.*、*Chem. Eur. J.* と比較的高いインパクトファクターの雑誌へ掲載できたことは大いに評価できる。さらにステップアップし、もう一段階上のハイインパクトの研究にもチャレンジしていきたい。

教育：コロナ禍が終わり、学生とのコミュニケーションがとりやすくなった。一方でコロナ禍で自宅学習の習慣がついてしまったため、大学へ登校し対面で受講したり、研究室で活動する当たり前のことに対して抵抗感を持ち続けている学生が多かったのも事実である。4 年生に対しては CBT 確認試験や模試の成績に対してのコメントを全員に対して実施できた。CBT・OSCE が全員合格できたことは喜ばしい。6 年生に対しては、模試や薬学演習試験の成績に対してのフィードバックを行った。これらの試験に対する振り返り表の提出を義務付けていたが、再三の要請を行ったものの一部の学生は提出ができなかった。当研究室内のことではあるが、未提出者から国家試験不合格者が多かったことから、次年度は振り返り表の提出を徹底していきたい。また、国家試験合格に向けた継続的な勉強の重要性を丁寧に説明し、研究室の気運を高めていきたい。

今後に向けて

コロナ禍による活動の制限も限定的となり、研究室内で新歓や会食が実施でき、さらには体育祭などによって研究室の一体感ができたことは嬉しい限りであった。次年度も研究室運営の鍵として、コミュニケーションをはかることができる仕掛けを準備していきたい。研究室スタッフが 1 名減ったことで今後の研究室運営に影響を及ぼすことが予想されるが、計画性を持った研究活動を行うことで、研究の質の維持を図っていきたい。学部生の勉強に対するモチベーションを維持できるように日頃より対話を重ねていきたい。特に 6 年生に対しては、自分自身に負けることなく最後まで頑張れるように励ましていきたい。今後も事故無く研究室運営できるように努めていきたい。

生物薬学系 (Division of Pharmaceutical Biology)

分子細胞生物学分野

(11) 生化学研究室 (Biochemistry)

教授 伊東 進
准教授 田代 悦
講師 中野なおこ
特任助教 内田 吉美
大学院学生 M1 岡村 知佳
大学院学生 M1 夏 済海

学会報告

1. ○富山晶子、立川梨佳、伊勢本奈月、内田吉美、中野なおこ、伊東史子、Zwijssen An、伊東進:BR-Smad が担う小腸上皮組織恒常性維持機構の解明
2023 年度日本生化学会関東支部例会 (山梨) 2023 年 6 月
[富山晶子 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、立川梨佳 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、伊勢本奈月 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]
2. ○立川梨佳、松本裕樹、富山晶子、内田吉美、中野なおこ、伊東史子、伊東進:Smad4 欠損マウスにおける腺がん発症機構の解明
2023 年度日本生化学会関東支部例会 (山梨) 2023 年 6 月
[立川梨佳 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、松本裕樹 (令和 5 年度卒業研究 5 年生) 富山晶子 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]
3. ○松尾一樹、内田吉美、伊東進:TMEPAI ファミリー欠損マウスの血球系細胞解析
2023 年度日本生化学会関東支部例会 (山梨) 2023 年 6 月
[松尾一樹 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]
4. ○内田吉美、中野なおこ、星名黎、佐藤大雅、伊東史子、渡邊幸秀、武藤誠、加藤光保、伊東進:TMEPAI ファミリーによる消化管腺腫形成抑制機序の解析
2023 年度日本生化学会関東支部例会 (山梨) 2023 年 6 月
[星名黎 (令和 3 年度修士修了生)、佐藤大雅 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]
5. ○内田吉美、中野なおこ、武藤誠、伊東進:TMEPAI 遺伝子欠損は Apc 遺伝子変異で生じる消化管腺腫進展を抑制する
第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 (佐賀) 2023 年 6 月
6. ○Susumu Itoh:Abnormality of intestinal epithelial tissues in Smad-deficient mice
TGF- β meeting in Uppsala (スウェーデン、ウプサラ) 2023 年 8 月
7. ○Etsu Tashiro, Daizo Koinuma, Kohei Miyazono, Susumu Itoh:Transcriptional regulation of the claudin 4 gene by TGF-b and its physiological role in EMT
TGF- β meeting in Uppsala (スウェーデン、ウプサラ) 2023 年 8 月
8. ○岡村知佳、高橋光花、小嶋将太、田代悦、鯉沼代造、宮園浩平、伊東進:TGF- β による Claudin4 遺伝子発現制御機構の解析
第 33 回新薬創製談話会「新薬創製に向けて～創発的学術融合・産学連携～」(京都) 2023 年 9 月
[岡村知佳 (令和 5 年度修士課程 1 年生)、高橋光花 (令和 5 年度卒業研究 5 年生) 小嶋将太 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]
9. ○内田吉美、中野なおこ、伊東史子、渡邊幸秀、武藤誠、加藤光保、伊東進:TMEPAI 遺伝子欠損による Wnt/ β -catenin シグナルを介した消化管腫瘍進展抑制

10. ○高橋光花、鈴木蒼由、岡村知佳、小嶋将太、國場慈乃、中野なおこ、鯉沼代造、宮園浩平、伊東進、田代悦 :TGF- β による Claudin4 遺伝子発現制御機構の解析
第 5 回がん三次元培養研究会（東京）2024 年 2 月
[高橋光花（令和 5 年度卒業研究 5 年生）、鈴木蒼由（令和 5 年度卒業研究 4 年生）、岡村知佳（令和 5 年度修士課程 1 年生）、小嶋将太（令和 5 年度卒業研究 5 年生）、國場慈乃（令和 5 年度卒業研究 4 年生）]

原著論文

1. Sayaka Imatsuji, Yukiko Ujie, Hiroyuki Odake, Masaya Imoto, Susumu Itoh, Etsu Tashiro: Cisplatin-induced activation of TGF- β signaling contributes to drug resistance.
Oncol Res., **32**, 139-150 (2023)

その他

特になし

活動概要・現状

生化学研究室は分子細胞生物学の技術を用いて、伊東進教授、田代悦准教授、中野なおこ講師、内田吉美特任助教の下で「TGF- β シグナル」分野研究を遂行しております。研究テーマとして TGF- β シグナル伝達機構の解明、TGF- β シグナル系の破綻と発がん、BMP シグナルによる軟骨分化の分子メカニズムの解明を中心に学部生と共に研究を精力的に行っています。

研究室のモットーである思いやりを持って、独立及び融和の精神に基づいた研究を遂行し、また本年度も週 1 回の実験報告会と週 1 回の文献紹介を通じて研究のアクティビティーを継続しております。昨年度に引き続き、伊東教授は *J. Biol. Chem.* と *Scientific Reports* の Editorial Board Member として活動しております。また、平成 29 年度より日本生化学会関東支部代議員、平成 30 年度より日本血管生物医学会、日本がん分子標的治療学会の評議員を務めております。加えて、田代准教授も日本がん分子標的治療学会の評議員を務めております。

引き続き昭和薬科大学発の原著論文の発表を目指しております。少しでも創薬につながる研究成果を出すために日夜研究室のメンバーと努力しております。

令和 5 年度に獲得した競争的研究資金

令和 5 年度東京医科歯科大学難治疾患共同研究拠点共同研究（伊東 進）

令和 5 年度科学研究費基盤 C（田代 悦）

自己点検・評価

生化学研究室発の研究成果としての原著論文が少ない状況です。

今後に向けて

研究室メンバーが一丸となり、競争的研究資金のさらなる獲得を目指し、次年度以降複数の原著論文を発表できるように心がけたい。

感染制御学分野

(12) 微生物学研究室 (Laboratory of Microbiology)

教授 金本 大成
准教授 浅井 大輔
講師 梶川 瑞穂

学会報告

○宮野佳、岡本秀一郎、梶川瑞穂、清原卓也、川井千景、山内明、栗林太：活性酸素生成酵素 NADPH オキシダーゼのパートナー分子 p22^{phox} の分解制御機構の解明

第 76 回日本酸化ストレス学会 (神戸) 令和 5 年 5 月

○宮野佳、川井千景、梶川瑞穂、山内明、岡本秀一郎、栗林太：食細胞 NADPH オキシダーゼのサブユニット p22^{phox} のミスセンス変異は、タンパク質安定性と Nox2 結合能を減弱し、慢性肉芽腫症を引き起こす

第 34 回日本生体防御学会 (京都) 令和 5 年 9 月

○遠藤友優、高橋英莉、梶川瑞穂、浅井大輔、霜鳥慈岳、金本大成：ブドウ球菌属特異的な抗菌効果を示す γ -アルキルラクトン

第 106 回日本細菌学会関東支部総会 (松戸) 令和 5 年 10 月

[遠藤友優 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)、高橋英莉 (令和 5 年度 6 年生)]

○宮野佳、梶川瑞穂：活性酸素生成酵素 NADPH オキシダーゼのタンパク質安定化機構の解明

第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸) 令和 5 年 12 月

○林桃花、河村橘花、千阪太聖、藤生朱音、梶川瑞穂、金本大成、浅井大輔：黄色ブドウ球菌感染を感知して薬効を発揮する徐放性ペプチド製剤の設計

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 6 年 3 月

[林桃花 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)、河村橘花 (令和 5 年度 6 年生)、千阪太聖 (令和 5 年度 6 年生)、藤生朱音 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

○藤生朱音、千阪太聖、林桃花、梶川瑞穂、金本大成、浅井大輔：緑膿菌分泌型プロテアーゼに応じた徐放性抗菌ペプチド製剤の開発

日本薬学会第 144 年会 (横浜) 令和 6 年 3 月

[藤生朱音 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)、千阪太聖 (令和 5 年度 6 年生)、林桃花 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

原著論文

Mizuho Kajikawa, Koya Kato, Hayato Takahashi, Seiya Kitajima, Yosuke Kusunoki, Mizuki Haga, Minako Kimura, Kei Miyano, Taisei Kanamoto: A basic charge cluster near the C-terminus of the cytoplasmic tail contributes to the molecular stability of human herpesvirus 8 E3 ubiquitin ligases.

Microbiol. Immunol., **67**, 293-302 (2023)

[加藤功也 (平成 27 年度卒業生)、高橋勇人 (平成 29 年度卒業生)、北島靖也 (平成 29 年度卒業生)、楠陽輔 (平成 30 年度卒業生)、芳賀瑞紀 (令和 2 年度卒業生)]

Yasutaka Shimotori, Narihito Ogawa, Shunki Mamada, Tetsuo Miyakoshi, Hiroyuki Masuda, Shiori Kitago, Takanori Shima, Daisuke Asai, Taisei Kanamoto: Synthesis, odour characteristics, and antimicrobial activity of optically active (Z)-7-decen-4-olide and its derivatives.

J. Oleo. Sci., **72**, 1037-1048 (2023)

Tungalag Battulga, Ayiguli Dagaerbieke, Chaolumen Bai, Daisuke Asai, Takuro Koshikawa, Hiromu Takemura, Kensuke Miyazaki, Takashi Yoshida: Electrostatic interaction between sulfated polysaccharides and oligopeptides from viral envelope glycoproteins using surface plasmon resonance.

Carbohydr. Res., **528**, 108815 (2023)

Keiko Terada, Daisuke Asai, Jeong-Hun Kang, Takeshi Mori, Yoshiki Katayama: Activated tyrosine kinase c-Src-responsive artificial gene carrier: in vitro and in vivo evaluation.

ChemistrySelect, **9**, e202303331 (2024)

総説

Jeong-Hun Kang, Daisuke Asai, Riki Toita: Bisphenol A (BPA) and cardiovascular or cardiometabolic diseases.

J. Xenobiot., **13**, 775-810 (2023)

招待講演

○金本大成：私が基礎研究を志した理由 基礎医学者へのターニングポイント 歯科医師の立場から

第 72 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、
第 70 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会（東京）令和 5 年 10 月

活動概要・現状

令和 5 年度の研究室メンバーの構成は、教員：教授、准教授、講師の各 1 名、計 3 名体制、学部学生 35 名：6 年次生 13 名（総合 8、臨床 5）、5 年次生 11 名（総合 7、臨床 4）、4 年次生 11 名（総合 4、臨床 7）であった。

総合コースの研究テーマとして、ブドウ球菌の病原性、新規抗菌物質探索、ウイルスの免疫回避機構という 3 つのテーマで研究活動を行った。新規抗菌物質探索においては昨年度に引き続き、北見工業大学天然物有機化学研究室との共同研究を行った。学内の研究発表会である第 14 回ハイテクリサーチ報告会において 6 年生の高橋英莉が優秀ポスター発表賞生物系第 3 位を、第 106 回日本細菌学会関東支部総会では 5 年生の遠藤友優が優秀発表賞を、日本薬学会第 144 年会では 5 年生の藤生朱音が学生優秀発表賞をそれぞれ受賞した。

臨床コースの学生は、各自が選んだ感染症免疫系疾患に関連したテーマで論文調査研究を行った。臨床コースゼミは、対面またはオンラインでおおむね週 1 回実施した。ゼミでは感染症や免疫疾患に関連した時事ニュースと下級年次での学修内容を繋ぐ解説講義とそれを基にした討議を実施した。

総合コースと臨床コースの合同ゼミを月 1 回、通年で実施した。合同ゼミでは、各コースからそれぞれ 1 名ずつが各々の卒業研究に関連する英語論文の解説をパワーポイントによるプレゼンテーション形式で行った後、全員で質疑応答の討議を行って理解を深めた。さらに教員が作成した微生物学、感染症学、免疫学に関連する国家試験形式の問題を学生が解説するという形式で実施した。

自己点検・評価

研究活動の成果としては、原著論文 4 報、総説 1 報と国内学会 6 題の発表であった。原著論文のうち 1 報は、共同研究を継続している北見工業大学との共著であった。学会発表のうち、3 題は研究室所属学生が卒業研究の成果発表したものであり、うち 2 題はそれぞれの学会の優秀発表賞を受賞した。卒業研究活動の中で、すべての学生に対して研究室内での発表機会を多く持たせたことと、それらの発表会では司会も学生に任せたことで学生が主体的に研究に向き合う機運が醸成されてきたと自負している。そして、このことが学会での受賞に繋がったのだと思う。総合・臨床合同のゼミで行っている問題演習では、学生が持ち回りで解説を担当することで国家試験形式の問題を解くだけでなく、それを人に教えることを学ぶ機会になっており、これからも継続していきたい。本研究室の今年度卒業生 13 名のうち 12 名が薬剤師国家試験に合格することができたのは、このような取り組みも貢献していると思われる。

今後に向けて

学内外の研究室との共同研究に積極的に取り組みたい。また、引き続き所属学生に学会での発表の機会を持たせたい。そして、状況を正しく認識して適切な対応ができる学生を養成できるよう今後とも研究室活動を充実させていきたい。

衛生薬学系

衛生化学分野

(13) 衛生化学研究室 (Health Chemistry)

教授 石井 功
准教授 赤星 軌征
助教 鎌田祥太郎
大学院生 D3 本多 彰宏

学会報告

○神保亮太、渋谷海、清水萌瑞、星井瑛介、篠塚大輝、梶原若、蘭光健人、赤星軌征、石井功：シアン解毒における相同的硫黄転移酵素 2 種の異なる役割

2023 年度日本生化学会関東支部例会 (東京)、令和 5 年 9 月
[神保亮太、渋谷海 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、
清水萌瑞、星井瑛介、篠塚大輝 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

○本多彰宏、宮脇瑛恵佳、藤田絢音、金子知央、鎌田祥太郎、石井功：C57BL/6J マウスを用いた NASH 病態モデルの短期作成

2023 年度日本生化学会関東支部例会 (東京)、令和 5 年 9 月
[本多彰宏 (令和 5 年度博士 3 年生)、
宮脇瑛恵佳、藤田絢音、金子知央 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)]

○鎌田祥太郎、本多彰宏、石川諒、赤羽真、藤田絢音、金子知央、宮脇瑛恵佳、垣生有希、椎山結、内井希恵、町田優衣、石井功：NASH 治験薬 3 種と PPAR $\alpha / \delta / \gamma$ 受容体との複合体結晶の構造解析

2023 年度日本生化学会関東支部例会 (東京)、令和 5 年 9 月
[本多彰宏 (令和 5 年度博士 3 年生)、石川諒 (令和 2 年度卒業研究 6 年生)、
赤羽真 (令和 3 年度卒業研究 6 年生)、
宮脇瑛恵佳、藤田絢音、金子知央 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、
垣生有希、椎山結、内井希恵、町田優衣 (令和 4 年度卒業研究 6 年生)]

○赤星軌征、長谷川凌花、山本真吾、竹本麟太郎、吉澤俊樹、梶原若、石井功：ハプテン誘導性大腸炎・接触皮膚炎における超硫黄分子産生酵素 2 種の異なる役割

2023 年度日本生化学会関東支部例会 (東京)、令和 5 年 9 月
[長谷川凌花 (令和 3 年度卒業研究 6 年生)、山本真吾 (平成 29 年度卒業研究 6 年生)、
竹本麟太郎、吉澤俊樹 (令和元年度卒業研究 6 年生)]

○石井功：シアン解毒における二つの硫黄転移酵素の役割

第 20 回生命科学研究会 (東京)、令和 5 年 10 月

○赤星軌征、金指充瑠、石井功：チオ硫酸硫黄転移酵素 TST (ロダネーゼ) のマウス組織分布

2023 年度日本薬学会第 144 年会 (横浜)、令和 6 年 3 月
[金指充瑠 (令和 5 年度卒業研究 5 年生)]

○丸山由莉、小泉舞果、赤星軌征、石井功：TST 欠損マウス、MPST 欠損マウス及び TST/MPST ダブル欠損マウスの行動解析

2023 年度日本薬学会第 144 年会 (横浜)、令和 6 年 3 月
[丸山由莉 (令和 5 年度卒業研究 6 年生)、小泉舞果 (令和 4 年度卒業研究 6 年生)]

○鎌田祥太郎、本多彰宏、金子知央、藤田絢音、宮脇瑛恵佳、渡瀬健太郎、小森優奈、島村歩実、八代清香、石井功：X 線結晶構造解析による 4 種 NASH 治験薬の核内受容体 PPAR $\alpha / \delta / \gamma$ への結合様式の比較

2023 年度日本薬学会第 144 年会 (横浜)、令和 6 年 3 月
[本多彰宏 (令和 5 年度博士 3 年生)、

宮脇瑛恵佳、藤田絢音、金子知央、渡瀬健太郎（令和5年度卒業研究6年生）、
小森優奈、島村歩実、八代清香（令和5年度卒業研究5年生）]

○八代清香、金子知央、藤田絢音、宮脇瑛恵佳、渡瀬健太郎、小森優奈、島村歩実、本多彰宏、鎌田祥太郎、石井功：各種 PPAR アゴニストによる PPAR $\alpha/\delta/\gamma$ への Coactivator 結合及び PPAR $\alpha/\delta/\gamma$ からの Corepressor 解離の同時測定

2023 年度日本薬学会第 144 年会（横浜）、令和 6 年 3 月
[八代清香、小森優奈、島村歩実（令和 5 年度卒業研究 5 年生）、
金子知央、藤田絢音、宮脇瑛恵佳、渡瀬健太郎（令和 5 年度卒業研究 6 年生）、
本多彰宏（令和 5 年度博士 3 年生）]

○本多彰宏、鎌田祥太郎、宮脇 瑛恵佳、藤田絢音、金子知央、田中伶奈、糞毛雪兒、星井瑛介、細田葵衣、今野翼、石井功：NASH 病態モデルマウスの短期作成

2023 年度日本薬学会第 144 年会（横浜）、令和 6 年 3 月
[本多彰宏（令和 5 年度博士 3 年生）
宮脇瑛恵佳、藤田絢音、金子知央（令和 5 年度卒業研究 6 年生）、
星井瑛介（令和 5 年度卒業研究 5 年生）
田中伶奈、糞毛雪兒、細田葵衣、今野翼（令和 5 年度卒業研究 4 年生）]

原著論文

Qamarul Hafiz Zainol Abidin, Tomoaki Ida, Masanobu Morita, Tetsuro Matsunaga, Akira Nishimura, Minkyung Jung, Naim Hassan, Tsuyoshi Takata, Isao Ishii, Warren Kruger, Rui Wang, Hozumi Motohashi, Masato Tsutsui, Takaaki Akaike: Synthesis of sulfides and persulfides is not impeded by disruption of three canonical enzymes in sulfur metabolism.

Antioxidants 12, 868 (2023)

Shotaro Kamata, Akihiro Honda, Ryo Ishikawa, Makoto Akahane, Ayane Fujita, Chihiro Kaneko, Saeka Miyawaki, Yuki Habu, Yui Shiiyama, Kie Uchii, Yui Machida, Takuji Oyama, Isao Ishii: Functional and structural insights into the human PPAR $\alpha/\delta/\gamma$ targeting preferences of anti-NASH investigational drugs, lanifibranor, seladelpar, and elafibranor.

Antioxidants 12, 1563 (2023)

[本多彰宏（令和 5 年度博士 3 年生）、石川諒（令和 2 年度卒業研究 6 年生）、
赤羽真（令和 3 年度卒業研究 6 年生）、
藤田絢音、金子知央、宮脇瑛恵佳（令和 5 年度卒業研究 6 年生）、
垣生有希、椎山結、内井希恵、町田優衣（令和 4 年度卒業研究 6 年生）]

Sumeet Manandhar, Stephen Chambers, Andrew Miller, Isao Ishii, Madhav Bhatia: Pharmacological inhibition and genetic deletion of cystathionine gamma-lyase in mice protects against organ injury in sepsis: A key role of adhesion molecules on endothelial cells.

Int. J. Mol. Sci., 24, 13650 (2023)

Shotaro Kamata, Akihiro Honda, Nonoka Kashiwagi, Ayumi Shimamura, Sayaka Yashiro, Yuna Komori, Aoi Hosoda, Noriyuki Akahoshi, Isao Ishii: Different coactivator recruitment to human PPAR $\alpha/\delta/\gamma$ ligand-binding domains by eight PPAR agonists to treat nonalcoholic fatty liver disease.

Biomedicines, 12, 624 (2024)

[本多彰宏（令和 5 年度博士 3 年生）、柏木野花（令和 4 年度卒業研究 6 年生）、
島村歩実、八代清香、小森優奈（令和 5 年度卒業研究 5 年生）、
細田葵衣（令和 5 年度卒業研究 4 年生）]

総説

Shotaro Kamata, Akihiro Honda, Isao Ishii: Current clinical trial status and future prospects of PPAR-targeted drugs for treating nonalcoholic fatty liver disease.

Biomolecules, 13, 1264 (2023)

Kazuo Kajita, Isao Ishii, Ichiro Mori, Motochika Asano, Masayuki Fuwa, Hiroyuki Morita: Sphingosine 1-phosphate regulates obesity and glucose homeostasis.

Int. J. Mol. Sci., 25, 932 (2024)

活動概要・現状

研究室始動より 8 年目となった本年度の構成は、教員 3 名、博士課程 3 年生 1 名、6 年生 12 名（総合 10 臨床 2）、5 年生 13 名（総合 10 臨床 2 情報 1）、4 年生 8 名（総合 8）、研究補助員 1 名の計 38 名であった。PPAR 関係の論文はそれなりにコンスタントに発表できているが、遺伝子改変マウスの論文発表は来年度に持ち越しとなっている。競争的研究資金の獲得は、石井の学術変革公募 A（2022-2023 代表）と鎌田の科研費若手 B（2022-2024 代表）の 2 件に留まった。社会活動として、石井は日本生化学会評議員、日本薬学会関東支部幹事、J. Biochem. 誌 Advisory board、Antioxidants 誌 / Arch. Pharm. Res. 誌 / BPB Report 誌の Editorial board を務めた。院生の本多は日本薬学会長井記念薬学研究奨励支援事業による助成（2 年目）を受けた。また、6 年生の渋谷海による本学第 14 回ハイテクリサーチセンター報告会でのポスター発表が生物系第 2 位に選ばれ、5 年生の八代清香による日本薬学会第 144 年会でのポスター発表が学生優秀発表賞を受賞した。

自己点検・評価

研究に関しては、頑張った自覚がある割に成果は今ひとつで、よりスピーディーに成果発信したいところである。教育に関しては、6 年生 12 名全員が無事国試合格できたため、一応の責任を果たしたつもりである。

今後に向けて

令和 6 年度は、遺伝子改変マウスの論文をインパクトの高い雑誌に発表する。また、我々の PPAR 研究は（New England Journal of Medicine 誌に引用されるなど）それなりに世界で認知されてきているが、新規に見出した PPAR 活性制御システムについて発表し、その真価を世に問う。

社会薬学系 (Division of Social Pharmacy and Public Health)

社会薬学分野

(14) 社会薬学研究室 (Social Pharmacy and Regulatory Science)

教授 宮崎 生子
准教授 庄野 あい子
大学院生 D1 近藤 大雅
 中國 正祥
 D3 静谷 敏幸
 D4 齋藤理枝子
 田中 江子
 八鍬 奈穂

学会報告

- 平澤 孔生、庄野 あい子、宮崎 生子：新規抗うつ薬における潜在的な横紋筋融解症リスク検討
第 25 回日本医薬品情報学会 総会・学術大会（京都）令和 5 年 6 月
[平澤 孔生（令和 5 年度卒業研究 6 年生）]

- 藤沢 知聡、庄野 あい子、宮崎 生子：地域の薬剤師による公衆衛生プログラムの情報提供の可能性の検討
第 25 回日本医薬品情報学会 総会・学術大会（京都）令和 5 年 6 月
[藤沢 知聡（令和 5 年度卒業研究 6 年生）]

- 八鍬 奈穂、村島 温子、宮崎 生：妊娠と薬情報センターを活用した妊娠中の医薬品の適正な使用における臨床情報の充実に向けた研究
第 9 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム（東京）令和 5 年 9 月
[八鍬 奈穂（令和 5 年度大学院 4 年生）]

- 串田一樹、山本 健、廣原正宜、宮崎生子：会員・非会員の時代から、薬局間連携の時代に向けて～地域包括ケアを支える上で薬局の任務を考える～
日本社会薬学会第 41 年会（東京）令和 5 年 9 月

- 庄野 あい子、星 淑玲、近藤 正英：50 歳以上成人の帯状疱疹ワクチンの接種選好に関する研究
第 82 回日本公衆衛生学会総会（つくば）令和 5 年 10 月 - 11 月

- 串田一樹、廣原正宜、宮崎生子：薬局調査【薬菌】から見える在宅がん緩和ケアにおける薬局の機能分化と連携
第 33 回日本医療薬学会年（仙台）令和 5 年 11 月

- 庄野 あい子、星 淑玲、近藤 正英：自治体における 2022 年度帯状疱疹ワクチン接種助成の実態：
第 94 回日本衛生学会学術総会（鹿児島）令和 6 年 3 月

- 宮内 利佳、稲野 寛、森元 能仁、北川 遼、渋谷 映人、中込 梢、太田 智博、安藏 優里、庄野 あい子、廣原 正宜、尾鳥 勝也、渡部 一宏：シスプラチンベース化学療法による悪心・嘔吐のリスク因子解析 - シスプラチン投与 168 時間後までの解析 -
日本薬学会第 144 年会（横浜）令和 6 年 3 月

- 串田 一樹、廣原 正宜、宮崎 生子：働き方改革推進における薬剤師のタスクシェア～在宅医療における多職種連携～
日本薬学会第 144 年会（横浜）令和 6 年 3 月

依頼・招待講演等

- 宮崎 生子：薬学教育モデル・コアカリキュラムとプライマリ・ケア

原著論文

Koko Tanaka, Maki Matsuhama, Rieko Saito, Seiko Miyazaki :Consideration on Promoting Pharmacopoeial Harmonization from a Case Study of the Preparation and Revision Process of the Japanese Pharmacopoeia Jpn.

J. History Pharm., 58, 26-35 (2023)

[田中 江子 (令和5年度大学院4年生)]

Rieko Saito, Seiko Miyazaki: Analysis of safety specifications in risk management plan at the time of drug approval and addition of clinically significant adverse reactions in the package insert post-approval in Japan.

Pharmacol. Res. Perspect., 11 e01110. (2023)

[齋藤理枝子 (令和5年度大学院4年生)]

Toshiyuki Shizuya, Seiko Miyazaki : Comparison of addition of indications for antineoplastic agents approved in the United States and Japan from 2001 to 2020.

Biol. Pharm. Bull., 46, 987-996 (2023)

[静谷 敏幸 (令和5年度大学院3年生)]

Naho Yakuwa, Atsuko Murashima, Seiko Miyazaki: Investigation on the accumulation of background and pregnancy outcome information on cases consulted by the Japan Drug Information Institute in Pregnancy.

Congenital Anomalies., 64, 6-16 (2024)

[八鍬 奈穂 (令和5年度大学院4年生)]

著書

宮崎 生子：健康被害救済制度

薬事関連法規・制度解説 2023-24年版、薬事衛生研究会（編）、薬事日報社、東京、2023、pp.277-292.

宮崎 生子：医薬品の安全性評価

図解 薬害・副作用学 改訂3版、川西 正祐他（編）、南山堂、東京、2023、pp.58-73.

活動概要・現状

今年度は、職員2名、学部学生13名（4年次生4名、5年次生3名、6年次生6名）、大学院生6名（大学院1年生2名、大学院3年生1名、大学院4年生3名）とともに研究活動を行った。

研究内容は、主として「レギュラトリーサイエンス」をテーマとした。学会にて配属学部学生2名が筆頭演者として発表を行い、また、配属大学院生1名が筆頭演者発表を行った。更に、配属大学院生5名の研究成果は各々が筆頭著者として英語原書論文を投稿し、うち4件については採択され掲載された。また、1名は3年で、2名は3年6か月で学位（博士）を早期取得し卒業することができた。

外部資金として、科学研究費補助金・基盤C（代表・庄野 継続）を得た。

学外活動として、宮崎は日本薬史学会理事、日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会常任世話人、日本社会薬学会理事、レギュラトリーサイエンス学会事務局担当会員等を務め、新たな学問領域の発展を目指し企画、模索した。

自己点検・評価

令和5年度は、大学院生の人数も増えて活発に研究活動を実施し、配属学部学生についても学会で成果を発表することができ、研究室の活動は順調に進んだ。また、成育医療研究センターとの共同研究については、妊娠と薬情報センターに加え、令和5年度から小児医療情報収集システムのデータベースを用いた研究にも広がり発展した。配属大学院生の研究成果も英語原著論文にて発表できるなど、ドライ研究活動はしっかりと軌道に乗り、充実させることが出来たと考えている。

今後に向けて

成果をおさめて来ている研究について来年度は更に発展していく予定であり、成育医療研究センターとの

共同研究である小児薬物療法の副作用重篤化低減に資する研等、本研究室の成果を英語原著論文等として報告していく予定である。成育医療研究センターとの共同研究を持続的に推進していくことは、今後、留意すべき課題であると考えます。

臨床薬学教育研究センター

(Center for Education and Research on Clinical Pharmacy)

臨床薬学分野

(15) 実践薬学部門

教授 廣原 正宜
教授 渡部 一宏
講師 廣澤 伊織
講師 山本 健
講師 森元 能仁
助教 神林 弾

学会報告

- 神林弾, 間辺利江, 間辺広樹, 川出義浩, 藤倉雄二, 工藤宏一郎: 人々の感染回避行動の意思決定を支援するスマートフォン向けアプリの開発への取り組み
第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会, 第 71 回日本化学療法学会学術集会合同学会 (横浜)
令和 5 年 4 月
- 神林弾, 間辺利江: COVID-19 に関する Twitter 情報と感染者数との関連についての検討
第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会, 第 71 回日本化学療法学会学術集会合同学会 (横浜)
令和 5 年 4 月
- 間辺利江, 間辺広樹, 神林弾, 川出義浩, 藤倉雄二, 工藤宏一郎: 疾病集積性による COVID-19 アウトブレイクパターンの検証と流行予測の検討
第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会, 第 71 回日本化学療法学会学術集会合同学会 (横浜)
令和 5 年 4 月
- 串田一樹, 白石丈也, 今城宏文, 武田浪弘, 廣原正宜: 在宅がん緩和ケアにおける医薬品提供体制の実態と課題
第 16 回日本緩和医療薬学会年会 (神戸) 令和 5 年 5 月
- 今城宏文, 廣原正宜, 串田一樹: 在宅医療における薬剤師の診察前訪問の取り組み
第 5 回日本在宅医療連合学会大会 (新潟) 令和 5 年 6 月
- 串田一樹, 山本健, 廣原正宜, 宮崎生子: 無菌製剤処理加算届出薬局の現状と課題～会員・非会員の壁を超えた薬局間連携の推進に向けて～
第 20 回 HIP 研究会フォーラム (つくば) 令和 5 年 8 月
- 串田一樹, 廣原正宜, 山本健, 宮崎生子: 会員・非会員の時代から, 薬局間連携の時代に向けて～地域包括ケアを支える上で薬局の任務を考える～
日本社会薬学会第 41 年会 (東京) 令和 5 年 9 月
- 串田一樹, 白石丈也, 杉浦伸哉, 小原道子, 廣原正宜: 薬局調査から見える小児在宅医療への薬剤師・薬局のかかわりと課題
第 12 回日本小児在宅医療支援研究会学術集会 (さいたま) 令和 5 年 9 月
- 串田一樹, 白石丈也, 山本健, 廣原正宜, 杉浦伸哉, 小原道子, 宮崎生子: 在宅がん緩和ケア・小児在宅医療における注射薬供給態勢の課題
第 19 回日本在宅静脈経腸栄養研究会 (大阪) 令和 5 年 10 月
- Yoshihiro Kawade, Dan Kambayashi, Hiroki Manabe, Toshie Manabe: Changes for disease clusters of COVID-19 cases in a central region of Japan.

○Hiroki Manabe, Toshie Manabe, Yoshihiro Kawade, Dan Kambayashi, Yuuki Honda, Yoshiki Manabe: Prediction of COVID-19 outbreak of Japan based on simple mathematical model.

27th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Singapore) 令和5年11月

○稲野寛, 森元能仁, 北川遼, 渋谷映人, 中込梢, 太田智博, 安藏優里, 宮内利佳, 庄野あい子, 渡部一宏, 尾島勝也: NK₁受容体拮抗薬ホスネツピタントのホスアプレピタント及びアプレピタントに対する有効性・安全性に関する比較検討

第21回日本臨床腫瘍学会学術集会(名古屋) 令和6年2月
[宮内利佳(令和5年度卒業研究5年生)]

○森元能仁, 山本健, 廣澤伊織, 神林弾, 田島紳介, 小林庸子, 吉田正, 渡部一宏, 廣原正宜: 臨床薬学教育におけるVR動画教材の開発と導入

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○斎藤隆介, 高橋葉月, 杉浦由崇, 小橋紀子, 山本健, 廣原正宜, 宮崎生子, 串田一樹: 薬局におけるコロナウイルス感染症対策のこれまでとこれから

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○宮内利佳, 稲野寛, 森元能仁, 北川遼, 渋谷映人, 中込梢, 太田智博, 安藏優里, 庄野あい子, 廣原正宜, 尾島勝也, 渡部一宏: シスプラチンベース化学療法による悪心・嘔吐のリスク因子解析 - シスプラチン投与168時間後までの解析 -

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月
[宮内利佳(令和5年度卒業研究5年生)]

○串田一樹, 廣原正宜, 宮崎生子: 働き方改革推進における薬剤師のタスクシェア~在宅医療における多職種連携~

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○寺田大輝, 関下禪美, 廣原正宜, 宮崎生子, 串田一樹: 施設入所者に対する薬局薬剤師の診療同行の意義

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○三谷徳昭, 串田一樹, 廣原正宜: 無菌調剤設備を持たない薬局の終末期在宅医療における薬局連携の形

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○内山敬亮, 森元将郎, 廣原正宜, 宮崎生子, 串田一樹: 在宅医療における医療安全の視点からの処方適正化について

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○沼倉貴史, 中村俊貴, 坂本岳志, 境美智順, 木村雅彦, 廣原正宜, 宮崎生子, 串田一樹: 茨城県における無菌製剤処理加算届出薬局の実態調査からみえた地域連携薬局の現況

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

○眞壁聡, 眞壁裕子, 廣原正宜, 宮崎生子, 串田一樹: 在宅がん緩和ケアにおける薬局の機能分化と薬局間連携

日本薬学会第144年会(横浜) 令和6年3月

原著論文

Yoshihito Morimoto, Ken Yamamoto, Iori Hirosawa, Dan Kambayashi, Shinsuke Tajima, Yoko Kobayashi, Tadashi Yoshida, Kazuhiro Watanabe, Masayoshi Hirohara: Development and use of virtual reality video educational materials in clinical pharmacy education: a questionnaire-based feasibility study

Japanese Journal of Community Pharmacy, 11, 59-70 (2023)

山本健, 大室弘美, 猿渡淳二, 山本美智子: 「機能性表示食品」の表示に対するコミュニケーションインデックスの開発と評価

医薬品情報学, 25, 76-82 (2023)

Hiroshi Inano, Yoshihito Morimoto, Kanata Kitagawa, Akito Shibuya, Kozue Nakagomi, Tomohiro Ota, Yuri Anzo, Rika Miyauchi, Aiko Shono, Kazuhiro Watanabe, Katsuya Otori. Comparing the Efficacy of Fosnetupitant, an NK₁ Receptor Antagonist in CDDP-Based Regimens, With that of Fosaprepitant and Aprepitant: A Retrospective Observational Study.

Biological and Pharmaceutical Bulletin, 47, 692-697 (2024)

[宮内利佳 (令和5年度卒業研究5年生)]

Kaori Matsumoto, Yoshihito Morimoto, Junichiro Wakatsuki, Daiki Sakuma, Keiko Mukouyama, Masayuki Inoue, Ayako Kimura, Iori Hirosawa, Kazuhiro Watanabe Effect of perioperative docetaxel-induced limb edema on health-related quality of life in patients with early-stage breast cancer: a prospective observational study.

YAKUGAKU ZASSHI, in press, (2024)

土肥弘久, 大和幹枝, 伊藤俊将, 水谷顕洋, 廣澤伊織, 松野純男, 長南謙一, 宮崎美子: 薬局・病院実務実習を経験した5年次生へアカデミック・ディテリングを応用した分野横断型授業の実践による症例検討に対する教育効果の検証

薬学教育, 7, 1-8 (2023)

紀要

長谷川仁美, 宇都宮郁, 野崎真由佳, 清水満里奈, 天野奈津子, 井上能博, 宇都口直樹, 菊池千草, 山本健, 吉永真理, 岸本成史: 昭和薬科大学薬学生のルーブリックを用いた自己評価によるディプロマ・ポリシー達成度の可視化

昭和薬科大学紀要, 58, 38-52 (2024)

Proceedings

Yoshihiro Kawade, Dan Kambayashi, Hiroki Manabe, Toshie Manabe: Changes for disease clusters of COVID-19 cases in a central region of Japan.

Respirology, 28(Suppl 4), 192-193 (2023)

Hiroki Manabe, Toshie Manabe, Yoshihiro Kawade, Dan Kambayashi, Yuuki Honda, Yoshiki Manabe: Prediction of COVID-19 outbreak of Japan based on simple mathematical model.

Respirology, 28(Suppl 4), 192 (2023)

依頼・招待講演, シンポジウム等

○森元能仁: 薬学部における Virtual Reality 技術を活用した臨床準備教育

第26回日本地域薬局薬学会年会 (町田) 令和5年7月

○渡部一宏: 「これから求められる薬剤師のスキル」 ワクチン職域接種の後方支援と薬学教育

第26回日本地域薬局薬学会年会 (町田) 令和5年7月

○森元能仁: 薬学教育における Virtual Reality 教材の応用と今後の可能性

第20回HIP (Home Infusion Pharmacy) 研究会フォーラム (つくば) 令和5年8月

○渡部一宏: 薬学部設置の必要性を考える～薬剤師確保による多方面への効用～

沖縄県 令和5年度沖縄県内国公立大学薬学部設置シンポジウム (那覇) 令和6年3月

総説

渡部一宏: 院内製剤の市販化に至るまでのプロセスと課題 メトロニダゾール外用剤の薬事承認を経験して
中毒研究, 36, 355-359 (2023)

研究室活動短報

廣原正宜

教育は、5年次「病院・薬局実務実習」、3年～4年次「実務実習事前学習」、2年次「臨床薬学Ⅰ」の講義・演習・実習を担当した。研究は、高齢・多死社会の到来に向けて在宅医療に関する研究を行っている。薬学共用試験では、本学のOSCEの企画・運営、申請資料作成に携わった。また、他大学のモニター業務や評価を行った。学外活動は、関東地区調整機構の大学委員、今年度から指導薬剤師養成小委員会委員長および神奈川県薬剤師会実務実習委員として、実務実習が円滑に行われるように他の委員と共に企画・運営、アドバンスワークショップの企画に携わった。障がい者・児（四肢や重症心身など）が参加している「町田Lien（ポッチャ）」に学生と共に参加することができた。

渡部一宏

本年度の教育活動は、6年次「臨床試験の評価」、5年次「医薬開発特論Ⅰ」、3年次「臨床統計学」1年次「薬学への招待」の講義及び5年次「病院・薬局実務実習」、4年次の「実務実習事前学習（事前実習）」の実習指導を担当した。研究活動は、学部配属学生の卒業論文研究指導にあたった。社会活動として、自身が開発に携わったメトロナダゾールゲル（ロゼックス[®]ゲル0.75%）の医薬品適正使用に向けた情報活動を行った。その他、日本乳癌学会理事、日本医療薬学会代議員、関東地区調整機構大学委員、認定特定非営利活動法人健康医療評価研究機構学術諮問委員等の役職を務めた。引き続き教育、研究及び社会活動においても尽力していきたい。

廣澤伊織

本年度の教育活動は、4年次の「臨床実習事前学習」及び5年次「病院・薬局実務実習」の運営・実施を主とし、2年次「臨床薬学Ⅰ」、5年次の「医薬開発特論Ⅱ」の一部授業および6年生の演習などを行った。また、新たに5年次の「医薬開発特論Ⅰ」およびの一部を担当した。学内実習に関しては昨年度と同様の内容であったが、学生の実技修得を促すため、動画作成など導入した。卒業研究に関しては、学生の希望を取り入れながら実施した。1名はアドバンス実務実習を選択し、病院と連携を図りながら、学生の研修活動をサポートした。来年度は薬局研修を再開し、医療現場の現状を学びつつ、研究に転換していきたい。

山本健

本年度の教育活動は、4年次「臨床実習事前学習」及び5年次「病院・薬局実務実習」の円滑な運営を主とし、2年次「臨床薬学Ⅰ」および6年次「専門薬剤師」の一部講義を担当した。研究活動としては、患者向け医薬品情報のあり方について日々検討を行っている。今後は、上記活動に加え、臨床現場での資質維持研修等を通し、得られた知見を臨床教育及び研究に結び付けられればと考えている。社会活動として、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおけるタスクフォースやスポーツファーマシストとして相談応需した。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム-令和4年度改訂版-が策定され、本学における臨床教育の転換期を迎える。臨床能力の高い薬剤師を輩出するためのカリキュラムを関係教員・委員会等と連携し、構築していきたい。

森元能仁

本年度の教育活動は、4年次「分子病理学」、「薬物治療評価学」の講義と1年次「早期体験学習」の薬局・病院見学、4年次の「臨床実習事前学習」、5年次「病院・薬局実務実習」を担当した。実務家教員として杏林大学医学部附属病院での資質維持研修を継続して行い、自身の薬剤師スキル・知識の維持・向上だけでなく、共同研究を行うことができた。共同研究で開発した教材を本学の学生教育へ応用することができた。

研究活動では臨床現場との共同研究を原著論文として複数報発表することができた。今後も実務家教員として臨床・教育・研究の3本柱をバランスよく維持・発展させていきたい。

神林弾

本年度の教育活動は主に、4年次の臨床実習事前学習、5年次の病院・薬局実務実習、6年次の多職種連携授業運営委員を担当した。また本学および町田市薬剤師会共催での生涯学習講座の企画・運営（3回/年）を行った。研究活動では、国内医学系学会での発表、および国際学会にて共同演者として成果を発信することができた。社会活動では、日本社会薬学会代議員、日本薬育研究会監事、日本薬剤師会生涯学習委員会Webテスト試験問題作成小委員会委員、全国薬剤師・在宅療養支援連絡会調査研究委員会委員等を務めた。

研究・教育活動、社会活動について新たな取り組みも見据え、実務家教員として貢献できるよう尽力していきたい。

自己点検・評価

研究成果を教員だけでなく学生も含め、学会発表や論文投稿に繋げることができた。また、担当している講義も学生からの意見も取り入れるなど毎年ブラッシュアップしており、教育の質の向上に努めている。本部門の主たる活動として、4年次臨床実習事前学習及び5年次臨床実習の企画・運営があるが、実務実習委員会や関連委員会と協働し、円滑に実施することができた。

今後に向けて

各教員が進めている研究成果を学会および論文発表に繋げ、そして多くの学生に学会発表の経験を積ませたい。また、所属学生への教育支援を行い、特に薬剤師国家試験に全員合格できる様に個別対応を行いたい。令和6年度から改訂される薬学教育モデル・コア・カリキュラムでは、生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を掲げた学修成果基盤型教育（OBE）を柱とし、今まで以上に臨床薬学の領域に重点が置かれる。担当科目の見直しを行い、教育内容の充実・質の向上を目指したい。

(16) 応用薬物治療部門 (Laboratory of Applied Therapeutics, Center for Education & Research on Clinical Pharmacy)

教授 濱本 知之
教授 増田 豊
講師 高木 彰紀

学会報告

○川上準子、及川香代、万城目海人、渡邊拓也、星憲司、林誠一郎、濱本知之、浜田康次、佐藤憲一：多剤処方副作用対策支援のため AI_SOM と POLSET を連携した処方解析と安全性評価

第9回日本医薬品安全性学会学術大会（東京）、2023年7月

○安島秀友、美馬朱美、杉本涼佳、櫻井雄太、横山絢香、高木彰紀、廣原正宜、松崎貴志：病院実務実習生に対する継続的な論文解説実習が批判的吟味スキル向上に与える影響

第33回日本医療薬学会年会（仙台）、2023年11月

原著論文

高木彰紀、増田 豊、濱本知之：深層学習を用いた薬局実務実習の支援必要度の早期予測

YAKUGAKU ZASSHI, 143(8), 647-653 (2023)

活動概要・現状

所属する学生は、6年次9名、5年次9名、4年次8名（6年次1名が総合薬学コース、それ以外は臨床薬学コース）である。

・教育活動

担当科目：1年次「早期体験学習」（解剖実習担当）、3年次「臨床薬学Ⅱ」、4年次「薬物治療評価学」、「前期実務実習事前学習Ⅰ」、「後期実務実習事前学習Ⅱ」、「総合実習」、「多職種連携セミナー」、「CBT対策講義」、5年次「病院実務実習」指導、6年次「患者情報」、6年次留年生補講・臨床薬学特論・演習、6年次最終総合講義、6年次「アドバンスト実務実習」指導

・研究活動

基礎研究として、ピグアナイド系糖尿病治療薬メトホルミンによるがん増殖抑制の分子メカニズムについて、甲状腺がん細胞株を用いて検討している。また、がん細胞がアポトーシスで死滅してゆく現象に着目し、がん細胞に対してアポトーシスを誘導する物質の探索をしている。アポトーシスの誘導物質は主に天然物や生薬から抽出し、その誘導メカニズムについての解析も行っている。

その他の研究として、国家試験問題の解析、より良い実務実習を実現するための研究、AI技術の利活用方法に関する研究を行っている。

医療現場の問題点を解決するための研究、医薬品の適正使用に関する研究などを行うために、医療施設

との連携を深めている。その中で、実務家教員の資質維持向上研修の研修先とも共同研究を行っている。

自己点検・評価

今年度は、研究室のテーマについての論文発表を行うことが出来た。また、医療施設との共同研究によっても研究成果を学会発表することが出来た。一方で、所属卒業研究学生の研究テーマについては学会発表や学生による発表、論文発表をすることは出来なかった。

今後に向けて

3名の教員で協力して、臨床薬学教育研究センターとしての教育や業務、当部門としての教育に当たると共に、研究活動についてもさらに学会発表や論文発表、特に所属卒業研究学生の研究テーマについての学会発表や論文発表が行えるように取り組んでいきたい。

(17) 医薬品情報部門 (Laboratory of Drug informatics)

教授 長南 謙一
准教授 土肥 弘久
助教 大和 幹枝

学会報告

○大矢梨央、高田満雄、小澤知博、大和幹枝、土肥弘久、長南謙一：新型コロナワクチン接種者に対する投与後調査

第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会（京都）令和5年6月

○吉岡大輝、飯島志織、大和幹枝、土肥弘久、長南謙一：服薬支援機器「服薬BOX」を使用した服薬状況調査－薬学生版、第2報－

第17回日本薬局学会学術大会（名古屋）令和5年10月

○土肥弘久、大和幹枝、伊藤俊将、水谷顕洋、廣澤伊織、松野純男、長南謙一、宮崎美子：薬局・病院実務実習を経験した5年次生を対象とした分野横断型授業の実践による症例検討に対する教育的効果の検証

日本薬学会第144年会（横浜）令和6年3月

○大和幹枝、松野純男、土肥弘久、長南謙一：統計学への意識改善につながる要因の探索：若手薬剤師の教育プログラム開発に向けて

日本薬学会第144年会（横浜）令和6年3月

原著論文

土肥弘久、大和幹枝、伊藤俊将、水谷顕洋、廣澤伊織、松野純男、長南謙一、宮崎美子：「薬局・病院実務実習を経験した5年次生へアカデミック・ディテールリングを応用した分野横断型授業の実践による症例検討に対する教育効果の検証」

薬学教育,7,1-8,(2023)

松田一将、長南謙一：「HPVワクチン「積極的な接種勧奨を差し控える」に関しての市民への情報提供状況 - 全国市町村のホームページ調査 -」

医学評論,124,52-61,(2023)

橋本貴尚、吉田直人、赤川美咲、長南謙一：「被害を受けた彼女たちに何が起きたのか - 現役薬学生、副反応被害者の現状を聞く -」

医学評論,124,44-51,(2023)

活動概要・現状

本年度は、学部学生26名（6年次生：9名、5年次生：8名、4年次生：9名）が在籍し、教育・研究活動

を行った。

教育活動として、4年次の「医薬品情報学（薬物治療に役立つ情報）」を主担当し、その他、4年次「薬物治療評価学」、5年次「医薬開発特論Ⅱ（アカデミック・ディテリングを学ぶ）」、6年次「専門薬剤師を目指して」の講義やSGDチューターを行った。実習関係では、3年～4年次の「実務実習事前学習」、5年次「病院・薬局実務実習」を担当した。また、多職種連携セミナーでは、東海大学（5月）、杏林大学（7月）、聖マリアンナ医科大学（9月）、東京大学（11月）にて運営委員やファシリテーターなどで参加した。

学外での活動としては、長南がHPVワクチン薬害訴訟全国支援ネットワーク代表世話人、HPVワクチン名古屋訴訟支援ネットワーク代表世話人としてHPVワクチンの副作用で苦しんでいる患者と家族の支援活動に参加した。

土肥准教授は、引き続き日本薬学会の会誌ファルマシアの地区通信委員と神奈川工科大学の非常勤講師として講義を担当している。

大和助教が日本社会薬学会の代議員、学術委員と健康医療評価研究機構主催の第13回臨床研究てらこ屋【事前学習コンテンツ+来場型】ファシリテーターを担当した。

研究活動としては、引き続き服薬支援機器関連、薬害関連、計算化学を用いた医薬品の副作用予測、若手薬剤師向けの統計学の教育プログラム開発などの研究活動をおこなった。

自己点検・評価

研究面では、原著論文3報、学会発表4報であった。引き続き、学生の卒業研究成果を学会にて2演題発表させることができた。また、卒業研究を論文発表させることができた。

当学教育改革助成と神奈川県薬剤師会薬学研究補助金を取得したため、それらの成果を論文発表し、成果を広く世の中に発信していきたい。

教育面では、医薬品情報の収集、解析、評価をできる知識や技能が身に付くよう、講義や実習を行っている。しかしながら、実務実習施設との意見交換会などから、全ての学生が知識や技能を実務実習先などで十分に活用できているとは言い難いと思われる。今後は、授業アンケートなどを用い、授業理解度に関する調査などをおこなっていきたい。

今後に向けて

教育活動に多くの時間を割いており、研究時間は限られているのが現状である。しかし、引き続き、原著論文作成、学会発表などの研究活動にも積極的に取り組んでいきたい。そして、より多くの学生に学会発表を経験させたい。

そして、次年度も積極的に内部・外部資金獲得に取り組んでいきたい。2024年度から新コアカリキュラムが開始する。薬剤師教育にとって、ますます重要となる医薬品情報や薬物治療において、教育・研究両面から尽力していきたいと考えている。

(18) 地域医療部門 (Laboratory of Community Medicine)

教授 菊池 千草
助教 梶 江里香

学会報告

- 菊池千草： シンポジウム1「これから求められる薬剤師のスキル」薬局で行うロコモ予防活動
第26回日本地域薬局薬学会年会（町田）令和5年7月
- 亀澤希歩、梶江里香、菊池千草：薬局の健康サポート業務としての歩行姿勢指導プログラムの開発
第26回日本地域薬局薬学会年会（町田）令和5年7月
- 谷健一朗、梶江里香、菊池千草：長期にわたる電子お薬カレンダーによる服薬支援が有用であった3症例
第26回日本地域薬局薬学会年会（町田）令和5年7月
- 横井杏葉、堀英生、水野正子、水野紀、浅井治行、山田葉子、三宅宏季、石川友康、供田将志、菊池千草、鈴木匡： 薬剤師と多職種間の在宅報告書のカテゴリ分析による情報共有の活性化に関する調査研究
第33回日本医療薬学会年会（仙台）令和6年11月

○榎江里香、岡田郁奈、菊池千草：OTC医薬品販売における外国語対応の現状調査

日本薬学会第144年会（横浜）令和6年3月

○菊池千草、中村真未、赤川圭子：オーストラリア薬局薬剤師の現状から見た日本の薬局の課題

日本薬学会第144年会（横浜）令和6年3月

原著論文

Masato Noda, Chigusa Kikuchi, Ryota Tarui, Takashi Nakamura, Takayo Murase, Tamihide Matsunaga: Effects of Xanthine Oxidoreductase Inhibitors on Reactive Oxygen Species Produced in vitro from Xanthine Oxidase

BPB Reports, 6, 189-192 (2023)

Masato Noda, Chigusa Kikuchi, Eisei Hori, Takahiro Iwao, Chie Nagami, Masayoshi Takeuchi, Tamihide Matsunaga: Effect of anagliptin on vascular injury in the femoral artery of type 2 diabetic rats

Biol. Pharm. Bull., 47, 204-212 (2024)

長谷川仁美、宇都宮郁、野崎真由佳、清水満里奈、天野奈津子、井上能博、宇都口直樹、菊池千草、山本健、吉永真理、岸本成史

昭和薬科大学薬学生のルーブリックを用いた自己評価によるディプロマ・ポリシー達成度の可視化

昭和薬科大学紀要, 58, 38-52 (2024)

その他

依頼・招待講演等

菊池千草：ていねいに薬を飲む～調剤から最新の糖尿病薬まで～

町田市消費生活センター学習会（町田）、令和5年6月

菊池千草：リーダーシップ・プログラムに育てていただいて

名古屋大学男女共同参画センター・学術研究・産学官連携推進本部共催

「研究者リーダーシップ・プログラム」第2回キャリアについて考える（名古屋）、令和5年9月

著書

赤沢学、赤羽根秀宜、有田悦子、石井伊都子、石川さと子、一條宏、今井志乃ぶ、氏原淳、大島繁、岡田浩、小原道子、恩田光子、亀井美和子、角山香織、菊池千草、菊地真実、岸本桂子、北垣邦彦、小林江梨子、坂巻弘之、佐藤嗣道、島添隆雄、下川昌文、鈴木小夜、竹内尚子、竹平理恵子、館知也、田中克己、田中佐知子、田中智之、多根井重晴、寺島朝子、土井信幸、徳永仁、富澤崇、豊見敦、中島園美、成川衛、沼田千賀子、野村香織、平賀秀明、広瀬誠、益山光一、宮崎生子、宮崎美子、山浦克典、山田博章、山村重雄、横田恵理子、吉永真理、渡邊伸一、渡邊文之：新スタンダード薬学シリーズ 第2巻 社会と薬学、東京化学同人、東京、2024、pp.101-106

活動概要・現状

菊池千草

教育は「ヒューマニズム A3」、「薬学への招待」、「社会と薬局」、「実務実習事前学習」、「病院・薬局実務実習」、「多職種連携教育」、「在宅医療」、「専門薬剤師」、「臨床薬学特論」、「最終総合演習」を担当した。

研究は担当した卒業研究生が初めて学会発表をおこなった。

社会活動は日本薬学会健康サポート薬局にかかる研修第三者確認委員会委員、日本地域薬局薬学会理事、第26回日本地域薬局薬学会年会実行委員長、第日本口腔ケア学会評議員、日本社会薬学会代議員、日本くすりと糖尿病学会広報委員、試験委員、編集委員、将来計画委員、東京都薬剤師会実務実習委員会委員、東京都薬剤師会「都内大学との実習施設情報の共有と対応」ワーキンググループ委員として活動した。また、町田圏域地域ケア会議に6回参加した。

榎江里香

教育活動としては、4年次「実務実習事前学習」、5年次「病院・薬局実務実習」、5～6年次「多職種連携教育」を担当した。

研究活動としては、2023年度昭和薬科大学教育改革助成に採択され、薬局で日本語の通じない外国人に対してOTC販売を行う際の対応方法について教育プログラムを作成した。学生7名に対し教育プログラムを実施し、教育プログラム前後の出来栄えについて統計解析を進めている。

社会活動として、町田にて開催された日本地域薬局薬学会の実行委員を務めた。また、町田圏域地域ケア会議に5回参加した。

自己点検・評価

卒業研究の臨床介入研究を実施し、学会にて発表することができた。コロナ感染拡大がおさまり、一般市民を対象とした模擬患者養成を行った。

今後に向けて

2023年度より榎江里香助教が着任し、2024年度より大学院に進学した。今後も地域医療を担う薬剤師の育成と現場の薬剤師との共同研究をすすめていきたい。

総合薬学教育研究センター

人文社会学分野

(19) 臨床心理学研究室 (Clinical-Community Psychology)

教授 吉永 真理

大学院生 (博士課程) 1年 鳥海 玲

学会報告

- 笠井茜, 鹿野晶子, 吉永真理, 大西宏治, 野井真吾. 親子間におけるメラトニン分泌パタンの関連の検討. こども環境学会 2023 年大会 沖縄 (那覇) 2023/7/7-7/9
- 吉永真理. 豊かな放課後のあり方を考える: 重要なことやあったらいい場に関する親子の認識の乖離に着目して. 日本教育心理学会第 65 回総会 オンライン 2023/8/10-9/10
- 吉永真理, 鹿野晶子, 野井真吾, 笠井茜, 大西宏治. 放課後の過ごし方と心身健康状態およびメラトニンの日内変動の関連. 日本心理学会第 87 回大会 神戸 2023/9/15-17
- 吉永真理, 寺内義典, 大西宏治. 子どもの視点からまちのあり方を考える手法: 子どもの自立的移動自由性の向上を目指して. 日本コミュニティ心理学会第 26 回大会 香川 2023/12/16-17
- 永松真由子, 吉永真理. 感染や治療に関する子どもの理解度に関する研究 日本薬学会 第 144 年会 横浜 2024/3/29-31
- 宮崎 美子, 尾崎 暁久, 佐伯 明香, 廣瀬 寛子, 廣川 亜希子, 似内 明子, 杉田 理絵, 吉永 真理. コロナ禍におけるストレスを乗り越える医療職の「強み」に関する調査・研究. 日本薬学会 第 144 年会 横浜 2024/3/29-31
- 吉永 真理, 佐伯 朋香, 尾崎 暁久, 廣瀬 寛子, 廣川 亜希子, 似内 明子, 杉田 里絵, 宮崎 美子. コロナ禍を乗り越える医療職の「強み」とは: テキストデータ解析. 日本薬学会 第 144 年会 横浜 2024/3/29-31

原著論文

- 長谷川仁美, 宇都宮郁, 野崎真由佳, 清水満里奈, 天野奈津子, 井上能博, 宇都口直樹, 菊池千草, 山本健, 吉永真理, 岸本成史. 昭和薬科大学薬学生のルーブリックを用いた自己評価によるディプロマ・ポリシー達成度の可視化. 昭和薬科大学紀要 58:38-52 2024

その他・総説

- 吉永真理. マスクを外せない子どもたち. 都薬雑誌 45(9):10-13, 2023
- 内田尚宏, 苫米地憲昭, 渡辺由紀, 吉永真理. 学生のアイデンティティ発達に大学はどこまで関われるのか—学生支援の観点から. 薬学教育 7 2023

著書

木下勇, 寺田光成, 松本暢子, 三輪律江, 吉永真理. 子どもまちづくり型録. 鹿島出版, 2023.6.30
吉永真理 患者・患者家族の心理 社会と薬学 p38-45 東京化学同人 2024.3

活動概要・現状

本年度は職員 1 名と院生 1 名、6 年生 3 名、5 年生 3 名、4 年生 4 名で活動した。前期 1 名の研究室入門の 1 年生が在籍して、心理学と占いの研究を行い、学園祭で「占いの館」を行った。小中学校の依頼による「薬物乱用防止教育」の実施を町田市薬剤師会との連携によって行い、学生も主体的に参加した。そのほか、幼稚園での外遊び活動のサポートや団地の活動に、居住学生と共に参加し、地域の方々と交流を深めた。

赤ちゃん親子の参加する授業の 6 年目を開催できた。町田市子育て相談センターの方にも来学いただき、町田市の子育て支援の仕組みをご紹介いただいた。町田市地域活動サポートオフィス (中間支援組織) に参加してくれる親子の募集や当日の運営サポートを担ってもらった。

卒業研究に関する活動としては、週に 1 回程度、各自の研究テーマにそった文献を読んで発表し、さらに卒論の進行状況の報告を行った。ゼミの資料は Slack で共有や保管を行い、有効活用した。

東京都道路整備保全公社の研究助成金を得て、都内での調査に加え、オランダでの現地調査を行い、共同研究者 (国土舘大学寺内義典教授、富山大学大西宏治教授) とともに成果をまとめた。分担研究者で参加している、大妻女子大の木下勇教授のプロジェクトでは、成果を英文の著書にまとめる作業が進行した。

自己点検・評価

他大学や各種 NPO 団体、自治体、民間企業など多様な領域との協働が本研究室の特色であり、今年度も活発な活動を実施できた。研究室を超えて、地域で活動したい学生が出入りしてくれて、学生が学外活動をする際の拠り所になれるとよいと考えている。学園祭に研究室として参加し、多くの来場者があった。「占い」をテーマに心理学の広範な分野を少しでも理解してもらえたのではないかと思う。

今後に向けて

他大学や地域との連携した活動や共同研究で、研究室学生が異分野の学生や研究者と交流する機会を引き続き、設けていきたい。また、地域の薬剤師と協力して、子育て支援等に貢献したい。

(20) 英語文化研究室 (British Cultural Studies)

教授 鈴木 英明

その他

(書評) 鈴木英明: Deaglán Ó Donghaile, *Oscar Wilde and the Radical Politics of the Fin de Siècle*
『オスカー・ワイルド研究』、第 22 号、pp. 106-110、2023 年。

活動概要・現状

日本ワイルド協会編集委員会委員として、協会誌『オスカー・ワイルド研究』の編集運営にかかわり、投稿論文や書評原稿の査読を行った。

教育活動としては、英語 I RW (前期後期・週 2 コマ× 15 週)、英語 II RW (前期後期・週 2 コマ× 15 週)、英語 III (前期後期・週 2 コマ× 15 週) を担当した。

今年度の本研究室所属学生は、6 年生 3 名、5 年生 3 名、4 年生 4 名の計 10 名であった。4 年生は、卒業論文作成の準備としてアカデミック・スキルズの基礎を学んだ。また、課題図書を数冊指定し、これらの(主にジェンダーやフェミニズムに関する)本についてゼミで議論を行った。5 年生は、実務実習のない時期に、個別に卒業研究に関する指導を行った。6 年生については、4 月から 7 月まで頻繁にゼミを開催して卒業論文執筆の指導を行った。

自己点検・評価

今年度は研究室のゼミを対面で実施できるようになり、オンラインよりもきめ細かな指導ができるようになった。また、学生とのコミュニケーションも昨年度よりも密になった。

今後に向けて

毎年度感じていることだが、研究室の学生はあくまでも薬学が勉強の中心であるので、本研究室において行う文化研究にどの程度の時間と労力を傾ければ良いのか、バランスをとることが難しい。また、本研究室は個人研究室であることから、学生が自習するための研究室独自のスペースがないため、学年の異なる学生たちが日常的に交流する機会が少ない。この点についても工夫をする必要がある。

(21) 英語研究室 (English Education)

講師 花角 聡美

学会報告

花角聡美: ラスキンのワイルドの童話—「火」をめぐる一考察、日本ワイルド協会第 48 回大会 (東京)、2023 年 12 月 2 日。

Satomi Hanazumi; An Index or A Guide? The Making of John Pincher Faunthorpe's Index to *Fors Clavigera*, FoRS 1st International Conference (Venice), 15th December, 2023.

その他 (寄稿)

花角聡美: ヴェネツィアのラスキン会議 (2023) に参加して、ラスキン文庫たより、14-15、2024。

活動概要・現状

教育活動としては、「英語ⅠRW」、「英語ⅡRW」、「英語Ⅲ」をそれぞれ前後期各15回担当した。

今年度は研究室に4年次生2名を迎え、論文執筆の基礎、研究材料の収集方法等を確認し、研究課題の検討を行った。

自己点検・評価

すべての授業を対面で実施できたことにより、ペアワークを取り入れることができた。学生同士はもちろんのこと、学生と教員間でより円滑にコミュニケーションを取ることができたように感じる。

今後に向けて

薬学を学ぶ学生が英語研究室で論文執筆をすることに関し、多少の困難を感じているが、個々に合わせた指導を日々試行錯誤している。ゼミ生同士のつながりを大切にしながら、それぞれが満足のいく論文を完成させられるよう、研究室運営を検討していく。

自然科学分野

(22) 応用数学 繁田研究室 (Laboratory of Applied Mathematics)

教授 繁田 岳美

国際会議発表

[基調講演] ○Takemi Shigeta: An Iterative Domain Decomposition Method with the Modified Method of Fundamental Solutions and the Fast Fourier Transform

The 7th Asia-Pacific International Conference on Computational Methods in Engineering
Xiamen, China, 2023年11月

その他研究発表

[招待講演] ○Takemi Shigeta: Fundamental Regularization Method and Reconstruction of Simultaneous Equations (*invited by Professor Chia-Ming Fan*)

Department of Harbor and River Engineering, National Taiwan Ocean University
Keelung, Taiwan, 2023年8月

社会貢献活動

繁田岳美: 理系コース志望の高校1年生を対象に講演

明法高等学校、東京、2024年1月

教育関連出版物

繁田岳美: 寺子屋、算額、和算、日本教育ベンクラブ・リレー寄稿 2023

月刊私塾界、2023年4月

繁田岳美: AI 革命～いまここにある魔法、辛口コラム 165

塾ジャーナル、2023年7月

活動概要・現状

8月に台湾基隆市の国立台湾海洋大学にて1時間の招待講演を行った。講演内容は逆問題の解法に用いられる正則化法を応用した観測データ復元の試みである。その後、海洋大学関係者との昼食や学内見学など大変素晴らしい機会をご用意頂いた。夕食時には国立台湾大学在職時の元同僚たちと楽しいひと時を過ごした。この場を借りて、企画して頂いた皆様に感謝の意を表したい。

11月上旬に中国廈門市の廈門大学で開催された第7回アジア太平洋計算数理工学国際会議にて基調講演を行った。講演内容は偏微分方程式の反復数値解法における収束の高速化である。合わせて、自分の発表セッションで座長を務めた。現地の方々から幾度も温かいもてなしを受け、感謝の言葉が見つからない。多くの出会いがあり、大変充実した出張となった。

同月下旬に沖縄科学技術大学院大学 (OIST) にて開催された日本計算数理工学会に参加した。OISTは半数以上の在学生在が外国人で公用語を英語としており、学内は外国そのものであった。学会会場として使用した講義室には、Zoomに連動したカメラとマイクが設置されており、カメラが自動で発言者を捉えることは印象的であった。

本学入試課程由で明法高等学校から依頼があり、1月末に同校にて理系コース志望の高校1年生を対象に1時間講演を行った。同時期に、論文査読依頼を立て続けに2件受け、その上自身の論文投稿の締め切りもあり、密度の非常に濃い日々であった。

その他は昨年と同様、講義並びに実習の担当科目は、微分積分学、情報科学実習、線形代数 (いずれも1年次科目) である。情報教育運営委員会の委員長として、薬学リテラシーの情報倫理に関する講義を1コマ担当した。

原則毎週1回の卒研ゼミで、学生たちの各自異なる研究テーマを指導した。6年生3名がそれぞれ、「ランダムウォークにおける逆正弦法則と数値シミュレーション」、「離散フーリエ変換と高速フーリエ変換の計算量の比較」、「ベンフォードの法則に基づくデータの信頼性の識別」と題した卒業論文を提出した。

情報教育運営委員会においては委員長として委員会活動を行った。計7つの委員会活動 (内、IR委員会 は幹事) に加え、コンプライアンス推進室員 (2018年度より) の一員であった。

その他学外活動として、学校法人明法学院の評議員活動 (2014年度より) と教育関連雑誌へのコラム執

筆（1996年度より）を行った。

自己点検・評価

異なる2つの研究に関して、台湾の大学での招待講演や国際会議の基調講演でそれぞれ発表し、入試業務と重なる2月上旬に論文査読と合わせて論文投稿できたことは成果である。

卒業論文の添削と修正を5～7回、卒論発表練習を3回繰り返すことで研究室の6年生は十分成長できたと考える。1人目は逆正弦法則という直感に関する定理に関して、シミュレーションのみならず、微分積分の基礎をきちんと学ぶことで明瞭に証明をまとめ直した。2人目は普段のゼミや卒業論文発表会で英語による発表を行った。3人目はやはり直感に反するベンフォードの法則を実際のデータに適用することで、そのデータに改竄がないかどうかを検証した。6年生全員はそれぞれ自分の強みを活かしつつ、各自真摯に取り組んだ。互いに良い刺激を与えて合ったものと思われる。

対面を原則としつつ、学生が登校しない日はZoomを活用することで、年間30回卒研ゼミを開催できた。昨年度はZoomの多用により学生同士の交流が希薄になる問題があったが、本年度はこの問題を解消できた。

今後に向けて

ひとまず論文投稿が終わったので、査読結果に基づいて論文を加筆修正することと並行して、本研究を発展させて行く予定である。

明法高等学校にて講演したことを皮切りに、漠然とではあるが何かしらの高大連携ができればと考えている。

(23) 数理科学 瀧澤研究室

講師 瀧澤 誠

学会報告

○S. Takeuchi, M. Takizawa, Y. Yamaguchi, A. Hosaka:

The impact of quark many-body effects on exotic hadrons

25th European Conference on Few-Body Problems in Physics
(Mainz, Germany) 令和5年7月

○A. Hosaka, A. Giachino, E. Santopinto S. Takeuchi, M. Takizawa, Y. Yamaguchi:

Heavy exotic hadrons as hadronic molecules

6th Joint Meeting of the APS Division of Nuclear Physics and the Physical Society of Japan
(Hawaii, USA) 令和5年11月

○S. Takeuchi, M. Takizawa, Y. Yamaguchi A. Hosaka:

On the Impact of the Quark Many-body Effects on Exotic Hadrons

6th Joint Meeting of the APS Division of Nuclear Physics and the Physical Society of Japan
(Hawaii, USA) 令和5年11月

○M. Takizawa, S. Takeuchi, Y. Yamaguchi A. Hosaka:

Structure of the bottomonium counterpart of X(3872)

6th Joint Meeting of the APS Division of Nuclear Physics and the Physical Society of Japan
(Hawaii, USA) 令和5年11月

招待講演

○瀧澤 誠: 理論と実験で探るハドロンの多彩な存在形態

研究会: 多彩なハドロンの存在形態を探る理論と実験の最近の発展
(理化学研究所) 令和5年9月

○M. Takizawa: Recent results on heavy hadrons at Belle and Belle II

原著論文

Y. Ma, et al. (Belle Collaboration) :

**First Observation of $\Lambda\pi^+$ and $\Lambda\pi^-$ Signals near the $\bar{K}N(I=1)$ Mass Threshold
in $\Lambda_c^+ \rightarrow \Lambda\pi^+\pi^+\pi^-$ Decay**

Phys. Rev. Lett. **130**, 151903-1-6 (2023)

Y.-T. Lai, et al. (Belle Collaboration) :

First Measurement of the $B^+ \rightarrow \pi^+\pi^0\pi^0$ Branching Fraction and CP Asymmetry

Phys. Rev. Lett. **130**, 181804-1-7 (2023)

S. Watanuki, et al. (Belle Collaboration) :

Search for the Lepton Flavor Violating Decays $B^+ \rightarrow K^+\tau^\pm\ell^\mp$ ($\ell=e, \mu$) at Belle

Phys. Rev. Lett. **130**, 261802-1-7 (2023)

D. Bodrov, et al. (Belle Collaboration) :

First Measurement of the Michel Parameter ξ' in the $\tau^- \rightarrow \mu^- \bar{\nu}_\mu \nu_\tau$ Decay at Belle

Phys. Rev. Lett. **131**, 021801-1-6 (2023)

L. Cao, et al. (Belle Collaboration) :

First Simultaneous Determination of Inclusive and Exclusive $|V_{ub}|$

Phys. Rev. Lett. **131**, 211801-1-7 (2023)

D. Liventsev, et al. (Belle Collaboration) :

Search for a Heavy Neutrino in τ Decays at Belle

Phys. Rev. Lett. **131**, 211802-1-7 (2023)

I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :

Search for Lepton-Flavor-Violating τ Decays to a Lepton and an Invisible Boson at Belle II

Phys. Rev. Lett. **130**, 181803-1-7 (2023)

I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :

Search for an Invisible Z' in a Final State with Two Muons and Missing Energy at Belle II

Phys. Rev. Lett. **130**, 231801-1-8 (2023)

L. Aggarwal, et al. (Belle II Collaboration) :

**Test of Light-Lepton Universality in the Rates of Inclusive Semileptonic
 B -Meson Decays at Belle II**

Phys. Rev. Lett. **131**, 051804-1-7 (2023)

I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :

Precise Measurement of the D_s^+ Lifetime at Belle II

Phys. Rev. Lett. **131**, 171803-1-7 (2023)

I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :

Tests of Light-Lepton Universality in Angular Asymmetries of $B^0 \rightarrow D^+ \ell \nu$ Decays

Phys. Rev. Lett. **131**, 181801-1-7 (2023)

G. Gong, et al. (Belle Collaboration) :

Study of $e^+e^- \rightarrow \Sigma^0\bar{\Sigma}^0$ and $\Sigma^+\bar{\Sigma}^-$ by initial state radiation method at Belle

Phys. Rev. D **107**, 072008-1-14 (2023)

- F. Meier, et al. (Belle Collaboration) :
Study of $e^+e^- \rightarrow \Sigma^0\bar{\Sigma}^0$ and $\Sigma^+\bar{\Sigma}^-$ by initial state radiation method at Belle
Phys. Rev. D **107**, 092003-1-23 (2023)
- H. Hirata, et al. (Belle Collaboration) :
Study of the lineshape of $X(3872)$ using B decays to $D^0\bar{D}^{*0}K$
Phys. Rev. D **107**, 112011-1-14 (2023)
- D. Bodrov, et al. (Belle Collaboration) :
Study of the muon decay-in-flight in the $\tau^- \rightarrow \mu^- \bar{\nu}_\mu \nu_\tau$ decay to measure the Michel parameter ξ'
Phys. Rev. D **108**, 012003-1-16 (2023)
- Y. Teramoto, et al. (Belle Collaboration) :
First measurement of the Q^2 distribution of $X(3915)$ single-tag two-photon production
Phys. Rev. D **108**, 012004-1-10 (2023)
- C.-Y. Chang, et al. (Belle Collaboration) :
Evidence for $B^0 \rightarrow p\bar{\Sigma}^0\pi^-$ at Belle
Phys. Rev. D **108**, 052011-1-7 (2023)
- T. V. Dong, et al. (Belle Collaboration) :
Search for the decay $B^0 \rightarrow K^{*0}\tau^+\tau^-$ at the Belle experiment
Phys. Rev. D **108**, L011102-1-9 (2023)
- S. B. Yang, et al. (Belle Collaboration) :
Observation of a threshold cusp at the $\Lambda\eta$ threshold in the pK^- mass spectrum with $\Lambda_c^+ \rightarrow pK^-\pi^+$ decays
Phys. Rev. D **108**, L031104-1-6 (2023)
- H. K. Moon, et al. (Belle Collaboration) :
Search for CP violation in $D_s^+ \rightarrow K^+K_S^0h^+h^-$ ($h=K, \pi$) decays and observation of the Cabibbo-suppressed decay $D_s^+ \rightarrow K^+K^-K_S^0\pi^+$
Phys. Rev. D **108**, L111102-1-7 (2023)
- D. Biswas, et al. (Belle Collaboration) :
Search for a dark leptophilic scalar produced in association with $\tau^+\tau^-$ pair in e^+e^- annihilation at center-of-mass energies near 10.58 GeV
Phys. Rev. D **109**, 032002-1-9 (2024)
- D. Kumar, et al. (Belle Collaboration) :
Search for the decay $B_s^0 \rightarrow J/\psi\pi^0$ at Belle experiment
Phys. Rev. D **109**, 032007-1-7 (2024)
- J. X. Cui, et al. (Belle Collaboration) :
Search for the semileptonic decays $\Xi_c^0 \rightarrow \Xi^0\ell^+\ell^-$ at Belle
Phys. Rev. D **109**, 052003-1-8 (2024)
- S. Maity, et al. (Belle Collaboration) :
Search for baryon and lepton number violating decays $D \rightarrow p\ell$
Phys. Rev. D **109**, L031101-1-6 (2024)

- F. Abudinén, et al. (Belle II Collaboration) :
Measurement of lepton mass squared moments in $B \rightarrow X_c \ell \bar{\nu}_\ell$ decays with the Belle II experiment
Phys. Rev. D **107**, 072002-1-24 (2023)
- F. Abudinén, et al. (Belle II Collaboration) :
Measurement of the branching fraction and CP asymmetry of $B^0 \rightarrow \pi^0 \pi^0$ decays using 198×10^6 $B\bar{B}$ pairs in Belle II data
Phys. Rev. D **107**, 112009-1-10 (2023)
- I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :
Novel method for the identification of the production flavor of neutral charmed mesons
Phys. Rev. D **107**, 112010-1-15 (2023)
- F. Abudinén, et al. (Belle II Collaboration) :
Measurement of the B^0 lifetime and flavor-oscillation frequency using hadronic decays reconstructed in 2019–2021 Belle II data
Phys. Rev. D **107**, L091102-1-9 (2023)
- I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :
Measurement of the τ -lepton mass with the Belle II experiment
Phys. Rev. D **108**, 032006-1-9 (2023)
- I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :
Measurement of CP asymmetries in $B^0 \rightarrow \phi K_s^0$ decays with Belle II
Phys. Rev. D **108**, 072012-1-10 (2023)
- I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :
Determination of $|V_{cb}|$ using $\bar{B}^0 \rightarrow D^{*+} \ell^- \bar{\nu}_\ell$ decays with Belle II
Phys. Rev. D **108**, 092013-1-26 (2023)
- I. Adachi, et al. (Belle II Collaboration) :
Search for a long-lived spin-0 mediator in $b \rightarrow s$ transitions at the Belle II experiment
Phys. Rev. D **108**, L111104-1-7 (2023)
- Alessandro Giachino, Atsushi Hosaka, Elena Santopinto, Sachiko Takeuchi, Makoto Takizawa, Yasuhiro Yamaguchi: **Rich structure of the hidden-charm pentaquarks near threshold regions**
Phys. Rev. D **108**, 074012-1-6 (2023)
- N. Tsuzuki, et al. (Belle Collaboration) :
Search for lepton-flavor-violating τ decays into a lepton and a vector meson using the full Belle data sample
Journal of High Energy Physics **06**, 118-1-17 (2023)
- J. H. Yin, et al. (Belle Collaboration) :
Search for the double-charmonium state with $\eta_c J/\psi$ at Belle
Journal of High Energy Physics **08**, 121-1-19 (2023)

V. Zhukova, et al. (Belle Collaboration) :

Measurement of the $e^+e^- \rightarrow B_s^0\bar{B}_s^0 X$ cross section in the energy range from 10.63 to 11.02 GeV using inclusive D_s^+ and D^0 production

Journal of High Energy Physics **08**, 131-1-27 (2023)

L. Nayak, et al. (Belle Collaboration) :

Search for $B_s^0 \rightarrow \ell^\mp \tau^\pm$ with the semi-leptonic tagging method at Belle

Journal of High Energy Physics **08**, 178-1-11 (2023)

D. Dhamija, et al. (Belle Collaboration) :

Search for charged-lepton flavor violation in $\Upsilon(2S) \rightarrow \ell^\mp \tau^\pm$ ($\ell = e, \mu$) decays at Belle

Journal of High Energy Physics **02**, 187-1-10 (2024)

I. Adachi, et al. (Belle and Belle II Collaboration) :

Measurement of CP asymmetries and branching-fraction ratios for $B^\pm \rightarrow DK^\pm$ and $D\pi^\pm$ with $D \rightarrow K_s^0 K^\pm \pi^\mp$ using Belle and Belle II data

Journal of High Energy Physics **09**, 146-1-23 (2023)

研究室活動短報

大阪大学保坂教授、日本社会事業大竹内教授、名古屋大学山口助教、イタリア Genova 大 Santopinto 教授とエキゾチックハドロンについて共同研究を行い、その成果を論文として報告できた。

高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の Belle 国際共同実験では、論文執筆に積極的に関わり、24 報の論文が掲載された。Belle II 国際共同実験では、Belle II 測定器のコントロールルームシフト、加速器のコントロールルームシフト、中央飛跡検出器のエキスパートシフトをこなすとともに、アウトリーチ担当の deputy chair として活動した。Belle II 実験からは論文が 13 報掲載された。Belle 実験と Belle II 実験の測定データを合わせた解析を初めて行い、その結果を論文として報告した。2022 年 7 月から 2024 年 1 月までは、SuperKEKB 加速器はアップグレードのため、長期運転停止した。この機会に中央飛跡検出器の改良作業を行なった。私はローパスフィルターのアップグレード作業を分担した。また、読み出しボードへの配線作業も行なった。

高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所理論センター客員講師として、国際研究会を 3 回主催した。そのうちの 1 回はクロージングトークを行なった。J-PARC ハドロンホール実験に関して、科研費基盤 (S) の分担者として活動を行っている。

薬学におけるデータサイエンス入門の教科書の執筆を多くの著者と共同で行なった。2025 年度に開講する新たな授業に活用したい。

卒業研究では、6 年生は「薬学に関連した Web システム開発」および「薬学向けデータサイエンス入門」を行なった。5 年生は「薬学に関連した iPhone 向けのシステム開発」を行った。4 年生は Python のプログラミングの勉強を行なった。

自己点検・評価

学生はシステム開発、データサイエンスの勉強、Python プログラミングの学習のどれも良くやったと評価している。理論物理学の研究活動では、論文が物理学の中では高く評価されているジャーナルに掲載されて良かった。Belle 実験では解析結果を 24 本の論文として出版できて大変良かった。Belle II 実験では、蓄積されたデータが増え、物理解析が可能となり、Belle 実験との共同解析も含めて解析結果を 14 本の論文として出版できたことは高く評価している。中央飛跡検出器の改良作業を終え、2024 年 2 月には無事に再稼働することができた。改良作業には十分な貢献ができたと評価している。薬学共用試験センターシステム検討委員の仕事は十分に役割を果たしたと評価している。薬学におけるデータサイエンス入門の教科書を執筆できたことは、分担量は少なかったが、評価している。

今後に向けて

科研費基盤 (S) で行う新たな分野の理論研究をさらに進めたい。執筆中のハドロン物理学の教科書は 2024 年の夏には校了することを目指している。日本の原子核実験において最も重要な将来計画である J-PARC ハドロンホール拡張計画が無事に実現されるよう、タスクフォースメンバーの一員として、さらに努力していきたい。Belle II 実験は、ロングシャットダウン期間中に多くの改良を施した上で、2024 年 1 月に無事に再稼働することができた。2024 年度はビーム強度をさらに上げて、より多くのデータを取得することを目指すので、それに貢献していく予定である。また、さらに多くの物理データ解析を進め新物理の発見、CP 対称性の破れのより高精度の測定、新たなエキゾチックハドロンの発見を目指したい。物理学や医療統計への AI の応用の研究も進めたい。

薬学教育推進センター

学修支援分野

(24) 統合薬学教育研究室 (Laboratory of Pharmaceutical Sciences and Education)

教授 井上 能博
准教授 池野 聡一
准教授 川幡 正俊
講師 小池 猛
講師 中里 朱根

学会報告

○富永昌英・小松亮太・杉本美久・川幡正俊・山口健太郎：アダマンタン架橋シクロファンのもジュラー合成と多孔性分子結晶によるゲスト包接

第 33 回基礎有機化学討論会（岡山） 令和 5 年 9 月

○村田穂香、井上能博：脳波と STAI 測定による医療現場での活用を目指した音楽の効果測定

第 67 回日本薬学会関東支部大会（東京） 令和 5 年 9 月

[村田穂香（令和 5 年度卒業研究 6 年生）]

○川幡正俊・山本陽香・富永昌英・山口健太郎：アダマンタン骨格をもつ V 型ニトロヒドロキシベンゼン誘導体の分子間相互作用解析

第 31 回有機結晶シンポジウム（大阪） 令和 5 年 11 月

○富永昌英、杉本美久、近藤沙菜、川幡正俊、山口健太郎：ピリダジンを有するアダマンタン架橋シクロファンによるキラルゲストの包接と構造解析

日本化学会第 104 春季年会（船橋） 令和 6 年 3 月

○久山和紗、片桐幸輔、川幡正俊、影近弘之、棚谷綾：キラル側鎖をもつ芳香族スクアルアミドの立体構造解析

日本化学会第 104 春季年会（船橋） 令和 6 年 3 月

○川幡正俊、牧野颯瑛、富永昌英、山口健太郎：ニトロフェノールを有する二置換アダマンタンによる環状エーテル・エステル包接と結晶構造解析

日本化学会第 104 春季年会（船橋） 令和 6 年 3 月

○池田彩乃、石田良典、川幡正俊、片桐幸輔、影近弘之、棚谷綾：Cis 型アミド構造を有する新規 AR アンタゴニストの創製

日本薬学会第 144 年会（横浜） 令和 6 年 3 月

○牧野颯瑛、富永昌英、川幡正俊、山口健太郎：ニトロフェノールを有する二置換アダマンタンによる環状エーテル・エステル包接と選択性

日本薬学会第 144 年会（横浜） 令和 6 年 3 月

○臼井一晃、鈴木日菜、白水なずな、川幡正俊、小堀康博、唐澤悟：ジヒドロピリダジン縮環型ヘリセン分子の光異性化を伴ったらせん反転機構解明

日本薬学会第 144 年会（横浜） 令和 6 年 3 月

原著論文

Kimiko Tanaka, Fumi Takeda, Midori Kanda, Masatoshi Kawahata, Shinya Fujii, Kosuke Katagiri, Hyuma Masu, Hiroyuki Kagechika, Aya Tanatani: Solvent-Dependent Conformational Switching of N-Methyl-N,N'-diarylsquaramide

J. Org. Chem. **88**, 12289–12293 (2023)

Kazuteru Usui, Ami Amano, Kasumi Murayama, Miho Sasaya, Ryota Kusumoto, Tomohiro Umeno, Satsuki Murase, Naoko Iizuka, Shota Matsumoto, Yasufumi Fuchi, Kazuyuki Takahashi, Masatoshi Kawahata, Yasuhiro Kobori, Satoru Karasawa: Photoisomerization of “Partially Embedded Dihydropyridazine” with a Helical Structure

Chem. Eur. J. **29**, e202302413 (2023)

Ryosuke Ishida, Nagomi Kurebayashi, Hiroto Inuma, Xi Zeng, Shuichi Mori, Masami Kodama, Takashi Murayama, Hiroyuki Masuno, Fumi Takeda, Masatoshi Kawahata, Aya Tanatani, Aya Miura, Hajime Nishio, Takashi Sakurai, Hiroyuki Kagechika: A potent and selective cis-amide inhibitor of ryanodine receptor 2 as a candidate for cardiac arrhythmia treatment

Eur. J. Med. Chem. **262**, 115910 (2023)

Masatoshi Kawahata, Haruka Yamamoto, Masahide Tominaga, Kentaro Yamaguchi: Multiple intermolecular interactions in guest inclusion by acyclic host compounds

CrystEngComm **25**, 6137–6143 (2023)

Chiharu Takubo, Sakiko Kimura, Mami Ichinomiya, Arisa Hayakawa, Mako Murata, Ko Urushibara, Hyuma Masu, Kosuke Katagiri, Masatoshi Kawahata, Mayumi Kudo, Isao Azumaya, Hiroyuki Kagechika, Aya Tanatani: Conformational Properties of Aromatic Amides Bearing Imidazole Ring and Acid-Induced Trans–Cis Amide Switching

J. Org. Chem. **88**, 16707–16718 (2023)

村田穂香、井上能博：医療現場での活用を目指した脳波と STAI 測定による音楽の気持ちを落ち着かせる効果

昭和薬科大学紀要、58、25-32 (2023)
[村田穂香（令和5年度卒業研究6年生）]

井上能博、池野聡一：「入学時点の自分に送るメッセージ」から考える入学前教育

昭和薬科大学紀要、58、33-37 (2023)

長谷川仁美、宇都宮郁、野崎真由佳、清水満里奈、天野奈津子、井上能博、宇都口直樹、菊池千草、山本健、吉永真理、岸本正史：昭和薬科大学薬学生のルーブリックを用いた自己評価によるディプロマ・ポリシー達成度の可視化

昭和薬科大学紀要、58、38-52 (2023)

活動概要・現状

1、2年生を対象とした勉強会（担当：池野、川幡、井上）を実施し、勉強習慣の定着・確実な進級という目標を達成できた。今年度3年生を対象としたCBT対策

勉強会（担当：小池、井上）を開催した。参加人数は、各科目のべ100人を超え、ニーズに応えられたのではないと思われる。

留年生に対し問題演習などの課題を課し、登校の習慣と勉強の習慣をつけるプログラムを実施し、進級率の向上に寄与できた。

CBT不合格者に対しては、対象人数が例年より多く、講義形式ではなく問題演習の機会を毎日設定することで知識定着の習慣化を試みた。積極的参加者の結果は良かったが、出席状況が芳しくない学生の結果は思わしくなかった。

研究室に配属された特別実習生については例年通り、それぞれの教員に細かく配属させ、卒業研究発表に向けて健康、疾患についての調査研究を指導している。

薬学教育領域の学会での研究発表を行うことができたので、こちらも継続していきたい。

自己点検・評価

教育活動では、基礎科目を通しての基礎学力の向上に寄与できていると考えている。さらに、1、2年生対象の勉強会や3年生対象のCBT対策勉強は、意識ある学生のサポートが十分にできているので、継続して行きたい。しかし、これらの学生の姿勢が周りの学生に伝わって行かない状況を変えるに至っていない。

なぜ学ぶかの根本を腹落ちさせるイベントをガイダンス等を通じて行っていきたい。

研究活動についてもより活発に行い、各スタッフの専門領域にとどまらず、教育領域での発信もして行きたい。

今後に向けて

低学年の、特に新入生の学力低下が深刻化する中での新カリキュラム稼働が、どれだけ学生にとって負担なのかが予測しづらい。これに対し、こまめなガイダンスの実施で注意事項を適切なタイミングで提供し、プレイスメントテスト・リーディングスキルテスト・中間試験の結果などをもとに、対象者を絞った勉強会を実施することで全員進級の目標達成に向けて行動して行きたい。

研究活動については、各スタッフの専門領域はもちろん、対象学生の教育面において問題発見・解決能力の育成も意識して実践して行きたい。

教育推進分野

(25) 薬学教育推進研究室 (Laboratory of Promotion of Pharmaceutical Education)

教授 岸本 成史
教授 宇都宮 郁
講師 長谷川仁美

学会報告

○清水 満里奈、長谷川 仁美、宇都宮 郁、岸本 成史：学生による「薬剤師として求められる基本的な資質」とディプロマ・ポリシーにおける達成度の自己評価の解析

日本薬学会第144年会（横浜）、2024年3月
[清水 満里奈（2023年度卒業研究5年生）]

○田村 真由美、藤井 智彦、武内 智春、露口 正人、谷川 尚、岡 沙織、畑中 朋美、岸本 成史、加藤龍一、荒田 洋一郎：大腸菌で発現した組換えタンパク質（ガレクチン-2）の翻訳後修飾とその抑制方法

日本薬学会第144年会（横浜）、2024年3月

原著論文

岩澤 晴代、岸本 成史、長谷川 仁美、安原 真人、厚味 厳一、北 加代子、安原 崇仁、渡邊 真知子、横山 和明、板垣 文雄、長田 洋一、奥 直人：オンデマンド形式の授業による分野横断統合演習の実施と学習効果の検討

薬学教育, 7, 259-270 (2023)

中谷 絵理子、赤下 学、砂見 緩子、長谷川 仁美、岸本 成史、安岡 高志、黄倉 崇：スタディスキル到達度調査による教授・学修活動改善への取り組み - 薬学卒業研究における調べる力・考える力・プレゼン力の到達度評価 -

帝京大学高等教育開発センターフォーラム, 10, 185-194 (2023)

Kazuki Nagashima, Norihiko Fujii, Saori Oka, Atsushi Yamashita, Fumio Itagaki, Nobuhiro Yasuno, Machiko Watanabe and Seishi Kishimoto: Peptides Derived from Soybean β -Conglycinin Induce the Migration of Human Peripheral Polymorphonuclear Leukocytes.

Biol. Pharm. Bull., 46, 898-906 (2023)

Mayumi Tamura, Norihiko Fujii, Tomoharu Takeuchi, Masato Tsuyuguchi, Takashi Tanikawa, Saori Oka, Tomomi Hatanaka, Seishi Kishimoto, Ryuichi Kato and Yoichiro Arata : Method for Preparing Recombinant Galectin-2 Protein without *Escherichia coli*-Specific Post-translational Modifications.

Biol. Pharm. Bull., 46, 1676-1682 (2023)

大学紀要

長谷川 仁美、宇都宮 郁、野崎 真由佳、清水 満里奈、天野 奈津子、井上 能博、宇都口 直樹、菊池 千草、山本 健、吉永 真理、岸本 成史：昭和薬科大学薬学生のルーブリックを用いた自己評価による ディプロマ・ポリシー達成度の可視化

昭和薬科大学紀要, 58, 38-52 (2024)

[清水 満里奈（2023年度卒業研究5年生）、天野 奈津子、野崎 真由佳（2023年度卒業研究4年生）]

その他

依頼・招待講演

○長谷川 仁美：卒業研究：科学的探究心を育むために～薬学教育分野における卒業研究：学生とともに薬学教育を語る日々を通して～

日本薬学会第144年会（横浜）、2024年3月

活動概要・現状

2023年度の当研究室の構成員は、教員3名、6年生3名、5年生2名、4年生8名（臨床薬学コース12

名、情報薬学コース1名)であった。

今年度は本学の第三者評価受審や学部教育のカリキュラム改定があり、当研究室教員は、事業計画「教学マネジメントシステムの充実」及び自己点検・評価委員会や教務委員会等の活動のプラットフォームとして、各種情報の収集・提供や資料作成、FD研修会やワークショップ、説明会等の企画・運営に携わった。更に、現行カリキュラムのディプロマ・ポリシー(DP)ルーブリックの学生自己評価による間接評価の実施とデータ収集・分析を行い、それらの結果を基に新しいカリキュラムの構築に向けたDP、カリキュラム・ポリシー(CP)、DPルーブリックの見直し案を作成した。また、前年度に引き続き、留年生に対するステップアップ・ワークショップの実施、薬剤師国家試験対策を中心とした高学年(5,6年次)に対する学修支援、学内演習試験の問題作成支援および結果分析に加え、今年度は新たに4年次のCBT対策にも携わった。

社会貢献・研究活動として、神奈川県薬剤師会・川崎市薬剤師会におけるメンタルヘルス・ファーストエイド(MHFA)研修会や本学薬学生を対象としたMHFAワークショップの企画・実施を通じて、地域住民のメンタルヘルスへの薬剤師・薬学生の貢献につながる教育活動とそれに関する教育研究を行なった。また、配属学生も加わった研究活動として、薬学生の学修成果の達成度に関する研究及び学習への苦手意識に関する質的研究を行い、前者については2024年3月の日本薬学会で発表を行なった。

学外活動として、岸本が日本私立薬科大学協会広報委員会委員として「6年制薬学ガイド」の制作に携わった他、日本薬学会薬学教育委員会委員として2023年度「第1回シン・全国学生ワークショップ」及び「大学生および博士取得者のためのキャリアデザインワークショップ」の企画・運営を行うと共にタスクホースを務めた。

自己点検・評価

今年度は薬学教育推進センター構成員として、種々の学習支援活動だけでなく、DP、CP及びDPルーブリックの策定とそれに基づく学修成果の可視化のシステム構築などの内部質保証に関連する活動やカリキュラム構築に関連する活動を行い、教学の運営に貢献できたものと考えている。また、MHFAの活動やその他の教育研究活動についても、質の高い薬剤師の養成や本学の運営、学部生の教育等に貴重な情報提供ができるものと評価している。更に、本学学生にもこれらの活動・研究に加わってもらうことで、学生が大きく成長できていることは大変喜ばしいことである。また、日本私立薬科大学協会や日本薬学会などの学外組織での活動を通じて、現在の薬学教育を取り巻く状況を把握し、得られた情報を学内へ提供する事ができており、今後も続けて行きたい。

今後に向けて

構成員の宇都宮郁教授が今年度で定年による退職となるが、引き続き教育研究とリンクさせた学習支援活動や教学マネジメントの下支えの活動を行なっていきたい。また、来年度はより多くの学生に学会発表の経験をしてもらい、成長を促したい。

教育研究支援センター (Center for Support of Education and Research)

薬用植物園

(26) 薬用植物資源研究室 (Laboratory of Plant Resources for Medicine)

教授 高野 昭人

学会報告

- 渥美聡孝、岩野香里、高野昭人、三宅克典：漢方生薬ボウイ原料調達の現状および課題
日本植物園協会第58回大会（高知）2023年5月30日
- 外園鈴夏、渥美聡孝、三宅克典、矢作忠弘、和田美貴代、南基泰、高野昭人：九州におけるカギカズラの分布と地理情報を用いた好適地予測
日本生薬学会第69回年会（仙台）2023年9月9日、10日
- 渥美聡孝、戸沢一宏、岩野香里、磯田進、高野昭人：漢方生薬ボウイ原料調達の現状と課題2、野生薬用資源オオツツラフジ採取の実情について
薬用植物栽培研究会第5回研究総会（鳥取）2023年12月2日
- 渥美聡孝、○外園鈴夏、三宅克典、矢作忠弘、和田美貴代、岩野香里、高野昭人、南基泰：地理情報を用いた四国・九州のオオツツラフジ生育ポテンシャル評価
薬用植物栽培研究会第5回研究総会（鳥取）2023年12月2日
- 外園鈴夏、渥美聡孝、三宅克典、矢作忠弘、和田美貴代、南基泰、高野昭人：生薬資源の持続利用を指向した地理情報システム（GIS）による野生薬用植物生育地の可視化～九州に生育するカギカズラについて～
日本薬学会第144年会（横浜）2024年3月29日

講演等

- 高野昭人：ウズベキスタンの *Ephedra* 属植物～生薬麻黄を求めて～
北里大学薬用植物園 第23回薬用植物シンポジウム（相模原）2023年7月9日
- 高野昭人：日本薬局方の歴史と生薬の基原植物
2023年度 漢方薬・生薬研修会（東京）2023年9月3日
- 高野昭人：ウズベキスタンにおける麻黄の野生資源
漢方生薬ソムリエ協会 麻黄シンポジウム（金沢）2023年10月22日

原著論文

Motoyasu Minami, Yukako Honda, Kaoru Ueno, Tetsuya Matsunaka, Junbo Wang, Liping Zhu, Akihito Takano, Takahisa Nakane: Ecological and pharmacognostical characteristics in *Ephedra saxatilis* in the Yarlung Zangbo River Valley of southeastern Tibetan Plateau, China.
Journal of Natural Medicines, 77, 614-619 (2023).

雑報

清水聖子、鈴木淳子、塩田寛子、金井千恵子、茂木友里、丸山祐可、高橋美佐子、浦出朋子、中村耕、斎藤厳利、湯澤勝廣、長澤明道、田中和良、中嶋順一、鈴木俊也、鈴木仁、高野昭人、丸山卓郎、徳本廣子、政田さやか、河野徳昭、猪又明子：令和3年度「日本薬局方の試験法等に関する研究」研究報告 生薬の鏡検に関する研究（第5報）
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 54, 490-498 (2023).

活動概要・現状

6年次学生3名、5年次学生3名を受入れ、研究入門の1～2年生をまじえ、薬用植物園のスタッフの協力を得ながら研究室活動を行った。研究については、ウズベキスタン産マオウの栽培研究、北海道産

Taraxacum 属植物の分類学的研究、生薬サイコの基原植物に関する研究をテーマに卒業研究を行った。研究入門の学生には、個々の興味に応じた基礎的なテーマを適宜与えて活動してもらった。

高野は、令和3年度から始まった日本医療研究開発機構（AMED）・創薬基盤推進事業・科学的根拠に基づく高品質生薬の国内栽培拡大に向けた参加型研究（代表 東京農工大・山田祐彰）に分担研究者として参加し、前研究からの継続案件である *Ephedra equisetina* の栽培研究、新たなテーマであるオオツヅラフジなどの栽培研究を行った。また科研費基盤B「乾燥地での薬草を利用した持続可能な節水型高付加価値農業による塩害防止（代表 東京農工大学・川端良子）」に分担研究者として参加し、ウズベキスタン産薬用植物の栽培研究を行った。

自己点検・評価

学生の教育・指導：学生は各自の卒業研究に積極的に取り組み、研究室活動にもしっかり取り組んだ。

研究活動：国内外、学内外の研究者との共同研究を積極的に実施している。

今後に向けて

学生の自主性を重視し、学生の積極性を引き出す研究室活動を展開させる。また、これまで蓄積してきた研究成果の公表を進める。

Ⅲ. 総 括

「昭和薬科大学教育・研究年報」は、本学の一年間の教育・研究活動を自ら点検・評価し、学内外に公表することで、次年度以降の教育の改善や研究の質の向上を図るための一助とすることを目的に毎年発行している。また、大学が主体的に取り組んでいる教育・研究の内容を広く公表することで、大学の社会的責任を果たす役割も併せ持つ。

令和5年度の卒業生は225名であり、修業年限内卒業率は81.7%であった。薬剤師国家試験の結果として、既卒者を含む総数の全国平均合格率は68.4%であり、本学の合格率は77.5%であった。また、本学の新卒合格率は83.11%、ストレート合格率（修業年限内に卒業し、卒業年に国家試験に合格）は70.7%であり、4年連続で70%台を維持できた。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月8日から5類感染症になり、様々な学事がコロナ前に戻り、事前実務実習教育や実務実習も適切に実施された。

研究成果発表の場である学会は、コロナ禍では対面とオンライン併用のハイブリッド形式が主流であったが、今年度は多くの学会が対面で実施され、薬学関係の学会において本学の教員や学生が各種の賞を受賞した。

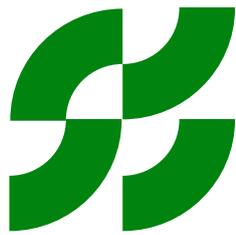
本年度、修士課程には4名、博士課程には3名が入学し、大学院生の合計は21名となった。また、令和5年9月に2名、令和6年3月には3名が博士（薬学）の学位を取得した。大学院は大学の研究活動の重要な役割を担っており、今後も優れた人材の育成に努めていきたい。

新任教員人事に関しては、令和5年4月1日付で臨床薬学教育研究センター地域医療部門に特任助教が着任した。令和6年3月に学長が任期満了で退職され、教授3名が定年退職された。

本年度は、大学基準協会および薬学教育評価機構による認証評価を受審し、ともに「適合」の判定を受けた。しかしながら、大学基準協会では主に「内部質保証体制」、薬学教育評価機構では「教育課程の編成」に関して多くの指摘を受けた。今後はこの結果を基に改善を進め、より良い教育の提供と人材の輩出に努めていきたい。

令和6年9月発行

発行 昭和薬科大学 宇都口 直 樹
東京都町田市東玉川学園3丁目2番1号
TEL 042-721-1511
FAX 042-721-1588
編集 昭和薬科大学自己点検・評価委員会
印刷 八 昭 印 刷 株式会社
TEL 042-725-8821 (代) FAX 042-723-8899



Showa
Pharmaceutical
University